総合検査案内
2024－2025
INFORMATION

項目検索画面

- 生化学的検査
- 内分泌学的検査
- 薬物分析検査
- 血清学的検査
- アレルギー検査
- 腫瘍関連検査
- ウイルス学的検査
- 血液学的検査
- 染色体検査/遺伝子関連検査 HLA関連検査/細胞性免疫検査
- 寄生虫学的検査・その他
- 微生物学的検査
- 病理学的検査

株式会社　兵庫県臨床検査研究所

総合検査案内書 2024年度

表紙

項目検索（カタカナ）

ア	イ	ウ	エ	オ
カ	キ	ク	ケ	コ
サ	シ	ス	セ	ソ
タ	チ	ツ	テ	ト
ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ
ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ
マ	ミ	ム	メ	モ
ヤ	ユ	ヨ		
ラ	リ	ル	レ	ロ
ワ				

特定健診の注意事項

※各ページの上部見出し、項目コード欄をクリックすると項目検索に戻ります

項目検索（アルファベット）

A	B	C	D	E
F	G	H	I	J
K	L	M	N	O
P	Q	R	S	T
U	V	W	X	Y
Z	α	β	γ	δ

数字

薬物分析項目索引

目次

緊急異常値一覧

容器一覧

腫瘍ﾏｰｶｰの有用性

微生物輸送培地・容器

項目検索画面に戻る

2024総合検査案内

目　　次

検査ご利用にあたって

検査ご利用にあたって… 1

索　　引

索　　引 …… 9

生化学的検査

蛋白検査 …… 1
酵素活性検査 …… 1
含窒素成分 …… 5
生体色素関連 …… 8
糖　代　謝 …… 9
脂質関連検査 …… 11
電解質検査 …… 15
ビタミン検査 …… 16
微量金属検査 …… 18
有機酸検査 …… 20
産業医学 …… 21
機能検査・その他 …… 23

内分泌学的検査

下垂体関連検査 …… 25
甲状腺関連検査 …… 27
副甲状腺関連検査 …… 29
副腎皮質関連検査 …… 32
副腎髄質関連検査 …… 33
膵・消化管関連検査 …… 34
性腺・胎盤関連検査 …… 35
その他 …… 37

薬物分析検査

抗てんかん剤 …… 40
不整脈用剤 …… 42
強心剤 …… 43
気管支拡張剤 …… 43
抗真菌剤 …… 43
抗生物質 …… 44
免疫抑制剤 …… 44
精神神経用剤 …… 45
その他 …… 45

血清学的検査

感染症関連検査 …… 47
自己免疫関連検査 …… 55
免疫グロブリン検査 …… 63
補体検査 …… 64
血漿蛋白関連検査 …… 65
免疫血液学的検査 …… 68

アレルギー検査

アレルギー検査 …… 71

腫瘍関連検査

腫瘍関連検査 …… 75

ウイルス学的検査

肝炎ウイルス検査 …… 81
抗体検査 …… 83
抗原検査 …… 94
HTLV-Ⅰ検査 …… 97
HIV検査 …… 97
その他 …… 98

血液学的検査

血液一般・形態検査 …… 101
原虫検査・その他 …… 103
凝固・線溶系検査 …… 104

染色体検査/遺伝子関連検査 HLA関連検査/細胞性免疫検査

先天異常染色体検査 …… 109
血液疾患染色体検査 …… 111
白血病・悪性リンパ腫 … 113
癌関連遺伝子検査 …… 114
HLA 関連検査 …… 115
細胞性免疫検査 …… 116

寄生虫学的検査・その他

尿一般検査 …… 121
穿刺液検査 …… 121
関節液検査 …… 122
髄液検査 …… 123
精液検査 …… 123
糞便検査 …… 124

微生物学的検査

一般細菌検査 …… 125
真菌検査 …… 126
鏡検・培養目的菌 …… 127
抗酸菌検査 …… 129
透析液検査 …… 131

病理学的検査

細胞診検査 …… 138
病理組織検査 …… 139
その他 …… 139

参考資料

特定健診・特定保健指導 … 141
参考文献一覧 …… 144
検査方法の略号と概略 … 163

容器一覧

容器一覧 …… 153

検査項目索引（五十音）

●五十音

＊コード欄が空欄の検査項目は、項目コードが2種類以上ございますので、該当ページを御確認下さい。

ア 項目コード	検査項目	頁	実施点数	判断区分	診療報酬区分	保険収載名称（レセプト名称）
	亜鉛（Zn）	18	132	生化Ⅰ	D007-037	亜鉛（Zn）
0672	（抗）アクアポリン4抗体	55	1000	免疫	D014-047	抗アクアポリン4抗体
1346	悪性リンパ腫解析検査（7AAD解析）	117	1940	血液	D005-015	造血器腫瘍細胞抗原検査（一連につき）
7712	悪性リンパ腫解析検査（MLA）CD45ゲーティング	117	1940	血液	D005-015	造血器腫瘍細胞抗原検査（一連につき）
0257	アスコルビン酸（ビタミンC）	17	296	生化Ⅰ	D007-060	ビタミンC
2937	アスペルギルス抗原	49	157	免疫	D012-030	アスペルギルス抗原
2528	アスペルギルス抗体IgG	49				
2347	（抗）アセチルコリンレセプター抗体（抗AChR抗体）	60	775	免疫	D014-045	抗アセチルコリンレセプター抗体（抗AChR抗体）
0321	アセトン定量	23				
2160	アディポネクチン	37				
	アデノウイルス〔CF法・NT法〕	83	79	免疫	D012-011	ウイルス抗体価（定性・半定量・定量）（1項目当たり）
2161	アデノウイルス抗原	94	60	免疫	D012-007	アデノウイルス抗原定性（糞便）
0063	アデノシンデアミナーゼ（ADA）	4	32	生化Ⅰ	D007-011	アデノシンデアミナーゼ（ADA）
2224	アトピー鑑別試験（ファディアトープ）	71	194	免疫	D015-021	アトピー鑑別試験定性
0022	アポリポ蛋白 AⅠ	14	31	生化Ⅰ	D007-010	アポリポ蛋白
0023	アポリポ蛋白 AⅡ	14	31	生化Ⅰ	D007-010	アポリポ蛋白
0024	アポリポ蛋白 B	14	31	生化Ⅰ	D007-010	アポリポ蛋白
0025	アポリポ蛋白 CⅡ	14	31	生化Ⅰ	D007-010	アポリポ蛋白
0026	アポリポ蛋白 CⅢ	14	31	生化Ⅰ	D007-010	アポリポ蛋白
0027	アポリポ蛋白 E	14	31	生化Ⅰ	D007-010	アポリポ蛋白
	アミノ酸分析（9種類・39種類・41種類）	7	1107	生化Ⅱ	D010-004	アミノ酸　5種類以上
0193	アミノ酸分析2種類（チロシン・フェニルアラニン）	7	558	生化Ⅱ	D010-004	アミノ酸　1種類につき
	アミラーゼ（AMY）	2	(11)	生化Ⅰ	D007-001	アミラーゼ
	アミラーゼアイソザイム（AMYアイソザイム）	2	48	生化Ⅰ	D007-014	アミラーゼアイソザイム
2776	（血清）アミロイドA蛋白（SAA）	65	47	免疫	D015-006	血清アミロイドA蛋白（SAA）
0058	アルカリフォスファターゼ（ALP）	1	(11)	生化Ⅰ	D007-001	アルカリホスファターゼ（ALP）
	アルドステロン	32	(122)	生化Ⅱ	D008-015	アルドステロン
0447	アルドステロン/レニン活性比	32	122+100	生化Ⅱ	D008-015+D008-008	アルドステロン+レニン活性
0059	アルドラーゼ（ALD）	3	(11)	生化Ⅰ	D007-001	アルドラーゼ
0002	アルブミン（Alb）	1	(11)	生化Ⅰ	D007-001	アルブミン（BCP改良法・BCG法）
0729	（尿中）アルブミン定性	66	49	尿・糞便	D001-006	アルブミン定性（尿）
	（尿中）アルブミン定量	66	99	尿・糞便	D001-009	アルブミン定量（尿）
0167	アルミニウム（Al）	19	109	生化Ⅰ	D007-029	アルミニウム（Al）
	アレルゲン16種セット →特異的IgE	71	1430	免疫	D015-013	特異的IgE半定量・定量
0083	アンギオテンシンⅠ転換酵素（ACE）	4	136	生化Ⅰ	D007-039	アンギオテンシンⅠ転換酵素（ACE）
0589	アンチトロンビンⅢ（AT-Ⅲ）	105	70	血液	D006-009	アンチトロンビン活性またはアンチトロンビン抗原
0590	アンチプラスミン（α_2-プラスミンインヒビター）	105	(128)	血液	D006-016	プラスミンインヒビター（アンチプラスミン）
0110	アンモニア（NH_3）	6	50	生化Ⅰ	D007-016	アンモニア

イ 項目コード	検査項目	頁	実施点数	判断区分	診療報酬区分	保険収載名称（レセプト名称）
0142	イオン化カルシウム	15	(26)	生化Ⅰ	D007-007	イオン化カルシウム
7165	胃がんリスク層別化検査（ABC分類）	4				
1081	一般検査〔関節液〕	122	50	尿・糞便	D004-002	関節液検査
1051	一般検査〔髄液〕	123	62	尿・糞便	D004-004	髄液一般検査
1075	一般検査〔精液〕	123	70	尿・糞便	D004-005	精液一般検査
1066	一般検査〔穿刺液〕	121				
1126	一般検査〔尿中〕	121	26		D000	尿中一般物質定性半定量検査
1171	一般細菌　塗抹鏡検	125	67	微生物	D017-003	排泄物、滲出物又は分泌物の細菌顕微鏡検査（その他のもの）
	一般細菌　培養・同定	125	頁参照	微生物	D018	細菌培養同定検査
	一般細菌　薬剤感受性検査	126	頁参照	微生物	D019	細菌薬剤感受性検査

検査項目索引（五十音）

＊コード欄が空欄の検査項目は、項目コードが2種類以上ございますので、該当ページを御確認下さい。

イ 項目コード	検査項目	頁	実施点数	判断区分	診療報酬区分	保険収載名称（レセプト名称）
	一般特殊染色〔組織〕	139				
0371	インスリン（IRI）	34	100	生化Ⅱ	D008-008	インスリン（IRI）
0374	インスリン抗体	34	107	免疫	D014-006	抗インスリン抗体
0740	インターフェロン-γ遊離試験（T-SPOT.TB）	130	593	免疫	D015-030	結核菌特異的インターフェロン-γ産生能
	インフルエンザウイルス〔CF法〕	92	79	免疫	D012-011	ウイルス抗体価（定性・半定量・定量）（1項目当たり）
2028	インフルエンザウイルス流行株〔HI法〕	92	158	免疫	D012-011	ウイルス抗体価（定性・半定量・定量）（1項目当たり）

ウ 項目コード	検査項目	頁	実施点数	判断区分	診療報酬区分	保険収載名称（レセプト名称）
2281	ウロポルフィリン定量〔血液〕	8				
0240	ウロポルフィリン定量〔尿中〕	8	105	尿・糞便	D001-010	ウロポルフィリン（尿）

エ 項目コード	検査項目	頁	実施点数	判断区分	診療報酬区分	保険収載名称（レセプト名称）
	エコーウイルス〔HI法〕	84	79	免疫	D012-011	ウイルス抗体価（定性・半定量・定量）（1項目当たり）
	エコーウイルス〔NT法〕	84・85	79	免疫	D012-011	ウイルス抗体価（定性・半定量・定量）（1項目当たり）
0559	エステラーゼ染色	102	頁参照			
	エストラジオール（E2）	35	(167)	生化Ⅱ	D008-033	エストラジオール（E2）
	エストロゲンレセプター（ER）〔組織〕	139	720	病理	N002-001	免疫染色（免疫抗体法）病理組織標本作製　エストロジェンレセプター
0327	エタノール（アルコール）〔血液〕	23	105	生化Ⅰ	D007-026	エタノール
0328	エタノール（アルコール）〔尿中〕	23				
0127	エチルベンゼン →マンデル酸（エチルベンゼン）	21				
0454	エラスターゼ1	77	(120)	生化Ⅱ	D009-008	エラスターゼ1
0483	エリスロポエチン	37	(209)	生化Ⅱ	D008-041	エリスロポエチン
2036	塩基性フェトプロテイン（BFP）	75	(150)	生化Ⅱ	D009-017	塩基性フェトプロテイン（BFP）
	エンテロウイルス〔NT法〕	88				
4338	（透析液）エンドトキシン	131				
9117	エンドトキシン定量	49	229	免疫	D012-052	エンドトキシン

オ 項目コード	検査項目	頁	実施点数	判断区分	診療報酬区分	保険収載名称（レセプト名称）
1031	オーム病クラミドフィラ（クラミジアシッタシ）	53	79	免疫	D012-011	ウイルス抗体価（定性・半定量・定量）（1項目当たり）
0343	黄体形成ホルモン（LH）	25	(105)	生化Ⅱ	D008-012	黄体形成ホルモン（LH）
2335	オステオカルシン（BGP）	29	(157)	生化Ⅱ	D008-026	オステオカルシン（OC）
2535	オリゴクローナルバンド	64	522	尿・糞便	D004-011	オリゴクローナルバンド

カ 項目コード	検査項目	頁	実施点数	判断区分	診療報酬区分	保険収載名称（レセプト名称）
2765	ガストリン放出ペプチド前駆体（ProGRP）	75	(175)	生化Ⅱ	D009-024	ガストリン放出ペプチド前駆体（ProGRP）
0583	活性化部分トロンボプラスチン時間（APTT）	104	29	血液	D006-007	活性化部分トロンボプラスチン時間（APTT）
	カテコールアミン3分画	33	(161)	生化Ⅱ	D008-029	カテコールアミン分画
	カドミウム（Cd）	19				
2526	可溶性IL-2レセプター（sIL-2R）	78	(438)	生化Ⅱ	D009-036	可溶性インターロイキン-2レセプター（sIL-2R）
0605	可溶性フィブリンモノマー複合体（SFMC）	105	93	血液	D006-011	フィブリンモノマー複合体定性
0899	可溶性メソテリン関連ペプチド（SMRP）	78	(220)	生化Ⅱ	D009-030	可溶性メソテリン関連ペプチド
	カリウム（K）	15	(11)	生化Ⅰ	D007-001	カリウム
	カルシウム（Ca）	15	(11)	生化Ⅰ	D007-001	カルシウム
2938	（抗）カルジオリピン・β2グリコプロテインⅠ複合体抗体（抗CL・β2GPⅠ抗体）	62	223	免疫	D014-029	抗カルジオリピンβ2グリコプロテインⅠ複合体抗体

検査項目索引（五十音）

＊コード欄が空欄の検査項目は、項目コードが2種類以上ございますので、該当ページを御確認下さい。

カ 項目コード	検査項目	頁	実施点数	判断区分	診療報酬区分	保険収載名称（レセプト名称）
7835	（抗）カルジオリピン抗体 IgG〔EIA法〕	62	226	免疫	D014-030	抗カルジオリピンIgG抗体
7836	（抗）カルジオリピン抗体 IgM〔EIA法〕	62	226	免疫	D014-030	抗カルジオリピンIgM抗体
0475	カルシトニン（CT）	29	(130)	生化Ⅱ	D008-018	カルシトニン
2456	カルニチン分画	17	95+95	生化Ⅰ	D007-023+023	総カルニチン+遊離カルニチン
7431	（便中）カルプロテクチン	61	268	尿・糞便	D003-009	カルプロテクチン（糞便）
2651	肝細胞増殖因子（HGF）	37	227	生化Ⅰ	D007-054	肝細胞増殖因子（HGF）
0793	カンジダマンナン抗原	49	134	免疫	D012-023	カンジダ抗原半定量
1081	関節液一般検査	122	50	尿・糞便	D004-002	関節液検査
1090	関節液蛋白定量	122	(11)	生化Ⅰ	D007-001	総蛋白
1091	関節液糖定量	122	(11)	生化Ⅰ	D007-001	グルコース
0694	間接クームス試験	68	47	免疫	D011-002	Coombs試験【間接】
2005	癌胎児性抗原（CEA）	75	(99)	生化Ⅱ	D009-003	癌胎児性抗原（CEA）
2741	（ヒト）癌胎児性フィブロネクチン	36	204	免疫	D015-023	癌胎児性フィブロネクチン定性（頸管腟分泌液）
0627	寒冷凝集反応	48	11	免疫	D014-001	寒冷凝集反応

キ 項目コード	検査項目	頁	実施点数	判断区分	診療報酬区分	保険収載名称（レセプト名称）
	鏡検目的菌	127				
0594	凝固第Ⅱ（2）因子活性	107	(223)	血液	D006-029	凝固因子（Ⅱ、Ⅴ、Ⅶ、Ⅷ、Ⅸ、Ⅹ、Ⅺ、Ⅻ、XIII）
0595	凝固第Ⅴ（5）因子活性	107	(223)	血液	D006-029	凝固因子（Ⅱ、Ⅴ、Ⅶ、Ⅷ、Ⅸ、Ⅹ、Ⅺ、Ⅻ、XIII）
0596	凝固第Ⅶ（7）因子活性	107	(223)	血液	D006-029	凝固因子（Ⅱ、Ⅴ、Ⅶ、Ⅷ、Ⅸ、Ⅹ、Ⅺ、Ⅻ、XIII）
0597	凝固第Ⅷ（8）因子活性	107	(223)	血液	D006-029	凝固因子（Ⅱ、Ⅴ、Ⅶ、Ⅷ、Ⅸ、Ⅹ、Ⅺ、Ⅻ、XIII）
0599	凝固第Ⅸ（9）因子活性	107	(223)	血液	D006-029	凝固因子（Ⅱ、Ⅴ、Ⅶ、Ⅷ、Ⅸ、Ⅹ、Ⅺ、Ⅻ、XIII）
0600	凝固第Ⅹ（10）因子活性	107	(223)	血液	D006-029	凝固因子（Ⅱ、Ⅴ、Ⅶ、Ⅷ、Ⅸ、Ⅹ、Ⅺ、Ⅻ、XIII）
0601	凝固第XI（11）因子活性	107	(223)	血液	D006-029	凝固因子（Ⅱ、Ⅴ、Ⅶ、Ⅷ、Ⅸ、Ⅹ、Ⅺ、Ⅻ、XIII）
0602	凝固第XII（12）因子活性	107	(223)	血液	D006-029	凝固因子（Ⅱ、Ⅴ、Ⅶ、Ⅷ、Ⅸ、Ⅹ、Ⅺ、Ⅻ、XIII）
0603	凝固第XIII（13）因子活性	107	(223)	血液	D006-029	凝固因子（Ⅱ、Ⅴ、Ⅶ、Ⅷ、Ⅸ、Ⅹ、Ⅺ、Ⅻ、XIII）
0615	凝固抑制第Ⅷ（8）因子（第Ⅷ因子インヒビター）	108	(144)	血液	D006-019	凝固因子インヒビター
1332	凝固抑制第Ⅸ（9）因子（第Ⅸ因子インヒビター）	108	(144)	血液	D006-019	凝固因子インヒビター
2246	（抗）筋特異的チロシンキナーゼ抗体（抗MuSK抗体）	60	1000	免疫	D014-047	抗筋特異的チロシンキナーゼ抗体

ク 項目コード	検査項目	頁	実施点数	判断区分	診療報酬区分	保険収載名称（レセプト名称）
0066	グアナーゼ（GUA）	4	35	生化Ⅰ	D007-012	グアナーゼ
0694	（間接）クームス試験	68	47	免疫	D011-002	Coombs試験【間接】
0693	（直接）クームス試験	68	34	免疫	D011-002	Coombs試験【直接】
1931	クォンティフェロン →QFTゴールドプラス	130	593	免疫	D015-030	結核菌特異的インターフェロン-γ産生能
1031	クラミジアシッタシ（オーム病クラミドフィラ）	53	79	免疫	D012-011	ウイルス抗体価（定性・半定量・定量）（1項目当たり）
	クラミドフィラ（クラミジア）シッタシ（IgG・IgM）	53				
0247	クラミドフィラ（クラミジア）ニューモニエ抗体 IgA	53	75	免疫	D012-010	クラミドフィラ・ニューモニエIgA抗体
0246	クラミドフィラ（クラミジア）ニューモニエ抗体 IgG	53	70	免疫	D012-009	クラミドフィラ・ニューモニエIgG抗体
0260	クラミドフィラ（クラミジア）ニューモニエ抗体 IgM	53	152	免疫	D012-029	クラミドフィラ・ニューモニエIgM抗体
	クラミジア・トラコマチス核酸検出PCR	54	188	微生物	D023-001	クラミジア・トラコマチス核酸検出
	クラミジアトラコマチス抗体（IgG・IgA）	53	200	免疫	D012-043	グロブリンクラス別クラミジア・トラコマチス抗体
0731	クリオグロブリン定性	64	42	免疫	D015-005	クリオグロブリン定性
2474	グリコアルブミン（GA）	9	55	生化Ⅰ	D007-017	グリコアルブミン
2119	クリプトコッカス抗原	49	169	免疫	D012-035	クリプトコックス抗原定性
2682	（HCV群別）グルーピング	82	(215)	免疫	D013-011	HCV血清群別判定
0171	グルコース（血糖）	9	(11)	生化Ⅰ	D007-001	グルコース
	クレアチニン（CRE）	5	(11)	生化Ⅰ	D007-001	クレアチニン

＊コード欄が空欄の検査項目は、項目コードが2種類以上ございますので、該当ページを御確認下さい。

ク 項目コード	検査項目	頁	実施点数	判断区分	診療報酬区分	保険収載名称（レセプト名称）
0270	クレアチニンクリアランス（24H蓄尿）	23				
	クレアチン（CRT）	5	(11)	生化Ⅰ	D007-001	クレアチン
	クロール（Cl）	15	(11)	生化Ⅰ	D007-001	ナトリウム及びクロール
1063	クロール〔髄液〕	123	(11)	生化Ⅰ	D007-001	ナトリウム及びクロール
0019	クロストリジウムディフィシル抗原（イムノクロマト法）	124	80	免疫	D012-012	クロストリジオイデス・ディフィシル抗原定性
2292	クロストリジウム・ディフィシル毒素（トキシンA・B）	124	80	免疫	D012-012	クロストリジオイデス・ディフィシル抗原定性
	クロム（Cr）	19				

ケ 項目コード	検査項目	頁	実施点数	判断区分	診療報酬区分	保険収載名称（レセプト名称）
	血液一般検査（MCV・MCH・MCHC）	101				（赤血球恒数）
	血液一般検査（WBC・RBC・Hb・Ht・PLT）	101	21	血液	D005-005	末梢血液一般検査
0691	血液型　ABO式	68	24	免疫	D011-001	ABO血液型
0692	血液型　Rh（D）式	68	24	免疫	D011-001	Rh（D）血液型
2300	血液型　Rh-Hr式	68	148	免疫	D011-003	Rh（その他の因子）血液型
0696	血液型不適合妊娠	68				
0511	血液像（白血球分類）【自動機械法】	102	15	血液	D005-003	末梢血液像（自動機械法）
●●	血液像（白血球分類）【鏡検法】		25	血液	D005-006	末梢血液像（鏡検法）
	結核菌（TB）薬剤感受性検査	129	400	微生物	D022	抗酸菌薬剤感受性検査（培地数に関係なく）
2744	結核菌群核酸増幅検査（TB-PCR）	130	410	微生物	D023-014	結核菌群核酸検出
0616	血小板関連IgG（PAIgG）	61	190	免疫	D011-006	血小板関連IgG（PA-IgG）
0506	血小板数（PLT）→血液一般検査	101	21	血液	D005-005	末梢血液一般検査
0608	血小板第4因子（PF-4）	108	(173)	血液	D006-025	血小板第4因子（PF4）
0170	血小板第4因子-ヘパリン複合体抗体（HIT抗体）	61	390	免疫	D011-010	血小板第4因子-ヘパリン複合体抗体（IgG、IgM及びIgA抗体）
2039	血清HER2タンパク	76	腫管		B001-003	悪性腫瘍特異物質治療管理料　その他のもの
2776	血清アミロイドA蛋白（SAA）	65	47	免疫	D015-006	血清アミロイドA蛋白（SAA）
0146	血清鉄（Fe）	18	(11)	生化Ⅰ	D007-001	鉄（Fe）
0674	血清補体価（CH_{50}）	64	38	免疫	D015-004	血清補体価（CH_{50}）
0337	結石分析	23	117	生化Ⅱ	D010-002	結石分析
0171	血糖（グルコース）	9	(11)	生化Ⅰ	D007-001	グルコース
	ケトン体分画〔静脈血・動脈血〕	20	59	生化Ⅰ	D007-019	ケトン体分画
1199	嫌気性培養	126	122（加算）	微生物	D018	嫌気性培養加算

コ 項目コード	検査項目	頁	実施点数	判断区分	診療報酬区分	保険収載名称（レセプト名称）
2954	コア蛋白質（HCV抗原）	82	(102)	免疫	D013-005	HCVコア蛋白
2347	抗AChR抗体（抗アセチルコリンレセプター抗体）	60	775	免疫	D014-045	抗アセチルコリンレセプター抗体（抗AChR抗体）
2127	抗ARS抗体	58	(190)	免疫	D014-023	抗ARS抗体
9639	抗BP180抗体	60	270	免疫	D014-036	抗BP180-NC16a抗体
2461	抗CCP抗体（抗シトルリン化ペプチド抗体）	55	193	免疫	D014-024	抗シトルリン化ペプチド抗体定量
2938	抗CL・β_2GP Ⅰ抗体（抗カルジオリピン・β_2グリコプロテインⅠ複合体抗体）	62	223	免疫	D014-029	抗カルジオリピンβ_2グリコプロテイン Ⅰ 複合体抗体
0667	抗DNA抗体	57	159	免疫	D014-017	抗DNA抗体定量
0670	抗ds-DNA抗体 IgG	57	159	免疫	D014-017	抗DNA抗体定量
0671	抗ds-DNA抗体 IgM	57				
2740	抗GAD抗体	34	(134)	生化Ⅱ	D008-019	抗グルタミン酸デカルボキシラーゼ抗体（抗GAD抗体）
0476	抗GBM抗体（抗糸球体基底膜抗体）	60	262	免疫	D014-034	抗糸球体基底膜抗体（抗GBM抗体）
1499	抗IA-2抗体	34	(213)	生化Ⅱ	D008-043	抗IA-2抗体
1880	抗Jo-1抗体〔オクタロニー法〕	58	(140)	免疫	D014-012	抗Jo-1抗体半定量
2181	抗Jo-1抗体〔FEIA法〕	58	(140)	免疫	D014-012	抗Jo-1抗体定量
2872	抗LKM-1抗体	59	215	免疫	D014-028	抗LKM-1抗体

検査項目索引（五十音）

＊コード欄が空欄の検査項目は、項目コードが2種類以上ございますので、該当ページを御確認下さい。

コ 項目コード	検査項目	頁	実施点数	判断区分	診療報酬区分	保険収載名称（レセプト名称）
0028	抗MAC抗体（抗酸菌抗体定性）	48	116	免疫	D012-018	抗酸菌抗体定性
7714	抗MDA5抗体	59	(270)	免疫	D014-037	抗MDA5抗体
7716	抗Mi-2抗体	59	(270)	免疫	D014-037	抗Mi-2抗体
2246	抗MuSK抗体（抗筋特異的チロシンキナーゼ抗体）	60	1000	免疫	D014-047	抗筋特異的チロシンキナーゼ抗体
2527	抗p53抗体	77	(163)	生化Ⅱ	D009-022	抗p53抗体
1221	抗RNAポリメラーゼⅢ抗体	59	(170)	免疫	D014-019	抗RNAポリメラーゼⅢ抗体
0676	抗RNP抗体〔オクタロニー法〕	57	(144)	免疫	D014-013	抗RNP抗体半定量
2735	抗RNP抗体〔FEIA法〕	57	(144)	免疫	D014-013	抗RNP抗体定量
1877	抗Scl-70抗体〔オクタロニー法〕	58	(157)	免疫	D014-016	抗Scl-70抗体半定量
2739	抗Scl-70抗体〔FEIA法〕	58	(157)	免疫	D014-016	抗Scl-70抗体定量
0677	抗Sm抗体〔オクタロニー法〕	57	(147)	免疫	D014-014	抗Sm抗体半定量
2736	抗Sm抗体〔FEIA法〕	57	(147)	免疫	D014-014	抗Sm抗体定量
0738	抗SS-A/Ro抗体〔オクタロニー法〕	58	(161)	免疫	D014-018	抗SS-A/Ro抗体半定量
2737	抗SS-A/Ro抗体〔FEIA法〕	58	(161)	免疫	D014-018	抗SS-A/Ro抗体定量
0739	抗SS-B/La抗体〔オクタロニー法〕	58	(157)	免疫	D014-016	抗SS-B/La抗体半定量
2738	抗SS-B/La抗体〔FEIA法〕	58	(157)	免疫	D014-016	抗SS-B/La抗体定量
0668	抗ss-DNA抗体 IgG	57	159	免疫	D014-017	抗DNA抗体定量
0669	抗ss-DNA抗体 IgM	57				
7718	抗TIF1-γ抗体	59	(270)	免疫	D014-037	抗TIF1-γ抗体
2732	抗TPO抗体（抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体）	27	(138)	免疫	D014-011	抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体
0672	抗アクアポリン4抗体	55	1000	免疫	D014-047	抗アクアポリン4抗体
2347	抗アセチルコリンレセプター抗体（抗AChR抗体）	60	775	免疫	D014-045	抗アセチルコリンレセプター抗体（抗AChR抗体）
0686	抗胃壁細胞抗体（抗パリエタル細胞抗体）	59				
0665	抗核抗体（ANA）	57	99	免疫	D014-005	抗核抗体（蛍光抗体法）半定量
0684	抗ガラクトース欠損IgG抗体（CARF）	55	111	免疫	D014-008	抗ガラクトース欠損IgG抗体定量
2938	抗カルジオリピン・β2グリコプロテインⅠ複合体抗体（抗CL・β2GPⅠ抗体）	62	223	免疫	D014-029	抗カルジオリピンβ2グリコプロテインⅠ複合体抗体
7835	抗カルジオリピン抗体 IgG〔EIA法〕	62	226	免疫	D014-030	抗カルジオリピンIgG抗体
7836	抗カルジオリピン抗体 IgM〔EIA法〕	62	226	免疫	D014-030	抗カルジオリピンIgM抗体
2246	抗筋特異的チロシンキナーゼ抗体（抗MuSK抗体）	60	1000	免疫	D014-047	抗筋特異的チロシンキナーゼ抗体
0697	抗血小板抗体	61	261	免疫	D011-008	抗血小板抗体
2732	抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体（抗TPO抗体）	27	(138)	免疫	D014-011	抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体
2478	抗好中球細胞質抗体（MPO-ANCA、P-ANCA）	60	251	免疫	D014-032	抗好中球細胞質ミエロペルオキシダーゼ抗体（MPO-ANCA）
2477	抗好中球細胞質抗体（PR3-ANCA、C-ANCA）	60	252	免疫	D014-033	抗好中球細胞質プロテイナーゼ3抗体（PR3-ANCA）
0368	抗サイログロブリン抗体（TgAb）	27	(136)	免疫	D014-010	抗サイログロブリン抗体
1801～	交差適合試験	68	頁参照			
0567	好酸球数（EOS-数）	101	17	血液	D005-004	好酸球数
1591	抗酸菌　塗抹鏡検〔チールネルゼン法〕	129	67	微生物	D017-003	排泄物、滲出物又は分泌物の細菌顕微鏡検査（その他のもの）
2687	抗酸菌　塗抹鏡検〔蛍光法〕	129	50	微生物	D017-001	排泄物、滲出物又は分泌物の細菌顕微鏡検査（蛍光顕微鏡、位相差顕微鏡、暗視野装置等を使用するもの）
1594	抗酸菌　分離培養〔固形培地法〕	129	209	微生物	D020-002	抗酸菌分離培養（それ以外のもの）
1860	抗酸菌　分離培養〔液体培地法〕	129	300	微生物	D020-001	抗酸菌分離培養（液体培地法）
	抗酸菌感受性（MIC測定）（非結核性・迅速発育）	129	400	微生物	D022	抗酸菌薬剤感受性検査（培地数に関係なく）
2779	抗酸菌群核酸増幅検査（MAC-PCR）	130	421	微生物	D023-016	マイコバクテリウム・アビウム及びイントラセルラー（MAC）核酸検出
0028	抗酸菌抗体定性（抗MAC抗体）	48	116	免疫	D012-018	抗酸菌抗体定性
7679	抗酸菌同定〔質量分析法〕	129	361	微生物	D021	抗酸菌同定（種目数にかかわらず一連につき）
0476	抗糸球体基底膜抗体（抗GBM抗体）	60	262	免疫	D014-034	抗糸球体基底膜抗体（抗GBM抗体）
2461	抗シトルリン化ペプチド抗体（抗CCP抗体）	55	193	免疫	D014-024	抗シトルリン化ペプチド抗体定量
2933	甲状腺刺激抗体（TSH刺激性レセプター抗体・TSAb）	27	330	免疫	D014-040	甲状腺刺激抗体（TSAb）
0358	甲状腺刺激ホルモン（TSH）	25	98	生化Ⅱ	D008-006	甲状腺刺激ホルモン（TSH）
0622	抗ストレプトリジンO抗体（ASO）	47	15	免疫	D012-001	抗ストレプトリジンO（ASO）定量
0185	高精度分染法 →染色体〔先天異常〕	109	2477+397	遺・染色	D006-5-3	染色体検査（全ての費用を含む。）３ その他の場合 ＊分染法加算あり＊
1876	抗セントロメア抗体	59	174	免疫	D014-020	抗セントロメア抗体定量
2373	抗デスモグレイン1抗体	60	300	免疫	D014-039	抗デスモグレイン1抗体

＊コード欄が空欄の検査項目は、項目コードが2種類以上ございますので、該当ページを御確認下さい。

コ 項目コード	検査項目	頁	実施点数	判断区分	診療報酬区分	保険収載名称（レセプト名称）
2374	抗デスモグレイン3抗体	60	270	免疫	D014-036	抗デスモグレイン3抗体
0946	抗トリコスポロンアサヒ抗体	49	822	免疫	D012-064	抗トリコスポロン･アサヒ抗体
0686	抗パリエタル細胞抗体（抗胃壁細胞抗体）	59				
0681	抗平滑筋抗体（SMA）	59				
0682	抗ミトコンドリア抗体	59	181	免疫	D014-021	抗ミトコンドリア抗体半定量
2545	抗ミトコンドリアM2抗体	59	189	免疫	D014-022	抗ミトコンドリア抗体定量
0776	抗ミュラー管ホルモン（AMH）	36	597	生化Ⅱ	D008-052	抗ミュラー管ホルモン（AMH）
2037	抗ランゲルハンス氏島抗体（ICA）	34				
0655	抗利尿ホルモン（ADH･AVP）	26	(224)	生化Ⅱ	D008-047	抗利尿ホルモン（ADH）
7593	抗リン脂質抗体（APL）パネル	62	678	免疫	D014-030	頁参照
	コクサッキーウイルス〔CF法･NT法〕	86･87	79	免疫	D012-011	ウイルス抗体価（定性･半定量･定量）（1項目当たり）
2202	骨塩定量検査	23	140		D217	骨塩定量検査
0227	骨型アルカリフォスファターゼ（BAP）	29	(157)	生化Ⅱ	D008-026	骨型アルカリホスファターゼ（BAP）
2723	骨型酒石酸抵抗性酸性フォスファターゼ（TRACP-5b）	30	(156)	生化Ⅱ	D008-025	酒石酸抵抗性酸ホスファターゼ（TRACP-5b）
0526	骨髄像（マルク）	102	788	血液	D005-014	骨髄像
1138	コプロポルフィリン定性	8				
0241	コプロポルフィリン定量〔血液〕	8	210	生化Ⅰ	D007-052	赤血球コプロポルフィリン
0239	コプロポルフィリン定量〔尿中〕	8	131	尿･糞便	D001-014	コプロポルフィリン（尿）
0054	コリンエステラーゼ（ChE）	2	(11)	生化Ⅰ	D007-001	コリンエステラーゼ（ChE）
	コルチゾール	32	(121)	生化Ⅱ	D008-014	コルチゾール
2001	コレステロール分画	11	57	生化Ⅰ	D007-018	コレステロール分画

サ 項目コード	検査項目	頁	実施点数	判断区分	診療報酬区分	保険収載名称（レセプト名称）
2672	（肺）サーファクタントプロテインA（SP-A）	67	130	生化Ⅰ	D007-035	肺サーファクタント蛋白-A（SP-A）
2671	（肺）サーファクタントプロテインD（SP-D）	67	136	生化Ⅰ	D007-039	肺サーファクタント蛋白-D（SP-D）
	サイクリックAMP	37	(165)	生化Ⅱ	D008-032	サイクリックAMP（cAMP）
2483	サイトケラチン19フラグメント（シフラ･CYFRA）	75	(154)	生化Ⅱ	D009-018	サイトケラチン19フラグメント（シフラ）
0962	サイトメガロ（CMV）ウイルス〔CF法〕	89	79	免疫	D012-011	ウイルス抗体価（定性･半定量･定量）（1項目当たり）
	サイトメガロ（CMV）ウイルス IgG,IgM〔CLIA法〕	89	200	免疫	D012-044	グロブリンクラス別ウイルス抗体価（1項目当たり）
2479	サイトメガロ（CMV）ウイルスDNA定性	95				
8305	サイトメガロ（CMV）ウイルス核酸検出（新生児尿）	95	801	微生物	D023-020	サイトメガロウイルス核酸検出
1606	サイトメガロ（CMV）ウイルス核酸定量	95	450	微生物	D023-017	サイトメガロウイルス核酸定量
0926	サイトメガロ（CMV）ウイルスpp65抗原（C7-HRP）	95	356	免疫	D012-057	サイトメガロウイルスpp65抗原定性
1293	サイトメガロ（CMV）ウイルスpp65抗原（C10.C11）	95	356	免疫	D012-057	サイトメガロウイルスpp65抗原定性
1121	細胞診〔その他〕	138	190	病理	N004-002	細胞診（1部位につき） 穿刺吸引細胞診､体腔洗浄等によるもの
2230	細胞診〔婦人科〕《LBC法》	138	150+45	病理	N004-001	細胞診（1部位につき） 婦人科材料等によるもの ＊液状化検体加算あり＊
1120	細胞診〔婦人科〕《直接塗抹法》	138	150	病理	N004-001	細胞診（1部位につき） 婦人科材料等によるもの
0364	サイロキシン（T4）	27	105	生化Ⅱ	D008-011	サイロキシン（T4）
0366	サイロキシン結合グロブリン（TBG）	27	(130)	生化Ⅱ	D008-018	サイロキシン結合グロブリン（TBG）
0367	サイログロブリン（Tg）	27	(128)	生化Ⅱ	D008-016	サイログロブリン
0368	（抗）サイログロブリン抗体（TgAb）	27	(136)	免疫	D014-010	抗サイログロブリン抗体
1003	酸化LDL（MDA-LDL）	11	194	生化Ⅰ	D007-050	マロンジアルデヒド修飾LDL（MDA-LDL）

シ 項目コード	検査項目	頁	実施点数	判断区分	診療報酬区分	保険収載名称（レセプト名称）
0199	シアリルLe^{X}-i抗原（SLX）	75	(140)	生化Ⅱ	D009-013	シアリルLe^{X}-i抗原（SLX）
2217	シアリルTn抗原（STN）	77	(146)	生化Ⅱ	D009-016	シアリルTn抗原（STN）
0683	シアル化糖鎖抗原KL-6（KL-6）	67	108	生化Ⅰ	D007-028	KL-6
0172	シアル酸	20				

検査項目索引（五十音）

＊コード欄が空欄の検査項目は、項目コードが2種類以上ございますので、該当ページを御確認下さい。

シ 項目コード	検査項目	頁	実施点数	判断区分	診療報酬区分	保険収載名称（レセプト名称）
2977	子宮頸管粘液中顆粒球エラスターゼ	36	116	尿・糞便	D004-008	顆粒球エラスターゼ（子宮頸管粘液）
0476	（抗）糸球体基底膜抗体（抗GBM抗体）	60	262	免疫	D014-034	抗糸球体基底膜抗体（抗GBM抗体）
1557	シスタチンC	5	112	生化Ⅰ	D007-030	シスタチンC
2483	シフラ（CYFRA・サイトケラチン19フラグメント）	75	(154)	生化Ⅱ	D009-018	サイトケラチン19フラグメント（シフラ）
0577	脂肪酸4分画	13	393	生化Ⅱ	D010-007	脂肪酸分画
	真菌（塗抹鏡検）	126	67	微生物	D017-003	排泄物、滲出物又は分泌物の細菌顕微鏡検査（その他のもの）
	真菌（培養・同定）	126	頁参照	微生物	D018	細菌培養同定検査
2390	心筋トロポニンT	65	109	生化Ⅰ	D007-029	心筋トロポニンT（TnT）定性・定量
2842	心筋トロポニンT定性	65	109	生化Ⅰ	D007-029	心筋トロポニンT（TnT）定性・定量
0460	神経特異エノラーゼ（NSE）	75	(142)	生化Ⅱ	D009-014	神経特異エノラーゼ（NSE）
2164	心室筋ミオシン軽鎖Ⅰ	65	184	生化Ⅰ	D007-048	心室筋ミオシン軽鎖Ⅰ
0839	（ヒト）心臓由来脂肪酸結合蛋白（H-FABP）	65	131	生化Ⅰ	D007-036	心臓由来脂肪酸結合蛋白（H-FABP）定量
1919	迅速発育抗酸菌感受性（MIC測定）	129	400	微生物	D022	抗酸菌薬剤感受性検査（培地数に関係なく）
0143	浸透圧〔血清〕	16	15	血液	D005-003	血液浸透圧
0144	浸透圧〔尿中〕	16	16	尿・糞便	D001-003	尿浸透圧

ス 項目コード	検査項目	頁	実施点数	判断区分	診療報酬区分	保険収載名称（レセプト名称）
2223	膵PLA_2（膵ホスホリパーゼA_2）	2	204	生化Ⅰ	D007-051	ホスフォリパーゼA_2（PLA_2）
1051	髄液（リコール）一般検査	123	62	尿・糞便	D004-004	髄液一般検査
1063	髄液（リコール）クロール	123	(11)	生化Ⅰ	D007-001	ナトリウム及びクロール
1061	髄液（リコール）蛋白定量	123	(11)	生化Ⅰ	D007-001	総蛋白
1062	髄液（リコール）糖定量	123	(11)	生化Ⅰ	D007-001	グルコース
1060	髄液トリプトファン反応	123				
	水銀（Hg）	19				
7739	膵グルカゴン	34	(150)	生化Ⅱ	D008-023	グルカゴン
0959	水痘・帯状（VZV）疱疹ウイルス〔CF法〕	91	79	免疫	D012-011	ウイルス抗体価（定性・半定量・定量）（1項目当たり）
	水痘・帯状（VZV）疱疹ウイルス IgG,IgM〔EIA法〕	91	200	免疫	D012-044	グロブリンクラス別ウイルス抗体価（1項目当たり）
2353	水痘・帯状（VZV）疱疹ウイルスDNA定性	96				
2697	水痘・帯状（VZV）疱疹ウイルスDNA定量	96	450	微生物	D023-017	単純疱疹ウイルス・水痘帯状疱疹ウイルス核酸定量
0980	水痘帯状ヘルペス抗原	94	227	免疫	D012-051	水痘ウイルス抗原定性（上皮細胞）
2223	膵ホスホリパーゼA_2（膵PLA_2）	2	204	生化Ⅰ	D007-051	ホスフォリパーゼA_2（PLA_2）
1629	スチレン代謝物	21				

セ 項目コード	検査項目	頁	実施点数	判断区分	診療報酬区分	保険収載名称（レセプト名称）
1075	精液一般検査	123	70	尿・糞便	D004-005	精液一般検査
2385	精子不動化抗体	62				
0341	成長ホルモン（GH）	25	(105)	生化Ⅱ	D008-012	成長ホルモン（GH）
0502	赤血球数（RBC）→血液一般検査	101	21	血液	D005-005	末梢血液一般検査
0242	赤血球遊離プロトポルフィリン	8	272	生化Ⅰ	D007-058	赤血球プロトポルフィリン
0711	セルロプラスミン（CP）	67	90	免疫	D015-009	セルロプラスミン
0393	セロトニン	33				
1066	穿刺液一般検査	121				
1073	穿刺液蛋白定量	121	(11)	生化Ⅰ	D007-001	総蛋白
1074	穿刺液糖定量	121	(11)	生化Ⅰ	D007-001	グルコース
0186	染色体検査〔血液疾患〕	111	2477+397	遺・染色	D006-5-3	染色体検査（全ての費用を含む。）３その他の場合 ＊分染法加算あり＊
	染色体検査〔先天異常〕	109	2477+397	遺・染色	D006-5-3	染色体検査（全ての費用を含む。）３その他の場合 ＊分染法加算あり＊
1876	（抗）セントロメア抗体	59	174	免疫	D014-020	抗セントロメア抗体定量
2949	前立腺特異抗原（PSA）	76	(121)	生化Ⅱ	D009-009	前立腺特異抗原（PSA）

＊コード欄が空欄の検査項目は、項目コードが2種類以上ございますので、該当ページを御確認下さい。

ソ 項目コード	検査項目	頁	実施点数	判断区分	診療報酬区分	保険収載名称（レセプト名称）
0091	総コレステロール（T-ch）	11	(17)	生化Ⅰ	D007-003	総コレステロール
1979	総三塩化物（1･1･1-トリクロルエタン）	21				
1977	総三塩化物（テトラクロルエチレン）	21				
1981	総三塩化物（トリクロルエチレン）	21				
0101	総胆汁酸（TBA）	13	47	生化Ⅰ	D007-013	胆汁酸
0001	総蛋白（TP）	1	(11)	生化Ⅰ	D007-001	総蛋白
0147	総鉄結合能（TIBC）	18	(11)	生化Ⅰ	D007-001	総鉄結合能（TIBC）（比色法）
0043	総ビリルビン（T-Bil）	8	(11)	生化Ⅰ	D007-001	総ビリルビン
2956	総分岐鎖アミノ酸/チロシンモル比（BTR）	6	283	生化Ⅱ	D010-005	総分岐鎖アミノ酸/チロシンモル比（BTR）
2907	総ホモシステイン	6	279	生化Ⅱ	D010-004	アミノ酸　1種類につき
1118	組織検査	139	860	病理	N000	病理組織標本作製
1121	その他　細胞診	138	190	病理	N004-002	細胞診（1部位につき）　穿刺吸引細胞診、体腔洗浄等によるもの
0342	ソマトメジン-C（IGF-Ⅰ）	26	(212)	生化Ⅱ	D008-042	ソマトメジンC

タ 項目コード	検査項目	頁	実施点数	判断区分	診療報酬区分	保険収載名称（レセプト名称）
1260	大腸癌 RAS/BRAF変異解析	114	4000	遺･染色	D004-2-1	悪性腫瘍組織検査　1 悪性腫瘍遺伝子検査
0615	第Ⅷ因子インヒビター（凝固抑制第Ⅷ因子）	108	(144)	血液	D006-019	凝固因子インヒビター
0593	第Ⅷ因子様抗原定量（フォン･ウィルブランド因子抗原定量）	108	(147)	血液	D006-020	von　Willebrand因子（VWF）抗原
1332	第Ⅸ因子インヒビター（凝固抑制第Ⅸ因子）	108	(144)	血液	D006-019	凝固因子インヒビター
1347	多発性骨髄腫解析検査（CD38マルチ解析）	117	1940	血液	D005-015	造血器腫瘍細胞抗原検査（一連につき）
0101	（総）胆汁酸（TBA）	13	47	生化Ⅰ	D007-013	胆汁酸
0954	単純ヘルペス（HSV）ウイルス〔CF法〕	91	79	免疫	D012-011	ウイルス抗体価（定性･半定量･定量）（1項目当たり）
	単純ヘルペス（HSV）ウイルス 1型,2型〔NT法〕	91	79	免疫	D012-011	ウイルス抗体価（定性･半定量･定量）（1項目当たり）
	単純ヘルペス（HSV）ウイルス IgG,IgM〔EIA法〕	91	200	免疫	D012-044	グロブリンクラス別ウイルス抗体価（1項目当たり）
	単純ヘルペス（HSV）ウイルスDNA定性	96				
2685	単純ヘルペス（HSV）ウイルスDNA定量	96	450	微生物	D023-017	単純疱疹ウイルス･水痘帯状疱疹ウイルス核酸定量
2021	単純ヘルペス特異抗原	94	180	免疫	D012-039	単純ヘルペスウイルス抗原定性
1090	蛋白定量〔関節液〕	122	(11)	生化Ⅰ	D007-001	総蛋白
1061	蛋白定量〔髄液〕	123	(11)	生化Ⅰ	D007-001	総蛋白
1073	蛋白定量〔穿刺液〕	121	(11)	生化Ⅰ	D007-001	総蛋白
1164	蛋白定量〔尿中〕	121	7	尿･糞便	D001-001	尿蛋白
0004	蛋白分画	1	(18)	生化Ⅰ	D007-004	蛋白分画

チ 項目コード	検査項目	頁	実施点数	判断区分	診療報酬区分	保険収載名称（レセプト名称）
0095	中性脂肪（TG）	11	(11)	生化Ⅰ	D007-001	中性脂肪
2396	虫体鑑別	124				
2117	虫体検出	124	23	尿･糞便	D003-003	虫体検出（糞便）
1674	（便）虫卵検査〔集卵〕	124	15	尿･糞便	D003-001	虫卵検出（集卵法）（糞便）
1671	（便）虫卵検査〔塗抹〕	124	20	尿･糞便	D003-002	糞便塗抹顕微鏡検査（虫卵、脂肪及び消化状況観察を含む。）
0693	直接クームス試験	68	34	免疫	D011-002	Coombs試験【直接】
0044	直接ビリルビン（D-Bil）	8	(11)	生化Ⅰ	D007-001	直接ビリルビン又は抱合型ビリルビン
0193	チロシン･フェニルアラニン（アミノ酸分析2種類）	7	558	生化Ⅱ	D010-004	アミノ酸　1種類につき
1141	沈渣〔尿中〕	121	27+9	尿･糞便	D002	尿沈渣（鏡検法）　尿沈渣染色標本加算

検査項目索引（五十音）

＊コード欄が空欄の検査項目は、項目コードが2種類以上ございますので、該当ページを御確認下さい。

ツ

項目コード	検査項目	頁	実施点数	判断区分	診療報酬区分	保険収載名称（レセプト名称）
	ツツガ虫　IgG抗体〔カトー･カープ･ギリアム〕	50	各203	免疫	D012-045	ツツガムシ抗体半定量
	ツツガ虫　IgM抗体〔カトー･カープ･ギリアム〕	50	各203	免疫	D012-045	ツツガムシ抗体半定量

テ

項目コード	検査項目	頁	実施点数	判断区分	診療報酬区分	保険収載名称（レセプト名称）
1464	低カルボキシル化オステオカルシン（ucOc）	29	(154)	生化Ⅱ	D008-024	低カルボキシル化オステオカルシン（ucOC）
1212	定量培養〔尿中〕	126				
1851	デオキシピリジノリン（DPD）	30	(191)	生化Ⅱ	D008-039	デオキシピリジノリン（DPD）（尿）
0435	テストステロン	35	(119)	生化Ⅱ	D008-013	テストステロン
2746	（遊離）テストステロン	35	(159)	生化Ⅱ	D008-027	遊離テストステロン
2373	（抗）デスモグレイン1抗体	60	300	免疫	D014-039	抗デスモグレイン1抗体
2374	（抗）デスモグレイン3抗体	60	270	免疫	D014-036	抗デスモグレイン3抗体
0146	（血清）鉄（Fe）	18	(11)	生化Ⅰ	D007-001	鉄（Fe）
0564	鉄染色	102	頁参照			
1977	テトラクロルエチレン（総三塩化物）	21				
1976	テトラクロルエチレン（トリクロル酢酸）	21				
2452	デヒドロエピアンドロステロンサルフェート（DHEA-S）	32	(164)	生化Ⅱ	D008-031	デヒドロエピアンドロステロン硫酸抱合体（DHEA-S）

ト

項目コード	検査項目	頁	実施点数	判断区分	診療報酬区分	保険収載名称（レセプト名称）
	銅（Cu）	18	(23)	生化Ⅰ	D007-005	銅（Cu）
4338	透析液エンドトキシン	131				
1091	糖定量〔関節液〕	122	(11)	生化Ⅰ	D007-001	グルコース
1062	糖定量〔髄液〕	123	(11)	生化Ⅰ	D007-001	グルコース
1074	糖定量〔穿刺液〕	121	(11)	生化Ⅰ	D007-001	グルコース
1167	糖定量〔尿中〕	121	9	尿･糞便	D001-002	尿グルコース
2550	トータルPAI-1（tPA･PAI-1複合体）	106	(240)	血液	D006-032	tPA･PAI-1複合体
0630	トキソプラズマ　IgG抗体	50	93	免疫	D012-014	トキソプラズマ抗体
0631	トキソプラズマ　IgM抗体	50	95	免疫	D012-015	トキソプラズマIgM抗体
	特異的IgE（CAPアレルゲン 16種セット）	71	1430	免疫	D015-013	特異的IgE半定量･定量
	特異的IgE（CAPシングルアレルゲン）	71	各110	免疫	D015-013	特異的IgE半定量･定量
	特異的IgE（CAPマルチアレルゲン）	71	各110	免疫	D015-013	特異的IgE半定量･定量
2416	特異的IgE（MAST36）	71	1430	免疫	D015-013	特異的IgE半定量･定量
1603	特異的IgE Ara h 2（ピーナッツ由来）	71	110	免疫	D015-013	特異的IgE半定量･定量
	（一般）特殊染色〔組織〕	139				
1171	塗抹鏡検（一般細菌）	125	67	微生物	D017-003	排泄物､滲出物又は分泌物の細菌顕微鏡検査（その他のもの）
1591	塗抹鏡検（抗酸菌）〔チールネルゼン法〕	129	67	微生物	D017-003	排泄物､滲出物又は分泌物の細菌顕微鏡検査（その他のもの）
2687	塗抹鏡検（抗酸菌）〔蛍光法〕	129	50	微生物	D017-001	排泄物､滲出物又は分泌物の細菌顕微鏡検査（蛍光顕微鏡､位相差顕微鏡､暗視野装置等を使用するもの）
0680	トランスサイレチン（プレアルブミン）	67	101	免疫	D015-012	トランスサイレチン（プレアルブミン）
0712	トランスフェリン（Tf）	66	60	免疫	D015-007	トランスフェリン（Tf）
2663	（尿中）トランスフェリン →尿中マイクロトランスフェリン	66	98	尿･糞便	D001-008	トランスフェリン（尿）
1981	トリクロルエチレン（総三塩化物）	21				
1980	トリクロルエチレン（トリクロル酢酸）	21				
1978	トリクロル酢酸（1･1･1-トリクロルエタン）	21				
1976	トリクロル酢酸（テトラクロルエチレン）	21				
1980	トリクロル酢酸（トリクロルエチレン）	21				
0946	（抗）トリコスポロンアサヒ抗体	49	822	免疫	D012-064	抗トリコスポロン･アサヒ抗体
7848	トリコモナス/マイコプラズマ･ジェニタリウム同時核酸検出	54	350	微生物	D023-012	腟トリコモナス及びマイコプラズマ･ジェニタリウム核酸同時検出
0068	トリプシン	2	189	生化Ⅰ	D007-049	トリプシン
1060	（髄液）トリプトファン反応	123				

＊コード欄が空欄の検査項目は、項目コードが2種類以上ございますので、該当ページを御確認下さい。

ト 項目コード	検査項目	頁	実施点数	判断区分	診療報酬区分	保険収載名称（レセプト名称）
0361	トリヨードサイロニン（T3）	27	99	生化Ⅱ	D008-007	トリヨードサイロニン（T3）
2390	（心筋）トロポニンT	65	109	生化Ⅰ	D007-029	心筋トロポニンT（TnT）定性・定量
2842	（心筋）トロポニンT定性	65	109	生化Ⅰ	D007-029	心筋トロポニンT（TnT）定性・定量
2027	トロンビン・アンチトロンビンⅢ複合体（TAT）	105	(171)	血液	D006-024	トロンビン・アンチトロンビン複合体（TAT）
2771	トロンボモジュリン	106	(204)	血液	D006-027	トロンボモジュリン

ナ 項目コード	検査項目	頁	実施点数	判断区分	診療報酬区分	保険収載名称（レセプト名称）
0262	ナイアシン（ニコチン酸）	17				
	ナトリウム（Na）	15	(11)	生化Ⅰ	D007-001	ナトリウム及びクロール
	鉛（Pb）	18				

ニ 項目コード	検査項目	頁	実施点数	判断区分	診療報酬区分	保険収載名称（レセプト名称）
0262	ニコチン酸（ナイアシン）	17				
	日本脳炎ウイルス〔HI法・CF法〕	88	79	免疫	D012-011	ウイルス抗体価（定性・半定量・定量）（1項目当たり）
0312	乳酸	20	47	生化Ⅰ	D007-013	有機モノカルボン酸
0051	乳酸脱水素酵素（LD・LDH）	2	(11)	生化Ⅰ	D007-001	乳酸デヒドロゲナーゼ（LD）
2259	ニューモシスチスカリニDNA	51				
	尿酸（UA）	6	(11)	生化Ⅰ	D007-001	尿酸
1092	尿酸結晶	122	50	尿・糞便	D004-002	関節液検査
2710	尿素呼気試験	48	70	微生物	D023-2-002	尿素呼気試験（UBT）
	尿素窒素（UN）	6	(11)	生化Ⅰ	D007-001	尿素窒素
1164	尿蛋白定量	121	7	尿・糞便	D001-001	尿蛋白
1739	尿中Ⅳ型コラーゲン	66	184	尿・糞便	D001-015	Ⅳ型コラーゲン（尿）
1903	尿中L型脂肪酸結合蛋白（L-FABP）	66	210	尿・糞便	D001-019	L型脂肪酸結合蛋白（L-FABP）（尿）
0729	尿中アルブミン定性	66	49	尿・糞便	D001-006	アルブミン定性（尿）
	尿中アルブミン定量	66	99	尿・糞便	D001-009	アルブミン定量（尿）
1126	尿中一般検査	121	26		D000	尿中一般物質定性半定量検査
1212	尿中定量培養	126				
1341	尿中肺炎球菌莢膜抗原	51	188	免疫	D012-041	肺炎球菌莢膜抗原定性（尿・髄液）
1975	尿中ヘリコバクターピロリ抗体	48	70	免疫	D012-009	ヘリコバクター・ピロリ抗体定性・半定量
1137	尿中ベンスジョーンズ蛋白定性（B-J）	63				
2663	尿中マイクロトランスフェリン	66	98	尿・糞便	D001-008	トランスフェリン（尿）
0736	尿中免疫電気泳動（尿中ベンスジョーンズ蛋白の同定）	63	201	免疫	D015-022	Bence Jones蛋白同定（尿）
1340	尿中レジオネラ抗原	51	205	免疫	D012-046	レジオネラ抗原定性（尿）
1141	尿沈渣（染色法）	121	27+9	尿・糞便	D002	尿沈渣（鏡検法）　尿沈渣染色標本加算
1167	尿糖定量	121	9	尿・糞便	D001-002	尿グルコース
1134	尿比重	121				
0445	妊娠試験（HCG定性）	36	55	生化Ⅱ	D008-001	ヒト絨毛性ゴナドトロピン（HCG）定性

ノ 項目コード	検査項目	頁	実施点数	判断区分	診療報酬区分	保険収載名称（レセプト名称）
1311	ノロウイルス抗原（イムノクロマト法）	94	150	免疫	D012-028	ノロウイルス抗原定性
	ノロウイルス抗原（EIA法・RT-PCR法）	94				

検査項目索引（五十音）

＊コード欄が空欄の検査項目は、項目コードが2種類以上ございますので、該当ページを御確認下さい。

ハ 項目コード	検査項目	頁	実施点数	判断区分	診療報酬区分	保険収載名称（レセプト名称）
1431	肺癌 EGFR変異解析コバスv2	114	2500	遺·染色	D004-2-1	悪性腫瘍組織検査 1 悪性腫瘍遺伝子検査 イ 処理が容易なもの
7744	肺癌 EGFR変異解析コバスv2《血漿》	114	2100	遺·染色	D006-12	EGFR遺伝子検査（血漿）
2672	肺サーファクタントプロテインA（SP-A）	67	130	生化Ⅰ	D007-035	肺サーファクタント蛋白-A（SP-A）
2671	肺サーファクタントプロテインD（SP-D）	67	136	生化Ⅰ	D007-039	肺サーファクタント蛋白-D（SP-D）
1358	〔梅毒定性〕FTA-ABS	47	134	免疫	D012-023	梅毒トレポネーマ抗体（FAT-ABS試験）半定量
2020	〔梅毒定性〕IgM FTA-ABS	47				
0653	〔梅毒定性〕RPR法	47	15	免疫	D012-001	梅毒血清反応（STS）定性
0656	〔梅毒定性〕TPHA法	47	32	免疫	D012-004	梅毒トレポネーマ抗体定性
0661	〔梅毒定量〕FTA-ABS	47	134	免疫	D012-023	梅毒トレポネーマ抗体（FTA-ABS試験）半定量
2114	〔梅毒定量〕IgM FTA-ABS	47				
0657	〔梅毒定量〕RPR法	47	34	免疫	D012-005	梅毒血清反応（STS）定量
0660	〔梅毒定量〕TPHA法	47	53	免疫	D012-006	梅毒トレポネーマ抗体定量
	培養目的菌	127·128				
	培養·同定（一般細菌）	125	頁参照	微生物	D018	細菌培養同定検査
0501	白血球数（WBC）→血液一般検査	101	21	血液	D005-005	末梢血液一般検査
0511	白血球分類（血液像）【自動機械法】	102	15	血液	D005-003	末梢血液像（自動機械法）
●●	白血球分類（血液像）【鏡検法】		25	血液	D005-006	末梢血液像（鏡検法）
7711	白血病·リンパ腫解析検査（LLA）CD45ゲーティング	117	1940	血液	D005-015	造血器腫瘍細胞抗原検査（一連につき）
0331	馬尿酸	21				
	バニリルマンデル酸（VMA定量）	33	90	生化Ⅱ	D008-004	バニールマンデル酸（VMA）
0725	ハプトグロビン	65	129	免疫	D015-014	ハプトグロビン（型補正を含む。）
	パラインフルエンザウイルス1型·2型·3型〔HI法〕	92	79	免疫	D012-011	ウイルス抗体価（定性·半定量·定量）（1項目当たり）
2957	（ヒト）パルボウイルスB19 IgG〔EIA法〕	88				
2579	（ヒト）パルボウイルスB19 IgM〔EIA法〕	88	200	免疫	D012-044	グロブリンクラス別ウイルス抗体価（1項目当たり）

ヒ 項目コード	検査項目	頁	実施点数	判断区分	診療報酬区分	保険収載名称（レセプト名称）
0129	ヒアルロン酸〔胸水〕	20				
0128	ヒアルロン酸〔血清〕	20	179	生化Ⅰ	D007-046	ヒアルロン酸
1918	非結核性抗酸菌感受性（MIC測定）	129	400	微生物	D022	抗酸菌薬剤感受性検査（培地数に関係なく）
1134	比重〔尿中〕	121				
1226	鼻汁好酸球	103	15	血液	D005-003	好酸球（鼻汁·喀痰）
0251	ビタミンA	16				
0252	ビタミンB_1	16	239	生化Ⅰ	D007-056	ビタミンB1
0253	ビタミンB_2	16	235	生化Ⅰ	D007-055	ビタミンB2
0254	ビタミンB_6	16				
0255	ビタミンB_{12}	16	136	生化Ⅰ	D007-039	ビタミンB12
0257	ビタミンC（アスコルビン酸）	17	296	生化Ⅰ	D007-060	ビタミンC
2282	ビタミンD →1,25-（OH）$_2$ビタミンD（活性型）	17	388	生化Ⅰ	D007-063	1,25-ジヒドロキシビタミンD3
0258	ビタミンD →25-OHビタミンD［くる病］	17	117	生化Ⅰ	D007-031	25-ヒドロキシビタミン
1203	ビタミンD →25OHビタミンD［骨粗鬆症］	17	117	生化Ⅰ	D007-031	25-ヒドロキシビタミン
0259	ビタミンE	17				
0263	ビタミンK分画	17				
2741	ヒト癌胎児性フィブロネクチン	36	204	免疫	D015-023	癌胎児性フィブロネクチン定性（頸管腟分泌液）
0705	非特異的IgE（IgE）	71	100	免疫	D015-011	非特異的IgE定量
	ヒト絨毛性ゴナドトロピン（HCG定量）	36	(130)	生化Ⅱ	D008-018	ヒト絨毛性ゴナドトロピン（HCG）定量
0839	ヒト心臓由来脂肪酸結合蛋白（H-FABP）	65	131	生化Ⅰ	D007-036	心臓由来脂肪酸結合蛋白（H-FABP）定量
0482	ヒト心房性Na利尿ペプチド（h-ANP）	38	(221)	生化Ⅱ	D008-046	心房性Na利尿ペプチド（ANP）
7742	ヒト精巣上体蛋白4（HE4）	77	(200)	生化Ⅱ	D009-029	ヒト精巣上体蛋白4（HE4）
2914	ヒト脳性Na利尿ペプチド（BNP）	38	(130)	生化Ⅱ	D008-018	脳性Na利尿ペプチド（BNP）

＊コード欄が空欄の検査項目は、項目コードが2種類以上ございますので、該当ページを御確認下さい。

ヒ 項目コード	検査項目	頁	実施点数	判断区分	診療報酬区分	保険収載名称（レセプト名称）
2593	ヒト脳性Na利尿ペプチド前駆体N端フラグメント（NT-proBNP）	38	(136)	生化Ⅱ	D008-020	脳性Na利尿ペプチド前駆体N端フラグメント（NT-proBNP）
2636	ヒトパピローマウイルス（HPV）-DNA同定〔中～高リスク型〕	98	347	微生物	D023-010	HPV核酸検出
1912	ヒトパピローマウイルス（HPV）-DNA簡易ジェノタイプ	98	347	微生物	D023-011	HPV核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）
1921	ヒトパピローマウイルス（HPV）ジェノタイプ判定	98	2000	微生物	D023-025	HPVジェノタイプ判定
2957	ヒトパルボウイルスB19 IgG〔EIA法〕	88				
2579	ヒトパルボウイルスB19 IgM〔EIA法〕	88	200	免疫	D012-044	グロブリンクラス別ウイルス抗体価（1項目当たり）
7722	百日咳菌核酸検出	51	360	微生物	D023-013	百日咳菌核酸検出
2442	百日咳抗体〔EIA法〕	51	257	免疫	D012-054	百日咳菌抗体
	百日咳抗体 IgA,IgM〔EIA法〕	51	80	免疫	D012-012	百日咳菌抗体半定量
1118	病理組織検査	139	860	病理	N000	病理組織標本作製
0311	ピルビン酸	20	47	生化Ⅰ	D007-013	有機モノカルボン酸
1093	ピロリン酸Ca	122	50	尿・糞便	D004-002	関節液検査

フ 項目コード	検査項目	頁	実施点数	判断区分	診療報酬区分	保険収載名称（レセプト名称）
2224	ファディアトープ（アトピー鑑別試験）	71	194	免疫	D015-021	アトピー鑑別試験定性
0586	フィブリノーゲン定量（Fib）	104	23	血液	D006-004	フィブリノゲン定量
0576	フィラリア原虫検査	103	40	血液	D005-007	血中微生物検査
0944	風疹ウイルス〔HI法〕	90	79	免疫	D012-011	ウイルス抗体価（定性・半定量・定量）（1項目当たり）
	風疹ウイルス IgG,IgM〔EIA法〕	90	200	免疫	D012-044	グロブリンクラス別ウイルス抗体価（1項目当たり）
2007	フェリチン定量	66	102	生化Ⅰ	D007-025	フェリチン定量
0598	フォン・ウィルブランド因子活性（vWf・リストセチンコファクター）	108	(126)	血液	D006-014	von Willebrand因子（VWF）活性
0593	フォン・ウィルブランド因子抗原定量（第Ⅷ因子様抗原定量）	108	(147)	血液	D006-020	von Willebrand因子（VWF）抗原
0695	不規則抗体	68	159	免疫	D011-004	不規則抗体
0690	不規則抗体同定	68	159	免疫	D011-004	不規則抗体
1278	副甲状腺ホルモン（whole-PTH）	29	(161)	生化Ⅱ	D008-029	副甲状腺ホルモン（PTH）
0489	副甲状腺ホルモンインタクト（PTH-intact）	29	(161)	生化Ⅱ	D008-029	副甲状腺ホルモン（PTH）
2953	副甲状腺ホルモン関連蛋白intact（PTHrP-intact）	29	(186)	生化Ⅱ	D008-038	副甲状腺ホルモン関連蛋白（PTHrP）
0345	副腎皮質刺激ホルモン（ACTH）	25	(184)	生化Ⅱ	D008-037	副腎皮質刺激ホルモン（ACTH）
2230	婦人科　細胞診《LBC法》	138	150+45	病理	N004-001	細胞診（1部位につき）　婦人科材料等によるもの ＊液状化検体加算あり＊
1120	婦人科　細胞診《直接塗抹法》	138	150	病理	N004-001	細胞診（1部位につき）　婦人科材料等によるもの
0148	不飽和鉄結合能（UIBC）	18	(11)	生化Ⅰ	D007-001	不飽和鉄結合能（UIBC）（比色法）
0592	プラスミノーゲン活性	105	100	血液	D006-012	プラスミノゲン活性
0591	プラスミノーゲン定量	105	100	血液	D006-012	プラスミノゲン抗原
0680	プレアルブミン（トランスサイレチン）	67	101	免疫	D015-012	トランスサイレチン（プレアルブミン）
0433	プレグナンジオール（P_2）	35	(213)	生化Ⅱ	D008-043	プレグナンジオール
0434	プレグナントリオール（P_3）	35	(232)	生化Ⅱ	D008-048	プレグナントリオール
0020	プロカルシトニン	49	276	生化Ⅰ	D007-059	プロカルシトニン（PCT）定量
0432	プロゲステロン（P）	35	(143)	生化Ⅱ	D008-022	プロゲステロン
	プロゲステロンレセプター（PgR）〔組織〕	139	690	病理	N002-002	免疫染色（免疫抗体法）病理組織標本作製　プロジェステロンレセプター
0679	プロコラーゲン-Ⅲ-ペプチド（P-Ⅲ-P）	66	136	生化Ⅰ	D007-039	プロコラーゲン-Ⅲ-ペプチド（P-Ⅲ-P）
2302	プロテインC活性	106	(227)	血液	D006-031	プロテインC活性
2233	プロテインC抗原量	106	(226)	血液	D006-030	プロテインC抗原
2380	プロテインS（遊離型抗原量）	106	(154)	血液	D006-022	プロテインS抗原
1295	プロテインS活性	106	(163)	血液	D006-023	プロテインS活性
2950	プロテインS抗原量	106	(154)	血液	D006-022	プロテインS抗原
0242	（赤血球遊離）プロトポルフィリン	8	272	生化Ⅰ	D007-058	赤血球プロトポルフィリン
0582	プロトロンビン時間（PT）	104	18	血液	D006-002	プロトロンビン時間（PT）
0348	プロラクチン（PRL）	25	98	生化Ⅱ	D008-006	プロラクチン（PRL）
1594	分離培養（抗酸菌）〔固形培地法〕	129	209	微生物	D020-002	抗酸菌分離培養（それ以外のもの）
1860	分離培養（抗酸菌）〔液体培地法〕	129	300	微生物	D020-001	抗酸菌分離培養（液体培地法）

検査項目索引（五十音）

＊コード欄が空欄の検査項目は、項目コードが2種類以上ございますので、該当ページを御確認下さい。

へ 項目コード	検査項目	頁	実施点数	判断区分	診療報酬区分	保険収載名称（レセプト名称）
0509	平均赤血球血色素濃度（MCHC）→血液一般検査	101				（赤血球恒数）
0508	平均赤血球血色素量（MCH）→血液一般検査	101				（赤血球恒数）
0507	平均赤血球容積（MCV）→血液一般検査	101				（赤血球恒数）
7155	ペプシノゲン（PG）	4				
0504	ヘマトクリット（Ht）→血液一般検査	101	21	血液	D005-005	末梢血液一般検査
0503	ヘモグロビン（Hb）→血液一般検査	101	21	血液	D005-005	末梢血液一般検査
0570	ヘモグロビンA1c →HbA1c	9・103	49	血液	D005-009	ヘモグロビンA1c（HbA1c）
2773	ヘリコバクターピロリ抗原〔便中〕	48	142	免疫	D012-025	ヘリコバクター・ピロリ抗原定性
2448	ヘリコバクターピロリ抗体〔血中〕	48	80	免疫	D012-012	ヘリコバクター・ピロリ抗体
1975	ヘリコバクターピロリ抗体〔尿中〕	48	70	免疫	D012-009	ヘリコバクター・ピロリ抗体定性・半定量
0560	ペルオキシダーゼ染色（P-O染色）	102	頁参照			
1137	ベンスジョーンズ蛋白定性（B-J）	63				
0736	ベンスジョーンズ蛋白の同定（尿中免疫電気泳動）	63	201	免疫	D015-022	Bence Jones蛋白同定（尿）
7431	便中カルプロテクチン	61	268	尿・糞便	D003-009	カルプロテクチン（糞便）
1674	便虫卵検査〔集卵〕	124	15	尿・糞便	D003-001	虫卵検出（集卵法）（糞便）
1671	便虫卵検査〔塗抹〕	124	20	尿・糞便	D003-002	糞便塗抹顕微鏡検査（虫卵、脂肪及び消化状況観察を含む。）
1698	便ヘモグロビン&トランスフェリン定性（Hb・Tf）	124	56	尿・糞便	D003-008	糞便中ヘモグロビン及びトランスフェリン定性・定量
1692	便ヘモグロビン〔精密測定〕	124	41	尿・糞便	D003-007	糞便中ヘモグロビン
1683	便ヘモグロビン〔免疫法〕	124	37	尿・糞便	D003-005	糞便中ヘモグロビン定性

ホ 項目コード	検査項目	頁	実施点数	判断区分	診療報酬区分	保険収載名称（レセプト名称）
2223	（膵）ホスホリパーゼA2（膵PLA2）	2	204	生化Ⅰ	D007-051	ホスフォリパーゼA2（PLA2）
2907	（総）ホモシステイン	6	279	生化Ⅱ	D010-004	アミノ酸　1種類につき
	ホモバニリン酸（HVA定量）	33	69	生化Ⅱ	D008-003	ホモバニリン酸（HVA）
0238	ポルフォビリノーゲン定量	8	186	尿・糞便	D001-016	ポルフォピリノゲン（尿）

マ 項目コード	検査項目	頁	実施点数	判断区分	診療報酬区分	保険収載名称（レセプト名称）
2663	（尿中）マイクロトランスフェリン	66	98	尿・糞便	D001-008	トランスフェリン（尿）
	マイコプラズマ抗体	48	32	免疫	D012-004	マイコプラズマ抗体半定量
2067	マイコプラズマ・ニューモニエ核酸同定	48	291	微生物	D023-006	マイコプラズマ核酸検出
	マグネシウム（Mg）	16	(11)	生化Ⅰ	D007-001	マグネシウム
0950	麻疹ウイルス〔NT法〕	90	79	免疫	D012-011	ウイルス抗体価（定性・半定量・定量）（1項目当たり）
	麻疹ウイルス IgG,IgM〔EIA法〕	90	200	免疫	D012-044	グロブリンクラス別ウイルス抗体価（1項目当たり）
1395	末梢血好中球BCR-ABL1 t（9;22）転座	111	2477	遺・染色	D006-5-1	染色体検査（全ての費用を含む。）1 FISH法を用いた場合
2707	マトリックスメタロプロテイナーゼ-3（MMP-3）	55	116	免疫	D014-009	マトリックスメタロプロテイナーゼ-3（MMP-3）
0566	マラリア原虫検査	103	40	血液	D005-007	血中微生物検査
0526	マルク（骨髄像）	102	788	血液	D005-014	骨髄像
	マンガン（Mn）	19	(27)	生化Ⅰ	D007-008	マンガン（Mn）
0127	マンデル酸（エチルベンゼン）	21				

ミ 項目コード	検査項目	頁	実施点数	判断区分	診療報酬区分	保険収載名称（レセプト名称）
2536	ミエリン塩基性蛋白（MBP）	64	570	尿・糞便	D004-012	ミエリン塩基性蛋白（MBP）（髄液）
	ミオグロビン（Mb）	65	131	生化Ⅰ	D007-036	ミオグロビン定量
0682	（抗）ミトコンドリア抗体	59	181	免疫	D014-021	抗ミトコンドリア抗体半定量
2545	（抗）ミトコンドリアM2抗体	59	189	免疫	D014-022	抗ミトコンドリア抗体定量
0776	（抗）ミュラー管ホルモン（AMH）	36	597	生化Ⅱ	D008-052	抗ミュラー管ホルモン（AMH）

＊コード欄が空欄の検査項目は、項目コードが2種類以上ございますので、該当ページを御確認下さい。

ム 項目コード	検査項目	頁	実施点数	判断区分	診療報酬区分	保険収載名称（レセプト名称）
	無機リン（IP）	16	(17)	生化Ⅰ	D007-003	無機リン及びリン酸
	ムンプスウイルス〔HI法･CF法･NT法〕	89	79	免疫	D012-011	ウイルス抗体価（定性･半定量･定量）（1項目当たり）
	ムンプスウイルス IgG,IgM〔EIA法〕	89	200	免疫	D012-044	グロブリンクラス別ウイルス抗体価（1項目当たり）

メ 項目コード	検査項目	頁	実施点数	判断区分	診療報酬区分	保険収載名称（レセプト名称）
0390	メタネフリン2分画	33	(220)	生化Ⅱ	D008-045	メタネフリン･ノルメタネフリン分画
0329	メタノール	23				
0332	メチル馬尿酸	21				
	免疫組織化学染色	139				
0735	免疫電気泳動（抗ヒト全血清による同定）【IEP】	63	170	免疫	D015-017	免疫電気泳動法（抗ヒト全血清）
2167	免疫電気泳動（特異抗血清による同定）	63	218	免疫	D015-024	免疫電気泳動法（特異抗血清）
0736	免疫電気泳動（尿中ベンスジョーンズ蛋白の同定）	63	201	免疫	D015-022	Bence Jones蛋白同定（尿）
2679	免疫複合体（モノクローナルRF）	55	194	免疫	D014-025	モノクローナルRF結合免疫複合体

モ 項目コード	検査項目	頁	実施点数	判断区分	診療報酬区分	保険収載名称（レセプト名称）
0505	網状赤血球数（Ret）	101	12	血液	D005-002	網赤血球数
2679	モノクローナルRF（免疫複合体）	55	194	免疫	D014-025	モノクローナルRF結合免疫複合体
	モノクローナル抗体によるリンパ球表面マーカーの自動解析	116				

ヤ 項目コード	検査項目	頁	実施点数	判断区分	診療報酬区分	保険収載名称（レセプト名称）
	薬剤感受性検査（一般細菌）	126	頁参照	微生物	D019	細菌薬剤感受性検査
	薬剤感受性検査（結核菌･抗酸菌）	129	400	微生物	D022	抗酸菌薬剤感受性検査（培地数に関係なく）
0188	薬剤によるリンパ球刺激試験（DLST）	118				

ユ 項目コード	検査項目	頁	実施点数	判断区分	診療報酬区分	保険収載名称（レセプト名称）
0439	遊離HCG-β（HCG-βサブユニット）	36	(129)	生化Ⅱ	D008-017	ヒト絨毛性ゴナドトロピン-βサブユニット（HCG-β）
1902	遊離L鎖κ/λ比（FLC）	64	388	免疫	D015-029	免疫グロブリン遊離L鎖κ/λ比
0365	遊離サイロキシン（FT_4）	27	(121)	生化Ⅱ	D008-014	遊離サイロキシン（FT_4）
7432	遊離脂肪酸（NEFA）	11	59	生化Ⅰ	D007-019	遊離脂肪酸
2746	遊離テストステロン	35	(159)	生化Ⅱ	D008-027	遊離テストステロン
0362	遊離トリヨードサイロニン（FT_3）	27	(121)	生化Ⅱ	D008-014	遊離トリヨードサイロニン（FT_3）

ヨ 項目コード	検査項目	頁	実施点数	判断区分	診療報酬区分	保険収載名称（レセプト名称）
0256	葉酸	17	146	生化Ⅰ	D007-041	葉酸

ラ 項目コード	検査項目	頁	実施点数	判断区分	診療報酬区分	保険収載名称（レセプト名称）
2037	（抗）ランゲルハンス氏島抗体（ICA）	34				
0344	卵胞刺激ホルモン（FSH）	25	(105)	生化Ⅱ	D008-012	卵胞刺激ホルモン（FSH）

検査項目索引（五十音）

＊コード欄が空欄の検査項目は、項目コードが2種類以上ございますので、該当ページを御確認下さい。

リ 項目コード	検査項目	頁	実施点数	判断区分	診療報酬区分	保険収載名称（レセプト名称）
2129	リウマチ因子定量（RF）	55	30	免疫	D014-002	リウマトイド因子（RF）定量
1051	リコール（髄液）一般検査	123	62	尿・糞便	D004-004	髄液一般検査
1063	リコール（髄液）クロール	123	(11)	生化Ⅰ	D007-001	ナトリウム及びクロール
1061	リコール（髄液）蛋白定量	123	(11)	生化Ⅰ	D007-001	総蛋白
1062	リコール（髄液）糖定量	123	(11)	生化Ⅰ	D007-001	グルコース
0598	リストセチンコファクター（vWf.フォン・ウィルブランド因子活性）	108	(126)	血液	D006-014	von Willebrand因子（VWF）活性
	リゾチーム	3				
0070	リパーゼ	2	(24)	生化Ⅰ	D007-006	リパーゼ
2387	リポ蛋白（a）〔Lp（a）〕	14	107	生化Ⅰ	D007-027	リポ蛋白（a）
0034	リポ蛋白分画	13	49	生化Ⅰ	D007-015	リポ蛋白分画
2393	リポ蛋白分画〔HPLC法〕	13	129	生化Ⅰ	D007-034	リポ蛋白分画（HPLC法）
	淋菌及びクラミジア・トラコマチス同時核酸検出PCR	54	262	微生物	D023-005	淋菌及びクラミジア・トラコマチス同時核酸検出
	淋菌核酸検出PCR	54	198	微生物	D023-002	淋菌核酸検出
0098	リン脂質（PL）	11	(15)	生化Ⅰ	D007-002	リン脂質
0188	（薬剤による）リンパ球刺激試験（DLST）	118				
	（Two-color解析による）リンパ球表面マーカー検査	116				
	（モノクローナル抗体による）リンパ球表面マーカー自動解析	116				
0191	（Con-Aによる）リンパ球幼若化検査	118	345	免疫	D016-007	リンパ球刺激試験（LST）　1薬剤
0190	（PHAによる）リンパ球幼若化検査	118	345	免疫	D016-007	リンパ球刺激試験（LST）　1薬剤

ル 項目コード	検査項目	頁	実施点数	判断区分	診療報酬区分	保険収載名称（レセプト名称）
2971	ループスアンチコアグラント〔APTT凝固時間法〕	62				
2868	ループスアンチコアグラント〔希釈ラッセル蛇毒時間法〕	62	265	免疫	D014-035	ループスアンチコアグラント定量
2929	ループスアンチコアグラント〔リン脂質中和法〕	62	265	免疫	D014-035	ループスアンチコアグラント定量

レ 項目コード	検査項目	頁	実施点数	判断区分	診療報酬区分	保険収載名称（レセプト名称）
1340	（尿中）レジオネラ抗原	51	205	免疫	D012-046	レジオネラ抗原定性（尿）
2931	レチノール結合蛋白（RBP）	67	132	免疫	D015-015	レチノール結合蛋白（RBP）
0477	レニン活性（PRA）	37	100	生化Ⅱ	D008-008	レニン活性
2669	レニン定量（ARC）	37	102	生化Ⅱ	D008-010	レニン定量
2400	レムナント様リポ蛋白コレステロール（RLPコレステロール）	11	174	生化Ⅰ	D007-044	レムナント様リポ蛋白コレステロール（RLP-C）

ロ 項目コード	検査項目	頁	実施点数	判断区分	診療報酬区分	保険収載名称（レセプト名称）
0053	ロイシンアミノペプチダーゼ（LAP）	2	(11)	生化Ⅰ	D007-001	ロイシンアミノペプチダーゼ（LAP）
1633	ロイシンリッチα2グリコプロテイン（LRG）	61	268	生化Ⅰ	D007-057	ロイシンリッチα2グリコプロテイン
1599	ロタウイルス抗原	94	65	免疫	D012-008	ロタウイルス抗原定性（糞便）

●アルファベット

＊コード欄が空欄の検査項目は、項目コードが2種類以上ございますので、該当ページを御確認下さい。

A 項目コード	検査項目	頁	実施点数	判断区分	診療報酬区分	保険収載名称（レセプト名称）
0003	A/G比	1				
7165	ABC分類（胃がんリスク層別化検査）	4				
0691	ABO式血液型	68	24	免疫	D011-001	ABO血液型
0083	ACE（アンギオテンシンⅠ転換酵素）	4	136	生化Ⅰ	D007-039	アンギオテンシンⅠ転換酵素（ACE）
2347	AChR抗体 →抗アセチルコリンレセプター抗体	60	775	免疫	D014-045	抗アセチルコリンレセプター抗体（抗AChR抗体）
0345	ACTH（副腎皮質刺激ホルモン）	25	(184)	生化Ⅱ	D008-037	副腎皮質刺激ホルモン（ACTH）
0063	ADA（アデノシンデアミナーゼ）	4	32	生化Ⅰ	D007-011	アデノシンデアミナーゼ（ADA）
0655	ADH（抗利尿ホルモン·AVP）	26	(224)	生化Ⅱ	D008-047	抗利尿ホルモン（ADH）
2006	AFP定量（α-フェトプロテイン定量）	75	(98)	生化Ⅱ	D009-002	α-フェトプロテイン（AFP）
2404	AFPレクチン分画	75	(185)	生化Ⅱ	D009-026	α-フェトプロテインレクチン分画（AFP-L3%）
0167	Al（アルミニウム）	19	109	生化Ⅰ	D007-029	アルミニウム（Al）
0002	Alb（アルブミン）	1	(11)	生化Ⅰ	D007-001	アルブミン（BCP改良法·BCG法）
0059	ALD（アルドラーゼ）	3	(11)	生化Ⅰ	D007-001	アルドラーゼ
	ALK融合タンパク《高感度IHC法》	**139**	2700	病理	N002-006	免疫染色（免疫抗体法）病理組織標本作製　ALK融合タンパク
0058	ALP（アルカリフォスファターゼ）	1	(11)	生化Ⅰ	D007-001	アルカリホスファターゼ（ALP）
0212	ALPアイソザイム	1	48	生化Ⅰ	D007-014	ALPアイソザイム
0561	ALP染色	102	頁参照			
0050	ALT（GPT）	1	(17)	生化Ⅰ	D007-003	アラニンアミノトランスフェラーゼ（ALT）
0776	AMH（抗ミュラー管ホルモン）	36	597	生化Ⅱ	D008-052	抗ミュラー管ホルモン（AMH）
	AMY（アミラーゼ）	2	(11)	生化Ⅰ	D007-001	アミラーゼ
	AMYアイソザイム（アミラーゼアイソザイム）	2	48	生化Ⅰ	D007-014	アミラーゼアイソザイム
0665	ANA（抗核抗体）	57	99	免疫	D014-005	抗核抗体（蛍光抗体法）半定量
7593	APL（抗リン脂質抗体）パネル	62	678	免疫	D014-030	頁参照
0583	APTT（活性化部分トロンボプラスチン時間）	104	29	血液	D006-007	活性化部分トロンボプラスチン時間（APTT）
1603	Ara h 2（ピーナッツ由来）→特異的IgE	71	110	免疫	D015-013	特異的IgE半定量·定量
2669	ARC →レニン定量（ARC）	37	102	生化Ⅱ	D008-010	レニン定量
2127	（抗）ARS抗体	58	(190)	免疫	D014-023	抗ARS抗体
0622	ASO（抗ストレプトリンジンO抗体）	47	15	免疫	D012-001	抗ストレプトリジンO（ASO）定量
0049	AST（GOT）	1	(17)	生化Ⅰ	D007-003	アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ（AST）
0589	AT-Ⅲ（アンチトロンビンⅢ）	105	70	血液	D006-009	アンチトロンビン活性またはアンチトロンビン抗原
2935	ATLA（HTLV-Ⅰ）抗体〔CLIA法〕	97	159	免疫	D012-031	HTLV-Ⅰ抗体
1386	ATLA（HTLV-Ⅰ）プロウイルスDNA〔クロナリティ〕	97				
0655	AVP（抗利尿ホルモン·ADH）	26	(224)	生化Ⅱ	D008-047	抗利尿ホルモン（ADH）

B 項目コード	検査項目	頁	実施点数	判断区分	診療報酬区分	保険収載名称（レセプト名称）
0227	BAP（骨型アルカリフォスファターゼ）	29	(157)	生化Ⅱ	D008-026	骨型アルカリホスファターゼ（BAP）
2650	BCA225	76	(158)	生化Ⅱ	D009-020	BCA225
2155	BCL6　3q27転座	112	2477	遺·染色	D006-5-1	染色体検査（全ての費用を含む。）1 FISH法を用いた場合
2760	BCR-ABL1 t(9;22)転座	111	2477	遺·染色	D006-5-1	染色体検査（全ての費用を含む。）1 FISH法を用いた場合
1395	（末梢血好中球）BCR-ABL1 t(9;22)転座	111	2477	遺·染色	D006-5-1	染色体検査（全ての費用を含む。）1 FISH法を用いた場合
2036	BFP（塩基性フェトプロテイン）	75	(150)	生化Ⅱ	D009-017	塩基性フェトプロテイン（BFP）
2335	BGP（オステオカルシン）	29	(157)	生化Ⅱ	D008-026	オステオカルシン（OC）
1137	B-J定性（ベンスジョーンズ蛋白定性）	63				
	BMG（β_2-マイクログロブリン）	67	98	免疫	D015-010	β_2-マイクログロブリン
2914	BNP（ヒト脳性Na利尿ペプチド）	38	(130)	生化Ⅱ	D008-018	脳性Na利尿ペプチド（BNP）
9639	（抗）BP180抗体	60	270	免疫	D014-036	抗BP180-NC16a抗体
0171	BS（血糖·グルコース）	9	(11)	生化Ⅰ	D007-001	グルコース
2956	BTR（総分岐鎖アミノ酸/チロシンモル比）	6	283	生化Ⅱ	D010-005	総分岐鎖アミノ酸/チロシンモル比（BTR）
0203	B型肝炎ウイルスコア関連抗原（HBcrAg）	81	(252)	免疫	D013-012	HBVコア関連抗原（HBcrAg）
0194	B細胞百分率（T細胞百分率 B細胞百分率）	116	193	免疫	D016-003	T細胞·B細胞百分率
	B細胞表面免疫グロブリン（Sm-Ig）	116	155	免疫	D016-001	B細胞表面免疫グロブリン

検査項目索引（アルファベット）

＊コード欄が空欄の検査項目は、項目コードが2種類以上ございますので、該当ページを御確認下さい。

C 項目コード	検査項目	頁	実施点数	判断区分	診療報酬区分	保険収載名称（レセプト名称）
0664	C1-INH活性（C1-インアクチベーター活性）	106	253	免疫	D015-025	C1インアクチベータ
0714	C1q	64				
0664	C1-インアクチベーター活性（C1-INH活性）	106	253	免疫	D015-025	C1インアクチベータ
0715	C3（β1C/β1Aグロブリン）	64	70	免疫	D015-008	C3
0716	C4（β1Eグロブリン）	64	70	免疫	D015-008	C4
	Ca（カルシウム）	15	(11)	生化Ⅰ	D007-001	カルシウム
0457	CA125	77	(136)	生化Ⅱ	D009-011	CA125
0456	CA15-3	76	(112)	生化Ⅱ	D009-006	CA15-3
0455	CA19-9	77	(121)	生化Ⅱ	D009-009	CA19-9
2315	CA54/61	77	(184)	生化Ⅱ	D009-025	CA54/61
0465	CA602	77	(190)	生化Ⅱ	D009-027	CA602
0492	CA72-4	77	(146)	生化Ⅱ	D009-016	CA72-4
2477	C-ANCA（抗好中球細胞質抗体・PR3-ANCA）	60	252	免疫	D014-033	抗好中球細胞質プロテイナーゼ3抗体（PR3-ANCA）
	CAPアレルゲン　16種セット（特異的IgE）	71	1430	免疫	D015-013	特異的IgE半定量・定量
	CAPシングルアレルゲン（特異的IgE）	71	各110	免疫	D015-013	特異的IgE半定量・定量
	CAPマルチアレルゲン（特異的IgE）	71	各110	免疫	D015-013	特異的IgE半定量・定量
0684	CARF（抗ガラクトース欠損IgG抗体）	55	111	免疫	D014-008	抗ガラクトース欠損IgG抗体定量
2831	CATCH22 →22染色体（22q11欠失）	110	2477	遺・染色	D006-5-1	染色体検査（全ての費用を含む。）1 FISH法を用いた場合
0183	C-Band →染色体〔先天異常〕	109	2477+397	遺・染色	D006-5-3	染色体検査（全ての費用を含む。）3 その他の場合 ＊分染法加算あり＊
0303	CBFB inv（16）逆位, t（16;16）転座	112	2477	遺・染色	D006-5-1	染色体検査（全ての費用を含む。）1 FISH法を用いた場合
2461	CCP抗体 →抗シトリル化ペプチド抗体（抗CCP抗体）	55	193	免疫	D014-024	抗シトルリン化ペプチド抗体定量
	Cd（カドミウム）	19				
1347	CD38マルチ解析（多発性骨髄腫解析検査）	117	1940	血液	D005-015	造血器腫瘍細胞抗原検査（一連につき）
7712	CD45ゲーティング（悪性リンパ腫解析検査）〔MLA〕	117	1940	血液	D005-015	造血器腫瘍細胞抗原検査（一連につき）
7711	CD45ゲーティング（白血病・リンパ腫解析検査）〔LLA〕	117	1940	血液	D005-015	造血器腫瘍細胞抗原検査（一連につき）
2005	CEA（癌胎児性抗原）	75	(99)	生化Ⅱ	D009-003	癌胎児性抗原（CEA）
0674	CH50（血清補体価）	64	38	免疫	D015-004	血清補体価（CH50）
0054	ChE（コリンエステラーゼ）	2	(11)	生化Ⅰ	D007-001	コリンエステラーゼ（ChE）
0057	CK（CPK）	3	(11)	生化Ⅰ	D007-001	クレアチンキナーゼ（CK）
0220	CK（CPK）-MB〔免疫阻害法〕	3	55	生化Ⅰ	D007-017	CKアイソザイム
2476	CK（CPK）-MB〔CLIA法〕	3	90	生化Ⅰ	D007-022	CK-MB（蛋白量測定）
0215	CK（CPK）アイソザイム	3	55	生化Ⅰ	D007-017	CKアイソザイム
	Cl（クロール）	15	(11)	生化Ⅰ	D007-001	ナトリウム及びクロール
2938	（抗）CL-β2GPⅠ抗体（抗カルジオリピン-β2グリコプロテインⅠ複合体抗体）	62	223	免疫	D014-029	抗カルジオリピンβ2グリコプロテインⅠ複合体抗体
0962	CMV（サイトメガロ）ウイルス〔CF法〕	89	79	免疫	D012-011	ウイルス抗体価（定性・半定量・定量）（1項目当たり）
	CMV（サイトメガロ）ウイルス IgG,IgM〔CLIA法〕	89	200	免疫	D012-044	グロブリンクラス別ウイルス抗体価（1項目当たり）
2479	CMV（サイトメガロ）ウイルスDNA定性	95				
8305	CMV（サイトメガロ）ウイルス核酸検出（新生児尿）	95	801	微生物	D023-020	サイトメガロウイルス核酸検出
1606	CMV（サイトメガロ）ウイルス核酸定量	95	450	微生物	D023-017	サイトメガロウイルス核酸定量
0926	CMV（サイトメガロ）ウイルスpp65抗原（C7-HRP）	95	356	免疫	D012-057	サイトメガロウイルスpp65抗原定性
1293	CMV（サイトメガロ）ウイルスpp65抗原（C10,C11）	95	356	免疫	D012-057	サイトメガロウイルスpp65抗原定性
0191	Con-Aによるリンパ球幼若化検査	118	345	免疫	D016-007	リンパ球刺激試験（LST）　1薬剤
0711	CP（セルロプラスミン）	67	90	免疫	D015-009	セルロプラスミン
0057	CPK（CK）	3	(11)	生化Ⅰ	D007-001	クレアチンキナーゼ（CK）
0220	CPK（CK）-MB〔免疫阻害法〕	3	55	生化Ⅰ	D007-017	CKアイソザイム
2476	CPK（CK）-MB〔CLIA法〕	3	90	生化Ⅰ	D007-022	CK-MB（蛋白量測定）
0215	CPK（CK）アイソザイム	3	55	生化Ⅰ	D007-017	CKアイソザイム
	CPR（C-ペプチド）	34	(105)	生化Ⅱ	D008-012	C-ペプチド（CPR）
	Cr（クロム）	19				
	CRE（クレアチニン）	5	(11)	生化Ⅰ	D007-001	クレアチニン
2135	CRP（C反応性蛋白）定性	65	16	免疫	D015-001	C反応性蛋白（CRP）定性
0621	CRP（C反応性蛋白）定量	65	16	免疫	D015-001	C反応性蛋白（CRP）

検査項目索引（アルファベット）

＊コード欄が空欄の検査項目は、項目コードが2種類以上ございますので、該当ページを御確認下さい。

C 項目コード	検査項目	頁	実施点数	判断区分	診療報酬区分	保険収載名称（レセプト名称）
	CRT（クレアチン）	5	(11)	生化Ⅰ	D007-001	クレアチン
0475	CT（カルシトニン）	29	(130)	生化Ⅱ	D008-018	カルシトニン
	Cu（銅）	18	(23)	生化Ⅰ	D007-005	銅（Cu）
2483	CYFRA（シフラ・サイトケラチン19フラグメント）	75	(154)	生化Ⅱ	D009-018	サイトケラチン19フラグメント（シフラ）
	C-ペプチド（CPR）	34	(105)	生化Ⅱ	D008-012	C-ペプチド（CPR）

D 項目コード	検査項目	頁	実施点数	判断区分	診療報酬区分	保険収載名称（レセプト名称）
0044	D-Bil（直接ビリルビン）	8	(11)	生化Ⅰ	D007-001	直接ビリルビン又は抱合型ビリルビン
2745	D-Dダイマー定量	104	(127)	血液	D006-015	Dダイマー
2452	DHEA-S（デヒドロエピアンドロステロンサルフェート）	32	(164)	生化Ⅱ	D008-031	デヒドロエピアンドロステロン硫酸抱合体（DHEA-S）
0188	DLST（薬剤によるリンパ球刺激試験）	118				
0667	（抗）DNA抗体	57	159	免疫	D014-017	抗DNA抗体定量
1851	DPD（デオキシピリジノリン）	30	(191)	生化Ⅱ	D008-039	デオキシピリジノリン（DPD）（尿）
0670	（抗）ds-DNA抗体　IgG	57	159	免疫	D014-017	抗DNA抗体定量
0671	（抗）ds-DNA抗体　IgM	57				
0461	DUPAN-2	77	(115)	生化Ⅱ	D009-007	DUPAN-2

E 項目コード	検査項目	頁	実施点数	判断区分	診療報酬区分	保険収載名称（レセプト名称）
	E_2（エストラジオール）	35	(167)	生化Ⅱ	D008-033	エストラジオール（E_2）
	EBウイルス〔EIA法〕	93	200	免疫	D012-044	グロブリンクラス別ウイルス抗体価（1項目当たり）
	EBウイルス〔FA法〕	93	頁参照			
1605	EBウイルスDNA定量	96	310	微生物	D023-008	EBウイルス核酸定量
2309	eGFR	5				
2533	eGFRcys	5				
1431	（肺癌）EGFR変異解析コバスv2	114	2500	遺・染色	D004-2-1	悪性腫瘍組織検査　1 悪性腫瘍遺伝子検査　イ 処理が容易なもの
7744	（肺癌）EGFR変異解析コバスv2《血漿》	114	2100	遺・染色	D006-12	EGFR遺伝子検査（血漿）
0567	EOS-数（好酸球数）	101	17	血液	D005-004	好酸球数
	ER →エストロゲンレセプター（ER）［組織］	139	720	病理	N002-001	免疫染色（免疫抗体法）病理組織標本作製　エストロジェンレセプター

F 項目コード	検査項目	頁	実施点数	判断区分	診療報酬区分	保険収載名称（レセプト名称）
0588	FDP定量〔血漿〕	104	80	血液	D006-010	フィブリン・フィブリノゲン分解産物（FDP）定量
1140	FDP定量〔尿中〕	104	72	尿・糞便	D001-007	フィブリン・フィブリノゲン分解産物（FDP）（尿）
0146	Fe（血清鉄）	18	(11)	生化Ⅰ	D007-001	鉄（Fe）
0586	Fib（フィブリノーゲン定量）	104	23	血液	D006-004	フィブリノゲン定量
1205	FIP1L1-PDGFRA del（4）長腕欠失（4q12欠失）	112	2477	遺・染色	D006-5-1	染色体検査（全ての費用を含む。）1 FISH法を用いた場合
1902	FLC（遊離L鎖κ/λ比）	64	388	免疫	D015-029	免疫グロブリン遊離L鎖κ/λ比
0344	FSH（卵胞刺激ホルモン）	25	(105)	生化Ⅱ	D008-012	卵胞刺激ホルモン（FSH）
1358	FTA-ABS定性 →梅毒定性	47	134	免疫	D012-023	梅毒トレポネーマ抗体（FTA-ABS試験）定性
0661	FTA-ABS定量 →梅毒定量	47	134	免疫	D012-023	梅毒トレポネーマ抗体（FTA-ABS試験）半定量
0362	FT_3（遊離トリヨードサイロニン）	27	(121)	生化Ⅱ	D008-014	遊離トリヨードサイロニン（FT_3）
0365	FT_4（遊離サイロキシン）	27	(121)	生化Ⅱ	D008-014	遊離サイロキシン（FT_4）

検査項目索引（アルファベット）

＊コード欄が空欄の検査項目は、項目コードが2種類以上ございますので、該当ページを御確認下さい。

G 項目コード	検査項目	頁	実施点数	判断区分	診療報酬区分	保険収載名称（レセプト名称）
2474	GA（グリコアルブミン）	9	55	生化Ⅰ	D007-017	グリコアルブミン
	GABA（γ-アミノ酪酸）	6	279	生化Ⅱ	D010-004	アミノ酸　1種類につき
2740	（抗）GAD抗体	34	(134)	生化Ⅱ	D008-019	抗グルタミン酸デカルボキシラーゼ抗体（抗GAD抗体）
0186	G-Band →染色体〔血液疾患〕	111	2477+397	遺・染色	D006-5-3	染色体検査（全ての費用を含む。）３ その他の場合 ＊分染法加算あり＊
0181	G-Band →染色体〔先天異常〕	109	2477+397	遺・染色	D006-5-3	染色体検査（全ての費用を含む。）３ その他の場合 ＊分染法加算あり＊
0476	（抗）GBM抗体（抗糸球体基底膜抗体）	60	262	免疫	D014-034	抗糸球体基底膜抗体（抗GBM抗体）
0341	GH（成長ホルモン）	25	(105)	生化Ⅱ	D008-012	成長ホルモン（GH）
0049	GOT（AST）	1	(17)	生化Ⅰ	D007-003	アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ（AST）
0050	GPT（ALT）	1	(17)	生化Ⅰ	D007-003	アラニンアミノトランスフェラーゼ（ALT）
0066	GUA（グアナーゼ）	4	35	生化Ⅰ	D007-012	グアナーゼ

H 項目コード	検査項目	頁	実施点数	判断区分	診療報酬区分	保険収載名称（レセプト名称）
0482	h-ANP（ヒト心房性Na利尿ペプチド）	38	(221)	生化Ⅱ	D008-046	心房性Na利尿ペプチド（ANP）
0903	HA抗体 IgG →IgG-HA抗体	82	(146)	免疫	D013-008	HA抗体
0913	HA抗体 IgM →IgM-HA抗体	82	(146)	免疫	D013-008	HA-IgM抗体
0503	Hb（ヘモグロビン）→血液一般検査	101	21	血液	D005-005	末梢血液一般検査
1698	Hb・Tf（便ヘモグロビン&トランスフェリン定性）	124	56	尿・糞便	D003-008	糞便中ヘモグロビン及びトランスフェリン定性・定量
0570	HbA1c →ヘモグロビンA1c	9・103	49	血液	D005-009	ヘモグロビンA1c（HbA1c）
0203	HBcrAg（B型肝炎ウイルスコア関連抗原）	81	(252)	免疫	D013-012	HBVコア関連抗原（HBcrAg）
0910	HBc抗体	81	(130)	免疫	D013-006	HBc抗体半定量・定量
0911	HBc抗体 IgM →IgM-HBc抗体	81	(146)	免疫	D013-008	HBc-IgM抗体
0908	HBe抗原	81	(98)	免疫	D013-004	HBe抗原
0909	HBe抗体	81	(98)	免疫	D013-004	HBe抗体
0901	HBs抗原定性	81	29	免疫	D013-001	HBs抗原定性・半定量
0906	HBs抗原定量	81	(88)	免疫	D013-003	HBs抗原
0902	HBs抗体定性	81	32	免疫	D013-002	HBs抗体定性
0907	HBs抗体定量	81	(88)	免疫	D013-003	HBs抗体
2199	HBV-DNA定量〔TaqManPCR法〕	81	256	微生物	D023-004	HBV核酸定量
0168	HBVゲノタイプ	81	(340)	免疫	D013-014	HBVジェノタイプ判定
0439	（遊離）HCG-β（HCG-βサブユニット）	36	(129)	生化Ⅱ	D008-017	ヒト絨毛性ゴナドトロピン-βサブユニット（HCG-β）
0439	HCG-βサブユニット（遊離HCG-β）	36	(129)	生化Ⅱ	D008-017	ヒト絨毛性ゴナドトロピン-βサブユニット（HCG-β）
0445	HCG定性（妊娠試験）	36	55	生化Ⅱ	D008-001	ヒト絨毛性ゴナドトロピン（HCG）定性
	HCG定量（ヒト絨毛性ゴナドトロピン）	36	(130)	生化Ⅱ	D008-018	ヒト絨毛性ゴナドトロピン（HCG）定量
2209	HCV　RNAコアジェノタイプ	82				
2257	HCV-RNA定量〔TaqManPCR法〕	82	412	微生物	D023-015	HCV核酸定量
2682	HCV群別（グルーピング）	82	(215)	免疫	D013-011	HCV血清群別判定
2954	HCV抗原（コア蛋白質）	82	(102)	免疫	D013-005	HCVコア蛋白
2031	HCV抗体	82	(102)	免疫	D013-005	HCV抗体定性・定量
0498	HCV抗体（第3世代）（肝炎健診用）	82	(102)	免疫	D013-005	HCV抗体定性・定量
0092	HDLコレステロール	11	(17)	生化Ⅰ	D007-003	HDL-コレステロール
7742	HE4（ヒト精巣上体蛋白4）	77	(200)	生化Ⅱ	D009-029	ヒト精巣上体蛋白4（HE4）
	HER2（DISH法）〔組織〕	139	2700	病理	N005-001	HER2遺伝子標本作製　単独の場合
	HER2（FISH法）〔組織〕	139	2700	病理	N005-001	HER2遺伝子標本作製　単独の場合
	HER2（IHC法）〔組織〕	139	690	病理	N002-003	免疫染色（免疫抗体法）病理組織標本作製　HER2タンパク
2039	HER2タンパク（血清中）	76	腫管		B001-003	悪性腫瘍特異物質治療管理料　その他のもの
0467	HEV抗体 IgA →IgA-HEV抗体	82	(210)	免疫	D013-010	HE-IgA抗体定性
0839	H-FABP（ヒト心臓由来脂肪酸結合蛋白）	65	131	生化Ⅰ	D007-036	心臓由来脂肪酸結合蛋白（H-FABP）定量
	Hg（水銀）	19				
2651	HGF（肝細胞増殖因子）	37	227	生化Ⅰ	D007-054	肝細胞増殖因子（HGF）
0170	HIT抗体（血小板第4因子-ヘパリン複合体抗体）	61	390	免疫	D011-010	血小板第4因子-ヘパリン複合体抗体（IgG、IgM及びIgA抗体）

＊コード欄が空欄の検査項目は、項目コードが2種類以上ございますので、該当ページを御確認下さい。

H 項目コード	検査項目	頁	実施点数	判断区分	診療報酬区分	保険収載名称（レセプト名称）
2258	HIV-1RNA定量	97	520	微生物	D023-018	HIV-1核酸定量
2356	HIV-1/2抗体確認検査（イムノクロマト法）	97	660	免疫	D012-063	HIV-1特異抗体･HIV-2特異抗体
1035	HIV抗原･抗体	97	127	免疫	D012-020	HIV-1,2抗原･抗体同時測定定量
0197	HLA-A,B（血清対応型タイピング）	115				
0198	HLA-DR（血清対応型タイピング）	115				
0336	HLA-A（DNAタイピング）	115				
1646	HLA-B（DNAタイピング）	115				
2254	HLA-C（DNAタイピング）	115				
	HLA-DPB1（DNAタイピング）	115				
1574	HLA-DQB1（DNAタイピング）	115				
9618	HLA-DRB1（DNAタイピング）	115				
1912	HPV-DNA簡易ジェノタイプ	98	347	微生物	D023-011	HPV核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）
1180	HPV-DNA同定（LBC）	98	347	微生物	D023-010	HPV核酸検出
2636	HPV-DNA同定［中～高リスク型］	98	347	微生物	D023-010	HPV核酸検出
2637	HPV-DNA同定［低リスク型］	98				
1970	HPV簡易ジェノタイプ（9種判別）	98	347	微生物	D023-011	HPV核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）
1921	HPVジェノタイプ判定	98	2000	微生物	D023-025	HPVジェノタイプ判定
0954	HSV（単純ヘルペス）ウイルス〔CF法〕	91	79	免疫	D012-011	ウイルス抗体価（定性･半定量･定量）（1項目当たり）
	HSV（単純ヘルペス）ウイルス 1型,2型〔NT法〕	91	79	免疫	D012-011	ウイルス抗体価（定性･半定量･定量）（1項目当たり）
	HSV（単純ヘルペス）ウイルス IgG,IgM〔EIA法〕	91	200	免疫	D012-044	グロブリンクラス別ウイルス抗体価（1項目当たり）
	HSV（単純ヘルペス）ウイルスDNA定性	96				
2685	HSV（単純ヘルペス）ウイルスDNA定量	96	450	微生物	D023-017	単純疱疹ウイルス･水痘帯状疱疹ウイルス核酸定量
0504	Ht（ヘマトクリット）→血液一般検査	101	21	血液	D005-005	末梢血液一般検査
2935	HTLV-Ⅰ（ATLA）抗体〔CLIA法〕	97	159	免疫	D012-031	HTLV-Ⅰ抗体
1386	HTLV-Ⅰ（ATLA）プロウイルスDNA〔クロナリティ〕	97				
7729	HTLV-1核酸検出 定性	97	450	微生物	D023-017	HTLV-1核酸検出
7446	HTLV-1抗体（ラインブロット法）	97	425	免疫	D012-060	HTLV-Ⅰ抗体（ウエスタンブロット法及びラインブロット法）
8415	HTLV-1プロウイルスDNA定性	97				
	HVA定量（ホモバニリン酸）	33	69	生化Ⅱ	D008-003	ホモバニリン酸（HVA）

I 項目コード	検査項目	頁	実施点数	判断区分	診療報酬区分	保険収載名称（レセプト名称）
1499	（抗）IA-2抗体	34	(213)	生化Ⅱ	D008-043	抗IA-2抗体
2037	ICA（抗ランゲルハンス氏島抗体）	34				
0267	ICG（消失率）	23	150		D286	肝及び腎のクリアランステスト
0266	ICG（停滞率）	23	100		D289-002	その他の機能テスト 2 肝機能テスト（ICG1回又は2回法、BSP2回法）
0735	IEP（免疫電気泳動）〔抗ヒト全血清による同定〕	63	170	免疫	D015-017	免疫電気泳動法（抗ヒト全血清）
7511	IFN-γ x IL-4/CD4（Th1/Th2）	116				
0702	IgA	63	38	免疫	D015-004	免疫グロブリン
0467	IgA-HEV抗体	82	(210)	免疫	D013-010	HE-IgA抗体定性
	IgE（CAPアレルゲン16種セット）	71	1430	免疫	D015-013	特異的IgE半定量･定量
	IgE（CAPシングルアレルゲン）	71	各110	免疫	D015-013	特異的IgE半定量･定量
	IgE（CAPマルチアレルゲン）	71	各110	免疫	D015-013	特異的IgE半定量･定量
2416	IgE（MAST36）	71	1430	免疫	D015-013	特異的IgE半定量･定量
2224	IgE（アトピー鑑別試験）→ファディアトープ	71	194	免疫	D015-021	アトピー鑑別試験定性
	IgE（特異的IgE）	71	各110	免疫	D015-013	特異的IgE半定量･定量
0705	IgE（非特異的IgE）	71	100	免疫	D015-011	非特異的IgE定量
0342	IGF-Ⅰ（ソマトメジン-C）	26	(212)	生化Ⅱ	D008-042	ソマトメジンC
0701	IgG	63	38	免疫	D015-004	免疫グロブリン
0713	IgG4	63	377	免疫	D014-041	IgG4
0903	IgG-HA抗体	82	(146)	免疫	D013-008	HA抗体

検査項目索引（アルファベット）

＊コード欄が空欄の検査項目は、項目コードが2種類以上ございますので、該当ページを御確認下さい。

I 項目コード	検査項目	頁	実施点数	判断区分	診療報酬区分	保険収載名称（レセプト名称）
2329	IgG型リウマチ因子	55	198	免疫	D014-026	IgG型リウマトイド因子
0685	IgGサブクラス分画	63				
7289	IGH-BCL2 t(14;18)転座	112	2477	遺・染色	D006-5-1	染色体検査（全ての費用を含む。）1 FISH法を用いた場合
2044	IGH-CCND1（IGH-BCL1） t(11;14)転座	112	2477	遺・染色	D006-5-1	染色体検査（全ての費用を含む。）1 FISH法を用いた場合
2451	IGH-FGFR3 t(4;14)転座	112	2477	遺・染色	D006-5-1	染色体検査（全ての費用を含む。）1 FISH法を用いた場合
0703	IgM	63	38	免疫	D015-004	免疫グロブリン
2020	IgM　FTA-ABS定性 →梅毒定性	47				
2114	IgM　FTA-ABS定量 →梅毒定量	47				
0913	IgM-HA抗体	82	(146)	免疫	D013-008	HA-IgM抗体
0911	IgM-HBc抗体	81	(146)	免疫	D013-008	HBc-IgM抗体
	IP（無機リン）	16	(17)	生化Ⅰ	D007-003	無機リン及びリン酸
0371	IRI（インスリン）	34	100	生化Ⅱ	D008-008	インスリン（IRI）

J 項目コード	検査項目	頁	実施点数	判断区分	診療報酬区分	保険収載名称（レセプト名称）
1880	（抗）Jo-1抗体〔オクタロニー法〕	58	(140)	免疫	D014-012	抗Jo-1抗体半定量
2181	（抗）Jo-1抗体〔FEIA法〕	58	(140)	免疫	D014-012	抗Jo-1抗体定量

K 項目コード	検査項目	頁	実施点数	判断区分	診療報酬区分	保険収載名称（レセプト名称）
	K（カリウム）	15	(11)	生化Ⅰ	D007-001	カリウム
0683	KL-6（シアル化糖鎖抗原KL-6）	67	108	生化Ⅰ	D007-028	KL-6

L 項目コード	検査項目	頁	実施点数	判断区分	診療報酬区分	保険収載名称（レセプト名称）
1903	L-FABP →尿中L型脂肪酸結合蛋白	66	210	尿・糞便	D001-019	L型脂肪酸結合蛋白（L-FABP）（尿）
1903	（尿中）L型脂肪酸結合蛋白（L-FABP）	66	210	尿・糞便	D001-019	L型脂肪酸結合蛋白（L-FABP）（尿）
0053	LAP（ロイシンアミノペプチダーゼ）	2	(11)	生化Ⅰ	D007-001	ロイシンアミノペプチダーゼ（LAP）
0051	LD（LDH・乳酸脱水素酵素）	2	(11)	生化Ⅰ	D007-001	乳酸デヒドロゲナーゼ（LD）
0206	LD（LDH）アイソザイム	2	48	生化Ⅰ	D007-014	LDアイソザイム
0051	LDH（LD・乳酸脱水素酵素）	2	(11)	生化Ⅰ	D007-001	乳酸デヒドロゲナーゼ（LD）
0206	LDH（LD）アイソザイム	2	48	生化Ⅰ	D007-014	LDアイソザイム
2546	LDLコレステロール	11	(18)	生化Ⅰ	D007-004	LDL-コレステロール
0343	LH（黄体形成ホルモン）	25	(105)	生化Ⅱ	D008-012	黄体形成ホルモン（LH）
2872	（抗）LKM-1抗体	59	215	免疫	D014-028	抗LKM-1抗体
7711	LLA（白血球・リンパ腫解析検査）CD45ゲーティング	117	1940	血液	D005-015	造血器腫瘍細胞抗原検査（一連につき）
2387	Lp(a)〔リポ蛋白(a)〕	14	107	生化Ⅰ	D007-027	リポ蛋白(a)
1633	LRG（ロイシンリッチα2グリコプロテイン）	61	268	生化Ⅰ	D007-057	ロイシンリッチα2グリコプロテイン

M 項目コード	検査項目	頁	実施点数	判断区分	診療報酬区分	保険収載名称（レセプト名称）
7235	M2BPGi →Mac-2結合蛋白糖鎖修飾異性体	66	194	生化Ⅰ	D007-050	Mac-2結合蛋白糖鎖修飾異性体
7235	Mac-2結合蛋白糖鎖修飾異性体（M2BPGi）	66	194	生化Ⅰ	D007-050	Mac-2結合蛋白糖鎖修飾異性体
2779	MAC-PCR（抗酸菌群核酸増幅検査）	130	421	微生物	D023-016	マイコバクテリウム・アビウム及びイントラセルラー（MAC）核酸検出
0028	MAC抗体 →抗MAC抗体（抗酸菌抗体定性）	48	116	免疫	D012-018	抗酸菌抗体定性
7244	Major BCR::ABL1 IS	113	2520	遺・染色	D006-3-1	BCR-ABL1 1 Major BCR-ABL1（mRNA定量（国際標準値））
2934	Major BCR-ABL1 mRNA定性	113	2100	遺・染色	D006-2	造血器腫瘍遺伝子検査
8488	Major BCR-ABL1 mRNA定量	113	2100	遺・染色	D006-2	造血器腫瘍遺伝子検査

＊コード欄が空欄の検査項目は、項目コードが2種類以上ございますので、該当ページを御確認下さい。

M 項目コード	検査項目	頁	実施点数	判断区分	診療報酬区分	保険収載名称（レセプト名称）
2416	MAST36（特異的IgE）	71	1430	免疫	D015-013	特異的IgE半定量・定量
	Mb（ミオグロビン）	65	131	生化Ⅰ	D007-036	ミオグロビン定量
2536	MBP（ミエリン塩基性蛋白）	64	570	尿・糞便	D004-012	ミエリン塩基性蛋白（MBP）（髄液）
0508	MCH（平均赤血球血色素量）→血液一般検査	101				（赤血球恒数）
0509	MCHC（平均赤血球血色素濃度）→血液一般検査	101				（赤血球恒数）
0507	MCV（平均赤血球容積）→血液一般検査	101				（赤血球恒数）
7714	（抗）MDA5抗体	59	(270)	免疫	D014-037	抗MDA5抗体
1003	MDA-LDL（酸化LDL）	11	194	生化Ⅰ	D007-050	マロンジアルデヒド修飾LDL（MDA-LDL）
	Mg（マグネシウム）	16	(11)	生化Ⅰ	D007-001	マグネシウム
7716	（抗）Mi-2抗体	59	(270)	免疫	D014-037	抗Mi-2抗体
1398	minor BCR-ABL1 mRNA定性	113	2100	遺・染色	D006-2	造血器腫瘍遺伝子検査
8489	minor BCR-ABL1 mRNA定量	113	2100	遺・染色	D006-2	造血器腫瘍遺伝子検査
7712	MLA（悪性リンパ腫解析検査）CD45ゲーティング	117	1940	血液	D005-015	造血器腫瘍細胞抗原検査（一連につき）
2707	MMP-3（マトリックスメタロプロテイナーゼ-3）	55	116	免疫	D014-009	マトリックスメタロプロテイナーゼ-3（MMP-3）
	Mn（マンガン）	19	(27)	生化Ⅰ	D007-008	マンガン（Mn）
2478	MPO-ANCA（抗好中球細胞質抗体・P-ANCA）	60	251	免疫	D014-032	抗好中球細胞質ミエロペルオキシダーゼ抗体（MPO-ANCA）
2246	MuSK抗体 →抗筋特異的チロシンキナーゼ抗体	60	1000	免疫	D014-047	抗筋特異的チロシンキナーゼ抗体

N 項目コード	検査項目	頁	実施点数	判断区分	診療報酬区分	保険収載名称（レセプト名称）
	Na（ナトリウム）	15	(11)	生化Ⅰ	D007-001	ナトリウム及びクロール
0062	NAG（N-アセチルグルコサミニダーゼ）	4	41	尿・糞便	D001-005	N-アセチルグルコサミニダーゼ（NAG）（尿）
2041	NCC-ST-439	77	(112)	生化Ⅱ	D009-006	NCC-ST-439
7432	NEFA（遊離脂肪酸）	11	59	生化Ⅰ	D007-019	遊離脂肪酸
0110	NH_3（アンモニア）	6	50	生化Ⅰ	D007-016	アンモニア
2306	NK細胞活性	116				
0460	NSE（神経特異エノラーゼ）	75	(142)	生化Ⅱ	D009-014	神経特異エノラーゼ（NSE）
2593	NT-proBNP（ヒト脳性Na利尿ペプチド前駆体N端フラグメント）	38	(136)	生化Ⅱ	D008-020	脳性Na利尿ペプチド前駆体N端フラグメント（NT-proBNP）
1850	NTX（Ⅰ型コラーゲン架橋N-テロペプチド）	30	(156)	生化Ⅱ	D008-025	Ⅰ型コラーゲン架橋N-テロペプチド（NTX）
0062	N-アセチルグルコサミニダーゼ（NAG）	4	41	尿・糞便	D001-005	N-アセチルグルコサミニダーゼ（NAG）（尿）
0353	N-メチルホルムアミド	21				

P 項目コード	検査項目	頁	実施点数	判断区分	診療報酬区分	保険収載名称（レセプト名称）
0432	P（プロゲステロン）	35	(143)	生化Ⅱ	D008-022	プロゲステロン
0433	P_2（プレグナンジオール）	35	(213)	生化Ⅱ	D008-043	プレグナンジオール
0434	P_3（プレグナントリオール）	35	(232)	生化Ⅱ	D008-048	プレグナントリオール
2527	（抗）p53抗体	77	(163)	生化Ⅱ	D009-022	抗p53抗体
0679	P-Ⅲ-P（プロコラーゲン-Ⅲ-ペプチド）	66	136	生化Ⅰ	D007-039	プロコラーゲン-Ⅲ-ペプチド（P-Ⅲ-P）
0271	PABA排泄率（PFD）	23	100		D289-001	その他の機能テスト　1 膵機能テスト（PFDテスト）
0616	PAIgG（血小板関連IgG）	61	190	免疫	D011-006	血小板関連IgG（PA-IgG）
2478	P-ANCA（抗好中球細胞質抗体・MPO-ANCA）	60	251	免疫	D014-032	抗好中球細胞質ミエロペルオキシダーゼ抗体（MPO-ANCA）
0573	PAS染色	102	頁参照			
	Pb（鉛）	18				
	PD-L1（22C3）	139	2700	病理	N005-3	PD-L1タンパク免疫染色（免疫抗体法）病理組織標本作製
	PD-L1（SP142）	139	2700	病理	N005-3	PD-L1タンパク免疫染色（免疫抗体法）病理組織標本作製
0271	PFD（PABA排泄率）	23	100		D289-001	その他の機能テスト　1 膵機能テスト（PFDテスト）
0608	PF-4（血小板第4因子）	108	(173)	血液	D006-025	血小板第4因子（PF4）
7155	PG（ペプシノゲン）	4				
	PgR →プロゲステロンレセプター（PgR）［組織］	139	690	病理	N002-002	免疫染色（免疫抗体法）病理組織標本作製　プロジェステロンレセプター

検査項目索引（アルファベット）

＊コード欄が空欄の検査項目は、項目コードが2種類以上ございますので、該当ページを御確認下さい。

P 項目コード	検査項目	頁	実施点数	判断区分	診療報酬区分	保険収載名称（レセプト名称）
0190	PHAによるリンパ球幼若化検査	118	345	免疫	D016-007	リンパ球刺激試験（LST） 1薬剤
2025	PIC（α2-プラスミンインヒビター・プラスミン複合体）	105	(150)	血液	D006-021	プラスミン・プラスミンインヒビター複合体（PIC）
0552	PIVKA-Ⅱ	75	(131)	生化Ⅱ	D009-010	PIVKA-Ⅱ定量
0098	PL（リン脂質）	11	(15)	生化Ⅰ	D007-002	リン脂質
2223	PLA2 →膵ホスホリパーゼA2（膵PLA2）	2	204	生化Ⅰ	D007-051	ホスフォリパーゼA2（PLA2）
0506	PLT（血小板数） →血液一般検査	101	21	血液	D005-005	末梢血液一般検査
2215	PML-RARA t(15;17)転座	111	2477	遺・染色	D006-5-1	染色体検査（全ての費用を含む。）1 FISH法を用いた場合
	PML-RARA mRNA定性	113	2100	遺・染色	D006-2	造血器腫瘍遺伝子検査
1334	PML-RARA mRNA定量	113	2100	遺・染色	D006-2	造血器腫瘍遺伝子検査
0560	P-O染色（ペルオキシダーゼ染色）	102	頁参照			
2477	PR3-ANCA（抗好中球細胞質抗体・C-ANCA）	60	252	免疫	D014-033	抗好中球細胞質プロテイナーゼ3抗体（PR3-ANCA）
0477	PRA →レニン活性（PRA）	37	100	生化Ⅱ	D008-008	レニン活性
0348	PRL（プロラクチン）	25	98	生化Ⅱ	D008-006	プロラクチン（PRL）
2765	ProGRP（ガストリン放出ペプチド前駆体）	75	(175)	生化Ⅱ	D009-024	ガストリン放出ペプチド前駆体（ProGRP）
2949	PSA（前立腺特異抗原）	76	(121)	生化Ⅱ	D009-009	前立腺特異抗原（PSA）
2239	PSA-ACT	76	(121)	生化Ⅱ	D009-009	前立腺特異抗原（PSA）
0497	PSA F/T比	76	(150)	生化Ⅱ	D009-017	遊離型PSA比（PSA F/T比）
0272	PSP試験	23	150		D286	肝及び腎のクリアランステスト
0582	PT（プロトロンビン時間）	104	18	血液	D006-002	プロトロンビン時間（PT）
0489	PTH-intact（副甲状腺ホルモンインタクト）	29	(161)	生化Ⅱ	D008-029	副甲状腺ホルモン（PTH）
2953	PTHrP-intact（副甲状腺ホルモン関連蛋白intact）	29	(186)	生化Ⅱ	D008-038	副甲状腺ホルモン関連蛋白（PTHrP）
2668	P型アミラーゼ	2	48	生化Ⅰ	D007-014	アミラーゼアイソザイム

Q 項目コード	検査項目	頁	実施点数	判断区分	診療報酬区分	保険収載名称（レセプト名称）
0182	Q-Band →染色体〔先天異常〕	109	2477+397	遺・染色	D006-5-3	染色体検査（全ての費用を含む。）3 その他の場合 ＊分染法加算あり＊
1931	QFTゴールドプラス	130	593	免疫	D015-030	結核菌特異的インターフェロン-γ産生能

R 項目コード	検査項目	頁	実施点数	判断区分	診療報酬区分	保険収載名称（レセプト名称）
1316	R2A培養	131				
1260	（大腸癌）RAS/BRAF変異解析	114	4000	遺・染色	D004-2-001	悪性腫瘍組織検査 1 悪性腫瘍遺伝子検査
0502	RBC（赤血球数） →血液一般検査	101	21	血液	D005-005	末梢血液一般検査
2931	RBP（レチノール結合蛋白）	67	132	免疫	D015-015	レチノール結合蛋白（RBP）
0505	Ret（網状赤血球数）	101	12	血液	D005-002	網赤血球数
2129	RF（リウマチ因子定量）	55	30	免疫	D014-002	リウマトイド因子（RF）定量
0692	Rh（D）式血液型	68	24	免疫	D011-001	Rh（D）血液型
2300	Rh-Hr式血液型	68	148	免疫	D011-003	Rh（その他の因子）血液型
2400	RLPコレステロール（レムナント様リポ蛋白コレステロール）	11	174	生化Ⅰ	D007-044	レムナント様リポ蛋白コレステロール（RLP-C）
1221	（抗）RNAポリメラーゼⅢ抗体	59	(170)	免疫	D014-019	抗RNAポリメラーゼⅢ抗体
0676	（抗）RNP抗体〔オクタロニー法〕	57	(144)	免疫	D014-013	抗RNP抗体半定量
2735	（抗）RNP抗体〔FEIA法〕	57	(144)	免疫	D014-013	抗RNP抗体定量
0653	RPR法定性 →梅毒定性	47	15	免疫	D012-001	梅毒血清反応（STS）定性
0657	RPR法定量 →梅毒定量	47	34	免疫	D012-005	梅毒血清反応（STS）定量
	RSウイルス〔CF法・NT法〕	88	79	免疫	D012-011	ウイルス抗体価（定性・半定量・定量）（1項目当たり）

＊コード欄が空欄の検査項目は、項目コードが2種類以上ございますので、該当ページを御確認下さい。

S 項目コード	検査項目	頁	実施点数	判断区分	診療報酬区分	保険収載名称（レセプト名称）
2776	SAA（血清アミロイドA蛋白）	65	47	免疫	D015-006	血清アミロイドA蛋白（SAA）
0462	SCC抗原	75	(101)	生化Ⅱ	D009-004	扁平上皮癌関連抗原（SCC抗原）
1877	（抗）Scl-70抗体〔オクタロニー法〕	58	(157)	免疫	D014-016	抗Scl-70抗体半定量
2739	（抗）Scl-70抗体〔FEIA法〕	58	(157)	免疫	D014-016	抗Scl-70抗体定量
0605	SFMC（可溶性フィブリンモノマー複合体）	105	93	血液	D006-011	フィブリンモノマー複合体定性
2526	sIL-2R（可溶性IL-2レセプター）	78	(438)	生化Ⅱ	D009-036	可溶性インターロイキン-2レセプター（sIL-2R）
0199	SLX（シアリルLe^{X}-i抗原）	75	(140)	生化Ⅱ	D009-013	シアリルLe^{X}-i抗原（SLX）
0681	SMA（抗平滑筋抗体）	59				
	Sm-Ig（B細胞表面免疫グロブリン）	116	155	免疫	D016-001	B細胞表面免疫グロブリン
0899	SMRP（可溶性メソテリン関連ペプチド）	78	(220)	生化Ⅱ	D009-030	可溶性メソテリン関連ペプチド
0677	（抗）Sm抗体〔オクタロニー法〕	57	(147)	免疫	D014-014	抗Sm抗体半定量
2736	（抗）Sm抗体〔FEIA法〕	57	(147)	免疫	D014-014	抗Sm抗体定量
2672	SP-A（肺サーファクタントプロテインA）	67	130	生化Ⅰ	D007-035	肺サーファクタント蛋白-A（SP-A）
2026	SPan-1	77	(144)	生化Ⅱ	D009-015	SPan-1
2671	SP-D（肺サーファクタントプロテインD）	67	136	生化Ⅰ	D007-039	肺サーファクタント蛋白-D（SP-D）
0738	（抗）SS-A/Ro抗体〔オクタロニー法〕	58	(161)	免疫	D014-018	抗SS-A/Ro抗体半定量
2737	（抗）SS-A/Ro抗体〔FEIA法〕	58	(161)	免疫	D014-018	抗SS-A/Ro抗体定量
0739	（抗）SS-B/La抗体〔オクタロニー法〕	58	(157)	免疫	D014-016	抗SS-B/La抗体半定量
2738	（抗）SS-B/La抗体〔FEIA法〕	58	(157)	免疫	D014-016	抗SS-B/La抗体定量
0668	（抗）ss-DNA抗体　IgG	57	159	免疫	D014-017	抗DNA抗体定量
0669	（抗）ss-DNA抗体　IgM	57				
2217	STN（シアリルTn抗原）	77	(146)	生化Ⅱ	D009-016	シアリルTn抗原（STN）

T 項目コード	検査項目	頁	実施点数	判断区分	診療報酬区分	保険収載名称（レセプト名称）
0361	T_3（トリヨードサイロニン）	27	99	生化Ⅱ	D008-007	トリヨードサイロニン（T_3）
0364	T_4（サイロキシン）	27	105	生化Ⅱ	D008-011	サイロキシン（T_4）
2619	TARC（Th2ケモカイン）	71	179	免疫	D015-018	TARC
2027	TAT（トロンビン・アンチトロンビンⅢ複合体）	105	(171)	血液	D006-024	トロンビン・アンチトロンビン複合体（TAT）
	TB（結核菌）薬剤感受性検査	129	400	微生物	D022	抗酸菌薬剤感受性検査（培地数に関係なく）
0101	TBA（総胆汁酸）	13	47	生化Ⅰ	D007-013	胆汁酸
0366	TBG（サイロキシン結合グロブリン）	27	(130)	生化Ⅱ	D008-018	サイロキシン結合グロブリン（TBG）
0043	T-Bil（総ビリルビン）	8	(11)	生化Ⅰ	D007-001	総ビリルビン
2744	TB-PCR（結核菌群核酸増幅検査）	130	410	微生物	D023-014	結核菌群核酸検出
0091	T-ch（総コレステロール）	11	(17)	生化Ⅰ	D007-003	総コレステロール
0712	Tf（トランスフェリン）	66	60	免疫	D015-007	トランスフェリン（Tf）
0367	Tg（サイログロブリン）	27	(128)	生化Ⅱ	D008-016	サイログロブリン
0095	TG（中性脂肪）	11	(11)	生化Ⅰ	D007-001	中性脂肪
0368	TgAb（抗サイログロブリン抗体）	27	(136)	免疫	D014-010	抗サイログロブリン抗体
7511	Th1/Th2（IFN-γ x IL-4/CD4）	116				
2619	Th2ケモカイン →TARC	71	179	免疫	D015-018	TARC
0147	TIBC（総鉄結合能）	18	(11)	生化Ⅰ	D007-001	総鉄結合能（TIBC）（比色法）
7718	（抗）TIF1-γ抗体	59	(270)	免疫	D014-037	抗TIF1-γ抗体
1532	total P1NP（Ⅰ型プロコラーゲン-N-プロペプチド）	29	(160)	生化Ⅱ	D008-028	Ⅰ型プロコラーゲン-N-プロペプチド（PⅠNP）
0001	TP（総蛋白）	1	(11)	生化Ⅰ	D007-001	総蛋白
2550	tPA･PAI-1複合体（トータルPAI-1）	106	(240)	血液	D006-032	tPA･PAI-1複合体
0656	TPHA法定性 →梅毒定性	47	32	免疫	D012-004	梅毒トレポネーマ抗体定性
0660	TPHA法定量 →梅毒定量	47	53	免疫	D012-006	梅毒トレポネーマ抗体定量
2732	TPO抗体 →抗甲状腺ペルオオキシダーゼ抗体（抗TPO抗体）	27	(138)	免疫	D014-011	抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体
1638	TRAb定量（TSHレセプター抗体定量）	27	214	免疫	D014-027	抗TSHレセプター抗体（TRAb）
2723	TRACP-5b（骨型酒石酸抵抗性酸性フォスファターゼ）	30	(156)	生化Ⅱ	D008-025	酒石酸抵抗性酸ホスファターゼ（TRACP-5b）

検査項目索引（アルファベット）

＊コード欄が空欄の検査項目は、項目コードが2種類以上ございますので、該当ページを御確認下さい。

T 項目コード	検査項目	頁	実施点数	判断区分	診療報酬区分	保険収載名称（レセプト名称）
2723	TRAP-5b →TRACP-5b	30	(156)	生化Ⅱ	D008-025	酒石酸抵抗性酸ホスファターゼ（TRACP-5b）
2933	TSAb（TSH刺激性レセプター抗体･甲状腺刺激抗体）	27	330	免疫	D014-040	甲状腺刺激抗体（TSAb）
0358	TSH（甲状腺刺激ホルモン）	25	98	生化Ⅱ	D008-006	甲状腺刺激ホルモン（TSH）
2933	TSH刺激性レセプター抗体（TSAb･甲状腺刺激抗体）	27	330	免疫	D014-040	甲状腺刺激抗体（TSAb）
1638	TSHレセプター抗体定量（TRAb定量）	27	214	免疫	D014-027	抗TSHレセプター抗体（TRAb）
0740	T-SPOT.TB（インターフェロン-γ遊離試験）	130	593	免疫	D015-030	結核菌特異的インターフェロン-γ産生能
	Two-color解析によるリンパ球表面マーカー検査	116				
0194	T細胞百分率 B細胞百分率	116	193	免疫	D016-003	T細胞･B細胞百分率

U 項目コード	検査項目	頁	実施点数	判断区分	診療報酬区分	保険収載名称（レセプト名称）
	UA（尿酸）	6	(11)	生化Ⅰ	D007-001	尿酸
1464	ucOc（低カルボキシル化オステオカルシン）	29	(154)	生化Ⅱ	D008-024	低カルボキシル化オステオカルシン（ucOC）
0148	UIBC（不飽和鉄結合能）	18	(11)	生化Ⅰ	D007-001	不飽和鉄結合能（UIBC）（比色法）
	UN（尿素窒素）	6	(11)	生化Ⅰ	D007-001	尿素窒素

V 項目コード	検査項目	頁	実施点数	判断区分	診療報酬区分	保険収載名称（レセプト名称）
7300	View アレルギー39	71	1430	免疫	D015-013	特異的IgE半定量･定量
1139	VMA定性	33	9	尿･糞便	D001-002	VMA定性（尿）
	VMA定量（バニリルマンデル酸）	33	90	生化Ⅱ	D008-004	バニールマンデル酸（VMA）
0598	vWf（フォン･ウィルブランド因子活性.リストセチンコファクター）	108	(126)	血液	D006-014	von Willebrand因子（VWF）活性
0959	VZV（水痘･帯状）疱疹ウイルス〔CF法〕	91	79	免疫	D012-011	ウイルス抗体価（定性･半定量･定量）（1項目当たり）
	VZV（水痘･帯状）疱疹ウイルス IgG,IgM〔EIA法〕	91	200	免疫	D012-044	グロブリンクラス別ウイルス抗体価（1項目当たり）
2353	VZV（水痘･帯状）疱疹ウイルスDNA定性	96				
2697	VZV（水痘･帯状）疱疹ウイルスDNA定量	96	450	微生物	D023-017	単純疱疹ウイルス･水痘帯状疱疹ウイルス核酸定量

W 項目コード	検査項目	頁	実施点数	判断区分	診療報酬区分	保険収載名称（レセプト名称）
0501	WBC（白血球数）→血液一般検査	101	21	血液	D005-005	末梢血液一般検査
1278	whole-PTH（副甲状腺ホルモン）	29	(161)	生化Ⅱ	D008-029	副甲状腺ホルモン（PTH）
0089	WT1 mRNA定量	113	2520	遺･染色	D006-9	WT1 mRNA

X 項目コード	検査項目	頁	実施点数	判断区分	診療報酬区分	保険収載名称（レセプト名称）
1655	X染色体〔先天異常〕	109	2477	遺･染色	D006-5-1	染色体検査（全ての費用を含む。）1 FISH法を用いた場合

Y 項目コード	検査項目	頁	実施点数	判断区分	診療報酬区分	保険収載名称（レセプト名称）
1656	Y染色体〔先天異常〕	109	2477	遺･染色	D006-5-1	染色体検査（全ての費用を含む。）1 FISH法を用いた場合

Z 項目コード	検査項目	頁	実施点数	判断区分	診療報酬区分	保険収載名称（レセプト名称）
	Zn（亜鉛）	18	132	生化Ⅰ	D007-037	亜鉛（Zn）

●ギリシャ文字

＊コード欄が空欄の検査項目は、項目コードが2種類以上ございますので、該当ページを御確認下さい。

α 項目コード	検査項目	頁	実施点数	判断区分	診療報酬区分	保険収載名称（レセプト名称）
2006	α-フェトプロテイン定量（AFP定量）	75	(98)	生化Ⅱ	D009-002	α-フェトプロテイン（AFP）
0706	α1-AT（α1-アンチトリプシン）	65	80	血液	D006-010	α1-アンチトリプシン
	α1MG（α1-マイクログロブリン）	67	129	免疫	D015-014	α1-マイクログロブリン
0706	α1-アンチトリプシン（α1-AT）	65	80	血液	D006-010	α1-アンチトリプシン
	α1-マイクログロブリン（α1MG）	67	129	免疫	D015-014	α1-マイクログロブリン
0710	α2-M（α2-マクログロブリン）	67	(138)	血液	D006-017	α2-マクログロブリン
0590	α2-プラスミンインヒビター（アンチプラスミン）	105	(128)	血液	D006-016	プラスミンインヒビター（アンチプラスミン）
0710	α2-マクログロブリン（α2-M）	67	(138)	血液	D006-017	α2-マクログロブリン
2025	α2-プラスミンインヒビター・プラスミン複合体（PIC）	105	(150)	血液	D006-021	プラスミン・プラスミンインヒビター複合体（PIC）

β 項目コード	検査項目	頁	実施点数	判断区分	診療報酬区分	保険収載名称（レセプト名称）
9109	β-D-グルカン →(1→3)-β-D-グルカン	49	195	免疫	D012-042	(1→3)-β-D-グルカン
0607	β-TG（β-トロンボグロブリン）	108	(171)	血液	D006-024	β-トロンボグロブリン（β-TG）
0607	β-トロンボグロブリン（β-TG）	108	(171)	血液	D006-024	β-トロンボグロブリン（β-TG）
0715	β1C/β1Aグロブリン（C3）	64	70	免疫	D015-008	C3
0716	β1Eグロブリン（C4）	64	70	免疫	D015-008	C4
	β2-マイクログロブリン（BMG）	67	98	免疫	D015-010	β2-マイクログロブリン

γ 項目コード	検査項目	頁	実施点数	判断区分	診療報酬区分	保険収載名称（レセプト名称）
0052	γ-GT（γ-GTP）	1	(11)	生化Ⅰ	D007-001	γ-グルタミルトランスフェラーゼ（γ-GT）
0463	γ-Sm（γ-セミノプロテイン）	76	(192)	生化Ⅱ	D009-028	γ-セミノプロテイン（γ-Sm）
	γ-アミノ酪酸（GABA）	6	279	生化Ⅱ	D010-004	アミノ酸　1種類につき
0463	γ-セミノプロテイン（γ-Sm）	76	(192)	生化Ⅱ	D009-028	γ-セミノプロテイン（γ-Sm）

δ 項目コード	検査項目	頁	実施点数	判断区分	診療報酬区分	保険収載名称（レセプト名称）
0248	δ-アミノレブリン酸（δ-ALA）	8	106	尿・糞便	D001-011	δアミノレブリン酸（δ-ALA）（尿）

検査項目索引（数　字）

●数字

＊コード欄が空欄の検査項目は、項目コードが2種類以上ございますので、該当ページを御確認下さい。

数字 項目コード	検査項目	頁	実施点数	判断区分	診療報酬区分	保険収載名称（レセプト名称）
9109	(1→3)β-D-グルカン	49	195	免疫	D012-042	(1→3)-β-D-グルカン
1979	1･1･1-トリクロルエタン（総三塩化物）	21				
1978	1･1･1-トリクロルエタン（トリクロル酢酸）	21				
2282	1,25-(OH)2ビタミンD（活性型）	17	388	生化Ⅰ	D007-063	1,25-ジヒドロキシビタミンD3
2187	1,5AG（1,5-アンヒドロ-D-グルシトール）	9	80	生化Ⅰ	D007-021	1,5-アンヒドロ-D-グルシトール（1,5AG）
2187	1,5-アンヒドロ-D-グルシトール（1,5AG）	9	80	生化Ⅰ	D007-021	1,5-アンヒドロ-D-グルシトール（1,5AG）
0411	11-OHCS	32	60	生化Ⅱ	D008-002	11-ハイドロキシコルチコステロイド（11-OHCS）
	13染色体〔先天異常〕	109	2477	遺･染色	D006-5-1	染色体検査（全ての費用を含む。）1 FISH法を用いた場合
	15染色体（アンジェルマン症候群）〔先天異常〕	110	2477	遺･染色	D006-5-1	染色体検査（全ての費用を含む。）1 FISH法を用いた場合
0363	15染色体（プラダーウイリ症候群）〔先天異常〕	110	2477	遺･染色	D006-5-1	染色体検査（全ての費用を含む。）1 FISH法を用いた場合
	17染色体（ミラーディカー症候群）〔先天異常〕	110	2477	遺･染色	D006-5-1	染色体検査（全ての費用を含む。）1 FISH法を用いた場合
	18染色体〔先天異常〕	109	2477	遺･染色	D006-5-1	染色体検査（全ての費用を含む。）1 FISH法を用いた場合
0354	2,5-ヘキサンジオン	21				
2794	21染色体〔先天異常〕	109	2477	遺･染色	D006-5-1	染色体検査（全ての費用を含む。）1 FISH法を用いた場合
2831	22染色体（22q11欠失）〔先天異常〕	110	2477	遺･染色	D006-5-1	染色体検査（全ての費用を含む。）1 FISH法を用いた場合
0258	25-OHビタミンD［くる病］	17	117	生化Ⅰ	D007-031	25-ヒドロキシビタミン
1203	25OHビタミンD［骨粗鬆症］	17	117	生化Ⅰ	D007-031	25-ヒドロキシビタミン
	5-HIAA（5-ハイドロキシインドール酢酸）	33	95	生化Ⅱ	D008-005	5-ハイドロキシインドール酢酸（5-HIAA）
1500	5-S-システイニルドーパ（5-S-CD）	78				
	5-ハイドロキシインドール酢酸（5-HIAA）	33	95	生化Ⅱ	D008-005	5-ハイドロキシインドール酢酸（5-HIAA）
1346	7AAD解析（悪性リンパ腫解析検査）	117	1940	血液	D005-015	造血器腫瘍細胞抗原検査（一連につき）
	7染色体（ウイリアムス症候群）〔先天異常〕	110	2477	遺･染色	D006-5-1	染色体検査（全ての費用を含む。）1 FISH法を用いた場合
2966	ⅠCTP →Ⅰ型コラーゲンC末端テロペプチド	78	腫管		B001-003	悪性腫瘍特異物質治療管理料　その他のもの
2966	Ⅰ型コラーゲンC末端テロペプチド（ⅠCTP）	78	腫管		B001-003	悪性腫瘍特異物質治療管理料　その他のもの
1850	Ⅰ型コラーゲン架橋N-テロペプチド（NTX）	30	(156)	生化Ⅱ	D008-025	Ⅰ型コラーゲン架橋N-テロペプチド（NTX）
1532	Ⅰ型プロコラーゲン-N-プロペプチド（total P1NP）	29	(160)	生化Ⅱ	D008-028	Ⅰ型プロコラーゲン-N-プロペプチド（PⅠNP）
0384	Ⅳ型コラーゲン	66	131	生化Ⅰ	D007-036	Ⅳ型コラーゲン
2115	Ⅳ型コラーゲン･7S	66	148	生化Ⅰ	D007-042	Ⅳ型コラーゲン･7S
1739	（尿中）Ⅳ型コラーゲン	66	184	尿･糞便	D001-015	Ⅳ型コラーゲン（尿）
0594	Ⅱ（2）因子（凝固因子活性）	107	(223)	血液	D006-029	凝固因子（Ⅰ,Ⅴ,Ⅶ,Ⅷ,Ⅸ,Ⅹ,Ⅺ,Ⅻ,XIII）
0595	Ⅴ（5）因子（凝固因子活性）	107	(223)	血液	D006-029	凝固因子（Ⅰ,Ⅴ,Ⅶ,Ⅷ,Ⅸ,Ⅹ,Ⅺ,Ⅻ,XIII）
0596	Ⅶ（7）因子（凝固因子活性）	107	(223)	血液	D006-029	凝固因子（Ⅰ,Ⅴ,Ⅶ,Ⅷ,Ⅸ,Ⅹ,Ⅺ,Ⅻ,XIII）
0597	Ⅷ（8）因子（凝固因子活性）	107	(223)	血液	D006-029	凝固因子（Ⅰ,Ⅴ,Ⅶ,Ⅷ,Ⅸ,Ⅹ,Ⅺ,Ⅻ,XIII）
0599	Ⅸ（9）因子（凝固因子活性）	107	(223)	血液	D006-029	凝固因子（Ⅰ,Ⅴ,Ⅶ,Ⅷ,Ⅸ,Ⅹ,Ⅺ,Ⅻ,XIII）
0600	Ⅹ（10）因子（凝固因子活性）	107	(223)	血液	D006-029	凝固因子（Ⅰ,Ⅴ,Ⅶ,Ⅷ,Ⅸ,Ⅹ,Ⅺ,Ⅻ,XIII）
0601	XI（11）因子（凝固因子活性）	107	(223)	血液	D006-029	凝固因子（Ⅰ,Ⅴ,Ⅶ,Ⅷ,Ⅸ,Ⅹ,Ⅺ,Ⅻ,XIII）
0602	XII（12）因子（凝固因子活性）	107	(223)	血液	D006-029	凝固因子（Ⅰ,Ⅴ,Ⅶ,Ⅷ,Ⅸ,Ⅹ,Ⅺ,Ⅻ,XIII）
0603	XIII（13）因子（凝固因子活性）	107	(223)	血液	D006-029	凝固因子（Ⅰ,Ⅴ,Ⅶ,Ⅷ,Ⅸ,Ⅹ,Ⅺ,Ⅻ,XIII）

●薬物分析

【特定疾患治療管理料】
【診療報酬区分】 B001-002 【保険収載名称(レセプト名称)】 特定薬剤治療管理料 1

ア 項目コード	検査項目	頁
0310	アスピリン →サリチル酸	45
0340	アスペノン →アプリンジン	42
2235	アセタゾラミド	40
*2156	アセトアミノフェン	45
2304	アフィニトール →エベロリムス	44
0340	アプリンジン	42
2237	アミオダロン	43
0305	アミカシン	44
0305	アミカマイシン →アミカシン	44
0297	アミサリン →プロカインアミド	42
1620	アルベカシン	44
0283	アレビアチン →フェニトイン	40
2237	アンカロン →アミオダロン	43

イ 項目コード	検査項目	頁
2598	イーケプラ →レベチラセタム	41
1335	イマチニブ	45
0299	インデラル →プロプラノロール	42
2749	インプロメン →ブロムペリドール	45

ウ 項目コード	検査項目	頁
0338	ウインタミン →クロルプロマジン	45

エ 項目コード	検査項目	頁
2040	エクセグラン →ゾニサミド	40
0285	エトスクシミド	40
0285	エピレオプチマル →エトスクシミド	40
2304	エベロリムス	44
0300	エルタシン →ゲンタマイシン	44
2255	塩酸バンコマイシン →バンコマイシン	44

オ 項目コード	検査項目	頁
2086	オスポロット →スルチアム	41
0294	オリベス →リドカイン	42

カ 項目コード	検査項目	頁
0330	ガバペンチン	41
0296	カフィール →ジソピラミド	42
0284	カルバマゼピン	40
*2156	カロナール →アセトアミノフェン	45

キ 項目コード	検査項目	頁
0294	キシロカイン →リドカイン	42
0295	キニジン	42

ク 項目コード	検査項目	頁
2748	グラセプター →タクロリムス	44
1335	グリベック →イマチニブ	45
1472	クロザピン	45
1472	クロザリル →クロザピン	45
0287	クロナゼパム	40
0338	クロルプロマジン	45
2705	クロバザム	41

ケ 項目コード	検査項目	頁
0300	ゲンタシン →ゲンタマイシン	44
0300	ゲンタマイシン	44

コ 項目コード	検査項目	頁
0338	コントミン →クロルプロマジン	45

サ 項目コード	検査項目	頁
2304	サーティカン →エベロリムス	44
0310	サリチル酸	45
0310	サルソニン →サリチル酸	45
0285	ザロンチン →エトスクシミド	40
2350	サンディミュン →シクロスポリン	44
2948	サンリズム →ピルシカイニド	43

シ 項目コード	検査項目	頁
0289	ジアゼパム	41
0289	ジアパックス →ジアゼパム	41
2350	シクロスポリン	44
0292	ジゴキシン	43
0292	ジゴシン →ジゴキシン	43
0296	ジソピラミド	42
2549	シベノール →シベンゾリン	43
2549	シベンゾリン	43

*2156:**アセトアミノフェン** は、実施点数：180点　判断料：生化Ⅰ　診療報酬区分：D007-047　保険収載名称：**アセトアミノフェン** になります。

検査項目索引（薬物分析）

【特定疾患治療管理料】
【診療報酬区分】 B001-002 【保険収載名称(レセプト名称)】 特定薬剤治療管理料 1

ス 項目コード	検査項目	頁
2086	スルチアム	41
0291	スロービッド →テオフィリン	43

セ 項目コード	検査項目	頁
0289	セルシン →ジアゼパム	41
2305	セルセプト →ミコフェーノル酸	44
0286	セレニカR →バルプロ酸	40
0339	セレネース →ハロペリドール	45

ソ 項目コード	検査項目	頁
2040	ゾニサミド	40
0299	ソラシロール →プロプラノロール	42

タ 項目コード	検査項目	頁
0289	ダイアップ →ジアゼパム	41
2235	ダイアモックス →アセタゾラミド	40
2748	タクロリムス	44
0301	タゴシッド →テイコプラニン	44
2012	タンボコール →フレカイニド	42

テ 項目コード	検査項目	頁
0301	テイコプラニン	44
0291	テオドール →テオフィリン	43
0291	テオフィリン	43
0291	テオロング →テオフィリン	43
0284	テグレトール →カルバマゼピン	40
0286	デパケン →バルプロ酸	40
0284	テレスミン →カルバマゼピン	40

ト 項目コード	検査項目	頁
0316	トピナ →トピラマート	41
0316	トピラマート	41
0304	トブラシン →トブラマイシン	44
0304	トブラマイシン	44
2500	トリメタジオン	40
2040	トレリーフ →ゾニサミド	40

ナ 項目コード	検査項目	頁
*2156	ナパ →アセトアミノフェン	45

ニ 項目コード	検査項目	頁
0288	ニトラゼパム	41

ネ 項目コード	検査項目	頁
0339	ネオペリドール →ハロペリドール	45
2350	ネオーラル →シクロスポリン	44
0288	ネルボン →ニトラゼパム	41

ノ 項目コード	検査項目	頁
0296	ノルペース →ジソピラミド	42

ハ 項目コード	検査項目	頁
0286	ハイセレニン →バルプロ酸	40
0310	バファリン →サリチル酸	45
0310	ハフトロン →サリチル酸	45
1620	ハベカシン →アルベカシン	44
0286	バルプロ酸	40
0286	バレリン →バルプロ酸	40
0339	ハロステン →ハロペリドール	45
0339	ハロマンス →ハロペリドール	45
0339	ハロペリドール	45
2255	バンコマイシン	44

ヒ 項目コード	検査項目	頁
0305	ビクリン →アミカシン	44
0283	ヒダントール →フェニトイン	40
7725	ビムパット →ラコサミド	41
2670	ピメノール →ピルメノール	42
*2156	ピリナジン →アセトアミノフェン	45
2948	ピルシカイニド	43
2670	ピルメノール	42

フ 項目コード	検査項目	頁
7726	フィコンパ →ペランパネル	41
2645	ブイフェンド →ボリコナゾール	43
0283	フェニトイン	40
0281	フェノバール →フェノバルビタール	40
0281	フェノバルビタール	40
0282	プリミドン	40
0282	プリムロン →プリミドン	40
2012	フレカイニド	42
0297	プロカインアミド	42

*2156:**アセトアミノフェン** は、実施点数：180点　判断料：生化Ⅰ　診療報酬区分：D007-047　保険収載名称：**アセトアミノフェン** になります。

【特定疾患治療管理料】
【診療報酬区分】 B001-002 【保険収載名称(レセプト名称)】 特定薬剤治療管理料 1

フ

項目コード	検査項目	頁
2748	プログラフ →タクロリムス	44
0359	プロノン →プロパフェノン	43
0359	プロパフェノン	43
0299	プロプラノロール	42
2749	プロムペリドール	45

ヘ

項目コード	検査項目	頁
0310	ヘパルス →サリチル酸	45
1367	ベプリコール →ベプリジル	43
1367	ベプリジル	43
7726	ペランパネル	41
0288	ベンザリン →ニトラゼパム	41

ホ

項目コード	検査項目	頁
2645	ボリコナゾール	43
0289	ホリゾン →ジアゼパム	41

マ

項目コード	検査項目	頁
2705	マイスタン →クロバザム	41

ミ

項目コード	検査項目	頁
2305	ミコフェノール酸	44
2500	ミノアレ →トリメタジオン	40

メ

項目コード	検査項目	頁
2316	メキシチール →メキシレチン	42
2316	メキシレチン	42
0309	メソトレキセート →メトトレキサート	45
0309	メトトレキサート	45

ユ

項目コード	検査項目	頁
0291	ユニフィル →テオフィリン	43

ラ

項目コード	検査項目	頁
7725	ラコサミド	41
1174	ラミクタール →ラモトリギン	41
1174	ラモトリギン	41
0287	ランドセン →クロナゼパム	40

リ

項目コード	検査項目	頁
0290	リーマス →リチウム	45
0296	リスモダン →ジソピラミド	42
0296	リスラミドR →ジソピラミド	42
0290	リチウム	45
0290	リチオマール →リチウム	45
0294	リドカイン	42
0287	リボトリール →クロナゼパム	40
0295	硫酸キニジン →キニジン	42
0339	リントン →ハロペリドール	45

ル

項目コード	検査項目	頁
0281	ルミナール →フェノバルビタール	40
2749	ルナプロン →ブロムペリドール	45

レ

項目コード	検査項目	頁
0284	レキシン →カルバマゼピン	40
2598	レベチラセタム	41
7453	レボトミン →レボメプロマジン	45
7453	レボメプロマジン	45

ワ

項目コード	検査項目	頁
0281	ワコビタール →フェノバルビタール	40

生化学的検査

◆1【検体量】は、当社での分離後（血清・血漿）の量です。
◆2【保存条件】は、当社での保存条件です。

	項目コード（統一コード）	検査項目	◆1 検体量（mL）	容器	◆2 保存条件	検査方法	基準範囲	所要日数	実施料判断料	備考	検査目的及び異常値を示す主な疾患名
蛋白検査	0001（3A010）	総蛋白（TP）	血清 0.2	A	冷蔵	ビウレット法	6.6～8.1 g/dL	1～2	⑪ 生化Ⅰ ①		【高値】多発性骨髄腫・原発性マクログロブリン血症・慢性肝炎・膠原病・脱水症 【低値】ネフローゼ・重症肝炎・栄養障害・浮腫・妊娠
	0002（3A015）	アルブミン（Alb）	血清 0.2	A	冷蔵	BCP改良法	4.1～5.1 g/dL	1～2	⑪ 生化Ⅰ ①		【高値】血液濃縮（脱水症） 【低値】ネフローゼ・肝細胞障害・肝硬変・吸収障害・栄養障害
	0003（3A016）	A／G比				計算法	1.32～2.23				【高値】免疫不全症候群 【低値】膠原病・多発性骨髄腫・肝疾患
	0004（3A020）	蛋白分画	血清 0.3	A	冷蔵	セルロース・アセテート膜電気泳動法	ALB　:59.6～71.4 α1-G　:1.8～3.4 α2-G　:5.7～9.8 β-G　:6.9～10.8 γ-G　:10.4～20.7 % A/G比: 1.40～2.50	1～2	⑱ 生化Ⅰ ①		【アルブミン】↑脱水症 ↓重症肝炎・ネフローゼ 【α1】↑急性炎症 ↓α1アンチトリプシン欠損症 【α2】↑ネフローゼ ↓肝炎（急性・慢性） 【β】↑妊娠・鉄欠乏性貧血・骨髄腫 ↓肝硬変 【γ】↑M蛋白血症・肝硬変・膠原病・炎症 ↓免疫不全・骨髄腫
酵素活性検査	0049（3B035）	AST（GOT）	血清 0.3	A	冷蔵	JSCC標準化対応法	13～30 U/L	1～2	⑰ 生化Ⅰ		【高値】肝炎全般・肝癌・肝硬変・肝汁うっ滞・心筋梗塞・筋ジストロフィー
	0050（3B045）	ALT（GPT）	血清 0.3	A	冷蔵	JSCC標準化対応法	M 10～42 F　7～23 U/L	1～2	⑰ 生化Ⅰ		【高値】肝炎（急性・慢性）・肝硬変・肝癌・脂肪肝・アルコール性肝炎 【低値】なし
	0052（3B090）	γ-GT（γ-GTP）	血清 0.3	A	冷蔵	JSCC標準化対応法	M 13～64 F　9～32 U/L	1～2	⑪ 生化Ⅰ		【高値】肝胆道疾患・アルコール性肝障害、薬物性肝障害、肝汁うっ滞、肝炎、肝硬変、肝癌
	0058（3B070）	ALP（アルカリフォスファターゼ）	血清 0.2	A	冷蔵	IFCC法	38～113 U/L	1～2	⑪ 生化Ⅰ		【高値】肝疾患全般（肝炎、肝硬変、肝癌）胆汁うっ滞、甲状腺機能亢進症、骨軟化症、転移性骨腫瘍
	0212（3B080）	ALP アイソザイム	血清 0.3	A	冷蔵	アガロース膜電気泳動法	ALP1　0.0～5.3 ALP2 36.6～69.2 ALP3 25.2～54.2 ALP5　0.0～18.1 %	3～5	48 生化Ⅰ	F	【異常値】ALP1　肝臓-肝・胆道の閉塞などで出現 ALP2　肝臓-肝・胆道疾患などで上昇 ALP3　骨-骨生成疾患などで上昇（ALP3上昇時にはALP2との分離が不明瞭になることがあります） ALP4　胎盤-主に妊娠時に出現 ALP5　慢性肝炎・肝硬変・慢性腎不全

患者から1回に採取した血液を用いて5項目以上行った場合は、所定点数にかかわらず、検査の項目数に応じて次に掲げる点数により算定する。
5～7項目（93点）8～9項目（99点）10項目以上（103点）

① 蛋白分画、総蛋白及びアルブミン（BCP改良法・BCG法）を併せて測定した場合は、主たるもの2つの所定点数を算定する。

◆1【検体量】は、当社での分離後（血清・血漿）の量です。
◆2【保存条件】は、当社での保存条件です。

生化学的検査

	項目コード（統一コード）	検査項目	◆1 検体量（mL）	容器	◆2 保存条件	検査方法	基準範囲	所要日数	実施料 判断料	備考	検査目的及び異常値を示す主な疾患名
酵素活性検査	0051（3B050）	LD（LDH）（乳酸脱水素酵素）	血清 0.3	A	冷蔵	IFCC法	124～222 U/L	1～2	⑪ 生化Ⅰ	溶血で高値を示す為、採血時に御注意下さい。	【高値】肝疾患・心筋梗塞・心不全・悪性腫瘍・白血病・筋ジストロフィー 【低値】抗腫瘍座位免疫抑制剤投与時
	0206（3B055）	LD（LDH）アイソザイム	血清 0.3	A	室温	アガロース膜電気泳動法	LD1 20.0～31.0 LD2 28.8～37.0 LD3 21.5～27.6 LD4 6.3～12.4 LD5 5.4～13.2 % F	3～5	48 生化Ⅰ	溶血でのご依頼は避けて下さい。 溶血の場合、LDH1,2,3の上昇が考えられます。	LD1,2増加 悪性貧血、心筋梗塞、溶血性貧血 LD2,3増加 肺癌、白血病、筋ジストロフィー、悪性リンパ腫、膠原病 LD5増加 肝炎、肝癌、骨格筋の損傷 アノマリーパターン 免疫グロブリンとの結合及び遺伝的変異などで出現
	0053（3B135）	LAP（ロイシンアミノペプチダーゼ）	血清 0.3	A	冷蔵	L-ロイシルPニトロアニリド基質法	30～70 U/L	1～2	⑪ 生化Ⅰ		【高値】肝炎（急性・慢性）・肝硬変・肝癌・閉塞性黄疸・急性膵炎・悪性リンパ腫
	0054（3B110）	コリンエステラーゼ（ChE）	血清 0.3	A	冷蔵	JSCC標準化対応法	M 240～486 F 201～421 U/L	1～2	⑪ 生化Ⅰ		【高値】脂肪肝・ネフローゼ・糖尿病・甲状腺機能亢進症 【低値】肝硬変・慢性肝炎・薬物中毒症
	0055（3B160）	アミラーゼ（AMY）	血清 0.5	A	冷蔵	JSCC標準化対応法	44～132 U/L	1～2	⑪ 生化Ⅰ		【高値】慢性膵炎・急性膵炎・膵臓癌・胆石・流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）・腎不全
	0056（3B160）		部分尿 5.0	U1			700以下 U/L				
	0222（3B165）	アミラーゼアイソザイム	血清 0.3	A	冷蔵	アガロース膜電気泳動法	S型 36.0～84.3 P型 15.7～64.0 %	3～5	48 生化Ⅰ	F	【P型の増加】急性膵炎・慢性膵炎再燃時・胆道系の炎症性疾患 【S型の増加】流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）・腫瘍産生アミラーゼ・術後高アミラーゼ血症・熱傷後 など 【その他】 マクロアミラーゼ血症
	2172（3B165）		部分尿 0.5	U1			S型 17.7～61.3 P型 38.7～82.3 %				
	2668（3B175）	P型アミラーゼ	血清 0.5	A	冷蔵	阻害抗体法	19～53 U/L	3～4	48 生化Ⅰ	M	【P型の増加】 急性膵炎、慢性膵炎再燃時、胆道系の炎症性疾患
	0070（3B180）	リパーゼ	血清 0.5	A	冷蔵	酵素法	13～49 U/L	1～2	㉔ 生化Ⅰ		【高値】急性膵炎・慢性膵炎・膵嚢胞・膵外傷・膵癌・胆嚢・胆道疾患・イレウス・腸炎・腎不全など 【低値】膵全摘出後・慢性膵炎（末期）・糖尿病
	0068（3B185）	トリプシン	血清 0.4	A	冷蔵	EIA法	100～550 ng/mL	4～6	189 生化Ⅰ	M	【高値】急性膵炎・慢性膵炎の憎悪時・膵癌・薬物による誘発・膵管系疾患や閉塞（腎不全・胆石症） 【低値】膵酵素の合成・慢性膵炎の非代償期・膵癌・膵全摘・インスリン依存性糖尿病
	2223（3B192）	膵ホスホリパーゼA2（膵PLA2）	血清 0.3	A	冷蔵	RIA・固相法	130～400 ng/dL	3～4	204 生化Ⅰ	B	【高値】急性膵炎・慢性膵炎・膵癌・腎不全 【低値】慢性膵炎末期・膵癌末期・膵全手拭後・慢性アルコール中毒

（）患者から1回に採取した血液を用いて5項目以上行った場合は、所定点数にかかわらず、検査の項目数に応じて次に掲げる点数により算定する。
5～7項目（93点）8～9項目（99点）10項目以上（103点）

生化学的検査

◆1【検体量】は、当社での分離後（血清・血漿）の量です。
◆2【保存条件】は、当社での保存条件です。

	項目コード（統一コード）	検査項目	◆1 検体量（mL）	容器	◆2 保存条件	検査方法	基準範囲	所要日数	実施料判断料	備考	検査目的及び異常値を示す主な疾患名
酵素活性検査	0059（3B100）	アルドラーゼ（ALD）	血清 0.5	A	冷蔵	UV法	2.7～5.9 IU/L	3～4	⑪ 生化Ⅰ	溶血により高値を示す場合があります。 M	【高値】多発性筋炎・筋ジストロフィー・ギランバレー症候群・髄膜炎・肝炎・膵炎・急性心筋梗塞・白血病・悪性腫瘍・甲状腺機能低下症 【低値】Tay-Sachs病、果糖不耐症
	0057（3B010）	CK（CPK）	血清 0.3	A	冷蔵	JSCC標準化対応法	M 59～248 F 41～153 U/L	1～2	⑪ 生化Ⅰ		【高値】急性心筋梗塞・筋ジストロフィー・多発性筋炎・甲状腺機能低下症・アルコール依存症
	0215（3B025）	CK（CPK）アイソザイム	血清 0.3	A	凍結	アガロース膜電気泳動法	BB 0.0～1.8 MB 0.0～2.7 MM 95.8～100.0 %	3～5	55 生化Ⅰ	F	【高値】 [CK-BB] 脳挫傷・ウイルス性髄膜炎・悪性腫瘍 [CK-MB] 急性心筋梗塞・心筋炎・筋ジストロフィー・アルコール依存症 [CK-MM] 進行性筋ジストロフィー・多発性筋炎・甲状腺機能低下症 【低値】甲状腺機能亢進症・全身性エリテマトーデス・シェーグレン症候群・関節リウマチ など
	0220（3B015）	CK（CPK）-MB	血清 0.3	A	冷蔵	免疫阻害法	5～20 U/L	1～2	55 生化Ⅰ		【高値】急性心筋梗塞、心筋障害の急性期、アルコール依存症、アルコール性ミオパチー・心外膜炎・多発性筋炎
	2476（3B015）		血清 0.4	A	凍結	CLIA法	2.2以下 ng/mL	3～4	90 生化Ⅰ	M	
	0075（3B255）	リゾチーム	血清 0.4	A	冷蔵	比濁法	5.0～10.2 μg/mL	3～5			【高値】急性骨髄性白血病・腎疾患・潰瘍性大腸炎 【低値】リンパ性白血病
	0076（3B255）		部分尿 0.4	U1			0.1未満 μg/mL			S	【高値】サルコイドーシス・近位尿細管障害・腎疾患 【低値】なし

患者から1回に採取した血液を用いて5項目以上行った場合は、所定点数にかかわらず、検査の項目数に応じて次に掲げる点数により算定する。
5～7項目（93点）8～9項目（99点）10項目以上（103点）

◆1【検体量】は、当社での分離後（血清・血漿）の量です。
◆2【保存条件】は、当社での保存条件です。

生化学的検査

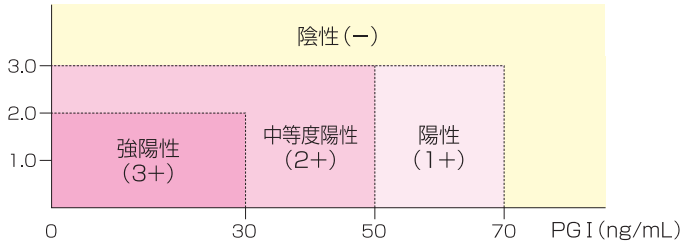
	項目コード（統一コード）	検査項目	◆1 検体量（mL）	容器	◆2 保存条件	検査方法	基準範囲	所要日数	実施料判断料	備考	検査目的及び異常値を示す主な疾患名
酵素活性検査	0083（3B325）	アンギオテンシンⅠ転換酵素（ACE）	血清 0.7	A	冷蔵	笠原法	8.3～21.4 U/L	3～5	136 生化Ⅰ	S	【高値】サルコイドーシス・甲状腺機能亢進症・肝硬変・糖尿病 【低値】Crohn病・慢性リンパ性白血病・多発性骨髄腫・慢性閉塞性肺疾患・甲状腺機能低下症
	0062（3B330）	NAG（N-アセチルグルコサミニダーゼ）	部分尿 1.0	U1	冷蔵	比色法（合成基質法）	11.5以下 U/L	3～4	41 尿・糞便	pH8.0以上のアルカリ尿及びpH4.0以下の酸性尿の場合、測定値が低下する場合があります。 B	【高値】急性腎不全・糸球体腎炎・ネフローゼ症候群
	0066（3B125）	グアナーゼ（GUA）	血清 0.5	A	冷蔵	酵素法	1.0以下 U/L	3～5	35 生化Ⅰ	S	【高値】（高値6.0以上）急性肝炎・劇症肝炎（中等度2.5～6.0）慢性肝炎（活動型）・肝癌（軽度1.5～2.0）慢性肝炎（非活動型）・脂肪肝・肝硬変・腎梗塞
	0063（3B130）	アデノシンデアミナーゼ（ADA）	血清 0.6	A	冷蔵	酵素法	5.0～20.0 U/L	3～5	32 生化Ⅰ	S	【高値】急性肝炎・慢性肝炎・肝硬変・肝癌・白血病・胸膜炎・AIDS・サルコイドーシス 【低値】先天性細胞性免疫不全症
	7155（3B339）	ペプシノゲン（PG）	血清 0.3	A	冷蔵	ラテックス凝集比濁法	判定基準：下記参照	1～2			【高値】消化性潰瘍（特にPGⅠ高値）・慢性腎不全 ※胃の萎縮度を見る検査。 【低値】萎縮性胃疾患（PGⅠ、PGⅠ/PGⅡとも低値）・胃癌
	7165	胃がんリスク層別化検査（ABC分類）	血清 0.6	A	冷蔵	ペプシノゲン ラテックス凝集比濁法 ヘリコバクターピロリ抗体 LA法	判定基準：下記参照	1～2		ペプシノゲンとヘリコバクターピロリ抗体を実施し、それぞれの検査結果とABCD判定でご報告致します。［注1］	

［注1］ピロリ菌の除菌治療を受けた方は、ABC分類の判定対象にはなりません。除菌判定の結果に関わらず、E群（除菌群）としてご報告いたします。
除菌治療を受けた方は、胃がんリスク層別化検査（ABC分類）除菌あり（項目コード:7524）にて、ご依頼ください。

ペプシノゲン（PG）による胃粘膜萎縮度の判定基準

判定		測定値 PGⅠ(ng/mL)	測定値 Ⅰ/Ⅱ比
強陽性	3+	30以下	かつ 2.0以下
中等度陽性	2+	50以下	かつ 3.0以下
陽性	1+	70以下	かつ 3.0以下
陰性	−	上記条件以外	

Ⅰ/Ⅱ比



胃がんリスク層別化検査（ABC分類）の判定基準と胃の健康度

ABC分類（ABCD分類）		ヘリコバクター・ピロリ抗体 （−）	ヘリコバクター・ピロリ抗体 （＋）
ペプシノゲン検査	（−）	A群	B群
	（＋）	D群	C群

A群 健康的な胃粘膜と考えられます。ピロリ菌の感染はほとんどなく、胃がんなどの病気になる危険性は低いです。ただし希にこの群の中から胃がんが発生することがあり定期的に内視鏡検査を受けましょう。

B群 少し弱った胃粘膜です。ピロリ菌に感染しており、胃がんなどの病気になりやすい危険群と考えられます。胃潰瘍・十二指腸潰瘍の場合もピロリ菌が関与しており定期的に内視鏡検査を受けましょう。

C群 弱った胃粘膜です。ピロリ菌の感染と胃粘膜の萎縮が進行しており、胃がんなどの病気になりやすい高危険群と考えられます。内視鏡による定期的な検査を受け、病気の早期発見・早期治療に努めましょう。

D群 かなり弱った胃粘膜です。胃粘膜の萎縮がさらに進行し、ピロリ菌も生息できない状態と考えられます。胃がんなどの病気になりやすい、より高危険群のため必ず内視鏡検査を受けましょう。

E群 ピロリ菌の除菌治療を受けた方は、除菌判定の結果に関わらず、E群（除菌群）として定期的に内視鏡検査を受けましょう。除菌により胃がんになるリスクは低くなりますが、決してゼロになるわけではありませんので、除菌後も内視鏡検査による経過観察が必要です。

生化学的検査

◆1【検体量】は、当社での分離後（血清・血漿）の量です。
◆2【保存条件】は、当社での保存条件です。

	項目コード（統一コード）	検査項目	◆1 検体量（mL）	容器	◆2 保存条件	検査方法	基準範囲	所要日数	実施料判断料	備考	検査目的及び異常値を示す主な疾患名
含窒素成分	0107（3C015）	クレアチニン（CRE）	血清 0.3	A	冷蔵	酵素法	M 0.65～1.07 F 0.46～0.79 mg/dL	1～2	⑪生化Ⅰ		【高値】糸球体腎炎・腎不全・うっ血性心不全・末端肥大症・巨人症 【低値】尿崩症・妊娠・筋ジストロフィー
	0112（3C015）		蓄尿 5.0	U1			1.0～1.5 g/day				
	2309	eGFR				計算法	60.0以上 mL/min/1.73㎡	1～2		血清クレアチニンと同時依頼の場合に限り、ご報告いたします。［性別・年齢 必須 19歳未満:参考値］	
	1557（3C016）	シスタチンC	血清 0.3	A	冷蔵	ラテックス免疫比濁法	M 0.60～0.98 F 0.49～0.82 mg/L	1～2	112 生化Ⅰ①		【高値】急性腎炎・慢性腎炎・腎不全・尿毒症・特に初期の軽度腎障害・尿細管障害・心不全
	2533	eGFRcys				計算法	mL/min/1.73㎡	1～2		シスタチンCと同時依頼の場合に限り、ご報告いたします。［性別・年齢 必須 19歳未満:参考値］	
	0108（3C010）	クレアチン（CRT）	血清 0.4	A	冷蔵	酵素法	0.17～1.00 mg/dL	2～3	⑪生化Ⅰ	J	【高値】筋ジストロフィー・多発性筋炎・ポリオ・甲状腺機能亢進症 【低値】甲状腺機能低下症・肝機能障害
	0113（3C010）		蓄尿 5.0	U1			0.15以下 g/day				

患者から1回に採取した血液を用いて5項目以上行った場合は、所定点数にかかわらず、検査の項目数に応じて次に掲げる点数により算定する。
5～7項目（93点）8～9項目（99点）10項目以上（103点）

① シスタチンCは、尿素窒素又はクレアチニンにより腎機能低下が疑われた場合に、3月に1回に限り算定できる。ただし、ペントシジンを併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

【eGFR計算式】

男性：eGFR値（mL/min/1.73㎡）＝$194\times Cr^{-1.094}\times$年齢（歳）$^{-0.287}$

女性：eGFR値（mL/min/1.73㎡）＝$194\times Cr^{-1.094}\times$年齢（歳）$^{-0.287}\times 0.739$

【eGFRcys計算式】

男性：eGFRcys値（mL/min/1.73㎡）＝（$104\times Cys^{-1.019}\times 0.996^{年齢（歳）}$）$-8$

女性：eGFRcys値（mL/min/1.73㎡）＝（$104\times Cys^{-1.019}\times 0.996^{年齢（歳）}\times 0.929$）$-8$

【補足】小児eGFR（2歳～19歳未満）に関しては、計算式が別途ありますのでご注意ください。（性別・年齢・身長 必須）

慢性腎臓病（CKD）の重症度分類

原疾患		蛋白尿区分		A1	A2	A3
糖尿病性腎臓病		尿アルブミン定量（mg/日） 尿アルブミン/Cr比（mg/gCr）		正常	微量アルブミン尿	顕性アルブミン尿
				30未満	30～299	300以上
高血圧性腎硬化症・高血圧腎炎・多発性嚢胞腎・移植腎不明・その他		尿蛋白定量（g/日） 尿蛋白/Cr比（g/gCr）		正常	軽度蛋白尿	高度蛋白尿
				0.15未満	0.15～0.49	0.50以上
GFR区分（mL/分/1.73㎡）	G1	正常または高値	≧90			
	G2	正常または軽度低下	60～89			
	G3a	軽度～中等度低下	45～59			
	G3b	中等度～高度低下	30～44			
	G4	高度低下～末期腎不全	15～29			
	G5	末期腎不全（ESKD）	＜15			

重症度は原疾患・GFR区分・蛋白尿区分を合わせたステージにより評価する。CKDの重症度は死亡、末期腎不全、心血管死亡発症のリスクを緑のステージを基準に、黄 オレンジ 赤 の順にステージが上昇するほどリスクは上昇する。

日本腎臓学会「CKD診療ガイド2012」
エビデンスに基づくCKD診療ガイドライン2023

生化学的検査

	項目コード（統一コード）	検査項目	◆1 検体量（mL）	容器	◆2 保存条件	検査方法	基準範囲	所要日数	実施料 判断料	備考	検査目的及び異常値を示す主な疾患名
含窒素成分	0109（3C020）	尿酸（UA）	血清 0.3	A	冷蔵	酵素法（ウリカーゼPOD法）	M 3.6～7.0 F 2.5～7.0 mg/dL	1～2	⑪ 生化Ⅰ		【高値】痛風・腎不全・白血病 【低値】キサンチン尿症・PNP欠損症・肝疾患
	0114（3C020）		蓄尿 5.0	U1			0.4～1.2 g/day				【高値】痛風・多発性骨髄腫・白血病 【低値】キサンチン尿症・PNP欠損症
	0106（3C025）	尿素窒素（UN）	血清 0.3	A	冷蔵	ウレアーゼ・GIDH法（アンモニア消去法）	8.0～20.0 mg/dL	1～2	⑪ 生化Ⅰ		【高値】腎機能障害・腎不全・心不全・肝疾患・腹膜炎 【低値】肝不全・妊娠・栄養不良
	0111（3C025）		蓄尿 5.0	U1			7.0～14.0 g/day				
	0110（3C040）	アンモニア（NH_3）	除蛋白上清液 1.0	G	凍結	藤井・奥田法変法	48～113 μg/dL	1～2	50 生化Ⅰ	専用容器で、採血お願いします。分離が不可能な場合は、データーに影響しますのでご連絡下さい。	【高値】肝性昏睡・肝不全・劇症肝炎・肝硬変末期・尿毒症・出血性ショック 【低値】低蛋白食摂取時・貧血
	2907（3C070）	総ホモシステイン	血漿 0.3	E1	冷蔵	LC/MS/MS法	M 7.0～17.8 F 5.3～15.2 nmol/mL	4～6	279 生化Ⅱ	S	【異常】ホモシスチン尿症・心疾患・動脈硬化症・脳梗塞
		γ-アミノ酪酸（GABA）	血漿 1.0	H2	凍結	HPLC法	120～210 pmol/mL	6～12	279 生化Ⅱ	S	上昇する疾患-脳脊髄液 抗てんかん薬投与、肝性脳症 上昇する疾患-血漿 抗てんかん薬投与、肝性脳症 減少する疾患-脳脊髄液 てんかん・ハンチントン舞踏病、パーキンソン病 減少する疾患-血漿 うつ病、躁病
	0125（3C050）		髄液 1.0	U2			pmol／mL				
	2956（3C047）	BTR（総分岐鎖アミノ酸／チロシンモル比）	血清 0.5	A	凍結	酵素法	BCAA 344～713 チロシン 51～98 μmol/L BCAA/Tyr 4.41～10.05	5～7	283 生化Ⅱ	J	

⑪ 患者から1回に採取した血液を用いて5項目以上行った場合は、所定点数にかかわらず、検査の項目数に応じて次に掲げる点数により算定する。
5～7項目（93点）8～9項目（99点）10項目以上（103点）

生化学的検査

◆1【検体量】は、当社での分離後（血清・血漿）の量です。
◆2【保存条件】は、当社での保存条件です。

	項目コード（統一コード）	検査項目	◆1 検体量（mL）	容器	◆2 保存条件	検査方法	基準範囲	所要日数	実施料判断料	備考	検査目的及び異常値を示す主な疾患名
含窒素成分	0120（3C045）	アミノ酸分析【39種類】	血漿 0.5	E1	凍結	LC/MS	下記参照	5～7	1107 生化Ⅱ	S	
	0121（3C045）	アミノ酸分析【41種類】	酸性蓄尿 2.0	U3		HPLC法		8～11	1107 生化Ⅱ	（注1） S	
	1859（3C046）	アミノ酸分析【9種類】	血漿 0.5	E1		LC/MS		4～6	1107 生化Ⅱ	S	
	0193（3C046）	アミノ酸分析2種類（チロシン・フェニルアラニン）	血漿 0.5	E1			チロシン 40.4～90.3 フェニルアラニン 42.6～75.7 nmol/mL フィッシャー比 2.43～4.40	4～6	558 生化Ⅱ	S	

（注1）6N塩酸約20mLを入れた蓄尿瓶へ24時間蓄尿し、よく混和後必要量をご提出ください。尿量が少ない場合には尿100mLに対して6N塩酸1mLの割合で入れてください。必ず酸性蓄尿に（pH1.0～3.0）してください。

アミノ酸分析（39種類・9種類・41種類）基準範囲

単位　血漿：nmol/mL　尿：μmol/day
（ただし◎印（Urea）はmmol/day）

アミノ酸名	略号	血漿	尿
タウリン	Tau	39.5～93.2	322.2～5214.5
ホスフォエタノールアミン*	PEA		31.0～110.0
尿素 *	Urea		◎130.3～493.2
アスパラギン酸	Asp	2.4以下	12.7以下
ハイドロキシプロリン	Hypro	21.6以下	ND
トレオニン	Thr	66.5～188.9	79.9～528.3
セリン	Ser	72.4～164.5	208.8～1020.0
アスパラギン	Asn	44.7～96.8	60.7～372.3
グルタミン酸	Glu	12.6～62.5	11.3～42.7
グルタミン	Gln	422.1～703.8	207.0～1357.3
サルコシン	Sarco	TR	99.0以下
α－アミノアジピン酸	α－AAA	ND	16.7～118.6
プロリン	Pro	77.8～272.7	ND
グリシン	Gly	151.0～351.0	652.1～3670.6
アラニン	Ala	208.7～522.7	141.2～833.9
シトルリン	Cit	17.1～42.6	13.5～55.6
α－アミノ酪酸	α－ABA	7.9～26.6	27.1以下
★バリン	Val	147.8～307.0	24.8～82.2
シスチン	Cys	13.7～28.3	23.7～170.9
シスタチオニン	Cysthio	TR	TR～44.7
★メチオニン	Met	18.9～40.5	TR～20.2
★イソロイシン	Ileu	43.0～112.8	7.5～23.5
★ロイシン	Leu	76.6～171.3	24.6～89.3
★チロシン	Tyr	40.4～90.3	50.6～308.4

アミノ酸名	略号	血漿	尿
★フェニルアラニン	Phe	42.6～75.7	27.2～110.2
γ－アミノ βハイドロキシ酪酸	γ－A βHBA	ND	ND
β－アラニン	β－Ala	TR	TR～153.0
β－アミノイソ酪酸	β－AIBA	TR	TR～1623.9
γ－アミノ酪酸	γ－ABA	ND	ND
モノエタノールアミン *	MEA	10.4以下	195.3～606.2
ホモシスチン	Homocys	ND	ND
★ヒスチジン	His	59.0～92.0	436.4～2786.5
3－メチルヒスチジン	3-Me His	5.0以下	113.4～480.9
1－メチルヒスチジン	1-Me His	18.5以下	59.3～2816.2
カルノシン *	Carno	ND	87.6以下
アンセリン *	Ans	ND	231.4以下
トリプトファン	Trp	37.0～74.9	20.7～150.7
ハイドロキシリジン	Hylys	ND	22.9以下
オルニチン	Orni	31.3～104.7	6.9～43.9
★リジン	Lys	108.7～242.2	51.6～1639.6
★アルギニン	Arg	53.6～133.6	11.6～54.8
Total AA（総アミノ酸：非必須アミノ酸の和＋必須アミノ酸の和）		2068.2～3510.3	
NEAA（非必須アミノ酸の和）		1381.6～2379.4	
EAA（必須アミノ酸の和）		660.0～1222.3	
BCAA（分岐鎖アミノ酸の和）		265.8～579.1	
EAA/NEAA（必須アミノ酸の和/非必須アミノ酸の和）		0.40～0.63	
BCAA/Total AA（分岐鎖アミノ酸の和/総アミノ酸）		0.11～0.18	
フィッシャー比		2.43～4.40	

★印はアミノ酸分析（9種類）の実施アミノ酸名
ND：測定感度以下　TR：痕跡
*印は「アミノ酸」ではありませんが、本項目に含めて測定いたします。

EAA/NEAA、BCAA/Total AA、フィッシャー比においては単位なし

◆1【検体量】は、当社での分離後（血清・血漿）の量です。
◆2【保存条件】は、当社での保存条件です。

生化学的検査

	項目コード（統一コード）	検査項目	◆1 検体量（mL）	容器	◆2 保存条件	検査方法	基準範囲	所要日数	実施料判断料	備考	検査目的及び異常値を示す主な疾患名
生体色素関連検査	0043（3J010）	総ビリルビン（T-Bil）	血清 0.2	A	冷蔵	バナジン酸酸化法	0.4～1.5 mg/dL	1～2	⑪ 生化Ⅰ		【高値】肝胆道疾患（肝炎・肝癌・胆汁うっ滞）肝細胞障害・黄疸 【低値】小球性低色素性貧血意義少ない
	0044（3J015）	直接ビリルビン（D-Bil）	血清 0.2				0.0～0.4 mg/dL	1～2	⑪ 生化Ⅰ		【高値】肝胆道疾患（肝炎・肝癌・胆汁うっ滞）肝硬変・肝細胞障害・黄疸 【低値】小球性低色素性貧血意義少ない
	1138（3J040）	コプロポルフィリン定性	部分尿 2.0 蓄尿 2.0	U3	冷蔵 遮光	HPLC法	（－）	4～7		S	【血液の高値】先天性骨髄性ポルフィリン症 【尿の高値】鉛中毒・肝性（遺伝性）コプロポルフィリン症・先天性ポルフィリン症・鉛中毒・晩発性皮膚ポルフィリン症・多様型ポルフィリン症・肝胆道疾患
	0239（3J040）	コプロポルフィリン定量	部分尿 2.0 蓄尿 2.0	U3	冷蔵 遮光	HPLC法	170以下 μg/g・CRE	4～7	131 尿・糞便	S	
	0241（3J040）		血液 1.5	H2		HPLC法	1以下 μg/dL RBC	8～12	210 生化Ⅰ	S	
	0240（3J050）	ウロポルフィリン定量	部分尿 2.0 蓄尿 2.0	U3	冷蔵 遮光	HPLC法	36以下 μg/g・CRE	4～7	105 尿・糞便	S	【高値】鉛中毒・急性間欠性ポルフィリン症・異型ポルフィリン症・遺伝性コプロポルフィリン症・晩発性皮膚ポルフィリン症
	2281（3J050）		血液 3.0	H2		HPLC法	1以下 μg/dL RBC	6～11		M	
	0238（3J065）	ポルフォビリノーゲン定量	蓄尿 3.0	U3	冷蔵 遮光	比色法（Mauzerall-Granick法）	2.0以下 mg/day	6～12	186 尿・糞便	B	【高値】急性間欠性ポルフィリン症・異型ポルフィリン症・遺伝性コプロポルフィリン症・各種貧血
	0248（3J075）	δ-アミノレブリン酸（δ-ALA）	部分尿 1.0 蓄尿 1.0	U3	冷蔵 遮光	HPLC法	mg/L	4～6	106 尿・糞便	22ページ参照 S	【高値】鉛中毒、急性肝性ポルフィリン症、急性間欠性ポルフィリン症、異型ポルフィリン症、遺伝性コプロポルフィリン症 低値側の臨床的意義は少ない
	0242（3J055）	赤血球遊離プロトポルフィリン	血液 1.4	H2	冷蔵 遮光	蛍光法	μg/dL RBC	4～17	272 生化Ⅰ	22ページ参照 B	【高値】鉛中毒・骨髄性プロトポルフィリン症・鉄欠乏性貧血・溶血性貧血

患者から1回に採取した血液を用いて5項目以上行った場合は、所定点数にかかわらず、検査の項目数に応じて次に掲げる点数により算定する。
5～7項目（93点）8～9項目（99点）10項目以上（103点）

生化学的検査

◆1【検体量】は、当社での分離後（血清・血漿）の量です。
◆2【保存条件】は、当社での保存条件です。

	項目コード（統一コード）	検査項目	◆1 検体量（mL）	容器	◆2 保存条件	検査方法	基準範囲	所要日数	実施料判断料	備考	検査目的及び異常値を示す主な疾患名
糖代謝	0171（3D010）	血糖（グルコース）	血漿 0.3	F	冷蔵	ヘキソキナーゼ・G-6-PDH法	73～109 mg/dL	1～2	⑪ 生化Ⅰ ①		【高値】糖尿病・尿毒症・甲状腺機能異常 【低値】インスリン分泌亢進障害・アジソン病
	0570（3D046）	HbA1c（ヘモグロビンA1c）	血液 1.0	F	冷蔵	酵素法	4.6～6.2 %	1～2	49 血液 ②		【高値】糖尿病・腎不全・尿毒症・アルコール中毒・ヘモグロビン異常症 【低値】溶血性疾患・低血糖・肝硬変
	2187（3D085）	1,5-アンヒドロ-D-グルシトール(1,5AG)	血清 0.5	A	冷蔵	酵素法	14.0以上 μg/mL	1～2	80 生化Ⅰ ②		【低値】糖尿病、腎性糖尿病、胃切除後、慢性腎不全（高値側の臨床的意義は少ない）
	2474（3D055）	グリコアルブミン（GA）	血清 0.5	A	冷蔵	酵素法	11.0～16.0 %	1～2	55 生化Ⅰ ②		【高値】糖尿病・肝硬変・甲状腺機能低下症 【低値】甲状腺機能亢進症・ネフローゼ症候群・高度の火傷

患者から1回に採取した血液を用いて5項目以上行った場合は、所定点数にかかわらず、検査の項目数に応じて次に掲げる点数により算定する。
5～7項目（93点）8～9項目（99点）10項目以上（103点）

① 負荷試験実施時は別算定。糖負荷試験（下記参照）

② ヘモグロビンA1c（HbA1c）、グリコアルブミン又は1,5-アンヒドロ-D-グルシトール（1,5AG）のうちいずれかを同一月中に併せて2回以上実施した場合は、月1回に限り主たるもののみ算定する。ただし、妊娠中の患者、1型糖尿病患者、経口血糖降下薬の投与を開始して6月以内の患者、インスリン治療を開始して6月以内の患者等については、いずれか1項目を月1回に限り別に算定できる。また、クロザピンを投与中の患者については、ヘモグロビンA1c（HbA1c）を月1回に限り別に算定できる。

●糖負荷試験

1　常用負荷試験（血糖及び尿糖検査を含む。）200点
2　耐糖能精密検査（常用負荷試験及び血中インスリン測定又は常用負荷試験及び血中C-ペプチド測定を行った場合）、グルカゴン負荷試験　900点
注　注射、採血及び検体測定の費用は、採血回数及び測定回数にかかわらず所定点数に含まれるものとする。

（1）負荷の前後に係る血中又は尿中のホルモン等測定に際しては、測定回数、測定間隔等にかかわらず、一連のものとして扱い、当該負荷試験の項により算定するものであり、検体検査実施料における生化学的検査（Ⅰ）又は生化学的検査（Ⅱ）の項では算定できない。

（2）「2」の耐糖能精密検査（常用負荷試験及び血中インスリン測定又は常用負荷試験及び血中C-ペプチド測定を行った場合）は、常用負荷試験及び負荷前後の血中インスリン測定又は血中C-ペプチド測定を行った場合に算定する。

（3）乳糖を服用させて行う耐糖試験は、糖負荷試験により算定する。また、使用した薬剤は、「D500」薬剤により算定する。

（4）ブドウ糖等を1回負荷し、負荷前後の血糖値等の変動を把握する検査は、糖負荷試験の所定点数により算定する。

（5）「注」の注射とは、第6部第1節第1款の注射実施料をいい、施用した薬剤の費用は、別途算定する。

糖尿病の診断基準（2017年）

空腹時血糖および75g糖負荷試験（OGTT）2時間値の判定基準

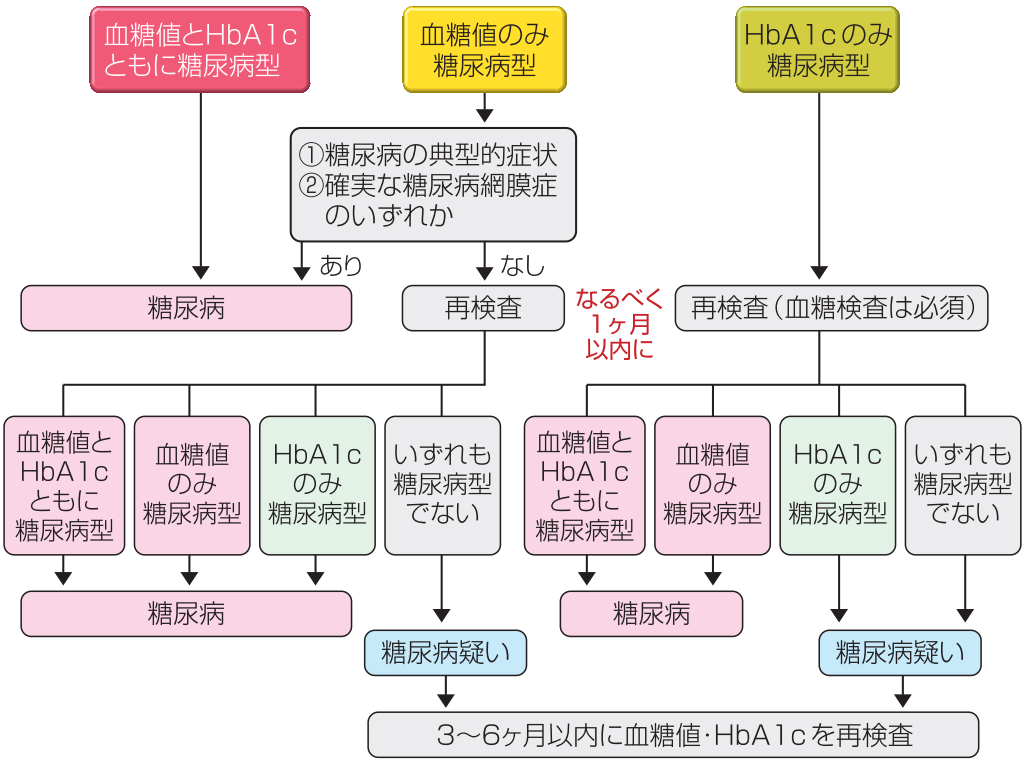
	正　常　域	糖尿病域
空腹時	110mg/dL未満	126mg/dL以上
75gOGTT2時間値	140mg/dL未満	200mg/dL以上
75gOGTTの判定	両方を満たす →　正常型	いずれかを満たす →　糖尿病型
	正常型にも糖尿病型にも属さない → 境界型	

【注】随時血糖値が200mg/dL以上 及び HbA1c　6.5%以上 → 糖尿病型
【注】正常型で1時間血糖値180mg/dL以上 → 境界型に準じた扱い

糖尿病の臨床診断のフローチャート

【糖尿病型】
①早朝空腹時血糖126mg/dL以上　②75gOGTT 2時間値が200mg/dL以上
③随時血糖

初回検査：糖尿病が疑われる場合は、血糖値と同時にHbA1cを測定する。同日に血糖値とHbA1cが糖尿病方を示した場合は、初回検査だけで糖尿病と診断する。



（日本糖尿病学会「糖尿病治療ガイド2016-2017」より）

生化学的検査

◆1【検体量】は、当社での分離後（血清・血漿）の量です。
◆2【保存条件】は、当社での保存条件です。

	項目コード（統一コード）	検査項目	◆1 検体量（mL）	容器	◆2 保存条件	検査方法	基準範囲	所要日数	実施料判断料	備考	検査目的及び異常値を示す主な疾患名
脂質関連検査	0091（3F050）	総コレステロール（T-ch）	血清 0.3	A	冷蔵	酵素法	120～219 mg/dL	1～2	⑰ 生化Ⅰ ①		【高値】家族性高コレステロール血症・脂質異常症・黄疸・ネフローゼ 【低値】甲状腺機能亢進症・肝硬変・肝炎
	0092（3F070）	HDL コレステロール	血清 0.3	A	冷蔵	選択阻害法	M 41～86 F 41～99 mg/dL	1～2	⑰ 生化Ⅰ ①	※LDL/HDL比 LDLコレステロールとHDLコレステロールより算出可能	【高値】高HDL血症・高リポ蛋白血症・原発性胆汁性肝硬変・CETP欠損症 【低値】LCAT欠損症・肝硬変・動脈硬化症・高脂血症
	2546（3F077）	LDL コレステロール	血清 0.3	A	冷蔵	直接測定法・酵素法	70～139 mg/dL	1～2	⑱ 生化Ⅰ ①		【高値】家族性高コレステロール血症・肝障害・ネフローゼ・高脂血症・糖尿病 【低値】甲状腺機能亢進症・肝硬変
	0095（3F015）	中性脂肪（TG）	血清 0.3	A	冷蔵	酵素比色法（グリセロール消去法）	40～149 mg/dL	1～2	⑪ 生化Ⅰ		【高値】家族性高リポ蛋白血症・LCAT欠損症・糖尿病・甲状腺機能低下症・下垂体機能低下症 【低値】無β-リポ蛋白血症・甲状腺機能亢進症・副腎皮質低下症
	0098（3F025）	リン脂質（PL）	血清 0.3	A	冷蔵	コリンオキシターゼDAOS法	140～240 mg/dL	1～2	⑮ 生化Ⅰ		【高値】閉塞性黄疸・肝硬変・高コレステロール血症・動脈硬化症 【低値】劇症肝炎・肝硬変・重症貧血・白血病
	7432（3F035）	遊離脂肪酸（NEFA）	血清 0.5	A	冷蔵	酵素法	0.10～0.81 mEg/L	3～4	59 生化Ⅰ	B	ケトン代謝異常症・脂肪酸代謝異常症・カルニチン回路異常症などの鑑別診断 血中ケトン体分画と併せて測定する
	2400（3F078）	レムナント様リポ蛋白コレステロール（RLPコレステロール）	血清 0.4	A	冷蔵	酵素法	7.5以下 mg/dL	2～4	174 生化Ⅰ ②	F	【高値】動脈硬化性疾患（心筋梗塞・狭心症・脳梗塞）・原発性高脂血症・二次性高脂血症（糖尿病・甲状腺機能低下症・肥満・慢性腎不全・アルコール性肝炎・脂肪肝・原発性胆汁性肝硬変症）
	2001（3F150）	コレステロール分画	血清 0.2	A	冷蔵	アガロース膜電気泳動法	HDL 17.1～43.1 LDL 51.5～75.4 VLDL 1.8～18.2 %	4～6	57 生化Ⅰ	F	【高値】（原発性）家族性高コレステロール血症・リポプロテインリパーゼ（LPL）欠損症（続発生）ネフローゼ症候群・妊娠・閉塞性黄疸・糖尿病・甲状腺機能低下症・動脈硬化症・多発性骨髄腫・アルコール性肝障害 【低値】（原発性）Tangier病・魚眼病・無（低）β-リポ蛋白血症・LCAT欠損症（続発性）甲状腺機能亢進症・重症肝障害・アジソン病・下垂体機能低下症
	1003（3F087）	酸化LDL（MDA-LDL）	血清 0.3	A	凍結	ELISA法	M 45才未満 46～82 45才以上 61～105 F 55才未満 46～82 55才以上 61～105 U/L	4～15	194 生化Ⅰ ③	S	【高値】冠動脈疾患の既往歴のある糖尿病・動脈硬化症・高脂血症

患者から1回に採取した血液を用いて5項目以上行った場合は、所定点数にかかわらず、検査の項目数に応じて次に掲げる点数により算定する。
5～7項目（93点）8～9項目（99点）10項目以上（103点）

① HDL-コレステロール、総コレステロール及びLDL-コレステロールを併せて測定した場合は、主たるもの2つの所定点数を算定する。

② レムナント様リポ蛋白コレステロール（RLP-C）は免疫吸着法-酵素法又は酵素法により実施し、3月に1回を限度として算定できる。

③ マロンジアルデヒド修飾LDL（MDA-LDL）は、冠動脈疾患既往歴のある糖尿病患者で、冠動脈疾患発症に関する予後予測の補助の目的で測定する場合に3月に1回に限り算定できる。ただし、糖尿病患者の経皮的冠動脈形成術治療時に、治療後の再狭窄に関する予後予測の目的で測定する場合、上記と別に術前1回に限り算定できる。

脂質異常症の診断基準とリスク区分別脂質管理目標値
（動脈硬化性疾患予防ガイドライン2022年版 より抜粋）

脂質異常症の診断基準の変化

■1997年「高脂血症診療ガイドライン」T-CHO ➡ ■2002年「動脈硬化性疾患診療ガイドライン」T-CHO、LDL-C ➡ ■2007年「動脈硬化性疾患予防ガイドライン」LDL-C
➡ ■2012年「動脈硬化性疾患予防ガイドライン」LDL-C（F式）、non HDL-C ➡ ■2017年「動脈硬化性疾患予防ガイドライン」LDL-C（F式or直接法）、non HDL-C
➡ ■2022年「動脈硬化性疾患予防ガイドライン」TG 随時追加

２００２年 動脈硬化学会	２００７年 動脈硬化学会	２０１２年 動脈硬化学会	２０１７年 動脈硬化学会	２０２２年 動脈硬化学会
総コレステロール 220mg/dL以上	中性脂肪 150mg/dL以上	中性脂肪 150mg/dL以上	中性脂肪 150mg/dL以上	中性脂肪 150mg/dL以上（空腹時） 175mg/dL以上（随　時）
中性脂肪 150mg/dL以上	HDLコレステロール 40mg/dL以下	HDLコレステロール 40mg/dL以下	HDLコレステロール 40mg/dL未満	HDLコレステロール 40mg/dL未満
HDLコレステロール 40mg/dL以下	LDLコレステロール 140mg/dL以上	LDLコレステロール 140mg/dL以上（境界域高LDL血症）120～139mg/dL	LDLコレステロール 140mg/dL以上（境界域高LDL血症）120～139mg/dL	LDLコレステロール 140mg/dL以上（境界域高LDL血症）120～139mg/dL
LDLコレステロール 140mg/dL以上	※総コレステロールが除外された	二次脂質管理目標値 non-HDLコレステロール（総コレステロールの測定）	non-HDLコレステロール 170mg/dL以上（境界域高non-LDL血症）150～169mg/dL	non-HDLコレステロール 170mg/dL以上（境界域高non-HDL血症）150～169mg/dL

「高脂血症（高コレステロール血症）」から「脂質異常症」への名称変更

「高脂血症」は、血液中の脂質（コレステロールや中性脂肪）が多すぎる病気のことをいいます。ガイドラインの変更により、従来の「高脂血症」から「脂質異常症」と名前が変更になりました。「高脂血症」には、トリグリセライド（中性脂肪）が多い高中性脂肪血症、LDLコレステロールが多い高LDLコレステロール血症、HDLコレステロールが低い低HDLコレステロール血症があり、3つのうち1つでも当てはまると、「高脂血症」と呼んでいました。ただ、高脂血症という呼び方では、低HDLコレステロール血症を含むのは誤解を招きやすいため、「脂質異常症」となりました。

動脈硬化性疾患予防ガイドライン2022

脂質異常症診断基準

LDLコレステロール	140mg/dL以上	高LDLコレステロール血症
	120～139mg/dL	境界域高LDLコレステロール血症※※2
HDLコレステロール	40mg/dL未満	低HDLコレステロール血症
中性脂肪（トリグリセライド）	150mg/dL以上（空腹時採血※1）	高トリグリセライド血症
	175mg/dL以上（随時採血※1）	
Non-HDLコレステロール	170mg/dL以上	高non-HDLコレステロール血症
	150～169mg/dL	境界域高non-HDLコレステロール血症※※2

※1　基本的に10時間以上の絶食を「空腹時」とする。ただし水やお茶などカロリーのない水分の摂取は可とする。空腹時であることが確認できない場合を「随時」とする。

※※2　スクリーニングで境界域高LDL-C血症、境界域高non-HDL-C血症を示した場合は、高リスク病態がないか検討し、治療の必要性を考慮する。

●LDL-CはFriedewald式（TC-HDL-C-TG/5）で計算する（ただし空腹時採血の場合のみ）。または直接法で求める。
●TGが400mg/dL以上や随時採血の場合はnon-HDL-C（=TC-HDL-C）かLDL-C直接法を使用する。ただしスクリーニングでnon-HDL-Cを用いる時は、高TG血症を伴わない場合はLDL-Cとの差が+30mg/dLより小さくなる可能性を念頭においてリスクを評価する。
●TGの基準値は空腹時採血と随時採血により異なる。
●HDL-Cは単独では薬物介入の対象とはならない。

リスク区分別脂質管理目標値

治療方針の原則	管理区分	脂質管理目標値（mg/dL）			
		LDL-C	non-HDL-C	中性脂肪（TG）	HDL-C
【一次予防】まず生活習慣の改善を行った後、薬物療法の適応を考慮する。	低リスク	＜160	＜190	＜150（空腹時）※※※3 ＜175（随　時）	≧40
	中リスク	＜140	＜170		
	高リスク	＜120 ＜100 ※1	＜150 ＜130 ※1		
【二次予防】生活習慣の是正とともに薬物療法を考慮する。	冠動脈疾患またはアテローム血栓性脳梗塞（明らかなアテローム※※※※4を伴うその他の脳梗塞を含む）の既往	＜100 ＜70 ※※2	＜130 ＜100 ※※2		

※1 糖尿病において、PAD、細小血管症（網膜症、腎症、神経障害）合併症、または喫煙ありの場合に考慮する。

※※2 「急性冠症候群」、「家族性高コレステロール血症」、「糖尿病」、「冠動脈疾患とアテローム血栓性脳梗塞（明らかなアテロームを伴うその他の脳梗塞を含む）」の4病態のいずれかを合併する場合に考慮する。

※※※3 10時間以上の絶食を「空腹時」とする。ただし水やお茶などカロリーのない水分の摂取は可とする。空腹時であることが確認できない場合を「随時」とする。

※※※※4 頭蓋内外動脈の50%以上の狭窄、または弓部大動脈粥腫（最大肥厚4mm以上）

生化学的検査

◆1【検体量】は、当社での分離後（血清・血漿）の量です。
◆2【保存条件】は、当社での保存条件です。

	項目コード（統一コード）	検査項目	◆1 検体量（mL）	容器	◆2 保存条件	検査方法	基準範囲	所要日数	実施料判断料	備考	検査目的及び異常値を示す主な疾患名
脂質関連検査	0577（3F040）	脂肪酸4分画	血清 0.5 血漿 0.5	A H2	凍結	GC法	DHLA：16.7 ～58.2 AA　：112.7～237.9 EPA　：9.0 ～128.5 DHA　：46.7 ～172.7 μg/mL EPA／AA比：0.06～0.72 DHA／AA比：0.29～1.01 （EPA+DHA）／AA ：0.36～1.64	5～7	393 生化Ⅱ	DHLA：ジホモ-γ-リノレン酸 AA：アラキドン酸 EPA：エイコサペンタエン酸 DHA：ドコサヘキサエン酸 空腹時採血　B	【高値】動脈硬化性疾患（AA）・家族性LCAT欠損症（EPA・DHA） 【低値】動脈硬化性疾患（EPA・DHA）
	0101（3F110）	総胆汁酸（TBA）	血清 0.5	A	冷蔵	酵素法	10.0以下 μmol/L	2～3	47 生化Ⅰ	M	【高値】肝外胆道閉塞性黄疸・急性肝炎の初期・慢性肝炎の増悪期・肝内胆汁うっ滞 【低値】腸管吸収不良症候群・回盲部疾患（Crohn病・ブラインド・ループ症候群）・腸切除
	0034（3F135）	リポ蛋白分画	血清 0.5	A	冷蔵	アガロース膜電気泳動法	M　α　26.9～50.5 Preβ　7.9～23.8 β　35.3～55.5 F　α　32.6～52.5 Preβ　6.6～20.8 β　33.6～52.0 %	3～5	49 生化Ⅰ	F	【LDL・VLDL増加、HDL減少】狭心症・心筋梗塞・脳血管疾患・糖尿病・甲状腺機能低下症・ネフローゼ症候群・肝障害・急性膵炎・家族性高脂血症 【LDL・VLDL減少】甲状腺機能亢進症・肝硬変・吸収不全症候群・先天性脂質代謝異常 【低値】α（HDL）：家族性低HDL血症、Tangier病、アポ蛋白A-Ⅰ欠損症 pre-β（VLDL）：無βリポ蛋白血症、低βリポ蛋白血症 β（LDL）：無βリポ蛋白血症、低βリポ蛋白血症 【高値】α（HDL）：CETP欠損症、肝性トリグリセライドリパーゼ欠損症 pre-β（VLDL）：Ⅱb型、Ⅲ型、Ⅳ型、Ⅴ型高リポ蛋白血症 β（LDL）：Ⅱa型、Ⅱb型高リポ蛋白血症
	2393（3F140）	リポ蛋白分画（HPLC）	血清 0.5	A	冷蔵	HPLC法	下記参照	3～6	129 生化Ⅰ	B	

リポ蛋白分画（HPLC法）基準範囲

	分画（%）	定量値（mg/dL）
HDL	23.6～49.8	40.6～91.4
LDL	42.2～63.8	67.8～132.6
IDL	2.2～6.1	3.8～12.5
VLDL	2.6～13.9	4.9～22.8
Other	0.8～4.4	1.5～9.1
総コレステロール		150～219

	項目コード（統一コード）	検査項目	◆1 検体量（mL）	容器	◆2 保存条件	検査方法	基準範囲	所要日数	実施料判断料	備考	検査目的及び異常値を示す主な疾患名
脂質関連検査	2387（3F156）	リポ蛋白(a)〔LP(a)〕	血清 0.5	A	冷蔵	LA（ラテックス凝集比濁法）	30.0以下 mg/dL	3～4	107 生化Ⅰ ①	M	【高値】狭心症・心筋梗塞・脳血管疾患・血栓性動脈閉塞症・糖尿病・腎不全
	0022（3F180）	アポリポ蛋白 AⅠ	血清 0.5	A	冷蔵	TIA法	M 119～155 F 126～165 mg/dL	3～4	31 生化Ⅰ ②	F	■アポリポ蛋白A-Ⅰ 【高値】高HDL血症・Ⅳ型高脂血症・CETP欠損症 【低値】低HDL血症・アポA1欠損症・魚眼病・急性肝炎・慢性肝炎・閉塞性黄疸・糖尿病性腎症・慢性腎炎・アルコール多飲症
	0023（3F185）	AⅡ	血清 0.5				M 25.9～35.7 F 24.6～33.3 mg/dL				■アポリポ蛋白A-Ⅱ 【高値】高HDL血症・Ⅳ型高脂血症・CETP欠損症 【低値】低HDL血症・急性肝炎・慢性肝炎・肝硬変・肝癌・閉塞性黄疸
	0024（3F190）	B	血清 0.5				M 73～109 F 66～101 mg/dL				■アポリポ蛋白B 【高値】高脂血症・ネフローゼ症候群・甲状腺機能低下症・糖尿病・脂肪肝・閉塞性黄疸 【低値】無β-リポ蛋白血症・アポB-100単独欠損症
	0025（3F195）	CⅡ	血清 0.5				M 1.8～4.6 F 1.5～3.8 mg/dL				■アポリポ蛋白C-Ⅱ 【高値】高脂血症・原発性胆汁性肝硬変・ネフローゼ症候群・閉塞性黄疸 【低値】家族性アポリポ蛋白C-Ⅱ欠損症・肝硬変
	0026（3F200）	CⅢ	血清 0.5				M 5.8～10.0 F 5.4～ 9.0 mg/dL				■アポリポ蛋白C-Ⅲ 【高値】高脂血症・原発性胆汁性肝硬変・ネフローゼ症候群・閉塞性黄疸 【低値】アポA1/C3/A4欠損症・アポA1/C3欠損症・肝硬変
	0027（3F205）	E	血清 0.5				M 2.7～4.3 F 2.8～4.6 mg/dL				■アポリポ蛋白E 【高値】高脂血症・CETP欠損症・原発性胆汁性肝硬変・急性肝炎・閉塞性黄疸 【低値】家族性アポリポ蛋白E欠損症・HTGL欠損症

① リポ蛋白(a)は、3月に1回を限度として算定できる。
② アポリポ蛋白は、AⅠ、AⅡ、B、CⅡ、CⅢ及びEのうち、測定した項目数に応じて、所定点数を算定する。
イ　1項目の場合（31点）　　ロ　2項目の場合（62点）　　ハ　3項目以上の場合（94点）

生化学的検査

◆1【検体量】は、当社での分離後（血清・血漿）の量です。
◆2【保存条件】は、当社での保存条件です。

	項目コード（統一コード）	検査項目	◆1 検体量（mL）	容器	◆2 保存条件	検査方法	基準範囲	所要日数	実施料判断料	備考	検査目的及び異常値を示す主な疾患名
電解質検査	0130（3H010）	ナトリウム（Na）	血清 0.3	A	冷蔵	電極法	138～145 mmol/L	1～2	⑪ 生化Ⅰ ①		【高値】嘔吐・下痢・多尿・脱水症 【低値】利尿剤連用・腎不全・心不全・ネフローゼ症候群・肝硬変
	0136（3H010）		蓄尿 5.0	U1			4.0～8.0 g/day				
	0131（3H020）	クロール（Cl）	血清 0.3	A	冷蔵	電極法	101～108 mmol/L	1～2	⑪ 生化Ⅰ ①		【高値】脱水症・腎盂腎炎・慢性腎炎・ネフローゼ症候群・クッシング症候群 【低値】嘔吐・利尿剤連用・腎不全・アジソン病
	0137（3H020）		蓄尿 5.0	U1			6.0～12.0 g/day				
	0132（3H015）	カリウム（K）	血清 0.3	A	冷蔵	電極法	3.6～4.8 mmol/L	1～2	⑪ 生化Ⅰ	溶血で高値を示す為、採血時にご注意下さい。	【高値】腎不全・アジソン病・低アルドステロン症・インスリン欠乏・アシドーシス 【低値】嘔吐・下痢・クッシング症候群
	0138（3H015）		蓄尿 5.0	U1			1.50～2.50 g/day				
	0133（3H030）	カルシウム（Ca）	血清 0.3	A	冷蔵	MXB法	8.8～10.1 mg/dL	1～2	⑪ 生化Ⅰ ②		【高値】甲状腺機能亢進症・ビタミンD過剰・多発性骨髄腫 【低値】クル病・ネフローゼ・尿毒症・骨粗鬆症・アジソン病・副甲状腺機能低下症
	0139（3H030）		蓄尿 5.0	U1			0.10～0.30 g/day				
	0142（3H035）	イオン化カルシウム	血清 0.9	A	凍結	イオン電極法	2.41～2.72 mEq/L	4～6	㉖ 生化Ⅰ ②	pH=7.4 37℃にて測定 S	【高値】原発性副甲状腺機能亢進症・ビタミンDまたはA中毒・サルコイドーシス・悪性腫瘍骨転移・アジソン病・結核 【低値】副甲状腺機能低下症・慢性腎不全・急性膵炎

患者から1回に採取した血液を用いて5項目以上行った場合は、所定点数にかかわらず、検査の項目数に応じて次に掲げる点数により算定する。
5～7項目（93点）8～9項目（99点）10項目以上（103点）

① ナトリウム及びクロールについては、両方を測定した場合も、いずれか一方のみを測定した場合も、同一の所定点数により算定する。

② カルシウム及びイオン化カルシウムを同時に測定した場合には、いずれか一方についてのみ所定点数を算定する。

生化学的検査

	項目コード（統一コード）	検査項目	◆1 検体量（mL）	容器	◆2 保存条件	検査方法	基準範囲	所要日数	実施料判断料	備考	検査目的及び異常値を示す主な疾患名
電解質検査	0134（3H040）	無機リン（IP）	血清 0.3	A	冷蔵	モリブデン酸直接法	2.7～4.6 mg/dL	1～2	⑰ 生化Ⅰ		【高値】腎不全・副甲状腺機能低下症・サルコイドーシス・悪性腫瘍骨転移・ビタミンD過剰など 【低値】副甲状腺機能亢進症・ビタミンD欠乏症など
	0140（3H040）		蓄尿 5.0	U1			0.50～2.00 g/day				
	0135（3H025）	マグネシウム（Mg）	血清 0.3	A	冷蔵	キシリジルブルー法	1.5～3.0 mg/dL	1～2	⑪ 生化Ⅰ		【高値】腎不全・アジソン病・甲状腺機能低下症 【低値】腎炎・原発性アルドステロン症
	0141（3H025）		蓄尿 5.0	U1			0.10～0.20 g/day				
	0143（3H045）	浸透圧	血清 0.5	A	冷蔵	氷点降下度測定法	270～295 mOsm/kg・H_2O	1～2	15 血液		【高値】脱水・糖尿病・尿崩症・口渇中枢障害・発汗・発熱・意識障害 【低値】腎不全・浮腫・嘔吐・下痢・副腎皮質機能低下・利尿剤・うっ血性心不全・肝硬変・ネフローゼ症候群
	0144（3H045）		部分尿 5.0	U1			50～1300 mOsm/kg・H_2O		16 尿・糞便		【高値】ADH分泌異常症候群（SIADH）・脱水・副腎不全 【低値】尿崩症・慢性腎不全・ADH分泌低下・アミロイドーシス
ビタミン検査	0251（3G015）	ビタミンA	血清 0.3	A	凍結 遮光	HPLC法	27.2～102.7 μg/dL	7～13		M	【高値】高脂血症・甲状腺機能低下症・脂肪肝・腎不全 【低値】夜盲症・重症肝障害・甲状腺機能亢進症・亜鉛欠乏症
	0252（3G025）	ビタミンB1	血液 1.0	BV	凍結 遮光	LC-MS法	2.6～5.8 μg/dL	4～5	239 生化Ⅰ		【高値】ビタミンB_1剤過剰投与、輸液ルートからの採血など 【低値】ビタミンB_1欠乏症（脚気、ウェルニッケ脳症）など
	0253（3G030）	ビタミンB2	血液 1.0	BV	凍結 遮光	HPLC法	12.8～27.6 μg/dL	4～5	235 生化Ⅰ	M	【高値】ビタミンB_2剤過剰投与、輸液ルートからの採血など 【低値】口唇炎・口角炎・舌炎・先天性代謝異常症
	0254（3G036）	ビタミンB6	血清 0.5	A	冷蔵 遮光	HPLC法	M PAM 0.6以下 PAL 6.0～40.0 PIN 3.0以下 F PAM 0.6以下 PAL 4.0～19.0 PIN 3.0以下 ng/mL	6～8		PAM：ピリドキサミン PAL：ピリドキサール PIN：ピリドキシン M	【高値】ビタミンB_6過剰症 【低値】脂漏性皮膚炎、透析・小球性貧血、ビタミンB_6欠乏症
	0255（3G040）	ビタミンB12	血清 0.5	A	冷蔵	ECLIA法	197～771 pg/mL	1～2	136 生化Ⅰ		【高値】骨髄増殖性疾患（慢性骨髄性白血病、真性多血症、骨髄線維症など）・悪性腫瘍・肝細胞壊死（急性肝炎・劇症肝炎など） 【低値】悪性貧血・萎縮性胃炎・慢性膵炎・Zollinger-Ellison症候群

（）患者から1回に採取した血液を用いて5項目以上行った場合は、所定点数にかかわらず、検査の項目数に応じて次に掲げる点数により算定する。
5～7項目（93点）8～9項目（99点）10項目以上（103点）

生化学的検査

◆1【検体量】は、当社での分離後（血清・血漿）の量です。
◆2【保存条件】は、当社での保存条件です。

ビタミン検査

項目コード（統一コード）	検査項目	◆1 検体量（mL）	容器	◆2 保存条件	検査方法	基準範囲	所要日数	実施料判断料	備考	検査目的及び異常値を示す主な疾患名
0257（3G060）	ビタミンC（アスコルビン酸）	血清 0.5	A	凍結 遮光	HPLC法	5.5～16.8 μg/mL	4～6	296 生化Ⅰ	S	【高値】ビタミンC剤投与など 【低値】ビタミンC欠乏症（壊血病、Möller-Barlow病など）
2282（3G070）	1,25-(OH)2 ビタミンD	血清 1.0	A	凍結	RIA（二抗体法）	20～60 pg/mL	4～7	388 生化Ⅰ ①	活性型 M	【高値】ビタミンD過剰症・妊娠・成長期・サイコドーシスなど 【低値】慢性腎不全・偽性副甲状腺機能低下症・原発性低リン血症くる病・特発性副甲状腺機能低下性・ビタミンD依存症Ⅰ型
0258（3G065）	25-OHビタミンD［くる病］	血清 0.5	A	冷蔵	ECLIA法	ビタミンD欠乏 ・20以下 ・15以下であれば より確実 ng/mL	3～4	117 生化Ⅰ ②	貯蔵型 M	【高値】ビタミンD過剰性 【低値】ビタミンD欠乏症くる病・ビタミンD欠乏性骨軟化症・吸収不良
1203（3G065）	250HビタミンD［骨粗鬆症］	血清 0.5	A	冷蔵	ECLIA法	ビタミンD欠乏 20.0未満 ビタミンD不足 20.0～29.9 ng/mL	1～2	117 生化Ⅰ ②	貯蔵型	【低値】原発性骨粗鬆症
0259（3G080）	ビタミンE	血清 0.5	A	凍結 遮光	蛍光法	0.75～1.41 mg/dL	4～10		M	【高値】ビタミンE製剤投与、妊婦、高脂血症など 【低値】新生児・未熟児、胆汁うっ滞、ビタミンE吸収障害症、栄養失調症、家族性ビタミンE欠乏症など
0256（3G105）	葉酸	血清 0.5	A	冷蔵	ECLIA法	3.9～26.8 ng/mL	1～2	146 生化Ⅰ	溶血により高値傾向を示します。	【高値】葉酸剤投与 【低値】悪性貧血・白血病・葉酸欠乏による巨赤芽球性貧血・先天性葉酸吸収不全症・ホモシスチン尿症・アルコール常用・妊娠
0263（3G090）	ビタミンK分画	血漿 2.0	C2	凍結 遮光	HPLC法	ビタミンK1 0.15～1.25 ビタミンK2(MK-4) 0.10以下 ng/mL	4～10		S	【高値】ビタミンK大量投与時 【低値】新生児出血性疾患・新生児メレナ・肝疾患・膵疾患
2456（3G055）	カルニチン分画	血清 0.5	A	冷蔵	酵素サイクリング法	総カルニチン 45～91 遊離カルニチン 36～74 アシルカルニチン 6～23 μmol/L	3～5	95+95 生化Ⅰ ③	S	【低値】原発性カルニチン血症・先天性低カルニチン血症・糖尿病（透析患者）・慢性疲労症候群・未熟児
0262（3G110）	ニコチン酸（ナイアシン）	血液 1.5	H2	冷蔵	Bioassay法	4.7～7.9 μg/mL	8～14		S	【高値】ニコチン酪製剤服用 【低値】ペラグラ・先天性トリプトファン尿症・ヒドロキシキヌレニン尿症

① 1,25-ジヒドロキシビタミンD3は、ラジオレセプターアッセイ法、RIA法又はELISA法により、慢性腎不全、特発性副甲状腺機能低下症、偽性副甲状腺機能低下症、ビタミンD依存症Ⅰ型若しくは低リン血症性ビタミンD抵抗性くる病の診断時又はそれらの疾患に対する活性型ビタミンD3剤による治療中に測定した場合に限り算定できる。ただし、活性型ビタミンD3剤による治療開始後1月以内においては2回を限度とし、その後は3月に1回を限度として算定する。

② 25-ヒドロキシビタミンD

ア 25-ヒドロキシビタミンDは、原発性骨粗鬆症の患者に対して、ECLIA法、CLIA法又はCLEIA法により測定して場合は、骨粗鬆症の薬剤治療方針の選択時に1回に限り算定できる。なお、本検査を実施する場合は関連学会が定める実施方針を遵守すること。

イ 25-ヒドロキシビタミンDは、ビタミンD欠乏性くる病若しくはビタミンD欠乏性骨軟化症の診断時又はそれらの疾患に対する治療中にECLIA法、CLIA法又はCLEIA法により測定した場合は、診断時においては1回を限度とし、その後は3月に1回を限度として算定できる。

③ 総カルニチン及び遊離カルニチン

ア 総カルニチン及び遊離カルニチンは、関係学会の定める診療に関する指針を遵守し、酸素サイクリング法により測定した場合に算定する。

イ 本検査を先天性代謝異常症の診断補助又は経過観察のために実施する場合は、月に1回を限度として算定する。

ウ 静脈栄養管理若しくは経腸栄養管理を長期に受けている筋ジストロフィー、筋萎縮性側索硬化症若しくは小児の患者、人工乳若しくは特殊治療用ミルクを使用している小児患者、バルプロ酸ナトリウム製剤投与中の患者、Fanconi症候群の患者又は慢性維持透析の患者におけるカルニチン欠乏症の診断補助若しくは経過観察のために、本検査を実施する場合は、6月に1回を限度として算定する。

エ 同一検体について、本検査と先天性代謝異常症検査を併せて行った場合は、主たるもののみ算定する。

生化学的検査

	項目コード（統一コード）	検査項目	◆1 検体量（mL）	容器	◆2 保存条件	検査方法	基準範囲	所要日数	実施料判断料	備考	検査目的及び異常値を示す主な疾患名
微量金属検査	0146（3J010）	血清鉄（Fe）	血清 0.3	A	冷蔵	ニトロソーPSAP法	40～188 μg/dL	1～2	⑪ 生化Ⅰ		【高値】再生不良性貧血・肝障害・鉄剤使用時・反復輸血後・急性肝炎の初期、ヘモクロマトーシス 【低値】鉄欠乏性貧血・感染症・腫瘍・組織壊死・真性多血症
	0147（3J015）	TIBC（総鉄結合能）	血清 0.3	A	冷蔵	計算法	262～452 μg/dL	1～2	⑪ 生化Ⅰ ①		【高値】鉄欠乏性貧血、真性多血症、潜在的鉄欠乏状態など 【低値】鉄過剰状態、特発性ヘモクロマトーシス、慢性炎症性疾患、悪性腫瘍、トランスフェリンの生合成低下（肝疾患、低栄養状態）、ネフローゼ症候群など
	0148（3J020）	UIBC（不飽和鉄結合能）	血清 0.3	A	冷蔵	比色法（バソフェナントロリン直接法）	M 110～278 F 121～290 μg/dL	1～2	⑪ 生化Ⅰ ①		【高値】（Fe低値）鉄欠乏性貧血・潜在性鉄欠乏・真性多血症 【低値】（Fe高値）鉄過剰症（ヘモジデローシス・ヘモクロマトーシス）・再生不良性貧血・急性肝炎 （Fe・TIBC低値）ネフローゼ症候群・慢性感染症・膠原病や悪性腫瘍の一部
	0151（3J025）	銅（Cu）	血清 0.3	A	冷蔵	比色法（3.5-DiBr-PAESA法）	71～132 μg/dL	1～2	㉓ 生化Ⅰ		【高値】感染症・肝疾患・胆道閉鎖症・副腎不全・バセドウ病・悪性腫瘍・鉄欠乏性貧血 【低値】ウイルソン病・ネフローゼ症候群・蛋白漏出性胃腸症
	0152（3J025）		尿 5.0	U1	冷蔵	原子吸光分光光度法	36以下 μg/L	5～11		B	
	0153（3K110）	鉛（Pb）	血液 0.5	H2	冷蔵	原子吸光分光光度法	μg/dL	4～8			【高値】鉛中毒 （貧血、赤血球寿命の短縮、網状赤血球増多、末梢神経障害、脳症、腎機能障害などを呈する）
	0154（3K110）		尿 1.0	U1			25.0以下 μg/L	4～17		B	
	0155（3J030）	亜鉛（Zn）	血清 0.5	A	冷蔵	比色法（5-Br-PAPS法）	80～130 μg/dL	1～2	132 生化Ⅰ		【高値】甲状腺機能亢進症・赤血球増多症・本態性高血圧症・溶血性貧血・成長ホルモン欠損 【低値】クローン氏病・ネフローゼ・亜鉛欠乏症・味覚障害・悪性リンパ腫・悪性貧血・肝癌・肝硬変・肝膿瘍・肝不全・急性肝炎・再生不良性貧血・糸球体腎炎・心筋梗塞・多発性骨髄腫・多発性神経炎・腸管ベーチェット病・潰瘍性大腸炎・鉄欠乏性貧血・白血病・閉塞性黄疸・慢性肝炎・腸性肢端皮膚炎・成長障害・糖尿病
	0156（3J030）		尿 0.5	U1	冷蔵	原子吸光分光光度法	85～1000 μg/L	3～4		B	

患者から1回に採取した血液を用いて5項目以上行った場合は、所定点数にかかわらず、検査の項目数に応じて次に掲げる点数により算定する。
5～7項目（93点） 8～9項目（99点） 10項目以上（103点）

① 総鉄結合能（TIBC）（比色法）と不飽和鉄結合能（UIBC）（比色法）を同時に実施した場合は、不飽和鉄結合能（UIBC）（比色法）又は総鉄結合能（TIBC）（比色法）の所定点数を算定する。

生化学的検査

◆1【検体量】は、当社での分離後（血清・血漿）の量です。
◆2【保存条件】は、当社での保存条件です。

	項目コード（統一コード）	検査項目	◆1 検体量（mL）	容器	◆2 保存条件	検査方法	基準範囲	所要日数	実施料判断料	備考	検査目的及び異常値を示す主な疾患名
微量金属検査	0157（3K150）	水銀（Hg）	血液 0.5	H2	冷蔵	原子吸光分光光度法	9.0以下 μg/dL	4～24			【高値】水銀の曝露、摂取にもとづく水銀中毒
	0158（3K150）		尿 0.5	U1			22以下 μg/L			B	
	0159（3K120）	カドミウム（Cd）	血液 1.3	H2	冷蔵	原子吸光分光光度法	0.5以下 μg/dL	4～17			【高値】イタイイタイ病、カドミウム症、カドミウム曝露作業者
	0160（3K120）		尿 1.0	U1			4以下 μg/L			B	
	0161（3K125）	マンガン（Mn）	血液 0.7	H2	冷蔵	原子吸光分光光度法	0.8～2.5 μg/dL	4～17	㉗ 生化Ⅰ ①		【高値】マンガン曝露（中枢神経障害・精神障害・呼吸器障害などを呈する） 【低値】マンガン欠乏症（長期の経静脈栄養患者。貧血・皮膚障害・骨異常・脂質代謝異常などを呈する）
	0162（3K125）		尿 1.0	U1			2以下 μg/L			B	
	0163（3K115）	クロム（Cr）	血液 0.7	H2	冷蔵	原子吸光分光光度法	1.0以下 μg/dL	5～18			【高値】金属クロムの曝露 【低値】長期の高カロリー輸液療法（IVH）、腎機能低下
	0164（3K115）		尿 1.0	U1			2以下 μg/L			B	
	0167（3K105）	アルミニウム（Al）	血清 0.5	A4	冷蔵	原子吸光分光光度法	16以下 μg/L	4～8	109 生化Ⅰ	採血後、開栓不可 B	【高値】アルミニウムの曝露・腎不全・尿毒症

患者から1回に採取した血液を用いて5項目以上行った場合は、所定点数にかかわらず、検査の項目数に応じて次に掲げる点数により算定する。
5～7項目（93点）8～9項目（99点）10項目以上（103点）

① マンガン（Mn）は、1月以上（胆汁排泄能の低下している患者については2週間以上）高カロリー静脈栄養法が行われている患者に対して、3月に1回に限り算定することができる。

生化学的検査

	項目コード（統一コード）	検査項目	◆1 検体量（mL）	容器	◆2 保存条件	検査方法	基準範囲	所要日数	実施料判断料	備考	検査目的及び異常値を示す主な疾患名
有機酸検査	0128（3D080）	ヒアルロン酸	血清 0.3	A	冷蔵	LA（ラテックス凝集比濁法）	50.0以下 ng/mL	2～3	179 生化Ⅰ ①	M	【高値】慢性肝炎活動期・肝硬変・慢性関節リウマチ・強皮症・Werner症候群・悪性胸膜中皮腫（胸水中）
	0129（3D080）		胸水 0.3	U2			ng/mL				
	0172（3D105）	シアル酸	血清 0.5	A	冷蔵	酵素法	44～71 mg/dL	3～6		S	【高値】膠原病・炎症性疾患・悪性腫瘍 【低値】重症肝障害・肝疾患
	0312（3E010）	乳酸	除蛋白上清液 0.8	I1	凍結	酵素法	5.0～20.0 mg/dL	3～5	47 生化Ⅰ	J	【高値】肝障害・骨格筋の痙攣・循環不全・貧血・尿毒症・ミトコンドリア異常症 【低値】乳酸脱水素酵素欠損症
	0311（3E015）	ピルビン酸	除蛋白上清液 0.8	I1	凍結	酵素法	0.3～0.9 mg/dL	3～5	47 生化Ⅰ	J	【高値】循環不全・重症肝疾患・ビタミンB_1欠乏・糖尿病Ⅰ型・ミトコンドリア脳筋症 【低値】筋グリコーゲン病
	0317（3E045）	ケトン体分画 静脈血	血清 0.3	A	凍結	酵素法	総ケトン体 26～122 アセト酢酸 13～69 3-ヒドロキシ酪酸 76以下 μmol/L	3～4	59 生化Ⅰ ②	早朝空腹時採血 M	【高値】Ⅰ型糖尿病・糖尿病性ケトーシス・重症糖尿病・飢餓・高脂血症・低炭水化物摂取・熱性疾患・下痢・嘔吐・脱水・妊娠悪阻・甲状腺機能亢進症・消化吸収障害・巨人症・褐色細胞腫・グルカゴノーマ 低値側の臨床的意義は少ない
	1185（3E045）	動脈血	血清 0.5	A	凍結	酵素法	ケトン体比 アセト酢酸/3-ヒドロキシ酪酸比 0.7以上	3～5		ブドウ糖投与下または食後（血糖120mg/dL以上）に動脈採血してください。 S	【低値】肝硬変・肝臓癌・肝不全

① 本検査は慢性肝炎の患者に対して、慢性肝炎の経過観察及び肝生検の適応の確認を行う場合に算定できる。
② ケトン体 及びケトン体分画の検査を併せて実施した場合は、ケトン体分画の所定点数のみ算定する。

生化学的検査

◆2【保存条件】は、当社での保存条件です。

	項目コード（統一コード）	検査項目	検体量（mL）	容器	◆2 保存条件	検査方法	基準範囲	所要日数	実施料判断料	備考	検査目的及び異常値を示す主な疾患名
産業医学	0331（3K025）	馬尿酸	部分尿 2.0	U3	冷蔵 遮光	HPLC法	g/L	5～11		連続した作業日の初日を除いた作業終了時に採尿してください。ただし、採尿2時間前に一度排尿して下さい。 22ページ参照	
	0332（3K030）	メチル馬尿酸	部分尿 2.0	U3	冷蔵 遮光	HPLC法	g/L	5～11			
	0354（3K050）	2,5-ヘキサンジオン	部分尿 5.0	U3	冷蔵 遮光	Gsa-chromatograph法（GC-MSD）	mg/L	5～11			
	0353（3K045）	N-メチルホルムアミド	部分尿 5.0	U3	冷蔵 遮光	Gsa-chromatograph法（GC-MSD）	mg/L	5～11		S	
	0127（3K041）	マンデル酸（エチルベンゼン）	部分尿 2.0	U3	冷蔵 遮光	HPLC法	g/L	5～15		連続した作業日の初日を除いた作業終了時に採尿してください。ただし、採尿2時間前に一度排尿して下さい。S	
	1629（3K042）	スチレン代謝物	部分尿 2.0	U3	冷蔵 遮光	HPLC法	g/L	5～15		連続した作業日の初日を除いた作業終了時に採尿してください。ただし、採尿2時間前に一度排尿して下さい。 ＊1下記参照 S	
	1981（3K011）	総三塩化物 トリクロルエチレン	部分尿 2.0	U3	冷蔵 遮光	Gsa-chromatograph法	mg/L	5～11		週末の作業日の作業終了時に採尿して下さい。ただし、採尿2時間前に一度排尿して下さい。 22ページ参照	
	1979（3K012）	総三塩化物 1・1・1-トリクロルエタン	部分尿 2.0				mg/L	5～11			
	1977（3K013）	総三塩化物 テトラクロルエチレン	部分尿 2.0				mg/L	5～11			
	1980（3K016）	トリクロル酢酸 トリクロルエチレン	部分尿 2.0				mg/L	5～11			
	1978（3K017）	トリクロル酢酸 1・1・1-トリクロルエタン	部分尿 2.0				mg/L	5～11			
	1976（3K018）	トリクロル酢酸 テトラクロルエチレン	部分尿 2.0				mg/L	5～11		S	

＊1 生物学的許容値：0.43以下（g/L）は、ほとんどすべての労働者に健康上の悪い影響がみられないと判断される濃度です。
報告形態：「マンデル酸（MA）」「フェニルグリオキシル酸（PGA）」「合算値（MA+PGA）」の3つの値を報告。（分布区分は報告いたしません。）

特殊健康診断の検査分布

有機溶剤など健康診断結果報告書（有機溶剤中毒予防規則、様式第3号の2）
鉛健康診断結果報告書（鉛中毒予防規則、様式第3号）

対象物質	検査項目	項目コード（統一コード）	採尿方法	単位	分布		
					1	2	3
トルエン	尿中馬尿酸	0331（3K025）	A	g/L	1以下	1超　2.5以下	2.5超
キシレン	尿中メチル馬尿酸	0332（3K030）	A	g/L	0.5以下	0.5超　1.5以下	1.5超
スチレン	スチレン代謝物 *1	1629（3K042）	A	g/L	分布報告はありません。		
エチルベンゼン	尿中マンデル酸	0127（3K041）	A	g/L	分布報告はありません。		
N･N-ジメチルホルムアミド	尿中N-メチルホルムアミド	0353（3K045）	A	mg/L	10以下	10超　40以下	40超
ノルマルヘキサン	尿中2,5-ヘキサンジオン	0354（3K050）	A	mg/L	2以下	2超　5以下	5超
1･1･1-トリクロルエタン	尿中総三塩化物	1979（3K012）	B	mg/L	10以下	10超　40以下	40超
	尿中トリクロル酢酸	1978（3K017）	B	mg/L	3以下	3超　10以下	10超
トリクロルエチレン	尿中総三塩化物	1981（3K011）	B	mg/L	100以下	100超　300以下	300超
	尿中トリクロル酢酸	1980（3K016）	B	mg/L	30以下	30超　100以下	100超
テトラクロルエチレン	尿中総三塩化物	1977（3K013）	B	mg/L	3以下	3超　10以下	10超
	尿中トリクロル酢酸	1976（3K018）	B	mg/L	3以下	3超　10以下	10超
（鉛業務）	血中鉛	0153（3K110）		μg/dL	20以下	20超　40以下	40超
	尿中δ-アミノレブリン酸	0248（3J075）		mg/L	5以下	5超　10以下	10超
	赤血球遊離プロトポルフィリン	0242（3J055）		μg/dL RBC	100以下	100超　250以下	250超

*1　測定値は、マンデル酸とフェニルグリオキシル酸の合算値です。

*2014年11月より、スチレン、トリクロルエチレン、テトラクロルエチレンは、有機溶剤中毒予防規則から特定化学物質障害予防規則の対象に位置づけられました。

採尿方法は2種類ございますので、御注意願います。

●採尿方法A
①連続した作業日の最初の日以外の作業終了後に実施。
②作業終了2時間前に一度排尿を行う。
③その後、2時間は排尿せずに採尿する。

●採尿方法B
①週末の作業終了後に実施。
②作業終了2時間前に一度排尿を行う。
③その後、2時間は排尿せずに採尿する。

生化学的検査

◆1【検体量】は、当社での分離後（血清・血漿）の量です。
◆2【保存条件】は、当社での保存条件です。

	項目コード（統一コード）	検査項目	◆1 検体量（mL）	容器	◆2 保存条件	検査方法	基準範囲	所要日数	実施料判断料	備考	検査目的及び異常値を示す主な疾患名
機能検査・その他	0266（8A010）	ICG（停滞率）	血清 各1.0	A	冷蔵 遮光	比色法	10以下 %	1～2	100	24ページ参照 遮光にて提出お願いします。	【高値】肝硬変・慢性肝炎・閉塞性黄疸・ICG排泄異常症
	0267（8A011）	ICG（消失率）	血清 各1.0	A	冷蔵 遮光		0.158～0.232	1～2	150	24ページ参照 遮光にて提出お願いします。	
	0270（8A025）	クレアチニンクリアランス（24H蓄尿）	血清 0.5 と 蓄尿 5.0	A（血清）と U1（蓄尿）	冷蔵	酵素法	M 88～156 F 82～112 L/day	1～2		身長、体重、尿量を必ず明記して下さい。 24ページ参照	【高値】糖尿病・妊娠・多尿・激しい運動後・動物性蛋白質の多量摂取 【低値】尿崩症・腎疾患（慢性腎炎・腎硬化症・ループス腎炎）前立腺肥大症・本態性高血圧症・心不全
	0271（8A090）	PFD（PABA排泄率）	投与前尿 3.0 と 6時間蓄尿 3.0	U1	冷蔵	比色法（DACA法）	6時間排泄率 73.4～90.4 %	3～4	100	24ページ参照 B	【高値】高値側の臨床的意義は少ない 【低値】慢性膵炎、膵癌
	0272（8A070）	PSP試験	各 全尿	U6	冷蔵	Chaman-Halsted	15分 25～50 30分 40～60 60分 50～75 120分 55～85 %	1～2	150	24ページ参照	【低値】腎機能異常
	0337（3Z065）	結石分析（成分比率）	結石 10mg	U1	室温	赤外線吸収スペクトロフォトメトリー法	%	5～7	117 生化Ⅱ	S	
	0327（3Z040）	エタノール	血液 1.0	H2	凍結	GC法	0.1未満 mg/mL	7～8	105 生化Ⅰ	M	
	0328（3Z040）		尿 2.0	U1	凍結	GC法	0.1未満 mg/mL	5～6		室温放置等による腐敗で高値となる場合があります。 M	
	0329（3K065）	メタノール	尿 2.0	U1	凍結	GC法	3未満 mg/L	5～7		M	
	0321（3E060）	アセトン定量	血清 0.4	A	凍結	GC法	5未満 μg/mL	5～7		M	
	2202（9Z513）	骨塩定量検査	第二中手骨のX線フィルム	専用ビニール袋	室温	DIP法		3～4	140 ①	依頼書に生年月日・年齢・性別を明記して下さい。	

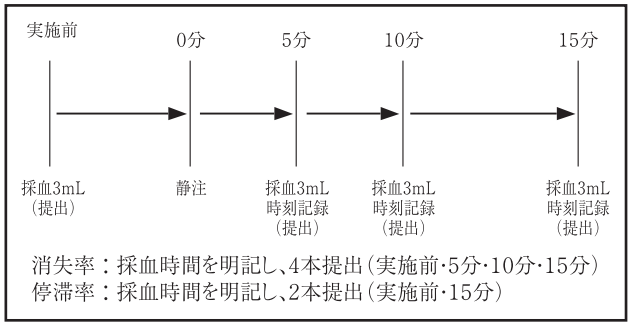
①骨塩定量検査は、骨粗鬆症の診断及びその経過観察の際のみ算定できる。ただし、4月に1回を限度とする。

検体採取方法一覧

●ICG（インドシアニングリーン）試験

1. 早朝空腹時に採血（3mL）して下さい。
2. ジアグノグリーン25mgを注射用蒸留水5mLに溶かし、体重10Kgにつき1mLを約30秒かけて静注。（測定開始）
3. 静注開始後、注射の反対側から採血（3mL）する。

【注意事項】
- 検体は、遮光にてお願いします。
- 消失率：採血時間を明記し、4本提出（実施前・5分・10分・15分）
- 停滞率：採血時間を明記し、2本提出（実施前・15分）
- 検査は早朝空腹時（不可能な場合は、これに近い状態）に実施し、注射後の採血終了まで被検者を安静仰臥させて下さい。

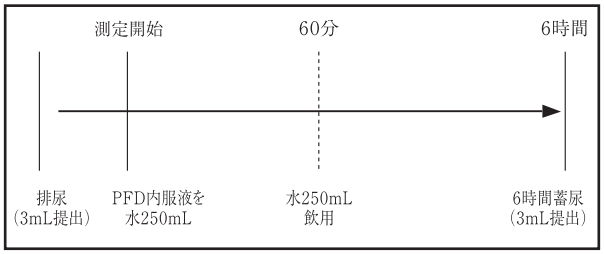


消失率：採血時間を明記し、4本提出（実施前・5分・10分・15分）
停滞率：採血時間を明記し、2本提出（実施前・15分）

●PFD（PABA排泄率）

1. PFD内服液を服用前に採尿させる。（投与前尿3mL提出）
2. PFD内服液を水250mLとともに服用させる。（測定開始）
3. 服用60分後に利尿のため水250mLを飲水。
4. 測定開始後6時間蓄尿し、尿量測定後一部を提出。
5. 蓄尿3mL（尿量記入）と投与前尿3mLをペアで提出。

【注意事項】
- 早朝空腹時に開始して下さい。
- 検査前3日より消化酵素含有製剤、消炎酵素剤、鎮痛剤、利胆剤などの投与は中止して下さい。



●クレアチニンクリアランス

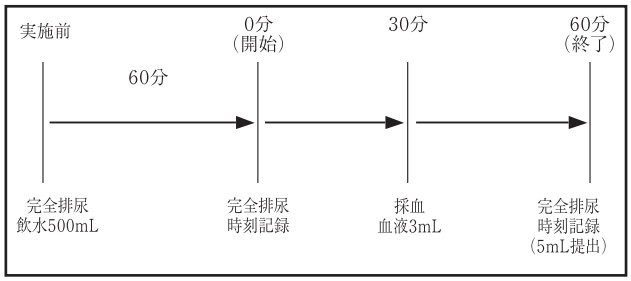
〈24時間採取方法〉※身長・体重を必ず依頼書に記入※

1. 一定時刻に完全排尿後、以後の尿を翌日の同時刻まで蓄尿する。
2. 蓄尿終了時に尿量を記入し5mLを提出する。
3. 尿提出時に血液3mLを採取し同時に提出する。

〈2時間採取方法〉※身長・体重を必ず依頼書に記入※

1. 完全排尿後、水500mLを飲水させる。
2. 飲水60分後に完全排尿し、この時刻を正確に記録する。（測定開始）
3. 測定開始30分後、血液3mLを採血する。
4. 測定開始60分後、完全排尿して尿量を記録し一部を提出。（尿量を記入）

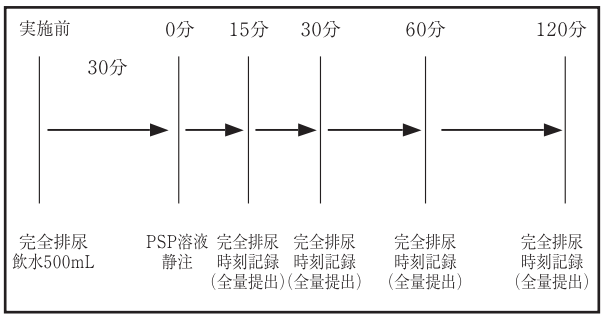
【注意事項】
- 空腹状態で、検査が終了するまで安静平臥を保って下さい。
- 不完全排尿は測定誤差の原因となりますので、必ず完全排尿をさせてください。



●PSP試験

1. 実施前完全排尿し、水500mLを飲水。
2. 飲水30分後に、PSP溶液1.0mLを静注。（測定開始）
3. 測定開始15分後、排尿。（尿量、時刻の記入）
4. 測定開始30分後、排尿。（尿量、時刻の記入）
5. 測定開始60分後、排尿。（尿量、時刻の記入）
6. 測定開始120分後、排尿。（尿量、時刻の記入）
7. 3）～6）のそれぞれの尿を提出する。

【注意事項】
- 検査前の食事は軽くし、茶類・コーヒーなどは避けて下さい。
- フェノールフタレイン系下剤・アスピリン・ブタゾリジン・ペニシリンなどの投与を受けている患者では、検査値に影響がありますので、検査前日よりこれらの薬剤の投与を行わないで下さい。



内分泌学的検査

◆1【検体量】は、当社での分離後（血清・血漿）の量です。
◆2【保存条件】は、当社での保存条件です。

	項目コード（統一コード）	検査項目	◆1 検体量（mL）	容器	◆2 保存条件	検査方法	基準範囲	所要日数	実施料判断料	備考	検査目的及び異常値を示す主な疾患名
下垂体関連検査	0341（4A010）	成長ホルモン（GH）	血清 0.3	A	冷蔵	ECLIA法	M 2.47以下 F 0.13～9.88 ng/mL	3～4	(105) 生化Ⅱ ①	M	【高値】巨人症・Lanon型小人症・異所性GH産生腫瘍・神経性食欲不振症・低栄養患者 【低値】下垂体前葉機能低下症・下垂体性小人症・GH単独欠損症・性腺機能低下症
	0358（4A055）	甲状腺刺激ホルモン（TSH）	血清 0.5	A	冷蔵	CLIA法	0.350～4.940 μIU/mL	1～2	98 生化Ⅱ ①		【高値】Cretin病（先天性甲状腺機能低下症）・原発性後天性甲状腺機能低下症・下垂体TSH産生腫瘍・異所性TSH産生腫瘍・橋本病・甲状腺亜全摘後・バセドウ病のⅠ治療後 【低値】二次性（下垂体性）甲状腺機能低下症・TSH単独欠損症・三次生（視床下部性）甲状腺機能低下症・バセドウ病
	0343（4A030）	黄体形成ホルモン（LH）	血清 0.4	A	冷蔵	CLIA法	M 1.10～8.80 F 卵胞期 2.40～6.60 排卵期 9.10～74.30 黄体期 0.90～9.30 閉経期 10.40～64.60 mIU/mL	1～2	(105) 生化Ⅱ ①		【高値】原発性睾丸機能不全・卵巣性無月経・多嚢胞卵巣症候群（LHは持続的高値、FSH正常）・Turner症候群 【低値】続発性睾丸機能不全・視床下部性無月経・下垂体機能低下症・Kallman症候群・神経性食欲不振症
	0344（4A035）	卵胞刺激ホルモン（FSH）	血清 0.3	A	冷蔵	CLIA法	M 1.40～13.60 F 卵胞期 3.40～21.60 排卵期 5.00～20.80 黄体期 1.10～14.00 閉経期 2.60～150.50 mIU/mL	1～2	(105) 生化Ⅱ ①		【高値】原発性睾丸機能不全・卵巣性無月経・多嚢胞卵巣症候群（LHは持続的高値、FSH正常）・Turner症候群 【低値】続発性睾丸機能不全・視床下部性無月経・Kallman症候群・神経性食欲不振症
	0345（4A025）	副腎皮質刺激ホルモン（ACTH）	血漿 0.3	E1	凍結	ECLIA法	（早期安静時） 7.2～63.3 pg/mL	3～4	(184) 生化Ⅱ ①	溶血検体では測定値が低下傾向となる場合があります。 M	【高値】アジソン病・先天性副腎酵素欠損症・クッシング病・Nelson症候群・異所性ACTH産生腫瘍・グルココルチコイド不応症・ACTH不応症 【低値】副腎腫瘍によるクッシング症候群・原発性副腎過形成・慢性続発性副腎皮質機能低下症・下垂体前葉機能低下症・ACTH単独欠損症
	0348（4A020）	プロラクチン（PRL）	血清 0.5	A	冷蔵	CLIA法	M 2.60～18.10 F 1.20～29.90 ng/mL	1～2	98 生化Ⅱ ①		【高値】下垂体腺腫（プロラクチノーマ）・松果体腫・頭蓋咽頭腫・先端巨大症・empty sella症候群・薬剤性高プロラクチン血症・原発性甲状腺機能低下症・乳癌・クッシング病・腎不全・神経性食欲不振症・特発性乳汁漏出症 【低値】下垂体前葉機能低下症・プロラクチン単独欠損症

患者から1回に採取した血液を用いて3項目以上行った場合は、所定点数にかかわらず、検査の項目数に応じて次に掲げる点数により算定する。
3～5項目（410点） 6～7項目（623点） 8項目以上（900点）

① 内分泌負荷試験は別算定。『下垂体前葉負荷試験』

注）患者一人につき月2回に限り算定する。			
	成長ホルモン（GH）	（1連として）	1,200点
	ゴナドトロピン（LH及びFSH）	（1連として月1回）	1,600点
	甲状腺刺激ホルモン（TSH）	（1連として月1回）	1,200点
	プロラクチン（PRL）	（1連として月1回）	1,200点
	副腎皮質刺激ホルモン（ACTH）	（1連として月1回）	1,200点

注1：1月3,600点を限度として算定する。
注2：負荷試験に伴って行った注射、採血及び検体測定の費用は、採血回数及び測定回数にかかわらず、所定点数に含まれるものとする。
ただし、区分番号D419の5に掲げる副腎静脈サンプリングを行った場合は、当該検査の費用は別に算定できる。

◆1【検体量】は、当社での分離後（血清・血漿）の量です。
◆2【保存条件】は、当社での保存条件です。

	項目コード（統一コード）	検査項目	◆1 検体量（mL）	容器	◆2 保存条件	検査方法	基準範囲	所要日数	実施料判断料	備考	検査目的及び異常値を示す主な疾患名
下垂体関連検査	0655（4A070）	抗利尿ホルモン（ADH・AVP）	血漿 1.2	E1	凍結	RIA（二抗体法）	水制限　4.0以下 自由飲水 2.8以下 pg/mL	6～8	(224) 生化Ⅱ	溶血の影響により測定値が変動する可能性があります。 M	【高値】腎性尿崩症・ADH不適合分泌症候群（SIADH）・異所性ADH産生腫瘍・高カルシウム血症・慢性腎不全
	0342（4A015）	ソマトメジン-C（IGF-Ⅰ）	血清 0.5	A	凍結	ECLIA法	下記参照	3～4	(212) 生化Ⅱ	B	【高値】巨人症・先端巨大症・腎不全 【低値】下垂体前葉機能低下症・下垂体性小人症・成長ホルモン神経分泌機能障害・Laron型小人症・神経性食欲不振症・肝硬変・慢性肝炎・甲状腺機能低下症

患者から１回に採取した血液を用いて3項目以上行った場合は、所定点数にかかわらず、検査の項目数に応じて次に掲げる点数により算定する。
3～5項目（410点）　6～7項目（623点）　8項目以上（900点）

ソマトメジン-C（IGF-Ⅰ）基準範囲（ng/mL）

年齢（歳）	男性	女性
0	11～149	15～154
1	14～148	23～186
2	18～154	32～213
3	24～164	40～227
4	32～176	48～238
5	44～193	56～252
6	55～215	69～287
7	63～247	89～357
8	72～292	111～438
9	84～350	133～517
10	99～423	155～588
11	113～499	175～638
12	125～557	188～654
13	133～579	193～643
14	138～570	193～625
15	141～552	192～614
16	142～543	192～611
17	142～540	191～599
18	142～526	188～574
19	143～501	182～539
20	142～470	175～499
21	139～436	168～459
22	135～405	161～425
23	131～379	155～397
24	128～356	151～375
25	125～337	147～358

年齢（歳）	男性	女性
26	119～329	146～336
27	116～322	141～328
28	114～315	137～320
29	111～309	133～312
30	109～303	129～304
31	107～297	126～297
32	105～292	122～290
33	103～287	119～283
34	102～283	115～277
35	100～279	112～271
36	99～275	109～265
37	97～272	106～260
38	96～269	103～254
39	95～266	100～250
40	94～263	98～245
41	94～261	95～240
42	93～259	93～236
43	92～257	90～233
44	92～255	88～229
45	91～253	87～226
46	90～250	85～224
47	90～250	83～221
48	89～248	82～219
49	88～246	81～218
50	87～245	80～216
51	87～243	79～215

年齢（歳）	男性	女性
52	86～242	78～213
53	85～240	77～212
54	84～239	76～211
55	84～238	75～210
56	83～237	74～208
57	82～236	73～207
58	81～235	72～205
59	80～233	71～203
60	79～232	70～201
61	77～230	69～198
62	76～228	68～196
63	75～226	66～194
64	73～224	65～191
65	72～221	64～188
66	70～219	62～186
67	68～216	61～183
68	66～213	60～180
69	65～209	59～177
70	63～206	57～175
71	61～202	56～172
72	58～198	55～170
73	56～194	54～167
74	54～190	53～165
75	52～185	52～163
76	50～181	50～160
77	48～177	49～158

内分泌学的検査

◆1【検体量】は、当社での分離後（血清・血漿）の量です。
◆2【保存条件】は、当社での保存条件です。

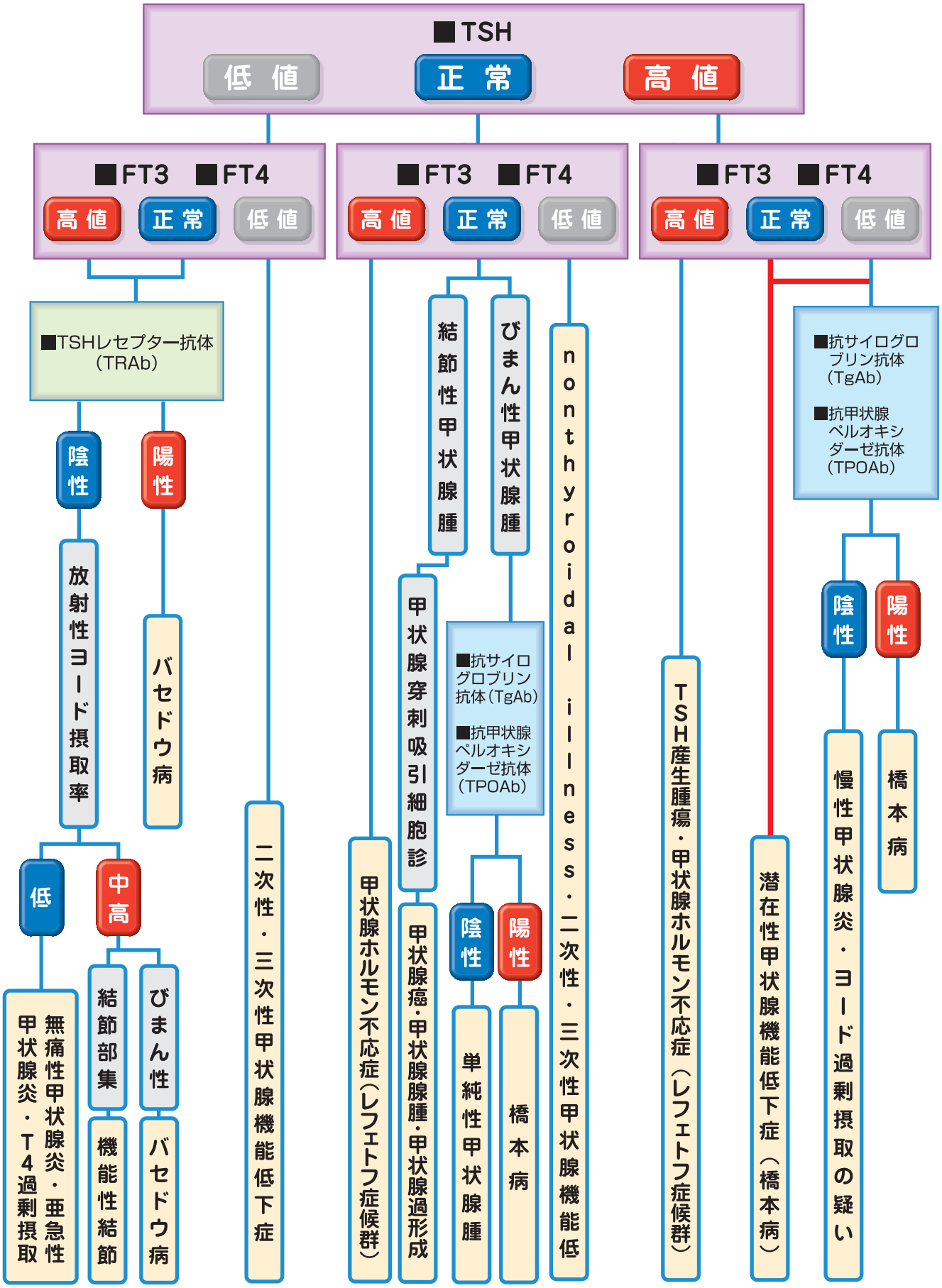
	項目コード（統一コード）	検査項目	◆1 検体量（mL）	容器	◆2 保存条件	検査方法	基準範囲	所要日数	実施料判断料	備考	検査目的及び異常値を示す主な疾患名
甲状腺関連検査	0361（4B010）	トリヨードサイロニン（T3）	血清 0.4	A	冷蔵	CLIA法	57～152 ng/dL	3～4	99 生化Ⅱ	M	【高値】甲状腺機能亢進症（バセドウ病・Plummer病・TSH産生腫瘍）・破壊性甲状腺炎（亜急性甲状腺炎・無痛性甲状腺炎・急性化膿性甲状腺炎）【低値】甲状腺機能低下症（橋本病・特発性粘液水腫）・下垂体、視床下部性甲状腺機能低下症【低下症の場合はFT4と同じ動きをするため算定不可】
	0362（4B015）	遊離トリヨードサイロニン（FT3）	血清 0.5	A	冷蔵	CLIA法	1.68～3.67 pg/mL	1～2	(121) 生化Ⅱ		
	0364（4B030）	サイロキシン（T4）	血清 0.4	A	冷蔵	CLIA法	4.87～11.72 μg/dL	3～4	105 生化Ⅱ	M	【高値】甲状腺機能亢進症（バセドウ病・Plummer病・TSH産生腫瘍）・破壊性甲状腺炎（亜急性甲状腺炎・無痛性甲状腺炎・急性化膿性甲状腺炎）【低値】甲状腺機能低下症（橋本病・特発性粘液水腫）・下垂体、視床下部性甲状腺機能低下症・低アルブミン血症（ネフローゼ症候群・肝硬変）
	0365（4B035）	遊離サイロキシン（FT4）	血清 0.5	A	冷蔵	CLIA法	0.70～1.48 ng/dL	1～2	(121) 生化Ⅱ		
	0366（4B045）	サイロキシン結合グロブリン（TBG）	血清 0.3	A	凍結	CLEIA法	14～31 μg/mL	3～6	(130) 生化Ⅱ	M	【高値】遺伝性TBG増加症・甲状腺機能低下症・妊娠・胞状奇胎・急性肝炎・新生児・薬剤（エストロゲン・ペルフェナジン・5-FU）【低値】遺伝性TBG欠損症・甲状腺機能亢進症・肝硬変・ネフローゼ症候群・栄養失調・薬剤（アンドロゲン・蛋白同化ホルモン・L-アスパラギナーゼ）
	0367（4B040）	サイログロブリン（Tg）	血清 0.4	A	冷蔵	ECLIA法	33.7以下 ng/mL	1～2	(128) 生化Ⅱ		【高値】甲状腺分化癌・甲状腺腺腫・亜急性甲状腺炎・無痛性甲状腺炎・急性甲状腺炎・慢性甲状腺炎・臍帯血・新生児・妊婦
	0368（5G290）	抗サイログロブリン抗体（TgAb）	血清 0.5	A	冷蔵	ECLIA法	28.0未満 IU/mL	1～2	★(136) 免疫		【陽性】橋本病（慢性甲状腺炎）・バセドウ病・特発性粘液水腫・全身性エリテマトーデス（SLE）・慢性関節リウマチ・強皮症・重症筋無力症
	2732（5G285）	抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体（抗TPO抗体）	血清 0.5	A	冷蔵	ECLIA法	16.0未満 IU/mL	3～4	★(138) 免疫	B	【陽性】バセドウ病・橋本病・原発性甲状腺機能低下症・亜急性甲状腺炎・SLE・その他の膠原病
	1638（5G310）	TSHレセプター抗体定量（第3世代）（TRAb定量）	血清 0.5	A	冷蔵	ECLIA法	2.0未満 IU/L（未治療バセドウ病における推奨カットオフ値）	1～2	214 免疫 ①		【高値】バセドウ病・橋本病・甲状腺眼症
	2933（5G300）	TSH刺激性レセプター抗体（TSAb・甲状腺刺激抗体）	血清 0.4	A	冷蔵	バイオアッセイ法	110未満 %	4～7	330 免疫 ①	溶血検体では測定値が低下傾向となる場合があります。 M	

○ 患者から1回に採取した血液を用いて3項目以上行った場合は、所定点数にかかわらず、検査の項目数に応じて次に掲げる点数により算定する。
3～5項目（410点） 6～7項目（623点） 8項目以上（900点）

★ 免疫学的検査〔自己抗体検査〕包括項目となります。2項目（320点）3項目以上（490点）

① 抗TSHレセプター抗体（TRAb）及び甲状腺刺激抗体（TSAb）を同時に行った場合は、いずれか一方のみ算定する。

甲状腺検査の進め方


■TSH
低値
正常
高値
■FT3 ■FT4
高値
正常
低値
■TSHレセプター抗体（TRAb）
陰性
陽性
放射性ヨード摂取率
バセドウ病
低
中高
無痛性甲状腺炎・亜急性甲状腺炎・T4過剰摂取
結節部集
びまん性
機能性結節
バセドウ病
二次性・三次性甲状腺機能低下症
甲状腺ホルモン不応症（レフェトフ症候群）
結節性甲状腺腫
びまん性甲状腺腫
甲状腺穿刺吸引細胞診
■抗サイログロブリン抗体（TgAb）
■抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体（TPOAb）
甲状腺癌・甲状腺腺腫・甲状腺過形成
陰性
陽性
単純性甲状腺腫
橋本病
nonthyroidal illness・二次性・三次性甲状腺機能低
TSH産生腫瘍・甲状腺ホルモン不応症（レフェトフ症候群）
潜在性甲状腺機能低下症（橋本病）
■抗サイログロブリン抗体（TgAb）
■抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体（TPOAb）
陰性
陽性
慢性甲状腺炎・ヨード過剰摂取の疑い
橋本病

内分泌学的検査

◆1【検体量】は、当社での分離後（血清・血漿）の量です。
◆2【保存条件】は、当社での保存条件です。

	項目コード（統一コード）	検査項目	◆1 検体量（mL）	容器	◆2 保存条件	検査方法	基準範囲	所要日数	実施料判断料	備考	検査目的及び異常値を示す主な疾患名
副甲状腺関連検査	0489（4C025）	副甲状腺ホルモンインタクト（PTH-intact）	血清 0.7	A	冷蔵	CLEIA法	10.0～65.0 pg/mL	1～2	(161) 生化Ⅱ		【高値】原発性副甲状腺機能亢進症・続発性副甲状腺機能亢進症・自律性副甲状腺機能亢進症・骨粗鬆症・骨軟化症・低Ca血症 【低値】術後副甲状腺機能低下症・特発性副甲状腺機能低下症・ビタミンD中毒・甲状腺機能亢進症
	1278（4C026）	副甲状腺ホルモン（whole-PTH）	血清 0.5	A	凍結	ECLIA法	14.9～56.9 pg/mL	3～4		B	【高値】低カルシウム血症・急性膵炎・慢性腎不全・原発性副甲状腺機能亢進症・二次性副甲状腺機能亢進症 【低値】サルコイドーシス・高カルシウム血症・PTH分泌低下型副甲状腺機能低下症
	2953（4C034）	副甲状腺ホルモン関連蛋白intact（PTHrP-intact）	血漿 0.5	E2	凍結	IRMA法（ビーズ固相法）	1.1未満 pmol/L	5～8	(186) 生化Ⅱ ①	B	【高値】悪性腫瘍に伴う高カルシウム血症・扁平上皮癌・腺癌・未分化癌
	0475（4C035）	カルシトニン（CT）	血清 0.5	A	凍結	ECLIA法	M 9.52以下 F 6.40以下 pg/mL	3～5	(130) 生化Ⅱ	S	【高値】甲状腺腫瘍・肺小細胞癌・カルチノイド・褐色細胞腫・メラノーマ・肝癌・骨髄腫・高Ca血症・慢性腎不全・膵炎・妊娠 【低値】甲状腺全摘出術後・骨粗鬆症・低Ca血症
	2335（4Z280）	オステオカルシン（BGP）	血清 0.3	A	凍結	FEIA法	8.3～32.7 ng/mL	5～9	(157) 生化Ⅱ ②	J	【高値】Paget病（変形性骨炎）・副甲状腺機能亢進症・甲状腺機能亢進症・慢性腎不全・悪性高カルシウム血症・多発性骨髄腫・慢性関節リウマチ・骨粗鬆症・骨折 【低値】副甲状腺機能低下症・甲状腺機能低下症・クッシング症候群・妊娠
	0227（3B072）	骨型アルカリフォスファターゼ（BAP）	血清 0.5	A	冷蔵	CLEIA法	M 3.7～20.9 F 閉経前 2.9～14.5 閉経後 3.8～22.6 μg/L	2～4	(157) 生化Ⅱ ③	B	【高値】悪性腫瘍の骨転移・骨肉腫・副甲状腺機能亢進症・甲状腺機能亢進症・骨軟化症 【異常】骨粗鬆症
	1532（5C120）	total P1NP（Ⅰ型プロコラーゲン-N-プロペプチド）	血清 0.3	A	冷蔵	ECLIA法	M 18.1～74.1 F 閉経前 16.8～70.1 閉経後 26.4～98.2 ng/mL	1～2	(160) 生化Ⅱ ③		【高値】骨粗鬆症・悪性腫瘍の骨転移・骨肉腫・副甲状腺機能亢進症・甲状腺機能亢進症・骨軟化症・Paget病
	1464（4Z282）	ucOc（低カルボキシル化オステオカルシン）	血清 0.3	A	凍結	ECLIA法	4.50未満 ng/mL	4～7	(154) 生化Ⅱ ④	溶血により低値傾向を示します。 B	【高値】骨粗鬆症

(　) 患者から1回に採取した血液を用いて3項目以上行った場合は、所定点数にかかわらず、検査の項目数に応じて次に掲げる点数により算定する。
3～5項目（410点） 6～7項目（623点） 8項目以上（900点）

①副甲状腺ホルモン関連蛋白C端フラグメント（C-PTHrP）又は副甲状腺ホルモン関連蛋白（PTHrP）は、高カルシウム血症の鑑別並びに悪性腫瘍に伴う高カルシウム血症に対する治療効果の判定のために測定した場合に限り算定する。

②オステオカルシン（OC）は、続発性副甲状腺機能亢進症の手術適応の決定及び原発性又は続発性の副甲状腺機能亢進症による副甲状腺（上皮小体）腺腫過形成手術後の治療効果判定に際して実施した場合に限り算定できる。

③骨型アルカリホスファターゼ（BAP）、Ⅰ型プロコラーゲン-N-プロペプチド（ＰＩNP）、インタクトⅠ型プロコラーゲン-N-プロペプチド（Intact ＰＩNP）、及びALPアイソザイム（PAG電気泳動法）のうち2項目以上を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

④低カルボキシル化オステオカルシン（ucOC）は、骨粗鬆症におけるビタミンK_2剤の治療選択目的で行った場合又は治療経過観察を行った場合に算定できる。ただし、治療開始前においては1回、その後は6月以内に1回に限り算定できる。

◆1【検体量】は、当社での分離後（血清・血漿）の量です。
◆2【保存条件】は、当社での保存条件です。

	項目コード（統一コード）	検査項目	◆1 検体量（mL）	容器	◆2 保存条件	検査方法	基準範囲	所要日数	実施料判断料	備考	検査目的及び異常値を示す主な疾患名
副甲状腺関連検査	2723（3B222）	TRACP-5b（TRAP-5b）（骨型酒石酸抵抗性酸性フォスファターゼ）	血清 0.3	A	凍結	EIA法	M 170～590 F（YAM）120～420 mU/dL	3～5	(156) 生化Ⅱ ①②	YAM:若年者成人平均値 健常閉経前女性（30～44歳）で確立された平均±1.96SDの範囲の値。なお、閉経後女性にも適用されます。 B	【増加】副甲状腺機能亢進症、腎性骨異栄養症（慢性腎不全、透析患者）、癌（肺癌、乳癌、前立腺癌）の骨転移 【異常】骨粗鬆症
	1850（5C123）	Ⅰ型コラーゲン架橋N-テロペプチド（NTx）	部分尿 2.0	U1	冷蔵	CLEIA法	M 13.0～66.2 F 閉経前 9.3～54.3 閉経後 14.3～89.0 nM BCE/mM・Cre	3～5	(156) 生化Ⅱ ②③	午前中の第二尿をご提出下さい。 判定基準:下記参照 B	【高値】癌の骨転移（肺癌、乳癌、前立腺癌）・原発性副甲状腺機能亢進症・甲状腺機能亢進症・骨Paget病 ■骨格の発育を受けて代謝回転が活発な20歳未満、とくに成長期の学童や、骨吸収が亢進する閉経後女性では、いずれもNTxが高値となる。 【異常】骨粗鬆症
	1851（5C146）	デオキシピリジノリン（DPD）	部分尿 3.0	U3	冷蔵	EIA法	クレアチニン換算値 M 2.1～5.4 F 2.8～7.6 nmol/mmol・CRE	3～5	(191) 生化Ⅱ ②③	午前中の第二尿をご提出下さい。 判定基準:下記参照 S	【高値】Paget病・原発性副甲状腺機能亢進症・甲状腺機能亢進症・骨粗鬆症・悪性腫瘍に伴う高カルシウム血症 【異常】骨粗鬆症

(156) 患者から1回に採取した血液を用いて3項目以上行った場合は、所定点数にかかわらず、検査の項目数に応じて次に掲げる点数により算定する。
3～5項目（410点） 6～7項目（623点） 8項目以上（900点）

①酒石酸抵抗性酸ホスファターゼ（TRACP-5b）は、代謝性骨疾患及び骨転移（代謝性骨疾患や骨折の併発がない肺癌、乳癌、前立腺癌に限る）の診断補助として実施した場合に1回、その後6月以内の治療経過観察時の補助的指標として実施した場合に1回に限り算定できる。また治療方針を変更した際には変更後6月以内に1回に限り算定できる。

②本検査とⅠ型コラーゲン架橋N-テロペプチド（NTX）、オステオカルシン（OC）又はデオキシピリジノリン（DPD）（尿）を併せて実施した場合は、いずれかの一つのみ算定する。なお、乳癌、肺癌又は前立腺癌であると既に確定診断された患者について骨転移の診断のために当該検査を行い、当該検査に基づいて計画的な治療管理を行った場合は、「B001」特定疾患治療管理料の「3」悪性腫瘍特異物質治療管理料の「ロ」を算定する。

③Ⅰ型コラーゲン架橋N-テロペプチド（NTX）及びデオキシピリジノリン（DPD）（尿）は、原発性副甲状腺機能亢進症の手術適応の決定、副甲状腺機能亢進症手術後の治療効果判定又は骨粗鬆症の薬剤治療方針の選択に際して実施された場合に算定する。なお、骨粗鬆症の薬剤治療方針の選択時に1回、その後6月以内の薬剤効果判定時に1回に限り、また薬剤治療方針を変更したときは変更後6月以内に1回に限り算定できる。

NTx（尿）判定基準（nM BCE/mM・Cre）

判定基準		
副甲状腺摘出術の適応		200以上
悪性腫瘍（乳癌・肺癌・前立腺癌）の骨転移の指標		100以上
骨吸収亢進の指標		55以上
骨粗鬆症薬剤治療の指標	骨折 高リスクの指標	54.3超
	骨量減少 高リスクの指標	35.3以上

デオキシピリジノリン（DPD）判定基準（nmol/mmol・CRE）

骨粗鬆症薬剤治療の指標	
骨折リスク カットオフ値	7.6
骨量減少 カットオフ値	5.9

骨代謝マーカー

骨吸収マーカー

※骨代謝マーカーは骨密度測定などにより、「骨粗鬆症」と診断された患者に対する検査です。

細胞の直接産生

骨型酒石酸抵抗性酸性フォスファターゼ（TRACP-5b）	骨吸収マーカーで、破骨細胞から直接分泌されており、破骨細胞の機能、骨吸収の状態を直接示す。破骨細胞が骨を吸収すると同時に血液の中に漏れ出しますので、骨がもろくなっていることを数値で示しています。

組織の代謝産物

デオキシピリジノリン（尿中）（DPD）	骨のコラーゲンに局在することから、骨吸収の指標として信頼性が高い。代謝骨疾患や閉経後のエストロゲン欠乏状態においては骨吸収が著明になり、DPDが有意に高値を示す。また治療効果を反映し、変動することや骨転移にも上昇するため有用な検査と言える。
（尿中）Ⅰ型コラーゲン架橋N-テロペプチド（NTx）	骨基質分解産物。骨吸収が亢進する疾患の経過観察に有用。尿NTX排泄量は薬剤の治療効果を反映して骨塩量増加群では有意に低下する。骨吸収抑制剤に対する反応性は他の吸収マーカーより鋭敏で有意義かつ高評価になっている。骨転移で高値。

骨形成マーカー

細胞の直接産生

骨型アルカリフォスファターゼ（BAP）	骨芽細胞の活性度を反映し、新しく骨を作るうえで、その機能状態ひいては骨形成状態を知る指標となる。代謝性骨疾患、原発性骨腫瘍、癌の骨転移などで高値。また慢性腎不全に伴う腎性骨異栄養症の診断指標としての有用性や成長ホルモン投与患者の治療効果の指標となる。
オステオカルシン（OC）（BGP）	骨形成の負の制御因子と言われている。骨代謝回転（特に骨形成）と密接な関係。その血中濃度は骨の代謝異常や治療効果を知る上で有用。続発性副甲状腺機能亢進症の手術適応の決定、上皮小体腺腫過形成手術後の効果判定に実施した場合のみに算定できる。
【骨マトリックス関連マーカー】低カルボキシル化オステオカルシン（ucOC）	ビタミンKは骨形成系に働き、オステオカルシンを改善するが、ucOCは骨におけるビタミンKの不足状態を反映し、骨粗鬆症の治療でのビタミンK_2剤選択時の補助的指標として有用です。未成熟オステオカルシン。ucOCの高値は大腿骨頸部骨折のリスク因子になっている。
【組織の代謝産物】total P1NP（Ⅰ型プロコラーゲン-N-プロペプチド）	Ⅰ型プロコラーゲンがⅠ型コラーゲンとして、コラーゲン繊維に組み込まれるときに生成する。Ⅰ型コラーゲンは特に骨基質に局在することから骨形成を反映する。

内分泌学的検査

	項目コード（統一コード）	検査項目	◆1 検体量（mL）	容器	◆2 保存条件	検査方法	基準範囲	所要日数	実施料判断料	備考	検査目的及び異常値を示す主な疾患名
副腎皮質関連検査	0411（4D035）	11-OHCS	血清 0.5	A	冷蔵	蛍光法（De Moor 変法）	（午前10時採血） 7.0～23.0 μg/dL	3～9	60 生化Ⅱ	S	【高値】クッシング症候群、異所性ACTH産生腫瘍、副腎皮質癌、副腎皮質過形成（CAH）、甲状腺機能亢進症 など 【低値】副腎機能低下症（アジソン病、sheehan症候群、ACTH単独欠損症）
	0413（4D115）	アルドステロン	血清 0.5	A	凍結	CLEIA法	4.0～82.1 pg/mL	3～4	(122) 生化Ⅱ	M	【高値】レニン高値…続発性アルドステロン症・腎血管性高血圧・Bartter症候群・ネフローゼ症候群・うっ血性心不全・肝硬変・妊娠中毒症 レニン低値…原発性、特発性アルドステロン症 【低値】レニン高値…アジソン病・ACE阻害剤投与・K欠乏症
			血漿 0.5	E1							
	0414（4D115）		蓄尿 2.0	U1	凍結		1.0～19.3 μg/day	4～6		蓄尿時は冷暗所に保管して下さい。（塩酸およびC-ペプチド安定化剤は使用しないでください） M	
	0447（4D120）	アルドステロン／レニン活性比	血漿 1.1	E1	凍結	計算法	200未満	4～5	122 + 100 生化Ⅱ	M	【高値】原発性アルドステロン症・高血圧
	0412（4D040）	コルチゾール	血清 0.5	A	冷蔵	ECLIA法	6.2～18.0 μg/dL	1～2	(121) 生化Ⅱ		【高値】副腎皮質機能亢進症・クッシング症候群・異所性ACTH産生腫瘍・ストレス・CBG増加時（妊娠・エストロゲン投与時） 【低値】副腎皮質機能低下症・続発性（汎下垂体機能低下症・ACTH単独欠損症）・原発性（アジソン病）・副腎性器症候群・先天性副腎皮質過形成症またはアンドロゲン分泌亢進性の副腎腫瘍・CBG欠損症
	1377（4D045）		蓄尿 0.5	U1	冷蔵	CLIA法	5.5～66.7 μg/day	3～5		非抱合型コルチゾールを測定します。蓄尿時は冷暗所に保管して下さい。 M	【高値】クッシング症候群・異所性ACTH産生腫瘍、グルココルチコイド不応症 【低値】下垂体機能低下症・ACTH単独欠損症・アジソン病・先天性副腎皮質過形成・急性副腎不全
	2452（4D090）	デヒドロエピアンドロステロンサルフェート（DHEA-S）	血清 0.5	A	凍結	CLEIA法	下記参照	3～5	(164) 生化Ⅱ	J	【高値】クッシング症候群・副腎癌・先天性副腎過形成・Stein-Lev-enthal症候群・特発性多毛症・思春期早発症・プロラクチン産生下垂体腺腫 【低値】アジソン病・先天性ACTH不応症・家族性男子仮性半陰陽・下垂体前葉機能不全（Sheehan症候群・ACTH単独欠損症）・心血管系疾患

(122) (121) (164) 患者から1回に採取した血液を用いて3項目以上行った場合は、所定点数にかかわらず、検査の項目数に応じて次の点数により算定する。
3～5項目（410点） 6～7項目（623点） 8項目以上（900点）

デヒドロエピアンドロステロンサルフェート（DHEA-S）基準範囲（μg/dL）

年齢（歳）	男性	女性
18～20	24～537	51～321
21～30	85～690	18～391
31～40	106～464	23～266
41～50	70～495	19～231
51～60	38～313	8～188
61～70	24～244	12～133
71以上	5～253	7～177

内分泌学的検査

◆1【検体量】は、当社での分離後（血清・血漿）の量です。
◆2【保存条件】は、当社での保存条件です。

副腎髄質関連検査

項目コード（統一コード）	検査項目	◆1 検体量（mL）	容器	◆2 保存条件	検査方法	基準範囲	所要日数	実施料判断料	備考	検査目的及び異常値を示す主な疾患名
1139（4E060）	VMA定性	部分尿 5.0	U1	冷蔵	佐藤らの方法（試験管法）	（－）	1～2	9 尿・糞便		【高値】神経芽細胞腫・褐色細胞腫
0387（4E060）	VMA定量（バニリルマンデル酸）	酸性蓄尿 1.0	U1	冷蔵	LC-MS/MS法	1.4～4.9 mg/day	4～5	90 生化Ⅱ	下記参照：注1 M	
0399（4E060）		血漿 1.5	E1	凍結	HPLC法	3.3～8.6 ng/mL	6～9		M	
0388（4E055）	HVA定量（ホモバニリン酸）	酸性蓄尿 1.0	U1	冷蔵	LC-MS/MS法	1.6～5.5 mg/day	4～5	69 生化Ⅱ	下記参照：注1 M	【高値】神経芽細胞腫（尿）・褐色細胞腫（尿）・悪性黒色腫・精神分裂病の一部 【低値】パーキンソン症候群・アルツハイマー病・脳梗塞
0400（4E055）		血漿 1.5	E1	凍結	HPLC法	4.4～15.1 ng/mL	6～9		M	
0382（4E016）	カテコールアミン3分画 A　：アドレナリン NA：ノルアドレナリン DA：ドーパミン	酸性蓄尿 1.0	U1	冷蔵	HPLC法	A　1.1～22.5 NA 29.2～118 DA 100～1000 μg/day	4～5	(161) 生化Ⅱ	下記参照：注1 M	【高値】褐色細胞腫・神経芽細胞腫・本態性高血圧症・うっ血性心不全・狭心症・心筋梗塞・慢性腎不全・甲状腺機能低下症・糖尿病・十二指腸潰瘍 【低値】アジソン病・起立性低血圧症・甲状腺機能亢進症
0385（4E016）		血漿 1.0	E1	凍結		A　0.17以下 NA 0.15～0.57 DA 0.03以下 ng/mL			M	
0390（4E040）	メタネフリン2分画	酸性蓄尿 2.0	U1	冷蔵	LC-MS/MS法	メタネフリン（1日量）0.05～0.20 ノルメタネフリン（1日量）0.10～0.28 メタネフリン（総1日量）0.15～0.41 mg/day	4～5	(220) 生化Ⅱ	下記参照：注1 M	【高値】神経芽細胞腫・褐色細胞腫
0393（4E065）	セロトニン	血液 0.6	E1	凍結	LC-MS/MS法	52.8～200 ng/mL	4～10		他の項目との重複依頼は、避けて下さい。 M	【高値】カルチノイド症候群・ダンピング症候群・片頭痛 【低値】錘体外路系疾患・内因性精神病（うつ病、躁病）
0386（4E070）	5-ハイドロキシインドール酢酸（5-HIAA）	酸性蓄尿 1.0	U1	冷蔵	LC-MS/MS法	0.6～4.1 mg/day	4～5	95 生化Ⅱ	下記参照：注1 M	【高値】カルチノイド症候群・ダンピング症候群、片頭痛など 【低値】錐体外路疾患・パーキンソン症候群など
0398（4E070）		血漿 1.5	E1	凍結	HPLC法	1.8～6.1 ng/mL	6～9		M	

(161) 患者から1回に採取した血液を用いて3項目以上行った場合は、所定点数にかかわらず、検査の項目数に応じて次に掲げる点数により算定する。
3～5項目（410点） 6～7項目（623点） 8項目以上（900点）

注1 「6mol/L塩酸（6N）約20mL（蓄尿1リットル当り）」または「酸性ユリメジャー・T（関東化学株式会社製）」を加え冷所に蓄尿し、よく混和後、必要量をご提出下さい。24時間尿量を明記。

内分泌学的検査

	項目コード（統一コード）	検査項目	◆1 検体量（mL）	容器	◆2 保存条件	検査方法	基準範囲	所要日数	実施料判断料	備考	検査目的及び異常値を示す主な疾患名
膵・消化管関連検査	0371（4G010）	インスリン（IRI）	血清 0.5	A	冷蔵	CLEIA法	1.8～12.2 μIU/mL	1～2	100 生化Ⅱ		【高値】インスリノーマ・NIDDM（肥満、インスリン抵抗性）・クッシング症候群 【低値】IDDM・NIDDM（代謝状態の悪い例）・下垂体機能低下症
	0374（5G360）	インスリン抗体	血清 0.3	A	冷蔵	RIA法	0.4未満 U/mL	4～8	107 免疫	S	【陽性】インスリン治療中の糖尿病・インスリン自己免疫症候群
	0372（4G020）	C-ペプチド（CPR）	血清 0.5	A	冷蔵	CLEIA法	（空腹時負荷前）0.61～2.09 ng/mL	1～2	(105) 生化Ⅱ ①		【高値】インスリン抗体の存在・インスリノーマ・インスリン自己免疫症候群・肥満・クッシング症候群・ステロイド投与・甲状腺機能亢進症・先端巨大症・腎不全（血中のみ） 【低値】糖尿病（IDDM）・副腎不全・下垂体機能低下症・飢餓状態・腎不全（尿中のみ）
	0370（4G020）		蓄尿 0.4	U1	凍結	CLIA法	20.1～155 μg/day	3～4		24時間尿量を明記して下さい。（注） M	
	7739（4G030）	膵グルカゴン	血漿 0.5	E2	凍結	EIA法	空腹時 5.4～55.0 pg/mL	4～7	(150) 生化Ⅱ	溶血は低値の影響があります。 B	【高値】グルカゴノーマ・糖尿病性ケトアシドーシス・熱傷・重症感染症・急性膵炎 【低値】グルカゴン欠損症・下垂体機能低下症・慢性膵炎
	2740（5G340）	抗GAD抗体	血清 0.6	A	冷蔵	EIA法	5.0未満 U/mL	3～4	(134) 生化Ⅱ ②	B	【陽性】Ⅰ型糖尿病・インスリン依存型糖尿病（IDDM）・将来インスリン依存型糖尿病（IDDM）になる可能性のあるインスリン非依存型糖尿病（NIDDM）
	1499（5G342）	抗IA-2抗体	血清 0.4	A	冷蔵	EIA法	0.6未満 U/mL	4～7	(213) 生化Ⅱ ③	B	【陽性】Ⅰ型糖尿病（特に若年発症Ⅰ型糖尿病）および緩徐進行Ⅰ型糖尿病（SPIDDM）・抗体陽性急性発症Ⅰ型糖尿病
	2037（5G335）	抗ランゲルハンス氏島抗体（ICA）	血清 2.0	A	凍結	免疫蛍光抗体間接法	陰性（1.25未満） JDF units	13～18		S	【高値】Ⅰ型糖尿病（高血糖症）

(　) 患者から1回に採取した血液を用いて3項目以上行った場合は、所定点数にかかわらず、検査の項目数に応じて次に掲げる点数により算定する。
3～5項目（410点） 6～7項目（623点） 8項目以上（900点）

①C-ペプチド（CPR）を同時に血液及び尿の両方の検体について測定した場合は、血液の場合の所定点数のみを算定する。

②抗グルタミン酸デカルボキシラーゼ抗体（抗GAD抗体）は、すでに糖尿病の診断が確定した患者に対して1型糖尿病の診断に用いた場合又は自己免疫介在性脳炎・脳症の診断に用いた場合に算定できる。

③抗IA-2抗体は、すでに糖尿病の診断が確定し、かつ、抗グルタミン酸デカルボキシラーゼ抗体（抗GAD抗体）の結果、陰性が確認された患者に対し、1型糖尿病の診断に用いた場合に算定する。なお、当該検査を算定するに当たっては、抗グルタミン酸デカルボキシラーゼ抗体（抗GAD抗体）の結果、陰性が確認された年月日を診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。

（注）尿C-ペプチド安定化剤1袋全量を蓄尿前、あるいは初回排尿時に尿と同時に蓄尿容器に入れて下さい。蓄尿後はよく混和したのち、必要量をU1容器に移し替えて提出してください。防腐剤として塩酸を添加するとCPR活性の低下を生じるため、避けてください。また、尿C-ペプチド安定化剤は他の測定項目に影響を与える場合があるため、C-ペプチド専用の蓄尿にお使いください。

内分泌学的検査

◆1【検体量】は、当社での分離後（血清・血漿）の量です。
◆2【保存条件】は、当社での保存条件です。

	項目コード（統一コード）	検査項目	◆1 検体量（mL）	容器	◆2 保存条件	検査方法	基準範囲	所要日数	実施料判断料	備考	検査目的及び異常値を示す主な疾患名
性腺・胎盤関連検査	0423（4F025）	エストラジオール（E2） 妊婦	血清 0.5	A	冷蔵	CLIA法	下記参照	3～4	(167) 生化Ⅱ	妊娠の有無、妊娠週数をご記入下さい。 M	【高値】エストロゲン産生腫瘍（卵巣顆粒膜細胞腫・卵巣莢膜細胞腫）・卵巣過剰刺激症候群（OHSS）・先天性副腎皮質過形成・肝疾患・多胎妊娠 【低値】卵巣機能低下（不全症）・卵巣低（無）形成（Turner症候群）・早発閉経（POF）・低ゴナドトロピン症（Sheehan症候群・Simmonds症候群・Chiari-Frommel症候群）・神経性食欲不振症・胎盤サルファターゼ欠損症・胎盤機能不全
	0422（4F025）	エストラジオール（E2） 非妊婦	血清 0.5	A	冷蔵	CLIA法	下記参照	1～2			
	0432（4F045）	プロゲステロン（P）	血清 0.5	A	冷蔵	ECLIA法	下記参照	2～4	(143) 生化Ⅱ	妊娠の有無、妊娠週数をご記入下さい。 F	【高値】先天性副腎皮質過形成・クッシング症候群・副腎癌 【低値】アジソン病・汎下垂体機能低下症・卵巣機能低下症・無月経・排卵異常
	0433（4F055）	プレグナンジオール（P2）	蓄尿 2.0	U1	冷蔵	LC-MS/MS法	M 0.12～0.93 F 卵胞期 0.16～1.28 黄体期 0.69～4.70 閉経後 1.00以下 mg/day	6～8	(213) 生化Ⅱ	蓄尿時は冷暗所に保管して下さい。（保存剤による影響はありません。） M	【高値】先天性副腎皮質過形成・クッシング症候群・多発性卵胞嚢胞・妊娠・胞状奇胎・本態性高血圧症の一部 【低値】下垂体機能低下症・副腎性腺機能低下症・絨毛性腫瘍
	0434（4F060）	プレグナントリオール（P3）	蓄尿 2.0	U1	冷蔵	LC-MS/MS法	M 0.25～1.48 F 卵胞期 0.07～1.24 黄体期 0.25～1.58 閉経後 1.00以下 mg/day	6～8	(232) 生化Ⅱ	蓄尿時は冷暗所に保管して下さい。（保存剤による影響はありません。） M	【高値】先天性副腎皮質過形成・副腎男性化腫瘍・クッシング症候群・多嚢胞性卵巣症候群・妊娠 【低値】下垂体機能低下症・副腎性腺機能低下症
	0435（4F065）	テストステロン	血清 0.5	A	冷蔵	ECLIA法	M 1.31～8.71 F 0.11～0.47 ng/mL	1～2	(119) 生化Ⅱ		【高値】（男性）精巣間質細胞腫・特発性性早熟症（女性）男性仮性半陰陽（睾丸性女性化症候群）・副腎性器症候群・男性化卵巣腫瘍・多嚢胞性卵巣症候群 【低値】精巣機能不全症・無精巣症・男性不妊症
	2746（4F070）	遊離テストステロン	血清 0.3	A	凍結	RIA・固相法	下記参照	3～6	(159) 生化Ⅱ	午前中に採血してください。 B	【高値】異常男性化症状（副腎・卵巣腫瘍等による多毛症・月経異常） 【低値】原発性精巣機能低下症、低ゴナドトロピン性精巣機能不全症

(　) 患者から１回に採取した血液を用いて3項目以上行った場合は、所定点数にかかわらず、検査の項目数に応じて次に掲げる点数により算定する。
3～5項目（410点） 6～7項目（623点） 8項目以上（900点）

エストラジオール（E_2）基準範囲（pg/mL）

男性		20～60
非妊婦	卵胞期	35～169
	排卵期	49～427
	黄体期	53～191
	閉経期	10～40
妊婦	前期	780～16,600
	中期	1,150～36,600
	後期	5,450～44,900

遊離テストステロン 基準範囲（pg/mL）

年齢（歳）	男性	女性
20～29	7.6～23.8	0.4～2.3
30～39	6.5～17.7	0.6～2.5
40～49	4.7～21.6	0.3～1.8
50～59	4.6～19.6	0.8～1.7
60～69	5.3～11.5	
70以上	4.6～16.9	

プロゲステロン 基準範囲（ng/mL）

男性		0.2以下
非妊婦	卵胞期	0.3以下
	排卵期	5.7以下
	黄体期	2.1～24.2
	閉経期	0.3以下

内分泌学的検査

	項目コード（統一コード）	検査項目	◆1 検体量（mL）	容器	◆2 保存条件	検査方法	基準範囲	所要日数	実施料 判断料	備考	検査目的及び異常値を示す主な疾患名
性腺・胎盤関連検査	0445（4F080）	妊娠試験（HCG定性）	部分尿 5.0	U1	冷蔵	イムノクロマトグラフィー法	（－）	1～2	55 生化Ⅱ ①	新鮮尿をご提出して下さい。	
	0437（4F080）	HCG定量（ヒト絨毛性ゴナドトロピン）	血清 0.5	A	冷蔵	ECLIA法	下記参照	2～4	(130) 生化Ⅱ ①	妊娠の有無、妊娠週数をご記入下さい。 F	【高値】妊娠・胞状奇胎・絨毛癌・異所性HCG産生腫瘍（睾丸腫瘍・卵巣癌・子宮癌・膵癌・胃癌） 【低値】切迫流産・子宮外妊娠・胎児死亡
	0438（4F080）		部分尿 1.0	U1							
	0439（4F090）	遊離HCG-β（HCG-βサブユニット）	血清 0.3	A	冷蔵	CLIA法	1.00未満 ng/mL	3～4	(129) 生化Ⅱ ①②	M	【高値】胞状奇胎・絨毛癌・異所性絨毛上皮腫・睾丸腫瘍・その他のHCG産生腫瘍（卵巣癌、膵癌など）・妊娠 【低値】低値側の臨床的意義は少ない
	0776（4F100）	抗ミュラー管ホルモン（AMH）	血清 0.5	A	冷蔵	CLEIA法	下記参照	3～5	597 生化Ⅱ ③	S	【高値】多嚢胞性卵巣症候群（PCOS） 【低値】閉経後（卵巣の老化の評価）
	2977（3B200）	子宮頸管粘液中顆粒球エラスターゼ	子宮頸管粘液	Q17	凍結	ラテックス凝集免疫法	1.60以下 μg/mL	3～5	116 尿・糞便 ④	採取方法:39ページ参照 S	【陽性】絨毛羊膜炎・頸管炎・腟炎
	2741（5C111）	ヒト癌胎児性フィブロネクチン	腟分泌物	Q11	凍結	ELISA法	（－）	3～5	204 免疫 ⑤	採取方法:39ページ参照 S	【陽性】破水（前期破水・切迫流産・早産）

患者から1回に採取した血液を用いて3項目以上行った場合は、所定点数にかかわらず、検査の項目数に応じて次に掲げる点数により算定する。
3～5項目（410点） 6～7項目（623点） 8項目以上（900点）

①ヒト絨毛性ゴナドトロピン-βサブユニット（HCG-β）、ヒト絨毛性ゴナドトロピン（HCG）定性、ヒト絨毛性ゴナドトロピン（HCG）定量又は同半定量を併せて実施した場合は、主たるもの1つに限り算定する。

②ヒト絨毛性ゴナドトロピン-βサブユニット（HCG-β）は、HCG産生腫瘍患者に対して測定した場合に限り算定できる。

③抗ミュラー管ホルモン（AMH）は、不妊症の患者に対して、卵巣の機能の評価及び治療方針の決定を目的として、血清又は血漿を検体としてEIA法、CLEIA法又はECLIA法により測定した場合に、6月に1回に限り算定できる。

④顆粒球エラスターゼ（子宮頸管粘液）は、絨毛羊膜炎の診断のために妊娠満22週以上満37週未満の妊婦で切迫早産の疑いがある者に対して行った場合に算定する。

⑤癌胎児性フィブロネクチン定性（頸管腟分泌液）は、破水の診断のために妊娠満22週以上満37週未満の者を対象として測定した場合又は切迫早産の診断のために妊娠満22週以上満33週未満の者を対象として測定した場合のみ算定する。

HCG定量 基準範囲（mIU/mL）

		血中	尿中
男性		2.0以下	2.0以下
非妊婦		2.0以下	2.0以下
妊婦（参考値）	～6週	2,700～87,200	7～62,600
	7～10週	6,700～201,500	4～373,000
	11～20週	8,700～72,200	3,100～277,900
	21～30週	4,300～50,500	300～44,500
	31～40週	5,400～79,000	300～44,500

抗ミュラー管ホルモン（AMH）基準範囲（ng/mL）

女性	22～25歳	0.28～8.01
	26～30歳	0.29～12.2
	31～35歳	0.07～10.0
	36～40歳	9.23以下
	41～45歳	4.48以下

内分泌学的検査

◆1【検体量】は、当社での分離後（血清・血漿）の量です。
◆2【保存条件】は、当社での保存条件です。

	項目コード（統一コード）	検査項目	◆1 検体量（mL）	容器	◆2 保存条件	検査方法	基準範囲	所要日数	実施料判断料	備考	検査目的及び異常値を示す主な疾患名
そ	0477（4Z010）	レニン活性（PRA）	血漿 0.6	E1	凍結	EIA法	臥位 0.2～2.3 座位 0.2～3.9 立位 0.2～4.1 ng/mL/hr	4～5	100 生化Ⅱ ①	溶血により低値傾向を示します。 M	【高値】（高血圧を呈する）傍糸球体細胞腫・腎血管性高血圧・悪性高血圧（血圧正常か低下）Bartter症候群・Addison病・下痢、利尿剤の乱用・妊娠 【低値】（高血圧を呈する）原発性アルドステロン症・本態性高血圧の一部（血圧正常か低下）糖尿病性腎症の一部・腎摘出・重症肝硬変の一部
	2669（4Z020）	レニン定量（ARC）	血漿 0.5	E1	凍結	CLEIA法	2.21～39.49 pg/mL	3～8	102 生化Ⅱ ①	J	【高値】傍糸球体細胞腫・腎血管性高血圧症・悪性高血圧症・褐色細胞腫・Bartter症候群・Addison病・21-水酸化酵素欠損症・ナトリウム喪失性腎炎・尿崩症・甲状腺機能亢進症 【低値】原発性アルドステロン症・本態性高血圧症の一部・17α-水酸化酵素欠損症・11β-水酸化酸素欠損症・腎摘出
の	0483（4Z275）	エリスロポエチン	血清 0.7	A	冷蔵	CLEIA法	4.2～23.7 mIU/mL	3～4	(209) 生化Ⅱ ②	M	【高値】二次性赤血球増加症・再生不良性貧血・エリスロポエチン産生腫瘍・腎疾患・心肺疾患 【低値】真性多血症・腎透析・腎性貧血
	2651（4Z315）	肝細胞増殖因子（HGF）	血清 0.5	A	凍結	EIA法	0.39以下 ng/mL	5～13	227 生化Ⅰ ③	J	【高値】劇症肝炎・亜急性肝炎・遅発性肝不全・急性肝炎・肝硬変・肝癌・腎移植術後・慢性腎不全・肺炎・白血病・妊娠初期
	2160（4Z401）	アディポネクチン	血清 0.4	A	凍結	LA（ラテックス凝集比濁法）	4.0以上 μg/mL	3～6		M	【低値】肥満・高血圧・糖尿病・腎機能障害・冠動脈疾患・心筋梗塞の発症
他	0484（4Z255）	サイクリックAMP	血漿 0.3	E1	凍結	RIA法	11～21 pmol/mL	要確認	(165) 生化Ⅱ	J	【高値】副甲状腺機能亢進症・甲状腺機能亢進症・心筋梗塞・心不全・肝硬変・閉塞性黄疸・腎不全・躁うつ病 【低値】副甲状腺機能低下症・甲状腺機能低下症・アルコール依存者・高Ca血症
	2042（4Z255）		蓄尿 1.0	U1	凍結		1.8～6.3 μmol/day	要確認			

(209) 患者から1回に採取した血液を用いて3項目以上行った場合は、所定点数にかかわらず、検査の項目数に応じて次に掲げる点数により算定する。
3～5項目（410点） 6～7項目（623点） 8項目以上（900点）

①レニン活性とレニン定量を併せて行った場合は、一方の所定点数のみ算定する。

②エリスロポエチンは、以下のいずれかの目的で行った場合に算定する。
ア 赤血球増加症の鑑別診断
イ 重度の慢性腎不全患者又はエリスロポエチン、ダルベポエチン、エポエチンベータペゴル若しくはHIF-PH阻害薬投与前の透析患者における腎性貧血の診断
ウ 骨髄異形成症候群に伴う貧血の治療方針の決定

③肝細胞増殖因子（HGF）はELISA法により、肝炎にて劇症化が疑われる場合又は劇症肝炎の経過観察に用いた場合に限り算定する。

◆1【検体量】は、当社での分離後（血清・血漿）の量です。
◆2【保存条件】は、当社での保存条件です。

	項目コード（統一コード）	検査項目	◆1 検体量（mL）	容器	◆2 保存条件	検査方法	基準範囲	所要日数	実施料判断料	備考	検査目的及び異常値を示す主な疾患名
その他	0482（4Z270）	h-ANP（ヒト心房性Na利尿ペプチド）	血漿 0.5	E2	凍結	CLEIA法	43.0以下 pg/mL	1～2	(221) 生化Ⅱ ①③	溶血により低値傾向を示します。	【高値】急性心不全・慢性心不全・うっ血性心不全・本態性高血圧・腎不全・心筋梗塞 【低値】尿崩症・甲状腺機能低下症・脱水・食塩摂取制限時
	2914（4Z271）	BNP（ヒト脳性Na利尿ペプチド）	血漿 0.5	E1	冷蔵	CLEIA法	18.4以下 pg/mL	1～2	(130) 生化Ⅱ ①②③	溶血により低値傾向を示します。	【高値】心不全 ※心筋梗塞・慢性腎不全・高血圧でも高値になるが、レセプトでは「心不全」の病態把握のみ算定できる。
	2593（4Z272）	NT-proBNP（ヒト脳性Na利尿ペプチド前駆体N端フラグメント）	血清 0.4	A	冷蔵	ECLIA法	125以下（心不全除外診断のカットオフ値） pg/mL	1～2	(136) 生化Ⅱ ①③④		【高値】急性心不全・慢性心不全

(　) 患者から1回に採取した血液を用いて3項目以上行った場合は、所定点数にかかわらず、検査の項目数に応じて次に掲げる点数により算定する。
3～5項目（410点） 6～7項目（623点） 8項目以上（900点）

①心房性Na利尿ペプチド（ANP）、脳性Na利尿ペプチド前駆体N端フラグメント（NT-proBNP）及び脳性Na利尿ペプチド（BNP）のうち2項目以上をいずれかの検査を行った日から起算して1週間以内に併せて実施した場合は、主たるもの1つに限り算定する。

②脳性Na利尿ペプチド（BNP）は、心不全の診断又は病態把握のために実施した場合に月1回に限り算定する。

③脳性Na利尿ペプチド（BNP）、脳性Na利尿ペプチド前駆体N端フラグメント（NT-proBNP）及び心房性Na利尿ペプチド（ANP）のうち2項目以上を実施した場合は、各々の検査の実施日を診療報酬明細書の摘要欄に記載する。

④脳性Na利尿ペプチド前駆体N端フラグメント（NT-proBNP）は、心不全の診断又は病態把握のために実施した場合に月1回に限り算定する。

BNP/NT-proBNPのカットオフ値

BNP（pg/mL）	NT-proBNP（pg/mL）	解釈
0～18.4	0～55	心不全の可能性は極めて低い
18.4～35	55～125	心不全の可能性は低いが可能ならば経過観察
35～100	125～300	前心不全（心臓機能障害があるが心不全症状/徴候がない）または心不全の可能性がある
100～200	300～900	心不全の可能性が高い
200～	900～	近い将来心不全悪化による入院などの必要性が生じる高リスク心不全である可能性が高い

内分泌学的検査

●検体採取方法

ヒト癌胎児性フィブロネクチン

採　取　方　法

①専用綿棒を後腟円蓋に挿入し、約10秒間回して分泌物を吸収させます。

※腟表面を強くこすらないでください。
※粘液は混入させないでください。

②検体抽出容器の白色キャップをはずし、分泌液を吸収させた綿棒を浸けて、5回程度綿棒を回します。（この際、容器から液がこぼれないよう注意してください。）

③

綿棒を検体抽出容器から引き抜きます。

④

検体抽出容器に検体濾過フィルターを取り付けます。

⑤

検体抽出液の全量を検体保存チューブに滴下し、チューブの蓋を締めて必ず凍結保存してください。

●注意事項

- 検体の採取は腟洗浄前に行ってください。
- 検体中に精液が混入しているときは、その検体は使用しないでください。
- 検体中に0.1%以上の血液混入が認められた場合、正確な結果が得られない可能性があります。
- 検体は後腟円蓋から採取してください。
- 腟表面を強くこすらないように注意してください。

子宮頸管粘液中 顆粒球エラスターゼ

採　取　方　法

正しい採取部位

子宮腟部の粘液を綿球で丁寧に拭い取ります。

↓

綿球を子宮頸管内腔に挿入します。注3）

↓

綿棒をゆっくりと2回転させ、頸管粘液を採取します。注4）

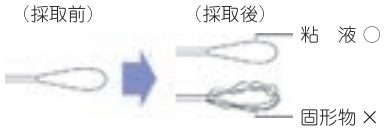
●注意事項

1）子宮頸管部より採取してください。

2）検体採取は腟部洗浄前に行ってください。

3）綿棒が外子宮口周辺の分泌物や粘液に接触しないようにしてください。綿棒の先が初めて接触する部分が頸管内腔であるように挿入してください。

4）綿棒1回転あたり約5秒をかけ、自然に粘液を浸み込ませるようにしてください。少量の固形物が付着した場合には、接子等で取り除いてください。



5）採取した検体は15分以内に抽出作業を行ってください。

［ご注意］

検体採取時に無理な力が掛かりますと、綿棒が折れる可能性がありますので十分ご注意ください。

抽　出　方　法

①

抽出液の入った抽出容器の青色キャップをはずします。

②

頸管粘液を採取した綿棒を浸けて、2～3分間放置します。その後、綿棒を20～30回細かく上下させて検体を抽出します。

③

綿棒に浸み込んだ検体抽出液を抽出容器ごと指で押しつぶす等して絞り出した後、綿棒を取り除きます。

④

フィルターをセットします。

⑤

検体抽出液を検体保存容器へ濾過します。この時の加圧は1回のみとし、5～7滴（約300μL）を分取します。
必要量が得られない場合は検体採取からやり直してください。
検体保存容器に白色キャップをして保存します。冷蔵（8℃）で3日以内、冷凍（－15℃以下）で3カ月以内に測定してください。

◆1【検体量】は、当社での分離後（血清・血漿）の量です。
◆2【保存条件】は、当社での保存条件です。

	項目コード（統一コード）	検査項目	◆1 検体量（mL）	容器	◆2 保存条件	検査方法	基準範囲（有効治療濃度）	所要日数	実施料判断料	採血時間	備考（製品名）
抗てんかん剤	0281 (3L175)	フェノバルビタール	血清 0.3	A2又はA	冷蔵	ラテックス凝集比濁法	15.0～40.0 μg/mL	1～2	㊨	次回投与直前（Trough濃度）	フェノバール ワコビタール ルミナール
	0282 (3L190)	プリミドン	血清 0.3	A2又はA	冷蔵	EIA法	5.0～12.0 μg/mL	3～5	㊨	次回投与直前（Trough濃度）	プリミドン プリムロン S
	0283 (3L185)	フェニトイン	血清 0.3	A2又はA	冷蔵	ラテックス凝集比濁法	10.0～20.0 μg/mL	1～2	㊨	経口：次回投与直前（Trough濃度） 静注：投与後2～4時間	アレビアチン ヒダントール
	0284 (3L115)	カルバマゼピン	血清 0.3	A2又はA	冷蔵	ラテックス凝集比濁法	4.0～10.0 μg/mL	1～2	㊨	次回投与直前（Trough濃度）	テグレトール テレスミン レキシン
	0285 (3L135)	エトスクシミド	血清 0.5	A2又はA	冷蔵	EIA法	40.0～100.0 μg/mL	3～5	㊨	次回投与直前（Trough濃度）	エピレオプチマル ザロンチン S
	0286 (3L195)	バルプロ酸	血清 0.3	A2又はA	冷蔵	ラテックス凝集比濁法	50.0～100.0 μg/mL	1～2	㊨	次回投与直前（Trough濃度）	デパケン セレニカR バレリン ハイセレニン
	2040 (3L210)	ゾニサミド	血清 0.3	A2又はA	冷蔵	ラテックス凝集法	Trough 10～30 μg/mL	3～4	㊨	次回投与直前（Trough濃度）	エクセグラン トレリーフ M
	2500 (3L205)	トリメタジオン	血清 0.5	A2又はA	凍結	LC-MS/MS法	300～500 μg/mL（活性代謝物のジメタジオンを測定）	5～11	㊨	次回投与直前（Trough濃度）	ミノアレ M
	0287 (3L125)	クロナゼパム	血清 0.5	A2又はA	冷蔵	LC-MS/MS法	10～70 ng/mL	4～5	㊨	次回投与直前（Trough濃度）	ランドセン リボトリール M
	2235 (3L950)	アセタゾラミド	血清 0.3	A2又はA	冷蔵	HPLC法	μg/mL	6～12	㊨		ダイアモックス M

㊨ 特定薬剤治療管理料１（46ページ参照）

採血容器についての注意事項

薬物検査においては、分離剤無し（A2）の容器をご使用下さい。稀に分離剤入り（A）の容器では、測定値に影響を及ぼす場合があります。

薬物分析検査

◆1【検体量】は、当社での分離後（血清・血漿）の量です。
◆2【保存条件】は、当社での保存条件です。

	項目コード（統一コード）	検査項目	◆1 検体量（mL）	容器	◆2 保存条件	検査方法	基準範囲（有効治療濃度）	所要日数	実施料判断料	採血時間	備考（製品名）
抗てんかん剤	0288（3L165）	ニトラゼパム	血清 0.3	A2又はA	冷蔵	LC-MS/MS法	20～200 ng/mL	4～6	㊨	次回投与直前（Trough濃度）〔ただし、抗てんかん剤として用いる場合〕	ベンザリン ネルボン S
	0289（3L130）	ジアゼパム	血清 0.5	A2又はA	冷蔵	HPLC法	ジアゼパム 600～1000 ng/mL（N-デスメチルジアゼパムを併せて報告）	4～7	㊨		セルシン ホリゾン ジアパックス ダイアップ S
	2086（3L200）	スルチアム	血清 1.0	A2又はA	凍結	HPLC法	μg/mL	9～16	㊨		オスポロット S
	0330（3L215）	ガバペンチン	血漿 0.3	H2	冷蔵	LC-MS/MS法	μg/mL	4～6	㊨		ガバペン錠 S
	2705（3L145）	クロバザム	血清 0.5	A2又はA	冷蔵	LC-MS/MS法	Trough クロバザム 30～300 デスメチル クロバザム 300～3000 ng/mL	4～5	㊨	次回投与直前（Trough濃度）	マイスタン M
	1174（3L220）	ラモトリギン	血漿 0.3	H2	冷蔵	LC-MS/MS法	2.5～15 μg/mL	4～6	㊨	次回投与直前（Trough濃度）	ラミクタール S
	0316（3L225）	トピラマート	血清 0.3	A2又はA	冷蔵	LC-MS/MS法	Trough 5～20 μg/mL	4～5	㊨	次回投与直前（Trough濃度）	トピナ M
	2598（3L230）	レベチラセタム	血清 0.3	A2又はA	冷蔵	LC-MS/MS法	Trough 12～46 μg/mL	4～5	㊨	次回投与直前（Trough濃度）	イーケプラ M
	7726（3L245）	ペランパネル	血漿 0.3	E1	冷蔵	LC-MS/MS法	ng/mL	4～5	㊨		フィコンパ M
	7725（3L248）	ラコサミド	血漿 0.3	E1	冷蔵	LC-MS/MS法	μg/mL	4～5	㊨	次回投与直前（Trough濃度）	ビムパット M

㊨ 特定薬剤治療管理料１（46ページ参照）

採血容器についての注意事項

薬物検査においては、分離剤無し（A2）の容器をご使用下さい。稀に分離剤入り（A）の容器では、測定値に影響を及ぼす場合があります。

◆1【検体量】は、当社での分離後（血清・血漿）の量です。
◆2【保存条件】は、当社での保存条件です。

	項目コード（統一コード）	検査項目	◆1 検体量（mL）	容器	◆2 保存条件	検査方法	基準範囲（有効治療濃度）	所要日数	実施料判断料	採血時間	備考（製品名）
不整脈用剤	0297（3L890）	プロカインアミド	血清 0.4	A2又はA	冷蔵	EIA法	4.0～10.0 μg/mL	3～5	㊨	次回投与直前（Trough濃度）	アミサリン S
	0299（3L895）	プロプラノロール	血清 0.3	A2又はA	冷蔵	HPLC法	50～100 ng/mL	5～18		次回投与直前（Trough濃度）	インデラル ソラシロール S
	0294（3L875）	リドカイン	血清 0.3	A2又はA	冷蔵	EIA法	1.2～5.0 μg/mL	3～5	㊨	静注：投与後2時間 点滴静注：6～12時間	キシロカイン オリベス S
	0296（3L865）	ジソピラミド	血清 0.3	A2又はA	冷蔵	EIA法	2.0～5.0 μg/mL	3～5	㊨	次回投与直前（Trough濃度）	リスモダン ノルペース カフィール リスラミドR S
	0295（3L900）	キニジン	血清 0.4	A2又はA	冷蔵	KIMS法	2.0～6.0 μg/mL	3～9	㊨	次回投与直前（Trough濃度）	硫酸キニジン S
	0340（3L855）	アプリンジン	血清 0.3	A2又はA	冷蔵	LC-MS/MS法	0.25～1.25 μg/mL	4～6	㊨	経口：次回投与直前（Trough濃度） 投与後2～4時間（Peak濃度） 静注：次回投与直前（Trough濃度）	アスペノン S
	2012（3L905）	フレカイニド	血清 0.3	A2又はA	冷蔵	LC-MS/MS法	200～1000 ng/mL	4～6	㊨	次回投与直前（Trough濃度）	タンボコール S
	2316（3L880）	メキシレチン	血清 0.5	A2又はA	冷蔵	LC-MS/MS法	0.5～2.0 μg/mL	4～5	㊨	経口：次回投与直前（Trough濃度） 静注：随時	メキシチール M
	2670（3L899）	ピルメノール	血漿 1.3	H2	冷蔵	HPLC法	400.0以上 ng/mL	4～10	㊨	随時	ピメノール S

㊨特定薬剤治療管理料１（46ページ参照）

採血容器についての注意事項

薬物検査においては、分離剤無し（A2）の容器をご使用下さい。稀に分離剤入り（A）の容器では、測定値に影響を及ぼす場合があります。

薬物分析検査

◆1【検体量】は、当社での分離後（血清・血漿）の量です。
◆2【保存条件】は、当社での保存条件です。

	項目コード（統一コード）	検査項目	◆1 検体量（mL）	容器	◆2 保存条件	検査方法	基準範囲（有効治療濃度）	所要日数	実施料判断料	採血時間	備考（製品名）
不整脈用剤	2237（3L800）	アミオダロン	血漿 0.3	H2	冷蔵	LC-MS/MS法	ng/mL	4～6	㊖	次回投与直前（Trough濃度）	アンカロン S
	2948（3L896）	ピルシカイニド	血清 0.5	A2又はA	冷蔵	LC-MS/MS法	0.2～0.9 μg/mL	4～5	㊖	次回投与直前（Trough濃度）	サンリズム M
	2549（3L898）	シベンゾリン	血清 0.3	A2又はA	冷蔵	LC-MS/MS法	Trough 70～250 ng/mL	4～6	㊖	朝投与直前（Trough濃度）	シベノール S
			血漿 0.3	H2							
	1367（3L802）	ベプリジル	血漿 0.3	E1	冷蔵	LC-MS/MS法	250～800 ng/mL	4～5	㊖		ベプリコール M
	0359（3L897）	プロパフェノン	血清 0.3	A2又はA	冷蔵	LC-MS/MS法	ng/mL	6～10	㊖		プロノン J
強心剤	0292（3L765）	ジゴキシン	血清 0.3	A2又はA	冷蔵	ラテックス凝集比濁法	0.8～2.0 ng/mL	1～2	㊖	投与後6時間～次回投与直前	ジゴキシン ジゴシン
気管支拡張剤	0291（3M070）	テオフィリン	血清 0.3	A2又はA	冷蔵	ラテックス凝集比濁法	8.0～20.0 μg/mL	1～2	㊖	下記参照（*1）	テオドール テオロング ユニフィル スロービッド
抗真菌剤	2645（3M698）	ボリコナゾール	血漿 0.3	H2	冷蔵	LC-MS/MS法	μg/mL	4～6	㊖		ブイフェンド S

㊖ 特定薬剤治療管理料１（46ページ参照）

（*1）【採血時間】
速放性製剤：投与直前（Trough濃度）および投与後2時間（Peak濃度）
徐放性製剤：投与直前（Trough濃度）および投与後4時間（Peak濃度）
点滴静注：投与直前（Trough濃度）および投与後30分（Peak濃度）
持続静注：投与後4～6時間およびその後12～24時間ごと

採血容器についての注意事項

薬物検査においては、分離剤無し（A2）の容器をご使用下さい。稀に分離剤入り（A）の容器では、測定値に影響を及ぼす場合があります。

薬物分析検査

	項目コード（統一コード）	検査項目	◆1 検体量（mL）	容器	◆2 保存条件	検査方法	基準範囲（有効治療濃度）	所要日数	実施料判断料	採血時間	備考（製品名）
抗生物質	0300（3M606）	ゲンタマイシン	血清 0.3	A2又はA	冷蔵	EIA法	Peak 4.0～10.0 Trough 2.0以下 μg/mL	2～3	㊨	点滴開始1時間後（30分で投与した場合、終了30分後）（Peak濃度） 投与前30分以内（Trough濃度）	ゲンタシン エルタシン
	0305（3M601）	アミカシン	血清 0.3	A2又はA	冷蔵	KIMS法	Peak 50～60 Trough 4未満 μg/mL	3～4	㊨		ビクリン アミカマイシン 〔アルベカシンとの交差反応があるのでご注意ください〕 M
	0304（3M602）	トブラマイシン	血清 0.3	A2又はA	冷蔵	HEIA法	Peak 15～20 Trough 1未満 μg/mL	3～4	㊨		トブラシン M
	1620（3M613）	アルベカシン	血清 0.3	A2又はA	冷蔵	LA（ラテックス凝集比濁法）	Peak 15～20 Trough 1～2未満 μg/mL	3～4	㊨		ハベカシン M
	2255（3M530）	バンコマイシン	血清 0.5	A2又はA	冷蔵	CLIA法	Trough 10.0～15.0 μg/mL	1～2	㊨	投与前30分以内（Trough濃度）	塩酸バンコマイシン
	0301（3M532）	テイコプラニン	血清 0.3	A2又はA	冷蔵	ラテックス凝集比濁法	Trough 15～30 μg/mL	3～5	㊨		タゴシッド S
免疫抑制剤	2350（3M805）	シクロスポリン	血液 0.5	B	冷蔵	CLIA法	ng/mL	2～3	㊨	次回投与直前（Trough濃度）	サンディミュン ネオーラル 重複依頼不可
	2748（3M810）	タクロリムス	血液 0.5	B	冷蔵	CLIA法	ng/mL	2～3	㊨		プログラフ グラセプター 重複依頼不可
	2304（3M815）	エベロリムス	血液 1.0	E1	冷蔵	ECLIA法	免疫抑制剤としてシクロスポリンと併用した場合 3～8 抗悪性腫瘍剤として使用した場合 5～15 ng/mL	3～4	㊨	次回投与直前（Trough濃度）	サーティカン アフィニトール シロリムス投与歴がある患者検体は検査不可 ヘパリン加全血不可 M
	2305（3M816）	ミコフェノール酸	血漿 0.3	E1	冷蔵	LC-MS/MS法	μg/mL	4～5	㊨		セレセプト M

㊨ 特定薬剤治療管理料１（46ページ参照）

採血容器についての注意事項

薬物検査においては、分離剤無し（A2）の容器をご使用下さい。稀に分離剤入り（A）の容器では、測定値に影響を及ぼす場合があります。

薬物分析検査

◆1【検体量】は、当社での分離後（血清・血漿）の量です。
◆2【保存条件】は、当社での保存条件です。

	項目コード（統一コード）	検査項目	◆1 検体量（mL）	容器	◆2 保存条件	検査方法	基準範囲（有効治療濃度）	所要日数	実施料判断料	採血時間	備考（製品名）
精神神経用剤	0290（3L320）	リチウム	血清 0.3	A2又はA	冷蔵	キレート法	0.6～1.2 mEq/L	1～2	㊖	最終投与後12時間又は早朝投与前（Trough濃度）	リーマス リチオマール
	0339（3L300）	ハロペリドール〈1〉	血清 0.4	A2又はA	冷蔵	EIA法（CEDIA）	3～17 ng/mL	3～4	㊖	次回投与直前（Trough濃度）	セレネース リントン ハロステン ネオペリドール ハロマンス M
	2749（3L302）	ブロムペリドール〈1〉	血清 0.4	A2又はA	冷蔵	EIA法（CEDIA）	15以下 ng/mL	3～4	㊖	次回投与直前（Trough濃度）	インプロメン ルナプロン M
	1472（3L304）	クロザピン	血清 0.3	A2又はA	冷蔵	LC-MS/MS法	〔クロザピン デスメチルクロザピン の各定量値の報告〕 ng/mL	4～5	㊖		クロザリル M
	0338（3L265）	クロルプロマジン	血清 1.0	A2又はA	凍結	LC-MS/MS法	30～350 ng/mL	5～7			ウインタミン コントミン M
	7453（3L315）	レボメプロマジン	血清 1.0	A2又はA	凍結	LC-MS/MS法	ng/mL	5～7			レボトミン M
その他	0310（3M205）	サリチル酸	血清 0.3	A2又はA	冷蔵	酵素法	抗リウマチ薬として 150～300 μg/mL	3～4	㊖	次回投与直前（Trough濃度）	アスピリン バファリン ハフトロン ヘパルス サルソニン M
	2156（3L005）	アセトアミノフェン	血清 0.4	A2又はA	冷蔵	EIA法	（中毒域） 4時間 200.1以上 8時間 100.1以上 12時間 50.1以上 μg/mL	3～9	180 生化Ⅰ ①		アセトアミノフェン ピリナジン ナパ カロナール S
	0309（3M725）	メトトレキサート	血清 0.5	A2又はA	冷蔵	ホモジニアスエンザイムイムノアッセイ法	（中毒域） 24時間後 10.00以上 48時間後 1.00以上 72時間後 0.10以上 μmol/L	1～2	㊖	ロイコボリン救援療法時 24、48、72時間後	メソトレキセート
	1335（3M750）	イマチニブ	血漿 0.3	E1	冷蔵	LC-MS/MS法	ng/mL	4～7	㊖	服用後24時間±2時間後（Trough濃度）	グリベック M

㊖特定薬剤治療管理料１（46ページ参照）

〈1〉ハロペリドールとブロムペリドールは、ほぼ同等の交差反応を示すため、双方を併用されている患者検体の測定値は、各々の正確な血中濃度値とは合致しませんので、ご注意下さい。

①アセトアミノフェンは、同一の患者につき１月以内に2回以上行った場合は、第１回目の測定を行ったときに１回に限り算定する。

採血容器についての注意事項

薬物検査においては、分離剤無し（A2）の容器をご使用下さい。稀に分離剤入り（A）の容器では、測定値に影響を及ぼす場合があります。

◆特定薬剤治療管理料1

＊弊社で扱っていない検査項目も掲載しています。

薬剤名	検査項目	特定薬剤治療管理料 1～3ヵ月	特定薬剤治療管理料 4ヵ月以降	加算点（初回月）	備考
ジギタリス製剤（心疾患）	ジゴキシン	470点	235点	280点（薬剤の投与を行った初回月のみ算定）	ジギタリス製剤の急速飽和を行った場合又はてんかん重積状態の患者に対して、抗てんかん剤の注射等を行った場合は、所定点数（470点）にかかわらず、1回に限り740点を算定する。 ＊1 てんかんの患者であって、2種類以上の抗てんかん剤を投与されているものについて、同一暦月に血中の複数の抗てんかん剤の濃度を測定し、その測定結果に基づき、個々の投与量を精密に管理した場合は、当該管理を行った月において、2回に限り所定点数を算定できる。
抗てんかん剤（てんかん＊1）	フェノバルビタール プリミドン フェニトイン カルバマゼピン エトスクシミド バルプロ酸 ゾニサミド トリメタジオン クロナゼパム ニトラゼパム ジアゼパム アセタゾラミド スルチアム ガバペンチン クロバザム ラモトリギン トピラマート レベチラセタム ペランパネル ラコサミド スチリペントール ルフィナミド	470点	470点		
テオフィリン製剤（備考参照）	テオフィリン	470点	235点		気管支喘息、喘息性（様）気管支炎、慢性気管支炎、肺気腫又は未熟児無呼吸発作
アミノ配糖体抗生物質〈入院中〉	ゲンタマイシン トブラマイシン アミカシン アルベカシン	470点	235点		＊2 入院中の患者であって、バンコマイシンを投与しているものに対して、血中のバンコマイシンの濃度を複数回測定し、その測定結果に基づき、投与量を精密に管理した場合は、1回に限り、530点を所定点数に加算する。
グリコペプチド系抗生物質〈入院中〉	バンコマイシン＊2 テイコプラニン	470点	235点		
トリアゾール系抗真菌剤〈入院中〉 重症又は難治性真菌感染症又は造血幹細胞移植（深在性真菌症の予防を目的とするもに限る）	ボリコナゾール	470点	235点		
不整脈用剤（不整脈）	プロカインアミド リドカイン ジソピラミド キニジン アプリンジン フレカイニド メキシレチン ピルメノール アミオダロン ピルシカイニド シベンゾリン ベプリジル プロパフェノン ソタロール	470点	235点		
ハロペリドール製剤 **ブロムペリドール製剤**（総合失調症）	ハロペリドール ブロムペリドール	470点	235点		
リチウム製剤（躁うつ病）	炭酸リチウム	470点	235点		
バルプロ酸ナトリウム **カルバマゼピン**（躁うつ病または躁病）	バルプロ酸 カルバマゼピン	470点	470点		
免疫抑制剤（臓器移植後）	シクロスポリン タクロリムス エベロリムス ミコフェノール酸	470点	470点	2740点（臓器移植を行った月から3月以内）	臓器移植後の患者でミコフェノール酸モフェチルまたはエベロリムスを含む2種類以上の免疫抑制剤を投与する場合、ミコフェノール酸モフェチルは6月に1回に限り250点、エベロリムスは初回投与を行った月を含め3月に限り月1回、4月目以降は4月に1回に限り250点を所定点数に加算する。
免疫抑制剤（備考参照）	シクロスポリン	470点	470点	280点（薬剤の投与を行った初回月のみ算定）	ベーチェット病の患者であって活動性・難治性眼症状を有するもの又はその他の非感染性ぶどう膜炎（既存治療で効果不十分で、視力低下のおそれのある活動性の中間部または後部の非感染性ぶどう膜炎に限る。）、再生不良性貧血、赤芽球癆、尋常性乾癬、膿疱性乾癬、乾癬性紅皮症、関節症性乾癬、全身型重症無力症、アトピー性皮膚炎（既存治療で十分な効果が得られない患者に限る。）、ネフローゼ症候群若しくは川崎病の急性期の患者
免疫抑制剤（備考参照）	タクロリムス	470点	470点		全身型重症筋無力症、関節リウマチ、ループス腎炎、潰瘍性大腸炎又は間質性肺炎（多発性筋炎または皮膚筋炎に合併するものに限る）
サリチル酸系製剤（備考参照）	サリチル酸	470点	235点		若年性関節リウマチ、リウマチ熱又は慢性関節リウマチ
メトトレキサート（悪性腫瘍）	メトトレキサート	470点	235点		
バルプロ酸ナトリウム（片頭痛）	バルプロ酸	470点	235点		
イマチニブ	イマチニブ	470点	235点		
エベロリムス（結節性硬化症）	エベロリムス	470点	235点		
シロリムス製剤（リンパ脈管筋腫症）	シロリムス	470点	235点		
スニチニブ（抗悪性腫瘍剤）（腎細胞癌）	スニチニブ	470点	235点		
治療抵抗性統合失調症治療薬（統合失調症）	クロザピン	470点	235点		

血清学的検査

◆1【検体量】は、当社での分離後（血清・血漿）の量です。
◆2【保存条件】は、当社での保存条件です。

	項目コード（統一コード）	検査項目	◆1 検体量（mL）	容器	◆2 保存条件	検査方法	基準範囲	所要日数	実施料判断料	備考	検査目的及び異常値を示す主な疾患名
感染症関連検査	0622（5E035）	ASO（抗ストレプトリジンO抗体）	血清 0.3	A	冷蔵	ラテックス比濁法	160以下 U/mL	1～2	15 免疫		【高値】A群溶連菌感染症(リウマチ熱・急性糸体腎炎・猩紅熱・丹毒・急性扁桃腺炎・血管性紫斑症など) 【非特異的上昇として】 ウイルス肝炎・閉塞性黄疸・ネフローゼ症候群・結核など
	0653（5E074）	梅毒定性 RPR法	血清 0.2	A	冷蔵	ラテックス凝集法	（－）	1～2	15 免疫 ①		【陽性】梅毒
	0656（5E075）	梅毒定性 TPHA法	血清 0.3	A	冷蔵	ラテックス凝集法	（－）	1～2	32 免疫		
	1358（5E079）	梅毒定性 FTA-ABS	血清 0.2	A	冷蔵	蛍光抗体法	（－）	4～5	134 免疫	B	
	2020（5E080）	梅毒定性 IgM FTA-ABS	血清 0.3	A	冷蔵	蛍光抗体法	（－）	4～5		B	
	0657（5E074）	梅毒定量 RPR法	血清 0.3	A	冷蔵	ラテックス凝集法	1.0未満 R.U.	1～2	34 免疫 ①		
	0660（5E075）	梅毒定量 TPHA法	血清 0.3	A	冷蔵	ラテックス凝集法	10.0未満 T.U.	1～2	53 免疫		
	0661（5E079）	梅毒定量 FTA-ABS	血清 0.2	A	冷蔵	蛍光抗体法	20未満 倍	4～5	134 免疫	B	
	2114（5E080）	梅毒定量 IgM FTA-ABS	血清 0.3	A	冷蔵	蛍光抗体法	20未満 倍	4～8		B	

①梅毒血清反応（STS）定性、梅毒血清反応（STS）半定量及び梅毒血清反応（STS）定量は、従来の梅毒沈降反応（ガラス板法、VDRL法、RPR法、凝集法等）をいい、梅毒血清反応（STS）定性、梅毒血清反応（STS）半定量及び梅毒血清反応（STS）定量ごとに梅毒沈降反応を併せて2種類以上ずつ行った場合でも、それぞれ主たるもののみ算定する。

血清学的検査

	項目コード（統一コード）	検査項目	◆1 検体量（mL）	容器	◆2 保存条件	検査方法	基準範囲	所要日数	実施料判断料	備考	検査目的及び異常値を示す主な疾患名
感染症関連検査	2448（5E065）	ヘリコバクターピロリ抗体	血清 0.3	A	冷蔵	LA法	10.0未満 U/mL	1～2	80 免疫 ①		【高値・陽性】ヘリコバクターピロリ菌感染症（胃潰瘍・十二指腸潰瘍・慢性胃炎）
	1975（5E065）	尿中ヘリコバクターピロリ抗体	部分尿 2.0	U1	冷蔵	EIA法	（－）	4～7	70 免疫 ①	B	
	2773（5E068）	便中ヘリコバクターピロリ抗原	糞便	KH	冷蔵	EIA法	（－）	3～5	142 免疫 ①②	採取方法: 69ページ参照 B	
	2710（6Z100）	尿素呼気試験	呼気 250CC	Z9A	室温	IR法（赤外分光分析）	2.5未満 ‰	1～2	70 微生物 ①	採取方法: 69ページ参照	
	0627（5E105）	寒冷凝集反応	血清 0.5	A	室温	赤血球凝集反応	32以下 倍	2～3	11 免疫	採血後、冷蔵保存は避けて下さい。	【陽性】寒冷型自己免疫性溶血性貧血・悪性リンパ種・マイコプラズマ肺炎・伝染性単核球症・肝硬変
	0628（5E106）	マイコプラズマ抗体	血清 0.5	A	冷蔵	PA法	40未満 倍	1～2	32 免疫		【高値】マイコプラズマ肺炎・上気道炎・気管支炎・異型肺炎
	1048（5E106）		血清 0.3	A	冷蔵	CF法	4未満 倍	4～6		J	
	2067（6B616）	マイコプラズマ・ニューモニエ核酸同定	咽頭・鼻咽頭ぬぐい液	U16	冷蔵	LAMP法	（－）	1～2	291 微生物	採取容器: 161ページ参照	
	0028（5E069）	抗MAC抗体（抗酸菌抗体定性）	血清 0.2	A	冷蔵	EIA法	抗体濃度 0.7未満 判　定 （－） U/mL	4～7	116 免疫 ③	M	【高値】非結核性抗酸菌（Mycobacterium avium complex症）

①ヘリコバクター・ピロリ感染診断の保険診療上の取扱いについては「ヘリコバクター・ピロリ感染の診断及び治療に関する取扱いについて」（平成12年10月31日 保険発第180号）に即して行うこと。

②ヘリコバクター・ピロリ抗原定性は、EIA法又は免疫クロマト法により測定した場合に限り算定できる。

③抗酸菌抗体定量又は同定性は、金コロイド免疫測定法又はEIA法により実施した場合に算定する。

ヘリコバクターピロリ菌感染の診断及び治療に関する取扱い

［対象患者］①内視鏡検査又は造影検査において胃潰瘍又は十二指腸潰瘍の確定診断がなされた患者
②胃MALTリンパ腫の患者
③特発性血小板減少性紫斑病の患者
④早期胃癌に対する内視鏡的治療後の患者
⑤内視鏡検査において胃炎の確定診断がなされた患者

血清学的検査

◆1【検体量】は、当社での分離後（血清・血漿）の量です。
◆2【保存条件】は、当社での保存条件です。

	項目コード（統一コード）	検査項目	◆1 検体量（mL）	容器	◆2 保存条件	検査方法	基準範囲	所要日数	実施料判断料	備考	検査目的及び異常値を示す主な疾患名
感染症関連検査	2937（5E148）	アスペルギルス抗原	血清 0.7	A	冷蔵	EIA（ELISA）法	Cut off index 判定 0.5未満 （－） 0.5以上 （＋）	5～8	157 免疫 ①④	J	【高値】アスペルギルス感染症
	2528（5E146）	アスペルギルス抗体IgG	血清 0.3	A	冷蔵	ELISA法	5.0未満 （－） AU/mL	3～5		判定基準：下記参照 S	
	0793（5E142）	カンジダマンナン抗原	血清 0.4	A	冷蔵	EIA法	0.05未満 U/mL	3～6	134 免疫 ②④	フィブリン除去時に竹串を使用すると、高値傾向を示す場合があります。 B	【陽性】カンジダ感染症
	2119（5E140）	クリプトコッカス抗原	血清 0.8	A	冷蔵	ラテックス凝集反応	（－）	5～8	169 免疫 ④	J	【陽性】クリプトコッカス感染症
	9109（5E151）	（1→3）β-D-グルカン	血液 3.0	S	冷蔵	比濁時間分析法	11.0未満 pg/mL	1～2	195 免疫 ③④		【高値】カンジダ、クリプトコッカス、アスペルギルスをはじめとする深在性真菌感染症（低値側の臨床的意義は少ない）
	9117（5E046）	エンドトキシン定量	血液 3.0	S	冷蔵	比濁時間分析法	5.0未満 pg/mL	1～2	229 免疫		【高値】グラム陰性桿菌感染症・敗血症
	0020（5C215）	プロカルシトニン	血清 0.5	A	冷蔵	CLEIA法	0.05以下 ng/mL	1～2	276 生化Ⅰ ⑤		【高値】敗血症（細菌性）・全身性炎症反応を示す細菌感染症（腹膜炎・広範軟部組織感染症）・多臓器機能不全症候群（MODS）・全身性真菌感染症（candida,aspergillus）・寄生虫感染症（malaria）・急性呼吸窮迫症候群（ARDS）・膵炎（胆管性）・細菌性髄膜炎・新生児敗血症・大手術（食道切除術など）
	0946（5E154）	抗トリコスポロンアサヒ抗体	血清 0.3	A	凍結	Antigen-captured ELISA	0.15未満 CAI	8～15	822 免疫 ⑥	判定基準：下記参照 S	【高値】夏型過敏性肺炎

①アスペルギルス抗原はLA法又はELISA法により、侵襲性肺アスペルギルス症の診断のために実施した場合にのみ算定できる。

②カンジダ抗原定性、半定量又は定量は、カンジダ血症又はカンジダ肺炎の診断の目的で行った場合に算定する。

③（1→3）-β-D-グルカンは、発色合成基質法、比濁時間分析法又はELISA法により、深在性真菌感染症が疑われる患者に対する治療法の選択又は深在性真菌感染症に対する治療効果の判定に使用した場合に算定する。

④（1→3）-β-D-グルカンをカンジダ抗原定性、同半定量、同定量、アスペルギルス抗原、D-アラビニトール、クリプトコックス抗原半定量又はクリプトコックス抗原定性と併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

⑤プロカルシトニン（PCT）定量又は同半定量は、敗血症（細菌性）を疑う患者を対象として測定した場合に算定できる。ただし、エンドトキシンを併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

⑥抗トリコスポロン・アサヒ抗体は、ELISA法により、夏型過敏性肺炎の鑑別診断を目的として測定した場合に算定できる。なお、鑑別診断目的の対象患者は、厚生省特定疾患びまん性肺炎疾患調査研究班による「過敏性肺炎の診断の手引と診断基準」により、夏型過敏性肺炎が疑われる患者とする。

アスペルギルス抗体IgG　判定基準

判　定	抗体価（AU/mL）
（－）	5.0未満
（±）	5.0～9.9
（＋）	10以上

抗トリコスポロン・アサヒ抗体 判定基準

判　定	CAI（Corrected Absorbance Index）＊
（－）	0.15未満
（±）	0.15～0.30未満
（＋）	0.30以上

＊CAI（Corrected Absorbance Index）：補正吸光度

血清学的検査

	項目コード（統一コード）	検査項目		◆1 検体量（mL）	容器	◆2 保存条件	検査方法	基準範囲	所要日数	実施料判断料	備考	検査目的及び異常値を示す主な疾患名
感染症関連検査	0630（5E156）	トキソプラズマ	IgG抗体	血清 0.3	A	冷蔵	CLIA法	1.6未満 IU/mL	1～2	93 免疫	判定基準：下記参照	【高値】トキソプラズマ感染症
	0631（5E157）		IgM抗体	血清 0.3				0.83未満 S/CO		95 免疫		
	2383（5E125）	ツツガ虫カトー	IgG抗体	血清 0.2	A	冷蔵	FA法	10未満 倍	5～10	203 免疫 ①	J	
	2384（5E126）		IgM抗体	血清 0.2				10未満 倍				
	2405（5E122）	ツツガ虫カープ	IgG抗体	血清 0.2	A	冷蔵	FA法	10未満 倍	5～10	203 免疫 ①	J	【陽性】リケッチア・ツツガムシ感染症
	2406（5E123）		IgM抗体	血清 0.2				10未満 倍				
	2407（5E128）	ツツガ虫ギリアム	IgG抗体	血清 0.2	A	冷蔵	FA法	10未満 倍	5～10	203 免疫 ①	J	
	2408（5E129）		IgM抗体	血清 0.2				10未満 倍				

① ツツガムシ抗体半定量又は同定性は、各株ごとに算定する。

トキソプラズマ抗体 判定基準

判定	IgG（IU/mL）	IgM（S/CO）
(－)	1.6未満	0.83未満
(±)	1.6～2.9	0.83～0.99
(＋)	3.0以上	1.00以上

血清学的検査

◆1【検体量】は、当社での分離後（血清・血漿）の量です。
◆2【保存条件】は、当社での保存条件です。

	項目コード（統一コード）	検査項目	◆1 検体量（mL）	容器	◆2 保存条件	検査方法	基準範囲	所要日数	実施料判断料	備考	検査目的及び異常値を示す主な疾患名
感染症関連検査	2442（5E054）	百日咳抗体	血清 0.3	A	冷蔵	EIA法	PT-IgG 10未満 FHA-IgG 10未満 EU/mL	4～6	257 免疫	PT（百日咳毒素） FHA（繊維状赤血球凝集素） 診断基準：52ページ参照 M	【高値】百日咳菌感染症・百日咳のワクチンの抗体確認
	1693（5E101）	百日咳抗体 IgA	血清 0.5	A	冷蔵	EIA法	8.5未満 （－）	3～6	80 免疫	判定基準：下記参照 B	【陽性】百日咳菌感染症
	1694（5E102）	百日咳抗体 IgM	血清 0.5								
	7722（6B636）	百日咳菌核酸検出	後鼻腔ぬぐい液	U17	冷蔵	LAMP法	（－）	3～5	360 微生物	採取容器：161ページ参照	
	1340（5E056）	尿中レジオネラ抗原	部分尿 1.0	U2	冷蔵	免疫イムノクロマトグラフィー法	（－）	1～2	205 免疫 ①		【高値・陽性】レジオネラ感染症
	1341（5E041）	尿中肺炎球菌莢膜抗原	部分尿 1.0	U2	冷蔵	免疫イムノクロマトグラフィー法	（－）	1～2	188 免疫 ②		【陽性】肺炎球菌による呼吸器系疾患
	2259（6B614）	ニューモシスチス カリニDNA（P.jirovecii）	喀痰 2.0	T8	凍結	PCR法	（－）	4～6		他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに十分ご注意ください。 S	【高値】ニューモシスチス肺炎（カリニ肺炎）
			肺胞洗浄液 0.7	U2							
			胸水 0.7								
			組織 50mg								

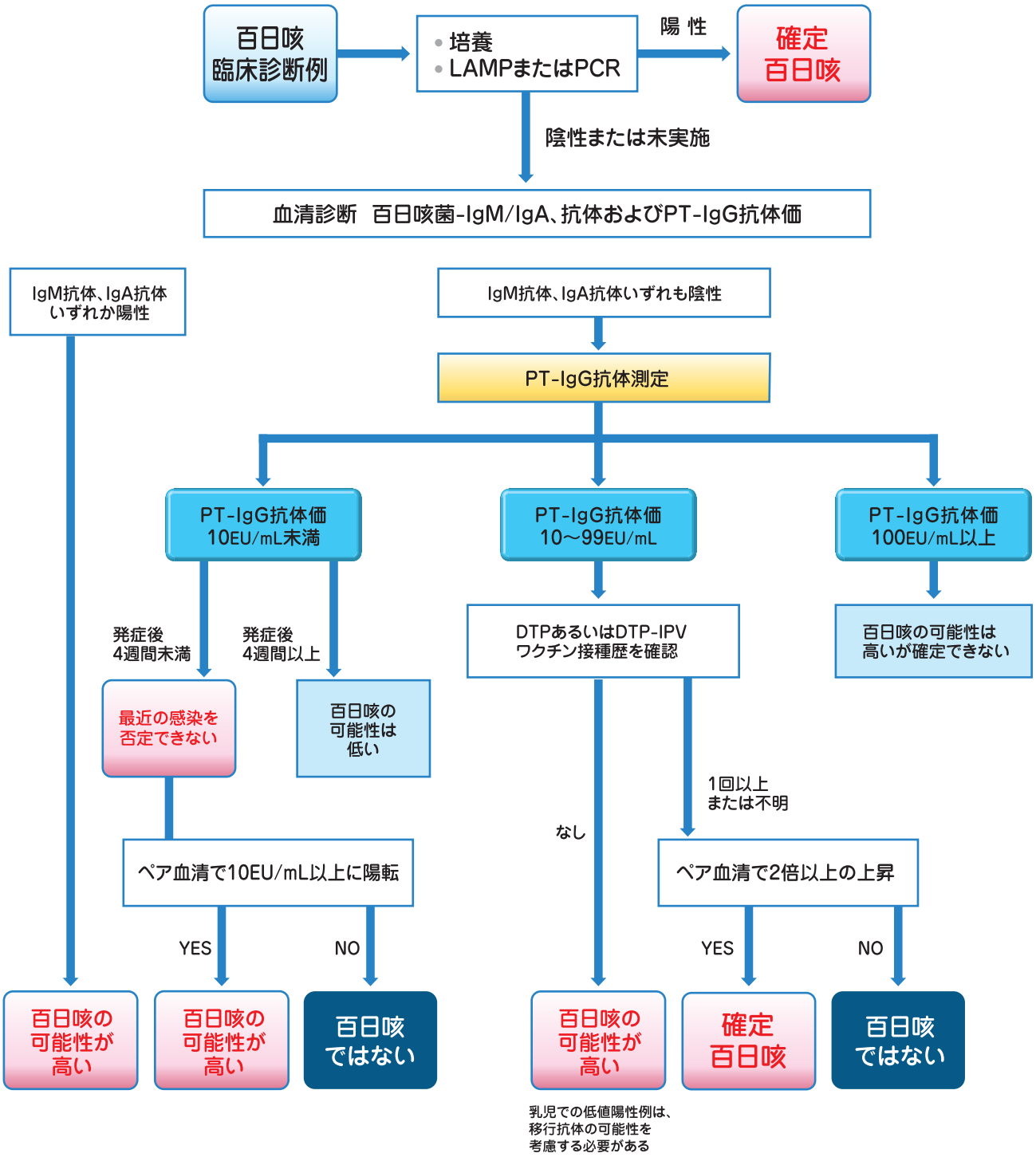
①レジオネラ抗原定性（尿）は、症状や所見からレジオネラ症が疑われる患者に対して、ELISA法又は免疫クロマト法により実施した場合に限り1回を限度として算定する。

②肺炎球菌莢膜抗原定性（尿・髄液）は、免疫クロマト法により実施した場合に限り算定できる。

百日咳抗体IgA、IgM　判定基準

判定	NTU値
(－)	8.5未満
(±)	8.5～11.5
(＋)	11.5を超える

百日咳臨床診断例での確定フローチャート



（文献26, 27より引用）

血清学的検査

◆1【検体量】は、当社での分離後（血清・血漿）の量です。
◆2【保存条件】は、当社での保存条件です。

	項目コード（統一コード）	検査項目	◆1 検体量（mL）	容器	◆2 保存条件	検査方法	基準範囲	所要日数	実施料判断料	備考	検査目的及び異常値を示す主な疾患名
感染症関連検査	0246（5E031）	クラミドフィラ（クラミジア）ニューモニエ抗体 IgG	血清 0.4	A	冷蔵	EIA法	EIU：30未満 判定：（－）	4～7	70 免疫①	判定基準：下記参照	【高値】肺炎クラミジア感染症
	0247（5E032）	クラミドフィラ（クラミジア）ニューモニエ抗体 IgA	血清 0.4	A	冷蔵	EIA法	EIU：8未満 判定：（－）	4～7	75 免疫①	判定基準：下記参照	【高値】肺炎クラミジア感染症
	0260（5E033）	クラミドフィラ（クラミジア）ニューモニエ抗体 IgM	血清 0.4	A	冷蔵	EIA法	0.5未満（－） S/CO	3～6	152 免疫①	B	【高値】肺炎クラミジア感染症
	2169（5E027）	クラミドフィラ（クラミジア）シッタシ IgG	血清 0.2	A	冷蔵	FA法	10未満 倍	4～10		S	【高値】クラミジア・シッタシ感染症
	2168（5E028）	クラミドフィラ（クラミジア）シッタシ IgM	血清 0.2								
	1031（5E026）	オーム病クラミドフィラ（クラミジアシッタシ）	血清 0.3	A	冷蔵	CF法	4未満 倍	5～7	79 免疫②	下記参照：＊CF S	【高値】オーム病・クラミジアシッタシ感染症
	2318（5E018）	クラミジアトラコマチス抗体 IgG	血清 0.2	A	冷蔵	EIA法	0.90未満（－）	3～5	200 免疫③	判定基準：下記参照 S	【高値】クラミジアトラコマチス感染症・非リン菌性尿道炎・子宮頸管炎・垂直感染の新生児結膜炎
	2321（5E017）	クラミジアトラコマチス抗体 IgA	血清 0.2								

①クラミドフィラ・ニューモニエIgM抗体を、クラミドフィラ・ニューモニエIgG抗体又はクラミドフィラ・ニューモニエIgA抗体と併せて実施した場合は、主たるもの1つに限り算定する。

②ウイルス抗体価（定性・半定量・定量）（1項目当たり）100ページを参照して下さい。

③グロブリンクラス別クラミジア・トラコマチス抗体は、クラミジア・トラコマチス抗原検出不能又は検体採取の困難な疾患（骨盤内感染症、卵管炎、副睾丸炎、新生児・乳児肺炎等）の診断に際し、IgG抗体価又はIgA抗体価を測定した場合又は新生児・乳幼児肺炎の診断に際し、IgM抗体価を測定した場合に算定する。IgG抗体価、IgA抗体価及びIgM抗体価のうち2項目以上を同時に測定した場合は、主たるもののみ算定する。

※CF（補体結合反応）：補体結合反応におきましては抗補体作用がみられ、測定不能になる場合がありますので、抗凝固剤を入れずに採血して速やかに血清分離し冷蔵保存してください。

クラミドフィラ（クラミジア）ニューモニエ抗体 判定基準

判定	IgG（EIU）	IgA（EIU）	IgM（S/CO）
（－）	30未満	8未満	0.5未満
（±）	30～45	8～12	0.5～1.1
（＋）	45を超える	12を超える	1.1を超える

クラミジアトラコマチス抗体 判定基準

判定	IgG	IgA
（－）	0.90未満	0.90未満
（±）＊	0.90～1.09	0.90～1.09
（＋）	1.10以上	1.10以上

＊10日以降に採血した血清による再検査をお勧めいたします。

	項目コード（統一コード）	検査項目	検体量（mL）	容器	◆2 保存条件	検査方法	基準範囲	所要日数	実施料判断料	備考	検査目的及び異常値を示す主な疾患名
感染症関連検査	1791（5E021） 1945（5E021）	クラミジア・トラコマチス核酸検出PCR	尿道 子宮頸部 咽頭 男子初尿 5.0 うがい液 5.0	Q12 Q12 U18 U8	冷蔵	PCR法	（－）	2～3	188 微生物 ①	採取方法：70ページ参照 採取容器：157・160ページ参照	【陽性】クラミジアトラコマチス感染症・非リン菌性尿道炎・子宮頸管炎・垂直感染の新生児結膜炎
	1792（6B610） 1946（6B610）	淋菌核酸検出PCR	尿道 子宮頸部 咽頭 男子初尿 5.0 うがい液 5.0	Q12 Q12 U18 U8	冷蔵	PCR法	（－）	2～3	198 微生物 ②	採取方法：70ページ参照 採取容器：157・160ページ参照	【陽性】淋菌感染症
	1793（6B615） 1947（6B615）	淋菌及びクラミジア・トラコマチス同時核酸検出PCR	尿道 子宮頸部 咽頭 男子初尿 5.0 うがい液 5.0	Q12 Q12 U18 U8	冷蔵	PCR法	淋菌　（－） クラミジア　（－）	2～3	262 微生物 ③④	採取方法：70ページ参照 採取容器：157・160ページ参照	【陽性】クラミジアトラコマチス感染症・淋菌感染症
	7848（6B643）	トリコモナス／マイコプラズマ・ジェニタリウム同時核酸検出	ぬぐい液 初尿 4.5	Q15 U19	冷蔵	ロシュ・リアルタイムPCR法	トリコモナス　検出せず マイコプラズマ・ジェニタリウム　検出せず	3～4	350 微生物 ⑤	採取容器：157・161ページ参照	【陽性】トリコモナス感染症・マイコプラズマ・ジェニタリウム感染症

① クラミジア・トラコマチス核酸検出とクラミジア・トラコマチス抗原定性を併用した場合は、主なもののみ算定できます。
クラミジア・トラコマチス核酸検出は、泌尿器、生殖器又は咽頭からの検体により実施した場合に限り算定できる。

② 淋菌核酸検出、淋菌抗原定性又は細菌培養同定検査（淋菌感染を疑って実施するもの）を併せて実施した場合は、主なもののみ算定する。
淋菌核酸検出は、泌尿器、生殖器又は咽頭からの検体（尿検体も含む。）により実施した場合に算定できます。

③ 淋菌及びクラミジア・トラコマチス同時核酸検出は、クラミジア・トラコマチス感染症若しくは淋菌感染症が疑われる患者又はクラミジア・トラコマチスと淋菌による重複感染が疑われる患者であって、臨床所見、問診又はその他の検査による病原微生物鑑別が困難なものに対して治療法選択のために実施した場合及びクラミジア・トラコマチスと淋菌の重複感染者に対して治療効果判定に実施した場合に算定できる。ただし、クラミジア・トラコマチス抗原定性、淋菌抗原定性、細菌培養同定検査（淋菌及びクラミジアによる感染を疑って実施するもの）、クラミジア・トラコマチス核酸検出又は淋菌核酸検出を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

④ 淋菌及びクラミジア・トラコマチス同時核酸検出は、泌尿器、生殖器又は咽頭からの検体（尿検体を含む。）により実施した場合に算定できます。

⑤ 膣トリコモナス感染症を疑う患者であって、鏡検が陰性又は実施できないもの若しくはマイコプラズマ・ジェニタリウム感染症を疑う患者に対して、治療法の選択を目的として行った場合。
膣トリコモナス感染症はマイコプラズマ・ジェニタリウム感染症の患者に対して治療効果判定を目的として実施した場合。

血清学的検査

◆1【検体量】は、当社での分離後（血清・血漿）の量です。
◆2【保存条件】は、当社での保存条件です。

	項目コード（統一コード）	検査項目	◆1 検体量（mL）	容器	◆2 保存条件	検査方法	基準範囲	所要日数	実施料判断料	備考	検査目的及び異常値を示す主な疾患名
自己免疫関連検査	2129（5G160）	リウマチ因子定量（RF）	血清 0.3	A	冷蔵	ラテックス比濁法	15以下 IU/mL	1～2	30 免疫 ①②		【高値】慢性関節リウマチ・SLE・強皮症・慢性肝炎・シェーグレーン症候群
	0684（5G166）	抗ガラクトース欠損IgG抗体（CARF）	血清 0.3	A	冷蔵	ECLIA法	6.0未満 AU/mL	3～5	111 免疫 ①②④	S	【高値】慢性関節リウマチ（早期リウマチの陽性率が高い）
	2707（3B503）	MMP-3（マトリックスメタロプロテイナーゼ-3）	血清 0.5	A	冷蔵	ラテックス比濁法	M 36.9～121.0 F 17.3 ～59.7 ng/mL	1～2	116 免疫 ①④		【高値】慢性関節リウマチ（滑膜増殖の程度及び関節破壊の予後予測マーカーとして有用）・SLE・強皮症
	2329（5G161）	IgG型リウマチ因子	血清 0.6	A	冷蔵	EIA法	（IgG-RF index） 2.0未満 （－）	3～5	198 免疫 ①④	B	【高値】関節リウマチ・SLE
	2461（5G167）	抗CCP抗体（抗シトルリン化ペプチド抗体）	血清 0.3	A	冷蔵	CLIA法	4.5未満 U/mL	1～2	193 免疫 ③④		【高値】慢性関節リウマチ（早期）
	2679（5G635）	免疫複合体（モノクローナルRF）	血清 0.2	A	凍結	EIA法	4.2未満 μg/mL	3～9	194 免疫 ①④	S	【高値】紫斑病・自己免疫疾患・急性糸球体腎炎・ウイルス性感染症・IgA腎症・膠原病
	0672（5G821）	抗アクアポリン4抗体	血清 0.4	A	凍結	ELISA法	3.0未満 U/mL	3～9	1000 免疫 ⑤	S	【陽性】視神経脊髄炎

①リウマトイド因子（RF）定量、抗ガラクトース欠損IgG抗体定性、同定量、マトリックスメタロプロテイナーゼ-3（MMP-3）、C1q結合免疫複合体、モノクローナルRF結合免疫複合体及びIgG型リウマトイド因子のうち3項目以上を併せて実施した場合には、主たるもの2つに限り算定する。

②抗ガラクトース欠損IgG抗体定性、同定量は、ECLIA法又はレクチン酵素免疫測定法による。なお、リウマトイド因子（RF）定量を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

③抗シトルリン化ペプチド抗体定性又は同定量は、以下のいずれかの場合に算定できる。

（イ）関節リウマチと確定診断できない者に対して診断の補助として検査を行った場合に、原則として1回を限度として算定できる。ただし、当該検査結果が陰性の場合においては、3月に1回に限り算定できる。なお、当該検査を2回以上算定するに当たっては、検査値を診療報酬明細書の摘要欄に記載する。

（ロ）（イ）とは別に、関節リウマチに対する治療薬の選択のために行う場合においては、患者1人につき原則として1回に限り算定する。ただし、臨床症状・検査所見等の変化を踏まえ、再度治療薬を選択する必要がある場合においては、6月に1回に限り算定できる。
なお、当該検査を2回以上算定するに当たっては、その医学的な必要性を診療報酬明細書の摘要欄に記載する。

④抗シトルリン化ペプチド抗体定性、同定量、抗ガラクトース欠損IgG抗体定性、同定量、マトリックスメタロプロテイナーゼ-3（MMP-3）、C1q結合免疫複合体、モノクローナルRF結合免疫複合体及びIgG型リウマトイド因子のうち2項目以上を併せて実施した場合には、主たるもの1つに限り算定する。

⑤抗アクアポリン4抗体は、ELISA法により視神経脊髄炎の診断（治療効果判定を除く。）を目的として測定した場合に算定できる。なお、当該検査の結果は陰性であったが、臨床症状・検査所見等の変化を踏まえ、視神経脊髄炎が強く疑われる患者に対して、疾患の診断を行う必要があり、当該検査を再度実施した場合においても算定できる。ただし、この場合、前回の検査実施日及び検査を再度実施する医学的な必要性について診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。

リウマチ検査のフローチャート

【問診・身体所見】
①単関節か多関節か　②炎症性か非炎症性か　③自発痛か運動痛か　④発症の仕方や症状

関節痛

【関節炎基本検査】
CBC・CRP・RF・TP・AST・ALT・AL-P・γ-GT・CK・CRE・UA・Na・K・Cl・蛋白分画・尿一般

リウマチの疑い

【診察のための検査と診断基準】
（日本リウマチ学会の早期RA診断基準）
①3関節以上の圧痛または他動関節痛　②2関節以上の腫張　③朝のこわばり　④リウマトイド結節
⑤赤沈20mm以上の高値又はCRP陽性　⑥RF陽性（6項目中、3項目以上）

RF（リウマトイド因子）

■検査タイミング　3～6ヶ月

陰性

リウマチが強く疑われる場合

抗CCP抗体

■検査タイミング　3ヶ月

または

抗ガラクトース欠損 IgG（CARF）

■検査タイミング　3～6ヶ月

陰性

他の自己免疫検査を実施
■抗核抗体→膠原病→自己抗体検査で特定
■血清補体価CH_{50}（低値）→C_3・C_4→
リウマチ（正常）、SLE（低値）

陽性

陽性

リウマチの確定

炎症の診断

CRP定量

■検査タイミング　2～3ヶ月

MMP-3

■検査タイミング　3ヶ月

または

血清アミロイドA蛋白（SAA）

■検査タイミング　3～6ヶ月■CRPとの併用不可

経過観察
■治療効果　RFの数値低下（抗CCP抗体は2012年4月より、関節リウマチの治療薬選択時、患者1人につき1回に限り算定出来ることになりました。）
■炎症状態
①CRP定量・MMP-3の低下または、②SAAで確認する。

血清学的検査

◆1【検体量】は、当社での分離後（血清・血漿）の量です。
◆2【保存条件】は、当社での保存条件です。

	項目コード（統一コード）	検査項目		◆1 検体量（mL）	容器	◆2 保存条件	検査方法	基準範囲	所要日数	実施料判断料	備考	検査目的及び異常値を示す主な疾患名
自己免疫関連検査	0665（5G010）	抗核抗体（ANA）		血清 0.5	A	冷蔵	FA法	40未満 倍	2～4	99 免疫		【陽性】全身性エリテマトーデス（SLE）・進行性全身性強皮症・混合性結合組織病・オーバーラップ症候群・シェーグレン症候群・CREST症候群・原発性胆汁性肝硬変症・多発性筋炎・皮膚筋炎・薬剤誘発性ループス
	0667（5G020）	抗DNA抗体		血清 0.3	A	冷蔵	RIA・硫安法	6.0以下 IU/mL	3～4	159 免疫	B	【陽性高値】SLE 【陽性低値】進行性全身性強皮症（PSS）・シェーグレン症候群・混合性結合組織病・重複症候群
	0670（5G036）	抗ds-DNA抗体	IgG	血清 0.4	A	冷蔵	CLEIA法	12.0以下 IU/mL	3～4	159 免疫	M	【陽性】SLE
	0671（5G038）		IgM	血清 0.3			ELISA法	6未満 U/mL	3～9		S	
	0668（5G026）	抗ss-DNA抗体	IgG	血清 0.4	A	冷蔵	CLEIA法	25.0以下 AU/mL	3～4	159 免疫	M	【陽性】SLE・混合性結合組織病（MCTD）・強皮症・シェーグレン症候群・関節リウマチ・自己免疫性肝炎・慢性活動性肝炎・その他
	0669（5G028）		IgM	血清 0.3			ELISA法	17未満 U/mL	3～9		S	
	0676（5G066）	抗RNP抗体		血清 0.5	A	冷蔵	オクタロニー法	（－） 倍	4～6	(144) 免疫	S	【陽性】混合性結合組織病（MCTD）・SLE・多発性筋炎（PM）・皮膚筋炎（DM）・シェーグレン症候群
	2735（5G066）			血清 0.3			FEIA法	（－）3.5未満 （±）3.5以上～5.0以下 （＋）5.0を超える U/mL	3～4		B	
	0677（5G065）	抗Sm抗体		血清 0.5	A	冷蔵	オクタロニー法	（－） 倍	4～6	(147) 免疫	S	【陽性】SLE・強皮症・シェーグレン症候群（膠原病の他疾患では検出されることはまれである。）
	2736（5G065）			血清 0.3			FEIA法	（－）7.0未満 （±）7.0以上～10.0以下 （＋）10.0を超える U/mL	3～4		B	

(144)(147) 患者から1回に採取した血液を用いて2項目または3項目以上行った場合は、所定点数にかかわらず、検査の項目数に応じて次に掲げる点数により算定する。 2項目（320点）3項目以上（490点）

血清学的検査

	項目コード（統一コード）	検査項目	◆1 検体量（mL）	容器	◆2 保存条件	検査方法	基準範囲	所要日数	実施料判断料	備考	検査目的及び異常値を示す主な疾患名
自己免疫関連検査	0738（5G026）	抗SS-A/Ro抗体	血清 0.5	A	冷蔵	オクタロニー法	（－）倍	4～6	(161) 免疫	S	【陽性】シェーグレン症候群・SLE・強皮症・多発性筋炎・皮膚筋炎・慢性関節リウマチ
	2737（5G076）		血清 0.3			FEIA法	（－）7.0未満 （±）7.0以上～10.0以下 （＋）10.0を超える U/mL	3～4		B	
	0739（5G077）	抗SS-B/La抗体	血清 0.5	A	冷蔵	オクタロニー法	（－）倍	4～6	(157) 免疫	S	【陽性】シェーグレン症候群・SLE・強皮症・多発性筋炎・皮膚筋炎・慢性関節リウマチ
	2738（5G077）		血清 0.3			FEIA法	（－）7.0未満 （±）7.0以上～10.0以下 （＋）10.0を超える U/mL	3～4		B	
	1877（5G085）	抗Scl-70抗体	血清 0.5	A	冷蔵	オクタロニー法	（－）倍	4～6	(157) 免疫	S	【陽性】全身性進行性強皮症
	2739（5G085）		血清 0.3			FEIA法	（－）7.0未満 （±）7.0以上～10.0以下 （＋）10.0を超える U/mL	3～4		B	
	1880（5G120）	抗Jo-1抗体	血清 0.3	A	冷蔵	オクタロニー法	（－）倍	4～6	(140) 免疫 ①	S	【陽性】多発性筋炎（PM）・皮膚筋炎（DM）
	2181（5G120）		血清 0.3			FEIA法	（－）7.0未満 （±）7.0以上～10.0以下 （＋）10.0を超える U/mL	3～4		B	
	2127（5G121）	抗ARS抗体	血清 0.2	A	冷蔵	EIA法	（－） index 25.0未満	3～5	(190) 免疫 ①	B	【高値】多発性筋炎（PM）・皮膚筋炎（DM）・間質性肺炎

(140) 患者から1回に採取した血液を用いて2項目又は3項目以上行った場合は、所定点数にかかわらず、検査項目に応じて次に掲げる点数により算定する。2項目（320点）3項目以上（490点）

① 抗ARS抗体と抗Jo-1抗体定性、同半定量又は同定量を併せて実施した場合は主たるもののみ算定する。

血清学的検査

◆1【検体量】は、当社での分離後（血清・血漿）の量です。
◆2【保存条件】は、当社での保存条件です。

	項目コード（統一コード）	検査項目	◆1 検体量（mL）	容器	◆2 保存条件	検査方法	基準範囲	所要日数	実施料判断料	備考	検査目的及び異常値を示す主な疾患名
自己免疫関連検査	7714（5G122）	抗MDA5抗体	血清 0.2	A	冷蔵	EIA法	（－） index 32未満	3～6	(270) 免疫 ①	B	【高値】多発性筋炎・皮膚筋炎
	7716（5G123）	抗Mi-2抗体	血清 0.2	A	冷蔵	EIA法	（－） index 53未満	3～9	(270) 免疫 ①	B	【高値】多発性筋炎・皮膚筋炎
	7718（5G124）	抗TIF1-γ抗体	血清 0.2	A	冷蔵	EIA法	（－） index 32未満	3～9	(270) 免疫 ①	B	【高値】皮膚筋炎（DM）
	1876（5G090）	抗セントロメア抗体	血清 0.4	A	冷蔵	CLEIA法	10.0未満 U/mL	3～4	174 免疫 ②	M	【陽性】原発性胆汁性肝硬変・重複症状のない強皮症（CREST症候群・scleroderma）・レイノー病
	1221（5G087）	抗RNAポリメラーゼⅢ抗体	血清 0.3	A	凍結	EIA法	（－）28未満 （±）28以上～50未満 （＋）50以上	4～10	(170) 免疫 ③	M	【高値】全身性強皮性
	0682（5G175）	抗ミトコンドリア抗体	血清 0.2	A	冷蔵	蛍光抗体法	20未満 倍	3～5	181 免疫	B	【陽性】（高値）原発性胆汁性胆管炎（PBC）・CREST症候群（PBCと合併） 【低値】自己免疫性肝炎・慢性肝炎・アルコール性肝障害・心筋症・膠原病
	2545（5G176）	抗ミトコンドリアM2抗体	血清 0.3	A	冷蔵	CLEIA法	index 7.0未満	3～4	189 免疫	B	【陽性】原発性胆汁性胆管炎・慢性活動性肝炎・薬剤惹起性肝炎
	2872（5G555）	抗LKM-1抗体	血清 0.3	A	冷蔵	ELISA法	index 判定 17未満 （－） 17～49 （±） 50以上 （＋）	6～12	215 免疫 ④	J	【高値】Ⅱ型自己免疫性肝炎
	0681（5G180）	抗平滑筋抗体（SMA）	血清 0.2	A	冷蔵	蛍光抗体法	20未満 倍	3～5		B	【高値】自己免疫性肝炎、慢性活動性肝炎、原発性胆汁性肝硬変（PBC）
	0686（5G185）	抗胃壁細胞抗体（抗パリエタル細胞抗体）	血清 0.2	A	冷蔵	FA法	（－）	3～5		J	【高値】悪性貧血（Hunter舌炎や神経症状を伴うことがある）、萎縮性胃炎、表層性胃炎、甲状腺疾患、糖尿病など

(270) 患者から1回に採取した血液を用いて2項目または3項目以上行った場合は、所定点数にかかわらず、検査の項目数に応じて次に掲げる点数により算定する。 2項目（320点）3項目以上（490点）

① 抗MDA5抗体、抗TIF1-γ抗体及び抗Mi-2抗体は、厚生労働省難治性疾患克服研究事業自己免疫疾患に関する調査研究班による「皮膚筋炎診断基準」を満たす患者において、ELISA法により測定した場合に算定できる。

② 抗セントロメア抗体定量又は同定性は、原発性胆汁性胆管炎又は強皮症の診断又は治療方針の決定を目的に用いた場合に限り算定できる。

③ 抗RNAポリメラーゼⅢ抗体は、びまん性型強皮症の確定診断を目的として行った場合に、1回を限度として算定できる。また、その際陽性と認められた患者に関し、腎クリーゼのリスクが高い者については治療方針の決定を目的として行った場合に、また、腎クリーゼ発症後の者については病勢の指標として測定した場合に、それぞれ3月に1回を限度として算定できる。

④ 抗LKM-1抗体は、ウイルス肝炎、アルコール性肝障害及び薬剤性肝障害のいずれでもないことが確認され、かつ、抗核抗体陰性の自己免疫性肝炎が強く疑われる患者を対象として測定した場合に限り算定できる。
本検査を実施した場合は、診療報酬明細書の摘要欄に抗核抗体陰性を確認した年月日を記載すること。

血清学的検査

	項目コード（統一コード）	検査項目	◆1 検体量（mL）	容器	◆2 保存条件	検査方法	基準範囲	所要日数	実施料判断料	備考	検査目的及び異常値を示す主な疾患名
自己免疫関連検査	2477（5G551）	抗好中球細胞質抗体（PR3-ANCA,C-ANCA）	血清 0.3	A	冷蔵	FEIA法	（−）2.0未満 （±）2.0以上〜3.0以下 （＋）3.0を超える IU/mL	3〜4	252 免疫	B	【陽性】ウェゲナー肉芽腫症・壊死性糸球体腎炎・半月体形成性腎炎
	2478（5G552）	抗好中球細胞質抗体（MPO-ANCA,P-ANCA）	血清 0.3	A	冷蔵	FEIA法	（−）3.5未満 （±）3.5以上〜5.0以下 （＋）5.0を超える IU/mL	3〜4	251 免疫 ①	B	【高値】急性進行性腎炎・巣状壊死性腎炎・顕微鏡的多発動脈炎（MPA）・pauci-immune型壊死性半月体形成腎炎（NCGN）・巣状壊死性腎炎（FNGN）・アレルギー性肉芽腫性血管炎（AGA） 【低値】肺腎症候群・進行性全身性強皮症（PSS）・グッドパスチャー症候群
	0476（5G420）	抗糸球体基底膜抗体（抗GBM抗体）	血清 0.4	A	冷蔵	FEIA法	（−）7.0未満 （±）7.0〜10.0 （＋）10.1以上 U/mL	3〜4	262 免疫 ②	M	【陽性】抗GBM抗体腎炎・グッドパスチャー症候群・抗GBM抗体の関与する急速進行性腎炎、ループス腎炎
	2373（5G396）	抗デスモグレイン1抗体	血清 0.3	A	冷蔵	CLEIA法	20.0未満 U/mL	3〜5	300 免疫 ③	不活化（非働化）検体ではデータ影響を及ぼす場合がありますので避けてください。 B	【陽性】落葉状天疱瘡 ■落葉状天疱瘡の患者に対し、経過観察中の治療効果判定の目的で、本検査と抗デスモグレイン3抗体を併せて測定した場合は、主たるもののみ算定する。
	2374（5F397）	抗デスモグレイン3抗体	血清 0.3	A	冷蔵	CLEIA法	20.0未満 U/mL	3〜5	270 免疫 ④	不活化（非働化）検体ではデータ影響を及ぼす場合がありますので避けてください。 B	【陽性】尋常性天疱瘡 ■尋常性天疱瘡の患者に対し、経過観察中の治療効果判定の目的で、本検査と抗デスモグレイン1抗体を併せて測定した場合は、主たるもののみ算定する。
	9639（5G398）	抗BP180抗体	血清 0.3	A	冷蔵	CLEIA法	9.0未満 U/mL	3〜5	270 免疫 ⑤	不活化（非働化）検体ではデータ影響を及ぼす場合がありますので避けてください。 B	【陽性】水疱性類天疱瘡
	2347（5G385）	抗アセチルコリンレセプター抗体（抗AChR抗体）	血清 0.3	A	凍結	RIA法（抗ヒトIgG法）	（−） 0.2以下 nmol/L	4〜7	775 免疫 ⑥	M	【陽性】重症筋無力症
	2246（5G386）	抗筋特異的チロシンキナーゼ抗体（抗MuSK抗体）	血清 0.3	A	凍結	RIA法	0.02未満 nmol/L	4〜10	1000 免疫 ⑦	B	【陽性】重症筋無力症

①抗好中球細胞質ミエロペルオキシダーゼ抗体（MPO-ANCA）は、ELISA法、CLEIA法、ラテックス免疫比濁法又はFIA法により、急速進行性糸球体腎炎の診断又は経過観察のために測定した場合に算定する。

②抗糸球体基底膜抗体（抗GBM抗体）は、抗糸球体基底膜抗体腎炎及びグッドパスチャー症候群の診断又は治療方針の決定を目的として行った場合に限り算定する。

③抗デスモグレイン1抗体は、ELISA法又はCLEIA法により、天疱瘡の鑑別診断又は経過観察中の治療効果判定を目的として測定した場合に算定できる。なお、鑑別診断目的の対象患者は、厚生労働省難治性疾患政策研究事業研究班による「天疱瘡診断基準」により、天疱瘡が強く疑われる患者とする。

④抗デスモグレイン3抗体は、ELISA法又はCLEIA法により、天疱瘡の鑑別診断又は経過観察中の治療効果判定を目的として測定した場合に算定できる。なお、鑑別診断目的の対象患者は、厚生労働省難治性疾患政策研究事業研究班による「天疱瘡診断基準」により、天疱瘡が強く疑われる患者とする。

⑤抗BP180-NC16a抗体は、ELISA法又はCLEIA法により、水疱性類天疱瘡の鑑別診断又は経過観察中の治療効果判定を目的として測定した場合に算定できる。

⑥抗アセチルコリンレセプター抗体（抗AChR抗体）は、重症筋無力症の診断又は診断後の経過観察の目的で行った場合に算定できる。
本検査と抗筋特異的チロシンキナーゼ抗体を併せて測定した場合は、主たるもののみ算定する。

⑦抗筋特異的チロシンキナーゼ抗体は、RIA法により重症筋無力症の診断又は診断後の経過観察を目的として測定した場合に算定できる。
本検査と抗アセチルコリンレセプター抗体（抗AChR抗体）を併せて測定した場合は、主たるもののみ算定する。

血清学的検査

◆1【検体量】は、当社での分離後（血清・血漿）の量です。
◆2【保存条件】は、当社での保存条件です。

	項目コード（統一コード）	検査項目	◆1 検体量（mL）	容器	◆2 保存条件	検査方法	基準範囲	所要日数	実施料判断料	備考	検査目的及び異常値を示す主な疾患名
自己免疫関連検査	0697（5G520）	抗血小板抗体	血清 0.5	A	凍結	MPHA法	（－）	4～6	261 免疫	M	【陽性】特発性血小板減少性紫斑病（ITP）・血小板輸血不応状態・輸血後紫斑病（PTP）・同種免疫性新生児血小板減少症（NAITP）・輸血既往例・経産婦
	0616（5G525）	*曜日指定* PAIgG（血小板関連IgG）	血液 7.5	D4	冷蔵	ELISA法	46以下 ng/10^7cells	3～5	190 免疫 ①	受託可能日は月～金曜日の午前診療分までとなります。（午後診療分での提出は、受付できません。）未梢血の血小板数が3×10^4μL以下の場合、容器2本を使用し、必ず10mL以上採血してください。 S	【高値】特発性血小板減少性紫斑病（ITP）・膠原病・リンパ増殖性疾患
	0170（5G530）	HIT抗体（血小板第4因子-ヘパリン複合体抗体）	血漿 0.5	C	凍結	ラテックス凝集法	1.0未満 U/mL	3～4	390 免疫 ②	HIT抗体（IgG、IgMおよびIgA）を測定し、その濃度をご報告しますが、免疫グロブリンの各クラス別の濃度報告は行いません。 M	【高値】ヘパリン起因性血小板減少症（HIT）
	7431（5C235）	便中カルプロテクチン	便 1.0	K	凍結	FEIA法	50.0以下 炎症性腸疾患と機能性腸疾患とのカットオフ値 50.0 潰瘍性大腸炎の内視鏡的活動性評価のカットオフ値 300.0 クローン病の内視鏡的活動評価のカットオフ値 80.0 mg/kg	4～7	268 尿・糞便 ③	重複依頼不可。採取後3日以内に提出。 B	【異常値】慢性的な炎症性疾患（潰瘍性大腸炎やクローン病等）
	1633（5C235）	ロイシンリッチα2グリコプロテイン（LRG）	血清 0.4	A	冷蔵	LA法（ラテックス凝集比濁法）	16.0未満 （炎症性腸疾患の活動期の判定補助における参考基準範囲） μg/mL	3～4	268 生化Ⅰ ④	感染症、リウマチ等の炎症性疾患、一部の悪性腫瘍においてLRG値が上昇することがあります。 M	【高値】炎症性腸疾患活動期の判定の有無

①血小板関連IgG（PA-IgG）は、特発性血小板減少性紫斑病の診断又は経過判定の目的で行った場合に算定する。

②ヘパリン起因性血小板減少症の診断を目的として行った場合に算定する。

③カルプロテクチン（糞便）

ア　カルプロテクチン（糞便）を慢性的な炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎やクローン病等）の診断補助を目的として測定する場合は、ELISA法、FEIA法、イムノクロマト法、LA法又は金コロイド凝集法により測定した場合に算定できる。ただし、腸管感染症が否定され、下痢、腹痛や体重減少などの症状が3月以上持続する患者であって、肉眼的血便が認められない患者において、慢性的な炎症性腸疾患が疑われる場合の内視鏡前の補助検査として実施すること。また、その要旨を診療録及び診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。

イ　本検査を潰瘍性大腸炎又はクローン病の病態把握を目的として測定する場合は、潰瘍性大腸炎についてはELISA法、FEIA法、金コロイド凝集法、イムノクロマト法又はLA法により、クローン病についてはELISA法、FEIA法、イムノクロマト法、LA法又は金コロイド凝集法により測定した場合に、それぞれ3月に1回を限度として算定できる。ただし、医学的な必要性から、本検査を1月に1回行う場合には、その詳細な理由及び検査結果を診療録及び診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。

ウ　慢性的な炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎やクローン病等）の診断補助又は病態把握を目的として、本検査及び大腸内視鏡検査を同一月中に併せて行った場合は、主たるもののみ算定する。

④ロイシンリッチα2グリコプロテイン

ア　ロイシンリッチα2グリコプロテインは、潰瘍性大腸炎又はクローン病の病態把握を目的として測定した場合に3月に1回を限度として算定できる。ただし、医学的な必要性から、本検査を1月に1回行う場合には、その詳細な理由及び検査結果を診療録及び診療報酬明細書の摘要欄に記載する。

イ　ロイシンリッチα2グリコプロテインとカルプロテクチン（糞便）又は大腸内視鏡検査を同一月中に併せて行った場合は、主たるもののみ算定する。

＊曜日指定＊ は、月～金曜日の午前診療分までの提出でお願いします。（午後診療分での提出は、受付が出来ませんのでご注意下さい。）

血清学的検査

	項目コード（統一コード）	検査項目	◆1 検体量（mL）	容器	◆2 保存条件	検査方法	基準範囲	所要日数	実施料判断料	備考	検査目的及び異常値を示す主な疾患名
自己免疫関連検査	2938（5G504）	抗カルジオリピン・β2グリコプロテインⅠ複合体抗体（抗CL・β2GPⅠ抗体）	血清 0.3	A	凍結	EIA法	3.5以下 U/mL	3～5	223 免疫①	M	【高値】SLE・抗リン脂質抗体症候群・習慣性流産・動静脈血栓症・不育症
	7835（5G508）	抗カルジオリピン抗体 IgG	血清 0.2	A	冷蔵	EIA法	12.3以下 U/mL	3～6	226 免疫①	B	【陽性高値】SLE・抗リン脂質抗体症候群（APS） 【陽性低値】非SLE膠原病≪慢性関節リウマチ・進行性全身性強皮症（PSS）・シェーグレン症候群≫・梅毒
	7836（5G510）	抗カルジオリピン抗体 IgM	血清 0.2				20.8以下 U/mL		226 免疫①②		
	2971（5G500）	ループスアンチコアグラント	血漿 各1.0	C	凍結	APTT 凝固時間法	46.5以下 秒	3～5		S	【陽性】SLE・自己免疫性疾患・抗リン脂質抗体症候群・特発性血小板減少性紫斑病・習慣性流産患者・腫瘍性疾患・薬剤服用時
	2929（5G502）					リン脂質中和法	1.16以下	3～5	265 免疫③	※SCT比算出方法：下記参照 S	
	2868（5G501）					希釈ラッセル蛇毒時間法	1.2以下	3～5		S	
検査	2385（5G440）	精子不動化抗体	血清 0.5	A	凍結	不動化法	判定 :（－） 不動化値：1.40以下 SI50値 :1.0未満	6～11		SI50値：判定が（－）の時は、「検査不要」で報告。 M	【陽性】不妊症・不育症
	7593（5G519）	抗リン脂質抗体（APL）パネル	血清 0.6	A	凍結	CLIA法	各 20.0以下 U/mL	4～6	678 免疫 *④	・抗CL IgG ・抗CL IgM ・抗β2GPI IgG ・抗β2GPI IgM 上記4項目での報告となります。 M	【高値】抗リン脂質抗体症候群・習慣性流産・動静脈血栓症・不育症

①抗カルジオリピンβ2グリコプロテインⅠ複合抗体と抗カルジオリピンIgG抗体、抗カルジオリピンIgM抗体、抗β2グリコプロテインⅠIgG抗体又は抗β2グリコプロテインⅠIgM抗体を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

②抗カルジオリピンIgM抗体は、抗リン脂質抗体症候群の診断を目的として、ELISA法又はCLIA法により実施した場合に、一連の治療につき2回に限り算定する。

③ループスアンチコアグラント定量及び同定性は、希釈ラッセル蛇毒試験法又はリン脂質中和法により、抗リン脂質抗体症候群の診断を目的として行った場合に限り算定する。

*④抗カルジオリピンIgG抗体、抗カルジオリピンIgM抗体、抗β2グリコプロテインⅠIgG抗体及び抗β2グリコプロテインⅠIgM抗体を併せて実施した場合は、主たるもの3つに限り算定する。

SCT（Silica Clotting Time）比 算出方法

$$①\text{SCTスクリーン比} = \frac{\text{被検者のSCTスクリーン値（凝固時間：秒数）}}{\text{健常者のSCTスクリーン値の平均（凝固時間：秒数）}}$$

$$②\text{SCTコンフォーム比} = \frac{\text{被検者のSCTコンフォーム値（凝固時間：秒数）}}{\text{健常者のコンフォーム値の平均（凝固時間：秒数）}}$$

$$\text{SCT比} = \frac{①\text{SCTスクリーン比}}{②\text{SCTコンフォーム比}}$$

血清学的検査

◆1【検体量】は、当社での分離後（血清・血漿）の量です。
◆2【保存条件】は、当社での保存条件です。

	項目コード（統一コード）	検査項目	◆1 検体量（mL）	容器	◆2 保存条件	検査方法	基準範囲	所要日数	実施料判断料	備考	検査目的及び異常値を示す主な疾患名
免疫グロブリン検査	0701（5A010）	IgG	血清 0.3	A	冷蔵	免疫比濁法	861～1747 mg/dL	1～2	38 免疫①		【高値】多クローン性:膠原病・慢性活動性肝疾患・急性感染症後期・IgG型多発性骨髄腫 【低値】Bruton型無γ-グロブリン血症
	0702（5A015）	IgA	血清 0.3	A	冷蔵		93～393 mg/dL	1～2	38 免疫①		【高値】多クローン性:慢性肝疾患・感染症・膠原病・多発性骨髄腫 【低値】IgA欠乏症・IgA欠損症
	0703（5A020）	IgM	血清 0.3	A	冷蔵		M 33～183 F 50～269 mg/dL	1～2	38 免疫①		【高値】多クローン性:肝疾患・感染症急性期・膠原病・原発性マクログロブリン血症 【低値】原発性免疫不全症候群
	0713（5A058）	IgG4	血清 0.4	A	冷蔵	LA法（ラテックス凝集比濁法）	11～121 mg/dL	3～4	377 免疫	M	【高値】自己免疫性膵炎・ミクリッツ病・IgG4関連疾患
	0685（5A050）	IgGサブクラス分画	血清 0.5	A	冷蔵	免疫比濁法およびラテックス免疫比濁法	IgG1 351～962 IgG2 239～838 IgG3 8.5～140 IgG4 4.5～117 mg/dL	3～7		S	【高値】多発性骨髄腫・慢性感染症・肝疾患・自己免疫性疾患・悪性リンパ腫
	0735（5A135）	免疫電気泳動【IEP】（抗ヒト全血清による同定）	血清 0.2	A	冷蔵	免疫電気泳動法		5～7	170 免疫②	S	【異常】M蛋白血症型・急性炎症型・慢性炎症型・慢性肝障害（肝硬変）型・ネフローゼ型・蛋白不足型・低（無）γ-グロブリン血症型
	2167（5A135）	免疫電気泳動（特異抗血清による同定）	血清 0.4	A	冷蔵	免疫固定法		5～7	218 免疫②	S	
	0736（5A145）	尿中免疫電気泳動（尿中ベンスジョーンズ蛋白の同定）	部分尿 0.4	U1	冷蔵	免疫固定法		4～6	201 免疫	特異抗血清の検索は異常蛋白を中心に行いますので、ご了承ください。年齢、病歴を明記してください。使用する抗血清はIgG、IgA、IgM、κ、λの5つになります。 S	【陽性】骨髄腫・原発性マクログロブリン血症・良性単クローン性免疫グロブリン血症・悪性リンパ腫・アミロイドーシス
	1137（1A110）	ベンスジョーンズ蛋白定性（B-J）	部分尿 10.0	U1	冷蔵	パンナム法	（－）	1～2			

①免疫グロブリンは、IgG、IgA、IgM及びIgDを測定した場合に、それぞれ所定点数を算定する。

②免疫電気泳動法（抗ヒト全血清）及び免疫電気泳動法（特異抗血清）

ア　免疫電気泳動法（抗ヒト全血清）及び免疫電気泳動法（特異抗血清）については、同一検体につき一回に限り算定する。

イ　同一検体について、免疫電気泳動法（抗ヒト全血清）及び免疫電気泳動法（特異抗血清）を併せて行った場合は、主たる検査の所定点数のみを算定する。

ウ　免疫電気泳動法（特異抗血清）は、免疫固定法により実施した場合にも算定できる。

血清学的検査

	項目コード（統一コード）	検査項目	◆1 検体量（mL）	容器	◆2 保存条件	検査方法	基準範囲	所要日数	実施料 判断料	備考	検査目的及び異常値を示す主な疾患名
免疫グロブリン検査	1902（5A141）	遊離L鎖κ/λ比（FLC）	血清 0.5	A	冷蔵	免疫比濁法	κ鎖：3.3～19.4 λ鎖：5.7～26.3 mg/L κ/λ比：0.26～1.65	3～4	388 免疫	遊離L鎖κ・遊離L鎖λのいずれかが0.5未満の場合、κ/λ比は「計算不可」と報告させていただきます。 B	【κ/λ比異常】単クローン性マイクログロブリン血症（多発性骨髄腫）
	2535（5A150）	オリゴクローナルバンド	血清 1.0 と 髄液 1.0	A（血清）と U2（髄液）	冷蔵	等電点電気泳動法	検出せず	11～15	522 尿・糞便 ①	血清と髄液のペア検体でご提出ください。他項目との重複依頼は不可 S	【陽性】多発性硬化症・亜急性硬化性全脳炎・単純ヘルペス脳炎・神経梅毒・ギランバレー症候群・細菌性、真菌性髄膜脳炎
	2536（5G410）	ミエリン塩基性蛋白（MBP）	髄液 0.5	U2	凍結	ELISA法	102以下 pg/mL	要確認	570 尿・糞便 ①	S	【陽性】多発性硬化症の憎悪期・脳血管障害の急性期・神経ベーチェット病の憎悪期・脊髄症・急性散在性脳脊髄炎・亜急性硬化性全脳炎の一部・頭部損傷では異常高値を示す 【偽陽性】多発性硬化症・神経ベーチェット病・脳血管障害の回復過程で低値～正常値を示す
	0731（5A160）	クリオグロブリン定性	血清 0.3	A	冷蔵	ゲル内拡散法	（－）	5～6	42 免疫	採血時から血清分離までの間は、37℃の状態で行います。 M	【陽性】多発性骨髄腫・原発性マクログロブリン血症・膠原病・SLE・慢性関節リウマチ・糸球体腎炎・悪性腫瘍・慢性感染症
補体検査	0674（5B010）	血清補体価（CH50）	血清 0.5	A	冷蔵	Mayer法相対比濁法	25.0～48.0 CH50/mL	1～2	38 免疫		【高値】リウマチ熱・慢性関節リウマチ・感染症・ベーチェット病、悪性腫瘍など 【低値】急性糸球体腎炎・膜性増殖性腎炎・SLE・肝硬変・ルポイド肝炎・慢性肝炎・ネフローゼ症候群
	0714（5B040）	C1q	血清 0.4	A	凍結	ネフェロメトリー法	8.8～15.3 mg/dL	3～9		S	【高値】全身性エリテマトーデス（SLE）・糸球体腎炎・関節リウマチ・シェーグレン症候群・結節性多発動脈炎・全身性進行性硬化性（PSS/全身性強皮症・強皮症）・ベーチェット病
	0715（5B023）	C3（β1C/β1Aグロブリン）	血清 0.5	A	冷蔵	TIA法	73～138 mg/dL	1～2	70 免疫		【高値】慢性関節リウマチ・悪性腫瘍・感染症 【低値】SLE・悪性関節リウマチ・肝硬変
	0716（5B024）	C4（β1Eグロブリン）	血清 0.5	A	冷蔵		11～31 mg/dL	1～2	70 免疫		

①IgGインデックス、オリゴクローナルバンド及びミエリン塩基性蛋白（MBP）（髄液）は、多発性硬化症の診断の目的で行った場合に算定する。

血清学的検査

◆1【検体量】は、当社での分離後（血清・血漿）の量です。
◆2【保存条件】は、当社での保存条件です。

	項目コード（統一コード）	検査項目	◆1 検体量（mL）	容器	◆2 保存条件	検査方法	基準範囲	所要日数	実施料判断料	備考	検査目的及び異常値を示す主な疾患名
血漿蛋白関連検査	2135（5C070）	CRP（C反応性蛋白） 定性	血清 0.5	A	冷蔵	ラテックス比濁法	（－）	1～2	16 免疫 ①		【高値】感染症・炎症性疾患・悪性腫瘍・自己免疫疾患
	0621（5C070）	CRP（C反応性蛋白） 定量	血清 0.5	A	冷蔵	ラテックス比濁法	0.00～0.14 mg/dL	1～2	16 免疫 ①		【高値】感染症・炎症性疾患・悪性腫瘍・自己免疫疾患
	2776（5C080）	血清アミロイドA蛋白（SAA）	血清 0.5	A	冷蔵	ラテックス凝集法	3.0以下 mg/L	3～4	47 免疫 ①	F	【高値】感染症・膠原病・悪性腫瘍・心筋梗塞・慢性関節リウマチ・AIDS
	0706（5C020）	α1-アンチトリプシン（α1-AT）	血清 0.5	A	冷蔵	ネフェロメトリー法	94～150 mg/dL	3～4	80 血液	B	【高値】感染症・悪性腫瘍・急性肝炎・慢性肝炎・膠原病 【低値】α1-AT欠乏症（肺気腫・小児肝硬変）・新生児呼吸切迫症候群・劇症肝炎・ネフローゼ症候群
	0725（5C040）	ハプトグロビン	血清 0.5	A	冷蔵	ネフェロメトリー法	1-1型 83～209 2-1型 66～218 2-2型 25～176 mg/dL	3～5	129 免疫	S	【高値】炎症性疾患（感染症・膠原病・悪性腫瘍・外傷・手術など）・薬剤投与時（副腎皮質刺激ホルモン・アンドロゲン・プロゲステロン・コルチゾール） 【低値】溶血性疾患（自己免疫性溶血性貧血・球状赤血球症・尿毒症）・肝硬変・劇症肝炎・急性、慢性肝炎・薬剤投与（エストロゲン・甲状腺ホルモン）
	0839（5C091）	ヒト心臓由来脂肪酸結合蛋白（H-FABP）	血清 0.4	A	冷蔵	ラテックス凝集比濁法	6.2以下 ng/mL	2～3	131 生化Ⅰ ②③	J	【高値】急性心筋梗塞（AMI）
	0249（5C090）	ミオグロビン（Mb）	血清 0.3	A	冷蔵	CLIA法	M 154.9以下 F 106.0以下 ng/mL	3～4	131 生化Ⅰ ③	M	【高値】急性心筋梗塞・筋ジストロフィ・多発性筋炎・甲状腺機能低下症・アルドステロン症・腎不全・運動後・麻酔
	0250（5C090）	ミオグロビン（Mb）	部分尿 6.0	U7	冷蔵	CLEIA法	2.0未満 ng/mL	3～5		凝結検体は不可 M	【高値】急性心筋梗塞・筋ジストロフィ・多発性筋炎・甲状腺機能低下症・アルドステロン症・腎不全・運動後・麻酔
	2164（5C092）	心室筋ミオシン軽鎖Ⅰ	血清 0.3	A	凍結	EIA法	2.5以下 ng/mL	3～5	184 生化Ⅰ ④	B	【高値】急性心筋梗塞・心筋炎・筋ジストロフィ症・腎不全（排泄障害または代謝障害が考えられる）
	2390（5C093）	心筋トロポニンT	血清 0.4	A	冷蔵	ECLIA法	0.014以下 ng/mL	3～5	109 生化Ⅰ ⑤	急性心筋梗塞診断のカットオフ値：0.100ng/mL J	【高値】急性心筋梗塞・心筋炎・心臓手術に伴う心筋壊死・狭心症
	2842（5C093）	心筋トロポニンT定性	血液 2.0	B	冷蔵	免疫クロマトグラフィー法	（－）	1～2	109 生化Ⅰ ⑤		

①血清アミロイドA蛋白（SAA）をC反応性蛋白（CRP）定性又はC反応性蛋白（CRP）と併せて測定した場合は、主たるもののみ算定する。
②心臓由来脂肪酸結合蛋白（H-FABP）定性及び定量は、ELISA法、免疫クロマト法、ラテックス免疫比濁法又はラテックス凝集法により、急性心筋梗塞の診断を目的に用いた場合に限り算定する。
③心臓由来脂肪酸結合蛋白（H-FABP）定性又は定量とミオグロビン定性又は定量を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。
④心室筋ミオシン軽鎖Ⅰは、同一の患者につき同一日に当該検査を2回以上行った場合は、1回のみ算定する。
⑤心筋トロポニンⅠと心筋トロポニンT（TnT）定性・定量を同一月に併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

血清学的検査

	項目コード（統一コード）	検査項目	◆1 検体量（mL）	容器	◆2 保存条件	検査方法	基準範囲	所要日数	実施料判断料	備考	検査目的及び異常値を示す主な疾患名
血漿蛋白関連検査	2007（5C095）	フェリチン定量	血清 0.3	A	冷蔵	ラテックス比濁法	M 50～200 F 12～60 ng/mL	1～2	102 生化Ⅰ		【高値】ヘモクロマトーシス・ヘモシデローシス・再生不良性貧血・急性肝炎・急性膵炎・急性白血病・悪性リンパ腫・多発性骨髄腫・肝癌・膵癌・肺癌・睾丸腫瘍・胃癌・卵巣癌 【低値】鉄欠乏性貧血・Huntington病
	0712（5C060）	トランスフェリン（Tf）	血清 0.5	A	冷蔵	免疫比濁法	M 190～300 F 200～340 mg/dL	3～5	60 免疫	S	【高値】鉄欠乏症貧血・真性赤血球増多症 【低値】 （Fe上昇、UIBC低下）再生不良性貧血・巨赤芽球性貧血・造血能低下状態 （Fe低下、UIBC低下）無トランスフェリン血症・重症肝疾患・悪性腫瘍・ネフローゼ症候群
	0679（5C130）	プロコラーゲン-Ⅲ-ペプチド（P-Ⅲ-P）	血清 0.5	A	冷蔵	CLIA法	3.62～9.52 ng/mL	5～8	136 生化Ⅰ ①	カットオフ値 6.95（ng/mL）（肝に線維化のみられる疾患） J	【高値】慢性活動性肝炎・肝硬変・アルコール性肝障害・急性肝炎・肝癌・スキルス胃癌・慢性関節リウマチの活動期・肺線維症・骨髄線維症・冠動脈疾患・膠原病
	0384（5C134）	Ⅳ型コラーゲン	血清 0.3	A	冷蔵	LA法（ラテックス凝集比濁法）	150以下 ng/mL	3～4	131 生化Ⅰ ①	M	【高値】肝疾患、糖尿病、甲状腺機能亢進症、間質性肺炎、心筋症、転移性癌
	2115（5C135）	Ⅳ型コラーゲン・7S	血清 0.5	A	冷蔵	CLEIA法	4.4以下 ng/mL	3～5	148 生化Ⅰ ①	M	【高値】肝癌、肝硬変、慢性肝炎（活動性）
	7235（5C141）	M2BPGi（Mac-2結合蛋白糖鎖修飾異性体）	血清 0.5	A	冷蔵	CLEIA法	（－）1.00未満 （1+）1.00～3.00未満 （2+）3.00以上	2～3	194 生化Ⅰ ①②		【高値】ウイルス性慢性肝炎、慢性肝炎（活動期）、肝硬変、肝癌 ※肝線維化の判定指標
	2663（5C060）	尿中マイクロトランスフェリン	部分尿 1.0 蓄尿 1.0	U1	冷蔵	ラテックス凝集比濁法	随時尿 1.0以下 mg/g・CRE 蓄尿 0.6以下 mg/day	3～5	98 尿・糞便 ③	J	【高値】糖尿病性腎症・慢性腎不全
	0729（3A015）	尿中アルブミン 定性	部分尿 5.0	U1	冷蔵	TIA法	（－）	1～2	49 尿・糞便		【高値】糖尿病性腎症の早期・慢性糸球体腎炎の潜在期や良性腎硬化症・尿路感染症・高血圧・うっ血性心不全・起立性蛋白尿
	0730（3A015）	尿中アルブミン 定量	部分尿 5.0				30.0未満 mg/g・CRE		99 尿・糞便 ③	※蓄尿でも検査可能です。（項目コード:0734）	
	1739（5C134）	尿中Ⅳ型コラーゲン	部分尿 5.0	U10	冷蔵	EIA法	30歳代 4.0以下 40歳以上 4.9以下 μg/g・Cre	4～10	184 尿・糞便 ③	早朝一番尿を提出 凍結検体不可 随時尿の参考基準範囲（健常者）は、7.3以下（μg/g・Cre） B	【高値】糖尿病性腎症
	1903（5C100）	尿中L型脂肪酸結合蛋白（L-FABP）	部分尿 2.0	U1	凍結	ラテックス凝集法	8.4以下 μg/g・Cre	3～4	210 尿・糞便 ④	L-FABP濃度が0.5未満の場合、クレアチニン補正値は「換算不可」と報告させていただきます。 B	【高値】腎機能障害・糖尿病性腎症・糸球体腎炎・尿細管障害・急性腎障害・造影剤腎症

①Ⅳ型コラーゲン又はⅣ型コラーゲン・7Sは、プロコラーゲン-Ⅲ-ペプチド（P-Ⅲ-P）又はMac-2結合蛋白糖鎖修飾異性体と併せて行った場合には、主たるもののみ算定する。

②Mac-2結合蛋白糖鎖修飾異性体は、2ステップサンドイッチ法を用いた化学発光酵素免疫測定法により、慢性肝炎又は肝硬変の患者（疑われる患者を含む。）に対して、肝臓の線維化進展の診断補助を目的に実施した場合に算定する。

③トランスフェリン（尿）、アルブミン定量（尿）及びⅣ型コラーゲン（尿）は、糖尿病又は糖尿病性早期腎症患者であって微量アルブミン尿を疑うもの（糖尿病性腎症第1期又は第2期のものに限る。）に対して行った場合に、3月に1回に限り算定できる。なお、これらを同時に行った場合は、主たるもののみ算定する。

④L型脂肪酸結合蛋白（L-FABP）（尿）は、原則として3月に1回に限り算定する。ただし、医学的な必要性からそれ以上算定する場合においては、その詳細な理由を診療報酬明細書の摘要欄に記載する。

血清学的検査

◆1【検体量】は、当社での分離後（血清・血漿）の量です。
◆2【保存条件】は、当社での保存条件です。

	項目コード（統一コード）	検査項目	◆1 検体量（mL）	容器	◆2 保存条件	検査方法	基準範囲	所要日数	実施料判断料	備考	検査目的及び異常値を示す主な疾患名
血漿蛋白関連検査	0680（5C010）	プレアルブミン（トランスサイレチン）	血清 0.3	A	冷蔵	TIA法	22.0～40.0 mg/dL	3～4	101 免疫	F	【高値】腎不全・甲状腺機能亢進症・高カロリー輸液・妊娠後期 【低値】低蛋白栄養状態（術後栄養不足・栄養摂取不足・吸収不良症候群など）・肝細胞障害（急性肝炎初期・慢性活動性肝炎など）
	2931（5C030）	レチノール結合蛋白（RBP）	血清 0.3	A	冷蔵	ラテックス凝集比濁法	M 2.7～6.0 F 1.9～4.6 mg/dL	5～7	132 免疫	J	【高値】腎不全・脂肪肝 【低値】ビタミンA欠乏症・吸収不良症候群・すべての肝疾患（脂肪肝除く）・甲状腺機能亢進症・感染症・外傷
	0683（5C210）	KL-6（シアル化糖鎖抗原KL-6）	血清 0.5	A	冷蔵	ラテックス凝集比濁法	500未満 U/mL	1～2	108 生化Ⅰ ①		【高値】間質性肺炎・肺線維症、過敏性肺臓炎
	2672（3F250）	肺サーファクタントプロテインA（SP-A）	血清 0.3	A	冷蔵	CLEIA法	43.8未満 ng/mL	3～5	130 生化Ⅰ ①	S	【高値】特発性間質性肺炎・膠原病関連間質性肺炎・肺胞蛋白症・過敏性肺炎
	2671（3F253）	肺サーファクタントプロテインD（SP-D）	血清 0.5	A	冷蔵	CLEIA法	110未満 ng/mL	3～5	136 生化Ⅰ ①	S	【高値】特発性間質性肺炎・膠原病関連間質性肺炎
	0487（5C015）	α1-マイクログロブリン（α1MG）	血清 0.5	A	冷蔵	LA法（ラテックス凝集比濁法）	9.1～18.4 mg/L	3～4	129 免疫	M	【高値】（血中）急性・慢性糸球体腎炎・ネフローゼ症候群・慢性腎不全・IgA増加症・IgA型多発性骨髄腫 【高値】（尿中）腎尿細管障害・機能低下（カドミウム中毒、移植腎、火傷、Fanconi症候群 【低値】（血中・尿中）劇症肝炎・肝硬変症・肝切除
	0488（5C015）		部分尿 1.0	U1			8.3以下 mg/L	3～4		M	
	0710（5C035）	α2-マクログロブリン（α2-M）	血清 0.4	A	冷蔵	ネフェロメトリー法	M 100～200 F 130～250 mg/dL	3～6	★ 138 血液	M	【高値】急性・慢性肝疾患、ネフローゼ症候群 【低値】造血器系悪性腫瘍・前立腺癌骨転移・DIC・急性膵炎
	2008（5C065）	β2-マイクログロブリン（BMG）	血清 0.3	A	冷蔵	ラテックス比濁法	0.8～2.0 mg/L	1～2	98 免疫		【血中高値・尿中正常】急性・慢性糸球体腎炎、ネフローゼ症候群 【血中正常・尿中高値】Fanconi症候群・尿細管アシドーシス・急性尿細管壊死・Lowe症候群 【血中・尿中高値】尿毒素・慢性腎不全・糖尿病性腎症・悪性腫瘍・自己免疫疾患・肝疾患
	2009（5C065）		部分尿 1.0	U1		LA法（ラテックス凝集比濁法）	200以下 μg/L	3～4		尿はpH5.5～7.5を確認の上、ご提出下さい。酸性蓄尿は不可。 M	
	0711（5C045）	セルロプラスミン（CP）	血清 0.4	A	冷蔵	ネフェロメトリー法	21～37 mg/dL	3～4	90 免疫	M	【高値】悪性腫瘍・感染症・胆道疾患・心筋梗塞・自己免疫疾患 【低値】吸収不良症候群・肝疾患・火傷・Wilson病・Menkes病・セルロプラスミン欠損症

★ 血液学的検査〔出血・凝固検査〕包括項目となります。3～4項目（530点）5項目以上（722点）

① KL-6、肺サーファクタント蛋白-A（SP-A）及び肺サーファクタント蛋白-D（SP-D）のうちいずれかを併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。
KL-6は、EIA法、ECLIA法又はラテックス凝集比濁法により、肺サーファクタント蛋白-A（SP-A）はEIA法により、肺サーファクタント蛋白-D（SP-D）は、EIA法又はラテックス免疫比濁法による。

◆1【検体量】は、当社での分離後（血清・血漿）の量です。
◆2【保存条件】は、当社での保存条件です。

血清学的検査

	項目コード（統一コード）	検査項目	◆1 検体量（mL）	容器	◆2 保存条件	検査方法	基準範囲	所要日数	実施料判断料	備考	検査目的及び異常値を示す主な疾患名
免疫血液学的検査	0691（5H010）	ABO式血液型	血液 2.0	B	冷蔵	カラム凝集法		1～2	24 免疫		
	0692（5H020）	Rh（D）式血液型	血液 2.0						24 免疫		
	2300（5H025）	Rh-Hr式血液型	血液 2.0	E1	冷蔵	カラム凝集法		3～4	148 免疫	凍結不可 M	
	0693（5H121）	直接クームス試験	血液 2.0	B	冷蔵	試験管法	（－）	1～2	34 免疫		【陽性】自己免疫性溶血性貧血・新生児溶血性疾患・薬剤起因性溶血性貧血・血液型不適合輸血の直後・発作性寒冷血色素尿症・寒冷凝集素症
	0694（5H122）	間接クームス試験	血液 2.0	B	冷蔵	カラム凝集法	（－）	1～2	47 免疫		【陽性】不規則抗体による輸血時の溶血、自己免疫性溶血性貧血、血液型不適合妊娠による新生児溶血性疾患など
	0695（5H180）	不規則抗体	血液 2.0	B	冷蔵	カラム凝集法（間接抗グロブリン試験・酵素法）	（－）	2～4	159 免疫 ①		【陽性】輸血既往例・経産婦・血液型不適合妊娠・移植既往例
	0690（5H180）	＊曜日指定＊ 不規則抗体同定	血清 5.0 と 血液 2.0	A（血清）と E1（血液）	冷蔵（血清）と 室温（血液）	カラム凝集法［クームス法・酵素法（フィシン法）］		4～6	159 免疫 ①	（注1） 血清と血液（EDTA-2Na）をペアでご提出下さい。 受託可能日は月～金曜日の午前診療分までとなります。（午後診療分での提出は、受付できません。） 単独検体で、ご提出下さい。 S	
	0696（5H030）	＊曜日指定＊ 血液型不適合妊娠	血清 4.0 と 血液 2.0	A（血清）と E1（血液）	冷蔵（血清）と 室温（血液）	2-メルカプトエタノール法		4～6		（注1） 血清と血液（EDTA-2Na）をペアでご提出下さい。 受託可能日は月～金曜日の午前診療分までとなります。（午後診療分での提出は、受付できません。） 単独検体で、ご提出下さい。 S	
検査	1801～（5H160）	交差適合試験	血液 2.0 と 血清 5.0	B（血液）と A2（血清）	冷蔵	カラム凝集法（間接抗グロブリン試験）	（－）	1	30＋47 ②③	（注2）	

① 不規則抗体は、輸血歴又は妊娠歴のある患者に対し、胸部手術、心・脈管手術、腹部手術又は子宮全摘術、子宮悪性腫瘍手術、子宮附属器悪性腫瘍手術（両側）、帝王切開術若しくは異所性妊娠手術が行われた場合に、手術の当日に算定する。また、手術に際して輸血が行われた場合は、本検査又は「K920」輸血の「注6」に定める不規則抗体検査加算のいずれかを算定する。この場合、診療報酬明細書の摘要欄に輸血歴がある患者又は妊娠歴がある患者のいずれに該当するかを記載する。

② 輸血に伴って行った患者の血液型検査（ABO式及びRh式）の費用として54点を所定点数に加算する。

③ 輸血に伴って、血液交叉試験、間接クームス検査又はコンピュータクロスマッチを行った場合は、血液交叉試験加算、間接クームス検査加算又はコンピュータクロスマッチ加算として、1回につき30点、47点又は30点をそれぞれ加算する。ただし、コンピュータクロスマッチを行った場合は、血液交叉試験加算及び間接クームス検査加算は算定できない。

（注1）検査結果に影響を及ぼすことがありますので検体（血液と血清）は、採血当日中にご提出ください。なお、検査時において採血後48時間を超えた検体での検査は、参考値としてご報告させていただく場合がございます。あらかじめご了承ください。

（注2）交差試験では、受血者の血液は採血後、冷さず保存し、供血者の血液または輸血バッグ（チューブにバーコードつきのシールを貼る）のチューブといっしょに提出してください。その際、受血者および供血者または輸血パックの血液型もご記入ください。
チューブの本数によって採血量が異なりますので、事前にご確認ください。

＊曜日指定＊ は、月～金曜日の午前診療分までの提出でお願いします。（午後診療分での提出は、受付が出来ませんのでご注意下さい。）

血清学的検査

●検体採取方法

便中ヘリコバクターピロリ抗原

◎提出日の当日または前日に、下記のように大便を採って、なるべく早く提出してください。

ヘリコバクター・ピロリ検査のための

正しい便のとり方

正確な検査を行うために必ずお読み下さい。

お取扱い上の注意
- 便が古くなると正しい結果が得られませんので、出来るだけ新しい便を提出して下さい。
- 採便後の採便容器は、冷暗所に保管して下さい。
- 便をとる目的以外には使用しないで下さい。
- 子供の手の届かない所に保管して下さい。
- 採便棒を肛門に差し込まないようにして下さい。
- 水洗水が付かないように便をとって下さい。
- 採便容器の緑キャップは、絶対はずしたり、ゆるめたりしないで下さい。
- 採便容器には防腐剤が含まれています。
  誤って目や口に入ったり、皮膚に付着した場合には水で充分に洗い流す等の応急処置を行い必要があれば医師の手当て等を受けて下さい。
- 採便棒を容器に戻してねじ込む歳には、手を刺したり指等を挟まないようにして下さい。

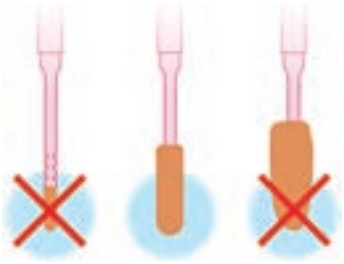
1 準　備

容器の白ラベルを途中まではがし氏名・日付等を記入し、また巻いて下さい。
ピンクの採便棒を回して引き抜いて下さい。

保管上の注意
- 添付のビニール袋に入れて提出まで冷暗所に保管して下さい。
- 採便後は、すみやかに提出して下さい。

2 便をとる

採便棒先端の溝すべてが便でうまるように、便の表面をこすりとって下さい。



3 便をとったあと

採便棒を容器にもどして根元までしっかりねじ込んで下さい。

尿素呼気試験

【準　備】呼気採取前※の呼気採取バッグ2個（1回分）にご施設名と患者氏名を明記し、「服用前」または「服用後」のいずれかに必ずチェックを入れてください。

※呼気採取後に記入されますと、バッグを破損する可能性がありますので、ご注意願います。また、ボールペンなどの鋭利なものでなく、サインペンなどでご記入ください。

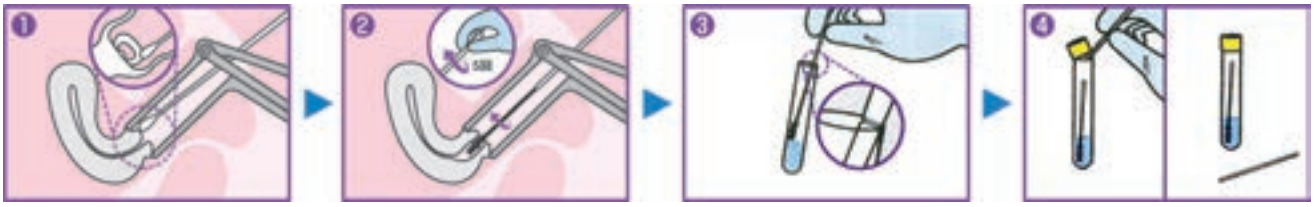
① 尿素（ユービット）服用前に、呼気を採取します。(注)
② 空腹前に尿素（ユービット）を服用します。
③ 直ちにうがいをしっかりと行います。　※（ユービット錠では、うがいの必要はありません。）
④ 5分間左側臥位の姿勢を保ち、さらに座位15分待ちます。
⑤ もう一度（服用後20分）、呼気を採取します。(注)

（注）呼気採取時は、深呼吸せずに10秒程度息を止め、呼気をゆっくり吐いて採取してください。

《検体採取方法》

クラミジア・トラコマチス核酸検出［PCR法］
淋菌核酸検出［PCR法］

【子宮頸管検体】



① 粘液除去用ドライスワブ（2本あるうちの太い方）で子宮頸管とその周辺の過剰な粘液を十分拭い取ります。（粘液を拭ったスワブは破棄します。）
② もう一本のフロックスワブを子宮頸管内に挿入します。同じ方向にそっと5回スワブを回します。（回しすぎないでください。）スワブを引き抜く際は腟の粘膜に触れないように注意してください。
③ 容器のキャップを開け、採取したスワブの先端が溶液に漬からないように注意しながら入れ、柄に付けられた黒い線を容器の縁に合わせます。
④ 容器の縁を利用して、スワブの柄に付けられた線の部分でスワブの柄を折り、容器のキャップをしっかり閉めてください。
（手元に残った折れた柄は**容器内に入れずに必ず破棄**してください。スワブの柄を折る際は絶対にはさみを使用しないでください。）

【咽頭スワブ検体】

① 付属されているドライスワブ（2本あるうちの太い方）を使用し、後咽頭部および扁桃腺、口蓋垂を擦過します。スワブを引き抜く際は口腔内に触れないように注意してください。
② 容器のキャップを開け、採取したスワブの先端が溶液に漬からないように注意しながら入れ、柄に付けられた黒い線を容器の縁に合わせます。
③ 容器の縁を利用して、スワブの柄に付けられた線の部分でスワブの柄を折り、容器のキャップをしっかり閉めてください。
（手元に残った折れた柄は**容器内に入れずに必ず破棄**してください。スワブの柄を折る際は絶対にはさみを使用しないでください。）

【尿検体】

① 採尿用容器に初尿を採取します。（初尿は採取後2～30℃で24時間以内に容器に移してください。）
滅菌済みスポイドを用いて尿を採取します。
② 容器に記載されている**2つのラインの間に収まるように初尿**を入れます。
③ キャップをしっかりと閉めて、5回転倒混和させてください。

【うがい液検体】

① 生理食塩水をコップに15～20mL入れてください。15～20mLを口に含み、顔を上に向けて10～20秒間、勢いよく“ガラガラ”とうがいを行います。（検体採取2時間前の飲食・うがい・歯磨き・ガムを噛むことなどは避けてください。）
② “うがい液”全量をうがい用容器に回収し、**滅菌スポイド**で容器に記載されている**2つのラインの間に収まるようにうがい液**を入れます。
③ キャップをしっかりと閉めて、5回転倒混和させてください。

アレルギー検査

◆1【検体量】は、当社での分離後（血清・血漿）の量です。
◆2【保存条件】は、当社での保存条件です。

	項目コード（統一コード）	検査項目		◆1 検体量（mL）	容器	◆2 保存条件	検査方法	基準範囲	所要日数	実施料 判断料	備考	検査目的及び異常値を示す主な疾患名
アレルギー検査	0705（5A090）	IgE（非特異的IgE）		血清 0.3	A	冷蔵	ラテックス比濁法	170以下 IU/mL	1～2	100 免疫		【高値】アトピー性喘息・アトピー性皮膚炎・アレルギー性鼻炎・花粉症・IgE型骨髄腫・寄生虫疾患 【低値】IgE以外の骨髄腫・免疫不全疾患・慢性リンパ性白血病
	（5A100）	特異的IgE	CAP シングル アレルゲン	1アレルゲン 血清 0.3	A	冷蔵	FEIA法	0.35未満 UA/mL	3～4	1アレルゲン 110 免疫①	アレルゲン一覧表：72ページ参照 判定基準：72ページ参照 M	項目によって疾患名を特定する。 気管支喘息・アトピー性皮膚炎・アレルギー性鼻炎・アレルギー性結膜炎・花粉症・じん麻疹・胃腸アレルギー・アレルギー性気管支アスペルギルス症・アナフィラキシーショック・寄生虫疾患・ペットアレルギー・食物アレルギー・職業アレルギー・接触性皮膚炎・真菌感染症・昆虫アレルギー
	（5A100）		CAP マルチ アレルゲン	血清 各0.3	A						アレルゲン一覧表：73ページ参照 判定基準：72ページ参照 M	
	2416（5A100）		MAST36	血清 0.5	A	冷蔵	CLEIA法	MAST クラス 0 1.39以下 LC	6～7	1430 免疫①	アレルゲン一覧表：73ページ参照 判定基準：73ページ参照 M	
	7300（5A100）	View アレルギー39		血清 0.9	A	冷蔵	FEIA法	クラス 0 index：0.27未満	4～5	1430 免疫①		
	2224（5A100）	アトピー鑑別試験（ファディアトープ）		血清 0.3	A	冷蔵	FEIA法	（－）	3～4	194 免疫	アレルゲン一覧表：73ページ参照 B	【高値】気管支喘息・アレルギー性鼻炎・アレルギー性結膜炎・アトピー性皮膚炎
	1603（5A100）	特異的IgE Ara h 2（ピーナッツ由来）		血清 0.3	A	冷蔵	FEIA法	0.35未満（－） UA/mL	3～4	110 免疫	判定基準：73ページ参照 M	【高値】ピーナッツアレルギー
	2619（5J228）	TARC（Th2ケモカイン）		血清 0.3	A	冷蔵	CLEIA法	73ページ参照	1～2	179 免疫②		【高値】アトピー性皮膚炎
	1634（5A100）	特異的IgE CAP アレルゲン 16種セット	食物アレルギー	血清 1.6	A	冷蔵	FEIA法	0.35未満 UA/mL	3～4	1430 免疫①	アレルゲン一覧表：73ページ参照 判定基準：72ページ参照 M	項目によって疾患名を特定する。 気管支喘息・アトピー性皮膚炎・アレルギー性鼻炎・アレルギー性結膜炎・花粉症・じん麻疹・胃腸アレルギー・アレルギー性気管支アスペルギルス症・アナフィラキシーショック・寄生虫疾患・ペットアレルギー・食物アレルギー・職業アレルギー・接触性皮膚炎・真菌感染症・昆虫アレルギー
	1635（5A100）		小児アレルギー	血清 1.6			FEIA法	0.35未満 UA/mL				
	1636（5A100）		鼻炎・喘息	血清 1.6			FEIA法	0.35未満 UA/mL				
	1637（5A100）		成人アトピー	血清 1.6			FEIA法	0.35未満 UA/mL				

①特異的IgE半定量・定量検査は、特異抗原の種類ごとに所定点数を算定する。ただし、患者から１回に採取した血液を用いて検査を行った場合は、1430点を限度として算定する。
②アトピー性皮膚炎の重症度評価の補助を目的として、血清中のTARC量を測定する場合に、月１回を限度として算定できる。

●アレルゲン一覧と判定基準

特異的IgE（シングルアレルゲン）

室　内　塵		
0837	H1	ハウスダスト1
0838	H2	ハウスダスト2

ダ　ニ		
0831	D1	ヤケヒョウヒダニ
0832	D2	コナヒョウヒダニ
0833	D70	アシブトコナダニ
0834	D71	サヤアシニクダニ
0835	D72	ケナガコナダニ

雑草花粉		
0761	W1	ブタクサ
0762	W2	ブタクサモドキ
0763	W3	オオブタクサ
0765	W5	ニガヨモギ
0766	W6	ヨモギ
0767	W7	フランスギク
0768	W8	タンポポ（属）
0769	W9	ヘラオオバコ
0770	W10	シロザ
0772	W12	アキノキリンソウ
0778	W18	ヒメスイバ
0780	W20	イラクサ（属）
2381	W22	カナムグラ

イネ科植物花粉		
0741	G1	ハルガヤ
0742	G2	ギョウギシバ
0743	G3	カモガヤ
0744	G4	ヒロハウシノケグサ
0745	G5	ホソムギ
0746	G6	オオアワガエリ
0747	G7	アシ
0748	G8	ナガハグサ
0749	G9	コヌカグサ（属）
0750	G10	セイバンモロコシ
0755	G15	小麦（属）（花粉）
0756	G16	オオスズメノテッポウ
0757	G17	スズメノヒエ（属）

樹木花粉		
0781	T1	カエデ（属）
0782	T2	ハンノキ（属）
0783	T3	シラカンバ（属）
0785	T5	ブナ（属）
0786	T6	ビャクシン（属）
0787	T7	コナラ（属）
0788	T8	ニレ（属）
0789	T9	オリーブ
0790	T10	クルミ（属）
0792	T12	ヤナギ（属）
0796	T16	マツ（属）
0797	T17	スギ
0799	T19	アカシア（属）
2368	T24	ヒノキ
0801	T70	クワ（属）

カビ・酵母		
0802	M1	ペニシリウム
0803	M2	クラドスポリウム
0804	M3	アスペルギルス
0754	M218	Asp f1（アスペルギルス由来）
0805	M4	ムコール
0806	M5	カンジダ
0807	M6	アルテルナリア
2150	M8	ヘルミントスポリウム
1854	M80	黄色ブドウ球菌 エンテロトキシンA
1855	M81	黄色ブドウ球菌 エンテロトキシンB
2979	M205	トリコフィトン
1220	M227	マラセチア（属）

昆　虫		
0824	I1	ミツバチ
0825	I3	スズメバチ
0826	I4	アシナガバチ
0827	I6	ゴキブリ
0829	I7	ユスリカ（成虫）
2371	I8	ガ
0828	I71	ヤブカ（属）

寄　生　虫		
0821	P1	回虫
2641	P4	アニサキス

動物上皮		
2348	E1	ネコ皮屑
0810	E3	ウマ皮屑
0811	E4	ウシ皮屑
0812	E5	イヌ皮屑
0813	E6	モルモット上皮
0815	E70	ガチョウ羽毛
0830	E77	セキセイインコのふん
0840	E78	セキセイインコ羽毛
2162	E80	ヤギ上皮
0816	E81	羊上皮
0820	E82	家兎上皮
0817	E83	豚上皮
2326	E84	ハムスター上皮
0818	E85	ニワトリ羽毛
0819	E86	アヒル羽毛
2414	E87	ラット
2391	E88	マウス

食餌性アレルゲン		
0841	F1	卵白
0842	F2	ミルク（牛乳）
0843	F3	タラ
0844	F4	小麦
0845	F5	ライ麦
0846	F6	大麦
0847	F7	オート麦
0848	F8	トウモロコシ
0849	F9	米
0850	F10	ゴマ

食餌性アレルゲン		
0851	F11	ソバ
0852	F12	エンドウ
0853	F13	ピーナッツ
0854	F14	大豆
1690	F353	Gly m 4（大豆由来）
0855	F15	インゲン
0856	F17	ハシバミの実
0857	F18	ブラジルナッツ
0858	F20	アーモンド
0859	F23	カニ
0860	F24	エビ
0861	F25	トマト
0862	F26	豚肉
0863	F27	牛肉
0864	F31	ニンジン
0865	F33	オレンジ
0866	F35	ジャガイモ（ポテト）
0867	F36	ココナッツ
0868	F37	ムラサキイガイ
0869	F40	マグロ
0870	F41	サケ
0871	F44	イチゴ
0872	F45	ビール酵母
0873	F47	ニンニク
0874	F48	タマネギ
0875	F49	リンゴ
2369	F50	サバ
2646	F51	タケノコ
2432	F54	サツマイモ
2018	F55	キビ
2017	F56	アワ
2382	F58	イカ
2664	F59	タコ
2370	F60	アジ
2638	F61	イワシ
0876	F75	卵黄
0877	F76	α-ラクトアルブミン
0878	F77	β-ラクトグロブリン
0879	F78	カゼイン
0880	F79	グルテン
0881	F80	ロブスター
0882	F81	チェダーチーズ
2534	F82	モールドチーズ
0883	F83	鶏肉
0884	F84	キウイ
0885	F85	セロリ
0886	F86	パセリ
0887	F87	メロン
0888	F88	羊肉
0889	F89	マスタード
0890	F90	麦芽
0891	F91	マンゴ
2249	F92	バナナ
2379	F93	カカオ
2699	F94	洋ナシ
2455	F95	モモ

食餌性アレルゲン		
2530	F96	アボカド
1493	F97	ヤマイモ
1219	F202	カシューナッツ
1790	F443	Ana o 3（カシューナッツ由来）
0808	F207	アサリ
0823	F209	グレープフルーツ
2466	F214	ホウレンソウ
2467	F225	カボチャ
1858	F233	オボムコイド
2724	F254	カレイ
1497	F256	クルミ
1789	F441	Jug r 1（クルミ由来）
0798	F290	カキ（貝）
1502	F329	スイカ
0800	F338	ホタテ
0795	F349	イクラ
0794	F350	タラコ
1218	F416	ω-5グリアジン

職業性アレルゲン		
0751	K72	オオバコ種子
2647	K75	イソシアネートTDI
0752	K76	イソシアネートMDI
0753	K77	イソシアネートHDI
2445	K78	エチレンオキサイド
2913	K79	無水フタル酸
0836	K80	ホルマリン
2947	K82	ラテックス
1691	K220	Hev b 6.02（ラテックス由来）

薬　　物		
2238	C73	ヒトインスリン
2537	C74	ゼラチン

そ　の　他		
2643	O1	綿

特異的IgE シングル・マルチアレルゲン（判定基準）		
クラス	特異的IgE抗体価（UA/mL）	判　定
0	0.35未満	陰　性
1	0.35～0.69	疑陽性
2	0.70～3.49	陽　性
3	3.50～17.49	
4	17.50～49.99	
5	50.00～99.99	
6	100以上	

アレルギー検査

●アレルゲン一覧と判定基準

アトピー鑑別試験（個々のアレルゲンの報告はございません。）

家屋ダニ	ヤケヒョウヒダニ、コナヒョウヒダニ
動物	ネコ皮屑、イヌ皮屑
真菌	カンジダ、アルテルナリア
雑草花粉	ブタクサ、ヨモギ
イネ科花粉	ギョウギシバ、カモガヤ
樹木花粉	スギ、シラカンバ（属）

MAST-36 アレルゲン構成

吸入系	コナヒョウヒダニ	スギ
	ハウスダスト1	ヒノキ
	ネコ皮屑	ハンノキ
	イヌ皮屑	シラカンバ
	オオアワガエリ	カンジダ
	カモガヤ	アルテルナリア
	ブタクサ混合物1	アスペスギルス
	ヨモギ	ラテックス
食餌系	トマト	マグロ
	モモ	サケ
	キウイ	エビ
	バナナ	カニ
	ゴマ	牛乳
	ソバ	豚肉
	小麦	牛肉
	ピーナッツ	鶏肉
	大豆	オボムコイド
	米	卵白

特異的IgE（CAPマルチアレルゲン）

項目コード	分類	混合アレルゲンの内容（個々のアレルゲンのご報告はありません）
2080	E×2 動物上皮	ネコ皮屑・イヌ皮屑・モルモット上皮・ラット・マウス
2081	F×5 食物	卵白・牛乳・小麦・ピーナッツ・大豆
2082	F×6 穀物	小麦・トウモロコシ・米・ゴマ・ソバ
2083	G×5 イネ科	ハルガヤ・ギョウギシバ・カモガヤ・オオアワガエリ・アシ
2084	M×2 カビ	ペニシリウム・クラドスポリウム・アスペルギルス・カンジダ・アルテルナリア・ヘルミントスポリウム
2085	W×5 雑草	ブタクサ・ヨモギ・フランスギク・タンポポ（属）・アキノキリンソウ

View アレルギー39 アレルゲン構成

吸入系		食餌系	
ハウスダスト1	アルテルナリア	牛乳	キウイ
ヤケヒョウヒダニ	アスペルギルス	卵白	ゴマ
スギ	カンジダ	オボムコイド	牛肉
ヒノキ	マラセチア（属）	米	豚肉
ハンノキ（属）	ネコ皮屑	小麦	鶏肉
シラカンバ（属）	イヌ皮屑	ソバ	エビ
カモガヤ	ゴキブリ	大豆	カニ
オオアワガエリ	ガ	ピーナッツ	サバ
ブタクサ	ラテックス	リンゴ	サケ
ヨモギ		バナナ	マグロ

特異的IgE CAPアレルゲン 16種セット

食物アレルギー（1634）		小児アレルギー（1635）		鼻炎・喘息（1636）		成人アトピー（1637）	
卵白	マグロ	ヤケヒョウヒダニ	小麦	ハウスダスト1	ネコ皮屑	ヤケヒョウヒダニ	小麦
オボムコイド	エビ	スギ	大豆	ヤケヒョウヒダニ	イヌ皮屑	スギ	大豆
ミルク	カニ	ネコ皮屑	ソバ	スギ	カンジダ	ネコ皮屑	ソバ
小麦	キウイ	イヌ皮屑	ピーナッツ	ヒノキ	アスペルギルス	イヌ皮屑	ピーナッツ
大豆	バナナ	ゴキブリ	イクラ	ハンノキ	アルテルナリア	カンジダ	エビ
ソバ	リンゴ	卵白	マグロ	カモガヤ	ガ	マラセチア（属）	カニ
ピーナッツ	クルミ	オボムコイド	エビ	ブタクサ	ユスリカ	黄色ブドウ球菌B	イワシ
イクラ	ゴマ	ミルク	カニ	ヨモギ	ゴキブリ	ガ	サバ

View アレルギー39（判定基準）

クラス	index値	判定
0	0.27未満	陰性
1	0.27～0.49	疑陽性
2	0.50～1.79	陽性
3	1.80～7.04	
4	7.05～17.34	
5	17.35～29.30	
6	29.31以上	

MAST-36（判定基準）

MASTクラス	ルミカウント（LC）	判定
0	0～1.39	陰性
1	1.40～2.77	疑陽性
2	2.78～13.4	陽性
3	13.5～58.0	
4	58.1～119	
5	120～159	
6	160以上	

TARC（Th2ケモカイン）基準範囲（pg/mL）

年齢	基準範囲
小児（6～12ヶ月未満）	1367未満
小児（1～2歳未満）	998未満
小児（2歳以上）	743未満
成人	450未満

特異的IgE Ara h 2（ピーナッツ由来）判定基準

IgE抗体濃度（UA/mL）	判定
0.35未満	陰性
0.35～3.99	疑陽性
4.00以上	陽性

●アレルゲン一覧

アレルギー検査セット

乳幼児		皮膚炎		喘息		鼻炎（通年）		鼻炎（季節性）	
乳幼児13 13171 A-1 5ml 1430点		皮膚炎13 13174 A-1 5ml 1430点		喘息13 13177 A-1 5ml 1430点		鼻炎13 13180 A-1 5ml 1430点		春～夏12 13183 A-1 5ml 1320点	
卵白	ミルク	卵白	ミルク	ヤケヒョウヒダニ	ハウスダスト1	ヤケヒョウヒダニ	ハウスダスト1	ヤケヒョウヒダニ	カモガヤ
大豆	小麦	大豆	小麦	動物マルチ	カンジダ	動物マルチ	カビマルチ	ハウスダスト1	蛾
米	ソバ	米	ヤケヒョウヒダニ	アルテルナリア	アスペルギルス	スギ	ヒノキ	ネコ皮屑	アスペルギルス
イワシ	ゼラチン	ハウスダスト1	動物マルチ	スギ	カモガヤ	ハンノキ	カモガヤ	イヌ皮屑	カンジダ
オボムコイド	ヤケヒョウヒダニ	カンジダ	マラセチア（属）	ブタクサ	ヨモギ	ブタクサ	ヨモギ	スギ	アルテルナリア
ハウスダスト1	動物マルチ	黄ブ菌A	黄ブ菌B	蛾	ユスリカ	蛾	ユスリカ	ヒノキ	
カビマルチ		スギ		ゴキブリ		ゴキブリ		ハンノキ	
乳幼児8 13172 A-1 5ml 880点		皮膚炎8 13175 A-1 5ml 880点		喘息8 13178 A-1 5ml 880点		鼻炎8 13181 A-1 5ml 880点		夏～秋12 13184 A-1 5ml 1320点	
卵白	ミルク	卵白	ミルク	ヤケヒョウヒダニ	動物マルチ	ヤケヒョウヒダニ	動物マルチ	ヤケヒョウヒダニ	ユスリカ
大豆	小麦	大豆	穀物マルチ	カビマルチ	スギ	カビマルチ	スギ	ハウスダスト1	カナムグラ
米	イワシ	ヤケヒョウヒダニ	動物マルチ	カモガヤ	雑草マルチ	カモガヤ	ブタクサ	ネコ皮屑	アスペルギルス
ヤケヒョウヒダニ	動物マルチ	マラセチア（属）	カンジダ	蛾	ゴキブリ	ヨモギ	蛾	イヌ皮屑	カンジダ
乳幼児4 13173 A-1 3ml 440点		皮膚炎4 13176 A-1 3ml 440点		喘息4 13179 A-1 3ml 440点		鼻炎4 13182 A-1 3ml 440点		ブタクサ	アルテルナリア
								ヨモギ	
卵白	ミルク	卵白	穀物マルチ	ヤケヒョウヒダニ	動物マルチ	ヤケヒョウヒダニ	スギ	蛾	
大豆	ヤケヒョウヒダニ	ヤケヒョウヒダニ	カビマルチ	カビマルチ	蛾	イネ科マルチ	雑草マルチ		

季節別							
通年性 13166 A-1 5ml 1100点		春 13162 A-1 5ml 1100点		夏 13165 A-1 5ml 1100点		秋 13167 A-1 5ml 1100点	
ヤケヒョウヒダニ	スギ	スギ	タンポポ（属）	カモガヤ	カナムグラ	ヤケヒョウヒダニ	動物マルチ
ハウスダスト1	ヒノキ	ヒノキ	動物マルチ	オオアワガエリ	動物マルチ	ブタクサ	ハウスダスト1
ネコ皮屑	イネ科マルチ	マツ	ハウスダスト1	ブタクサ	ハウスダスト1	ヨモギ	カナムグラ
イヌ皮屑	雑草マルチ	ハルガヤ	ヤケヒョウヒダニ	蛾	ヤケヒョウヒダニ	アキノキリンソウ	カビマルチ
カビマルチ	食物マルチ	フランスギク	カビマルチ	ユスリカ	カビマルチ	蛾	ユスリカ

花粉・アトピー					
花粉＋アトピー 13159 A-1 5ml 880点		花粉 13160 A-1 5ml 660点		アトピー鑑別パネル 13161 A-1 5ml 880点	
ハウスダスト1	スギ	ハウスダスト1	スギ	コナヒョウヒダニ	穀物マルチ
ヤケヒョウヒダニ	ヒノキ	ヤケヒョウヒダニ	ヒノキ	動物マルチ	食物マルチ
カビマルチ	カモガヤ	カモガヤ		イネ科マルチ	スギ
食物マルチ		動物マルチ		雑草マルチ	
動物マルチ				カビマルチ	

科目別							
内科 13151 A-1 5ml 1100点		皮膚科Ⅰ 13152 A-1 5ml 1100点		皮膚科Ⅱ 13153 A-1 5ml 1100点		耳鼻科 13158 A-1 5ml 1100点	
ヤケヒョウヒダニ	スギ	卵白	ソバ	卵白	ネコ皮屑	ヤケヒョウヒダニ	スギ
カンジダ	カモガヤ	ミルク	ヤケヒョウヒダニ	大豆	クラドスポリウム	ハウスダスト1	ブタクサ
アルテルナリア	ブタクサ	大豆	ネコ皮屑	米	カンジダ	クラドスポリウム	ヨモギ
ネコ皮屑	卵白	米	クラドスポリウム	小麦	アルテルナリア	カンジダ	カモガヤ
イヌ皮屑	大豆	小麦	カンジダ	ヤケヒョウヒダニ	スギ	ネコ皮屑	オオアワガエリ
眼科 13154 A-1 5ml 1100点		乳児 13155 A-1 5ml 1100点		幼児 13156 A-1 5ml 1100点		学童 13157 A-1 5ml 1100点	
ハルガヤ	ヤケヒョウヒダニ	卵白	ヤケヒョウヒダニ	卵白	サケ	卵白	スギ
カンジダ	スギ	ミルク	ハウスダスト1	ミルク	ヤケヒョウヒダニ	大豆	クラドスポリウム
アルテルナリア	ブタクサ	大豆	キウイ	大豆	ネコ皮屑	米	カンジダ
イヌ皮屑	カモガヤ	米	オレンジ	米	クラドスポリウム	小麦	ネコ皮屑
ネコ皮屑	ヨモギ	小麦	ジャガイモ	小麦	ハウスダスト1	ヤケヒョウヒダニ	イヌ皮屑

腫瘍関連検査

◆1【検体量】は、当社での分離後（血清・血漿）の量です。
◆2【保存条件】は、当社での保存条件です。

	項目コード（統一コード）	検査項目	◆1 検体量（mL）	容器	◆2 保存条件	検査方法	基準範囲	所要日数	実施料判断料	備考	検査目的及び異常値を示す主な疾患名
腫瘍関連検査	2005（5D010）	癌胎児性抗原（CEA）	血清 0.3	A	冷蔵	CLIA法	5.0以下 ng/mL	1～2	(99) 生化Ⅱ		【高値】大腸癌・胃癌・肺癌・転移性肝癌・胆道癌・食道癌・乳癌・子宮癌・慢性肝炎・肝硬変・閉塞性黄疸・胆石症・消化管潰瘍
	2006（5D015）	α-フェトプロテイン定量（AFP定量）	血清 0.3	A	冷蔵	CLIA法	10.0以下 ng/mL	1～2	(98) 生化Ⅱ		【高値】原発性肝細胞癌・ヨークサック腫瘍・急性肝炎・慢性肝炎・肝硬変・先天性胆道閉鎖症・妊娠（特に後期） 【低値】ダウン症候群
	2404（5D018）	AFPレクチン分画	血清 0.4	A	冷蔵	LBA（LBA-EATA）	L3分画：10.0未満 %	4～5	(185) 生化Ⅱ ①	M	【高値】肝細胞癌・ヨークサック腫瘍・卵黄嚢腫（乳幼児）
	0552（5D520）	PIVKA-Ⅱ	血清 0.5	A	冷蔵	CLIA法	40以下 mAU/mL	1～2	(131) 生化Ⅱ		【高値】肝細胞癌・慢性肝炎・肝硬変・肝内胆汁鬱滞・ビタミンK欠乏性出血症・吸収不全症候群・ワーファリン投与時
	2036（5D025）	塩基性フェトプロテイン（BFP）	血清 0.3	A	冷蔵	EIA法	75未満 ng/mL	3～9	(150) 生化Ⅱ	溶血でのご依頼は避けてください。 S	【高値】原発性肝癌・胆嚢・胆管癌・膵癌・腎癌・睾丸癌・前立腺癌・卵巣癌・子宮体癌・肺癌 【良性疾患】肝炎・子宮疾患・肝硬変・胆石症・前立腺疾患
	0462（5D300）	SCC抗原	血清 0.3	A	冷蔵	CLIA法	1.5以下 ng/mL	1～2	(101) 生化Ⅱ		【高値】子宮頸癌・肺癌・食道癌・頭頸部癌（皮膚癌などの扁平上皮癌）
	2483（5D325）	シフラ（CYFRA）（サイトケラチン19フラグメント）	血清 0.5	A	冷蔵	CLEIA法	3.5以下 ng/mL	1～2	(154) 生化Ⅱ ②		【陽性】肺非小細胞癌・扁平上皮癌・腺癌・大細胞癌・小細胞癌 【偽陽性】肺良性疾患・子宮頸癌・食道癌
	2765（5D550）	ProGRP（ガストリン放出ペプチド前駆体）	血漿 0.3	E1	冷蔵	CLIA法	81.0未満 pg/mL	3～4	(175) 生化Ⅱ ③	M	【高値】肺小細胞癌・肺大細胞癌・肺扁平上皮癌・肺腺癌
	0460（5D410）	NSE（神経特異エノラーゼ）	血清 0.5	A	冷蔵	ECLIA法	16.3以下 ng/mL	3～5	(142) 生化Ⅱ ③	溶血でのご依頼は避けてください。（溶血の場合、赤血球からNSEが逸脱して高値となります） S	【高値】肺小細胞癌・神経芽細胞腫
	0199（5D175）	シアリルLeˣ-i抗原（SLX）	血清 0.2	A	冷蔵	RIA固相法（IRMA）	38以下 U/mL	3～5	(140) 生化Ⅱ	溶血でのご依頼は避けてください。 S	【陽性】肺腺癌・卵巣癌・膵癌・胆道癌・乳癌 【偽陽性】びまん性汎細気管支炎（DPB）・肺線維症・気管支拡張症・重症肺結核

(99) 患者から1回に採取した血液を用いて2項目以上行った場合は、所定点数にかかわらず、検査の項目数に応じて次に掲げる点数により算定する。
2項目（230点） 3項目（290点） 4項目以上（385点）

悪性腫瘍特異物質治療管理料については、80ページを参照してください。

① α-フェトプロテインレクチン分画（AFP-L3%）は、電気泳動法及び抗体親和性転写法又はLBA法による。

② サイトケラチン19フラグメント（シフラ）は、悪性腫瘍であることが既に確定診断された患者については、小細胞癌を除く肺癌の場合に限り、「B001」特定疾患治療管理料の「3」悪性腫瘍特異物質治療管理料を算定できる。

③ ガストリン放出ペプチド前駆体（ProGRP）を神経特異エノラーゼ（NSE）と併せて実施した場合には、主たるもののみ算定する。

◆1【検体量】は、当社での分離後（血清・血漿）の量です。
◆2【保存条件】は、当社での保存条件です。

腫瘍関連検査

	項目コード（統一コード）	検査項目	◆1 検体量（mL）	容器	◆2 保存条件	検査方法	基準範囲	所要日数	実施料判断料	備考	検査目的及び異常値を示す主な疾患名
腫瘍関連検査	0456（5D120）	CA15-3	血清 0.5	A	冷蔵	CLEIA法	25.0以下 U/mL	1～2	(112) 生化Ⅱ		【陽性】進行乳癌・再発乳癌
	2650（5D125）	BCA225	血清 0.3	A	冷蔵	CLEIA法	160未満 U/mL	3～5	(158) 生化Ⅱ	S	【陽性】再発または転移乳癌
	2039（5D590）	血清HER2タンパク	血清 0.3	A	凍結	CLIA法	15.2以下 ng/mL	3～6	悪性腫瘍管理料①	M	【高値】乳癌をはじめとする悪性腫瘍・胃癌・卵巣癌・唾液腺癌
	2949（5D305）	前立腺特異抗原（PSA）	血清 0.3	A	冷蔵	CLIA法	4.00以下 ng/mL	1～2	(121) 生化Ⅱ②		【陽性】前立腺癌 【偽陽性】前立腺肥大症
	2239（5D306）	PSA-ACT	血清 0.3	A	凍結	CLIA法	3.4以下 ng/mL	3～6	(121) 生化Ⅱ②	良性の前立腺疾患と前立腺癌の判別に用いるカットオフ値は7.0ng/mLが推奨されます。 M	【高値】前立腺癌
	0497（5D308）	PSA F／T比	血清 0.8	A	凍結	CLEIA法	25（PSA 4.00～10.0 ng/mLにおけるカットオフ値） %	3～5	(150) 生化Ⅱ③	PSAとフリーPSAの測定結果も併せてご報告いたします。下記参照（注1） S	【低値】前立腺癌
	0463（5D310）	γ-セミノプロテイン（γ-Sm）	血清 0.5	A	凍結	CLEIA法	4.0以下 ng/mL	3～5	(192) 生化Ⅱ	（基準範囲について）4.0ng/mLは良性疾患との鑑別値です。 S	【高値】前立腺癌（病期が進むに従い高値をとり、陽性率も高い） 【偽陽性】前立腺肥大、その他の泌尿器系腫瘍

(112) 患者から1回に採取した血液を用いて2項目以上行った場合は、所定点数にかかわらず、検査の項目数に応じて次に掲げる点数により算定する。
2項目（230点） 3項目（290点） 4項目以上（385点）

悪性腫瘍特異物質治療管理料については、80ページを参照してください。

①HER2蛋白は、悪性腫瘍が既に確定診断され、かつ、HER2蛋白過剰発現が認められている患者又は他の測定法により、HER2蛋白過剰発現の有無が確認されていない再発癌患者に対して、当該検査の結果に基づいて計画的な治療管理を行った場合に限り、「B001」特定疾患治療管理料の「3」悪性腫瘍特異物質治療管理料の「ロ」により算定する。

②前立腺特異抗原（PSA）は、診察、腫瘍マーカー以外の検査、画像診断等の結果から、前立腺癌の患者であることを強く疑われる者に対して検査を行った場合に、前立腺癌の診断の確定又は転帰の決定までの間に原則として、1回を限度として算定する。ただし、前立腺特異抗原（PSA）の検査結果が4.0ng/mL以上であって前立腺癌の確定診断がつかない場合においては、3月に1回に限り、3回を限度として算定できる。
なお、当該検査を2回以上算定するに当たっては、検査値を診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。

③遊離型PSA比（PSA F/T比）は、診療及び他の検査（前立腺特異抗原（PSA）等）の結果から前立腺癌の患者であることが強く疑われる者に対して行った場合に限り算定する。

（注1）基準範囲について：25%はPSA 4.00～10.0ng/mLにおける前立腺癌と非癌（前立腺肥大症等）との判別に用いるカットオフ値です。
（低値ほど前立腺癌の確率が高くなります。）

PSAおよびPSA F/Tと前立腺癌

PSA（ng/mL）	前立腺癌の確率
0～2	1%
2～4	15%
4～10	25%
10～	50%以上

PSA F/T比（%）	前立腺癌の確率
0～10	56%
11～15	28%
16～20	20%
20～25	16%
25～	8%

腫瘍関連検査

◆1【検体量】は、当社での分離後（血清・血漿）の量です。
◆2【保存条件】は、当社での保存条件です。

	項目コード（統一コード）	検査項目	◆1 検体量（mL）	容器	◆2 保存条件	検査方法	基準範囲	所要日数	実施料判断料	備考	検査目的及び異常値を示す主な疾患名
腫瘍関連検査	0461（5D170）	DUPAN-2	血清 0.4	A	冷蔵	EIA法	150以下 U/mL	3～5	(115) 生化Ⅱ	S	【高値】膵癌・肝細胞癌・胆道癌・肝内胆管癌・大腸癌・慢性膵炎・慢性肝炎・肝硬変・胆石症・消化管潰瘍
	0454（3B195）	エラスターゼ1	血清 0.5	A	凍結	ラテックス免疫比濁法	300以下 ng/dL	3～5	(120) 生化Ⅱ	S	【高値】急性膵炎・慢性膵炎の再燃時・膵癌
	0455（5D130）	CA19-9	血清 0.5	A	冷蔵	CLEIA法	37.0以下 U/mL	1～2	(121) 生化Ⅱ		【陽性】膵癌・胆道癌・大腸癌・胃癌・肝癌
	2026（5D220）	SPan-1	血清 0.2	A	冷蔵	RIA固相法（IRMA）	30以下 U／mL	3～5	(144) 生化Ⅱ	S	【高値】膵癌、肝細胞癌、胆道癌、大腸癌、肝硬変、悪性リンパ腫
	2041（5D200）	NCC-ST-439	血清 0.5	A	冷蔵	EIA法	M 4.5未満 F 49歳以下 7.0未満 50歳以上 4.5未満 U/mL	3～5	(112) 生化Ⅱ	S	【高値】胆道癌・乳癌（再発）・膵癌
	2527（5D560）	抗p53抗体	血清 0.5	A	冷蔵	CLEIA法	1.30以下 U/mL	3～4	(163) 生化Ⅱ ①	B	【高値】乳癌・大腸癌・食道癌
	7742（5D110）	HE4（ヒト精巣上体蛋白4）	血清 0.3	A	冷蔵	CLIA法	F 閉経前 70.0以下 閉経後 140以下 pmol/L	4～6	(200) 生化Ⅱ ②	日本人卵巣癌患者における病態の経過観察としてのカットオフ値:70.0以下（pmol/L）（閉経前、閉経後） M	【陽性】卵巣癌（子宮内膜症やその他の良性疾患での陽性率が低い） 【偽陽性】高齢・閉経・喫煙
	0457（5D100）	CA125	血清 0.5	A	冷蔵	CLIA法	35.0以下 U/mL	1～2	(136) 生化Ⅱ ③		【陽性】卵巣癌（特に漿液性嚢胞腺癌）・膵癌・子宮頸癌 【偽陽性】子宮内膜症・良性卵巣腫瘍・腹膜炎・胸膜炎
	0465（5D103）	CA602	血清 0.4	A	冷蔵	EIA法	63.0以下 U/mL	4～7	(190) 生化Ⅱ ③	M	【陽性】卵巣癌（特に漿液性嚢胞腺癌・類内膜癌） 【偽陽性】卵巣良性腫瘍・卵巣類内膜嚢腫
	2315（5D155）	CA54／61	血清 0.5	A	冷蔵	ELISA法	12以下 U/mL	4～8	(184) 生化Ⅱ	S	【陽性】卵巣癌（粘液性嚢胞腺癌・漿液性嚢胞腺癌・類内膜癌） 【偽陽性】卵巣良性腫瘍
	0492（5D150）	CA72-4	血清 0.5	A	冷蔵	ECLIA法	10.0以下 U/mL	3～5	(146) 生化Ⅱ	S	【陽性】胃癌・結腸直腸癌・膵癌・乳癌・卵巣癌
	2217（5D153）	シアリルTn抗原（STN）	血清 0.3	A	冷蔵	RIA固相法	45以下 U/mL	3～6	(146) 生化Ⅱ	S	【陽性】卵巣癌・子宮頸癌・大腸癌・膵癌・胆道系癌・再発胃癌 【偽陽性】卵巣嚢胞・胆石・呼吸器系疾患

(　) 患者から１回に採取した血液を用いて2項目以上行った場合は、所定点数にかかわらず、検査の項目数に応じて次に掲げる点数により算定する。
2項目（230点） 3項目（290点） 4項目以上（385点）

悪性腫瘍特異物質治療管理料については、80ページを参照してください。

①抗p53抗体は、食道癌、大腸癌又は乳癌が強く疑われる患者に対して行った場合に月１回に限り算定できる。

②ヒト精巣上体蛋白4（HE4）は、CLIA法又はECLIA法により測定した場合に算定できる。

③CA125及びCA602を併せて測定した場合は、主たるもののみ算定する。

◆1【検体量】は、当社での分離後（血清・血漿）の量です。
◆2【保存条件】は、当社での保存条件です。

腫瘍関連検査

	項目コード（統一コード）	検査項目	◆1 検体量（mL）	容器	◆2 保存条件	検査方法	基準範囲	所要日数	実施料判断料	備考	検査目的及び異常値を示す主な疾患名
腫瘍関連検査	2966（5C124）	Ⅰ型コラーゲンC末端テロペプチド（ICTP）	血清 0.3	A	冷蔵	RIA 2抗体法	4.5未満 ng/mL	3～5	悪性腫瘍管理料①	S	【高値】肺癌・乳癌・前立腺癌の骨転移
	2526（5J095）	可溶性IL-2レセプター（sIL-2R）	血清 0.4	A	冷蔵	CLEIA法	156.6～474.5 U/mL	3～5	(438) 生化Ⅱ②	J	【高値】成人T細胞白血病・悪性リンパ腫・多発性骨髄腫・急性及び慢性白血病・慢性骨髄性白血病・膠原病・自己免疫性疾患・川崎病・肺癌・間質性肺炎
	1500（5D350）	5-S-システイニルドーパ（5-S-CD）	血清 1.0	A	凍結	HPLC法	1.5～8.0 nmol/L	4～8		S	【高値】悪性黒色腫
	0899（5D600）	可溶性メソテリン関連ペプチド（SMRP）	血清 0.3	A	冷蔵	CLEIA法	1.5未満 nmol/L	5～11	(220) 生化Ⅱ③	S	【高値】悪性胸膜中皮腫・卵巣癌・肺癌

(　) 患者から1回に採取した血液を用いて2項目以上行った場合は、所定点数にかかわらず、検査の項目数に応じて次に掲げる点数により算定する。
2項目（230点） 3項目（290点） 4項目以上（385点）

悪性腫瘍特異物質治療管理料については、80ページを参照してください。

① Ⅰ型コラーゲン-C-テロペプチド（ICTP）、Ⅰ型コラーゲン架橋N-テロペプチド（NTX）又はデオキシピリジノリン（DPD）（尿）は、乳癌、肺癌又は前立腺癌であると既に確定診断された患者について骨転移の診断のために当該検査を行い、当該検査の結果に基づいて計画的な治療管理を行った場合に限り、「B001」特定疾患治療管理料の「3」悪性腫瘍特異物質治療管理料の「ロ」を算定する。

②可溶性インターロイキン-2レセプター（sIL-2R）は、非ホジキンリンパ腫、ATL又はメトトレキサート使用中のリンパ増殖性疾患の診断の目的で測定した場合に算定できる。また、非ホジキンリンパ腫又はATLであることが既に確定診断された患者に対して、経過観察のために測定した場合は、「B001」特定疾患治療管理料の「3」悪性腫瘍特異物質治療管理料の「ロ」により算定する。

③可溶性メソテリン関連ペプチド

ア 可溶性メソテリン関連ペプチドは、悪性中皮腫の診断の補助又は悪性中皮腫であると既に確定診断された患者に対して治療効果の判定若しくは経過観察を目的として実施した場合に算定する。

イ 本検査を悪性中皮腫の診断の補助を目的として実施する場合は、以下のいずれかに該当する患者に対して使用した場合に限り算定する。この場合、本検査が必要である理由を診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。

（イ）石綿曝露歴があり、胸水、腹水等の貯留が認められる患者
（ロ）体腔液細胞診で悪性中皮腫が疑われる患者
（ハ）画像診断で胸膜腫瘍、腹膜腫瘍等の漿膜腫瘍が認められる患者

ウ 本検査を悪性中皮腫の治療効果の判定又は経過観察を目的として実施する場合は、悪性中皮腫であると既に確定診断された患者に対して、本検査の結果に基づいて計画的な治療管理を行った場合に限り、「B001」特定疾患治療管理料の「3」悪性腫瘍特異物質治療管理料「ロ」を算定する。

◆腫瘍マーカーについて

腫瘍マーカーは、悪性腫瘍の患者であることが強く疑われる者に対して検査を行った場合に、悪性腫瘍の診断の確定又は転帰の決定までの間に1回を限度として算定する。
悪性腫瘍の診断が確定し、計画的な治療管理を開始した場合、当該治療管理中に行った腫瘍マーカーの検査の費用は「B001」特定疾患治療管理料の「3」悪性腫瘍特異物質治療管理料に含まれ、腫瘍マーカーは、原則として、「B001」特定疾患治療管理料の「3」悪性腫瘍特異物質治療管理料と同一月に併せて算定できない。ただし、悪性腫瘍の診断が確定した場合であっても、次に掲げる場合においては、「B001」特定疾患治療管理料の「3」悪性腫瘍特異物質治療管理料とは別に腫瘍マーカーの検査料を算定できる。

ア. 急性及び慢性膵炎の診断及び経過観察のためにエラスターゼ1を行った場合
イ. 肝硬変、HBs抗原陽性の慢性肝炎又はHCV抗体陽性の慢性肝炎の患者について、α-フェトプロテイン（AFP）、PIVKA-Ⅱ半定量又は定量を行った場合（月1回に限る。）
ウ. 子宮内膜症の診断又は治療効果判定を目的としてCA125又はCA602を行った場合（診断又は治療前及び治療後の各1回に限る。）
エ. 家族性大腸腺腫症の患者に対して癌胎児性抗原（CEA）を行った場合

腫瘍関連検査

●腫瘍マーカーの臨床的有用性

●：特に有用性の高いもの
●：有用性が認められているもの（注：異なる解釈もあり得ます）

部位系	呼吸系	消化器						泌尿器・生殖器					その他			
検査項目＼腫瘍の種別（部位）	肺	食道	胃	肝	胆・胆道	膵	大腸	乳	卵巣	子宮	膀胱	前立腺	甲状腺	神経芽細胞腫	悪性リンパ腫	白血病
CEA（癌胎児性抗原）	●		●*9	●*1	●	●	●	●	●	●			●			
BFP（塩基性フェトプロテイン）	●			●	●	●			●			●				
SCC抗原（扁平上皮癌関連抗原）	●*3	●*3		●						●*3						
神経特異エノラーゼ（NSE）	●*4													●		
シアリルLe^{x}-i抗原（SLX）	●*6			●	●	●			●							
シフラ（サイトケラチン19フラグメント）	●*5	●														
ProGRP（ガストリン放出ペプチド前駆体）	●*4															
α-フェトプロテイン（AFP）				●*2												
AFPレクチン分画				●												
PIVKA Ⅱ				●												
DUPAN-2				●	●	●										
エラスターゼ1（IRE）						●										
CA19-9			●		●	●	●		●							
Span-1				●	●	●										
NCC-ST-439				●	●	●	●	●								
CA15-3								●	●							
BCA225								●								
CA125			●	●		●			●*8							
CA602									●							
CA72-4	●		●*10			●	●		●*7							
CA54/61			●						●							
シアリルTn抗原（STN）			●						●							
抗p53抗体		●					●	●								
PSA（前立腺特異抗原）												●				
PSA F/T比												●				
γ-セミノプロテイン（γ-Sm）												●				
可溶性IL-2レセプター															●	●
血清HER2タンパク								●								

＊1 転移性　＊2 原発性　＊3 扁平上皮　＊4 小細胞　＊5 非小細胞　＊6 膜　＊7 ムチン性　＊8 漿液性　＊9 分化型　＊10未分化型

●悪性腫瘍特異物質治療管理料

悪性腫瘍特異物質治療管理料	イ. 尿中BTAに係るもの		220点
	ロ. その他のもの	（1） 1項目の場合	360点
		（2） 2項目以上の場合	400点

注1　イについては、悪性腫瘍の患者に対して、尿中BTAに係る検査を行い、その結果に基づいて計画的な治療管理を行った場合に、月1回に限り第1回の検査及び治療管理を行ったときに算定する。

注2　ロについては、悪性腫瘍の患者に対して、区分番号D009に掲げる腫瘍マーカーに係る検査（注1に規定する検査を除く。）のうち1又は2以上の項目を行い、その結果に基づいて計画的な治療管理を行った場合に、月1回に限り第1回の検査及び治療管理を行ったときに算定する。

注3　注2に規定する悪性腫瘍特異物質治療管理に係る腫瘍マーカーの検査を行った場合は、1回目の悪性腫瘍特異物質治療管理料を算定すべき月に限り、150点をロの所定点数に加算する。ただし、当該月の前月に腫瘍マーカーの所定点数を算定している場合は、この限りでない。

注4　注1に規定する検査及び治療管理並びに注2に規定する検査及び治療管理を同一月に行った場合にあっては、ロの所定点数のみにより算定する。

注5　腫瘍マーカーの検査に要する費用は所定点数に含まれるものとする。

注6　注1及び注2に規定されていない腫瘍マーカーの検査及び計画的な治療管理であって特殊なものに要する費用は、注1又は注2に掲げられている腫瘍マーカーの検査及び治療管理のうち、最も近似するものの所定点数により算定する。

測定方法	検査項目		悪性腫瘍特異物質治療管理料（同一患者月1回）	初回月加算点
尿中BTAに係るもの	尿中BTA		220点	
その他のもの	CEA（癌胎児性抗原） TPA（組織ポリペプタイド抗原） SCC抗原（扁平上皮癌関連抗原） DUPAN-2 NCC-ST-439 CA15-3 エラスターゼ1 前立腺酸性フォスファターゼ（PAP）* 前立腺特異抗原（PSA） PSA F/T比 SPan-1 シアリルTn抗原（STN） 神経特異エノラーゼ（NSE） PIVKA-Ⅱ半定量* PIVKA-Ⅱ定量 塩基性フェトプロテイン（BFP） CA125 CA19-9 CA72-4 CA602 抗p53抗体	BCA225 γ-セミノプロテイン（γ-Sm） α-フェトプロテイン（AFP）定量 α-フェトプロテインレクチン分画 シフラ（サイトケラチン19フラグメント） ProGRP（ガストリン放出ペプチド前駆体） CA54/61 癌関連ガラクトース転移酵素（GAT）* シアリルLeˣ-i抗原（SLX） シアリルLeˣ抗原（CSLEX） ヒト精巣上体蛋白4 可溶性メソテリン関連ペプチド 癌胎児性抗原（CEA）定性（乳頭分泌液）* 癌胎児性抗原（CEA）半定量（乳頭分泌液）* 血清中HER2タンパク Ⅰ型コラーゲン-C-テロペプチド（ⅠCTP） 可溶性IL-2レセプター（SIL-2R） Ⅰ型コラーゲン架橋N-テロペプチド（NTx） 尿中デオキシピリジノリン（DPD） 骨型酒石酸抵抗酸性フォスファターゼ（TRACP-5b） *検査受託不可項目になります。	1項目の場合 360点 2項目以上の場合 400点	150点

【通　知】

1）悪性腫瘍特異物質治療管理料は、悪性腫瘍であると既に確定診断がされた患者について、腫瘍マーカー検査を行い、当該検査の結果に基づいて計画的な治療管理を行った場合に、月1回に限り算定する。

2）悪性腫瘍特異物質治療管理料には、腫瘍マーカー検査、当該検査に係る採血及び当該検査の結果に基づく治療管理に係る費用が含まれるものであり、1月のうち2回以上腫瘍マーカー検査を行っても、それに係る費用は別に算定できない。

3）腫瘍マーカー検査の結果及び治療計画の要点を診療録に添付又は記載する。

4）「注3」に規定する初回月加算は、適切な治療管理を行うために多項目の腫瘍マーカー検査を行うことが予想される初回月に限って算定する。ただし、悪性腫瘍特異物質治療管理料を算定する当該初回月の前月において、「D009」腫瘍マーカーを算定している場合は、当該初回月加算は算定できない。

5）「D009」腫瘍マーカーにおいて、併算定が制限されている項目を同一月に併せて実施した場合には、1項目とみなして、本管理料を算定する。

6）当該月に悪性腫瘍特異物質以外の検査（本通知の腫瘍マーカーの項に規定する例外規定を含む。）を行った場合は、本管理料とは別に、検査に係る判断料を算定できる。

7）特殊な腫瘍マーカー検査及び計画的な治療管理のうち、特に本項を準用する必要のあるものについては、その都度当局に内議し、最も近似する腫瘍マーカー検査及び治療管理として準用が通知された算定方法により算定する。

●次の項目は、悪性腫瘍が確定診断された患者に対しての悪性腫瘍特異物質治療管理料を算定する対象項目となる。

- 尿中BTA
  対象：膀胱癌の再発の診断
- 血清中HER2タンパク測定
  対象：乳癌（HER2タンパク過剰発現が認められている例）
  再発乳癌（HER2タンパク過剰発現が未確認の例）
- Ⅰ型コラーゲンCテロペプチド（ⅠCTP）
- Ⅰ型コラーゲン架橋N-テロペプチド（NTx）
- デオキシピリジノリン（DPD）（尿）
- TRACP-5b（骨型酒石酸抵抗性酸性フォスファターゼ）
  対象：乳癌、肺癌、前立腺癌患者の骨転移の診断

ウイルス学的検査

◆1【検体量】は、当社での分離後（血清・血漿）の量です。
◆2【保存条件】は、当社での保存条件です。

	項目コード（統一コード）	検査項目	◆1 検体量（mL）	容器	◆2 保存条件	検査方法	基準範囲	所要日数	実施料判断料	備考	検査目的及び異常値を示す主な疾患名
肝炎ウイルス検査	0901（5F016）	HBs抗原定性	血清 0.5	A	冷蔵	CLIA法	（－）	1～2	29 免疫		【陽性】B型肝炎
	0902（5F016）	HBs抗体定性	血清 0.5	A	冷蔵	CLIA法	（－）	1～2	32 免疫		
	0906（5F016）	HBs抗原定量	血清 0.5	A	冷蔵	CLIA法	0.05未満（－） IU/mL	1～2	(88) 免疫		
	0907（5F016）	HBs抗体定量	血清 0.5	A	冷蔵	CLIA法	10.0未満（－） mIU/mL	1～2	(88) 免疫		
	0908（5F019）	HBe抗原	血清 0.5	A	冷蔵	CLIA法	1.00未満（－） S/CO	1～2	(98) 免疫		
	0909（5F019）	HBe抗体	血清 0.5	A	冷蔵	CLIA法	Inhibition 50.0未満（－） %	1～2	(98) 免疫		
	0910（5F018）	HBc抗体	血清 0.5	A	冷蔵	CLIA法	0.9以下（－） S/CO	1～2	(130) 免疫 ①		
	0911（5F018）	IgM-HBc抗体	血清 0.5	A	冷蔵	CLIA法	1.0未満（－） S/CO	3～4	(146) 免疫 ①	B	
	0203（5F020）	B型肝炎ウイルスコア関連抗原（HBcrAg）	血清 0.5	A	冷蔵	CLEIA法	2.1未満 LogU/mL	3～6	(252) 免疫 ②	S	
	2199（5F015）	HBV-DNA定量（TaqManPCR法）	血清 2.1	Y	凍結	ロシュ・リアルタイムPCR法	検出せず Log IU/mL	4～5	256 微生物 ③	他項目との重複依頼は避けて下さい。本検査方法では、コンタミネーションの影響がより大きくなりますので検体採取にあたっては取扱に十分ご注意ください。 M	
	0168（5F015）	HBVゲノタイプ	血清 0.5	A	冷蔵	EIA法		3～9	(340) 免疫 ④	HBs抗原量が少なく、型判定が不可能な場合に「検出せず」とご報告いたします。 B	

(　) 患者から1回に採取した血液を用いて3項目以上行った場合は、所定点数にかかわらず、検査の項目数に応じて次に掲げる点数により算定する。
3項目（290点） 4項目（360点） 5項目以上（425点）

① HBc抗体半定量・定量とHBc-IgM抗体を同時に測定した場合は、一方の所定点数を算定する。

② HBVコア関連抗原（HBcrAg）は、HBV感染の診断の補助及び治療効果の判定の目的で、血清又は血漿中のHBVコア関連抗原（HBcrAg）を測定した場合に1月に1回に限り算定する。
なお、HBV核酸定量を同時に測定した場合は、主たるもののみ算定する。

③ B型肝炎ウイルス既感染者であって、免疫抑制剤の投与や化学療法を行っている悪性リンパ腫等の患者に対して、B型肝炎の再活性化を考慮し、測定した場合は、当該治療中及び治療終了後1年以内に限り、月1回を限度として算定できる。

③ HBVジェノタイプ判定は、B型肝炎の診断が確定した患者に対して、B型肝炎の治療法の選択の目的で実施した場合に、患者1人につき1回に限り算定できる。

◆1【検体量】は、当社での分離後（血清・血漿）の量です。
◆2【保存条件】は、当社での保存条件です。

ウイルス学的検査

	項目コード（統一コード）	検査項目	◆1 検体量（mL）	容器	◆2 保存条件	検査方法	基準範囲	所要日数	実施料 判断料	備考	検査目的及び異常値を示す主な疾患名
肝炎ウイルス検査	0903（5F350）	IgG-HA抗体	血清 0.6	A	冷蔵	CLIA法	1.00未満（－） S/CO	3～4	(146) 免疫 ①	B	【陽性】A型肝炎
	0913（5F350）	IgM-HA抗体	血清 0.6	A	冷蔵	CLIA法	0.80未満（－） S/CO	3～4	(146) 免疫 ①	B	
	2031（5F360）	HCV抗体	血清 0.3	A	冷蔵	CLEIA法	1.0未満（－） C.O.I	1～2	(102) 免疫		
	0498（5F360）	HCV抗体（第3世代） 特定健診（肝炎健診用）	血清 0.3	A	冷蔵	CLEIA法	1.0未満（－） C.O.I	1～2	(102) 免疫		
	2682（5F360）	HCV群別（グルーピング）	血清 0.5	A	冷蔵	CLEIA法		3～5	(215) 免疫 ②	判定基準：下記参照 S	
	2954（5F360）	HCV抗原（コア蛋白質）	血清 0.8	A	冷蔵	CLIA法	3.0未満 fmol/L	3～5	(102) 免疫	S	【陽性】C型肝炎
	2257（5F360）	HCV-RNA定量（TaqManPCR法）	血清 2.1	Y	凍結	ロシュ・リアルタイムRT-PCR法	検出せず Log IU/mL	4～5	412 微生物 ③	他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法では、コンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取扱に十分ご注意ください。 M	
	2209（5F360）	HCV RNA コアジェノタイプ	血清 0.5	Y	凍結	RT-PCR法	1a型 検出せず 1b型 検出せず 2a型 検出せず 2b型 検出せず 3a型 検出せず 3b型 検出せず	4～6		他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法では、コンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取扱に十分ご注意ください。 S	
	0467（5F370）	IgA-HEV抗体	血清 0.3	A	凍結	EIA法	（－）	4～10	(210) 免疫	B	【陽性】E型肝炎

(　) 患者から1回に採取した血液を用いて3項目以上行った場合は、所定点数にかかわらず、検査の項目数に応じて次に掲げる点数により算定する。
3項目（290点） 4項目（360点） 5項目以上（425点）

①HA抗体とHA-IgM抗体を同時に測定した場合は、一方の所定点数のみを算定する。

②HCV血清群別判定は、EIA法により、C型肝炎の診断が確定した患者に対して、C型肝炎の治療法の選択の目的で実施した場合に、患者1人につき1回に限り算定できる。

③HCV核酸定量は、分岐DNAプローブ法、PCR法又はTMA法と核酸ハイブリダイゼーション法を組み合わせた方法により、急性C型肝炎の診断、C型肝炎の治療法の選択及び治療経過の観察に用いた場合にのみ算定できる。

肝炎ウイルス項目　判定基準

検査項目		陰性	判定保留	陽性
HBe抗原	S/CO	1.00未満		1.00以上
HBe抗体	Inhibition	50.0%未満		50.0%以上
HBc抗体	S/CO	0.9以下		1.0以上
IgG-HA抗体	S/CO	1.00未満		1.00以上
IgM-HA抗体	S/CO	0.80未満	0.80～1.20	1.21以上
HCV抗体	C.O.I	1.0未満		1.0以上

HCV群別（グルーピング）判定基準

判定基準	報告
一方のグループの抗体が陽性で、他方のグループが陰性の場合	グループ1 または グループ2
どちらのグループも陽性で抗体価が他方のグループの抗体価の2倍以上を示した場合、高い抗体価のグループを報告します。	
どちらのグループも陽性で抗体価が他方のグループの抗体価の2倍以上とらない場合で、どちらのグループか判定できない場合	判定保留
どちらのグループの抗体も陰性の場合	判定不能

ウイルス学的検査

◆1【検体量】は、当社での分離後（血清・血漿）の量です。
◆2【保存条件】は、当社での保存条件です。

	項目コード（統一コード）	検査項目	◆1 検体量（mL）	容器	◆2 保存条件	検査方法	基準範囲	所要日数	実施料 判断料	備考	検査目的及び異常値を示す主な疾患名
抗体検査	0931（5F150）	アデノウイルス	血清 0.3 髄液 0.4	A U2	冷蔵	CF法	血清 4未満 髄液 1未満 倍	5～7	79 免疫 ①	*CF:下記参照 S	【陽性】上気道炎・毛細管気管支炎・肺炎・流行性角膜炎・咽頭結膜熱・胃腸炎・急性出血性膀胱炎・発疹症
	0933（5F151）	アデノウイルス 1型	血清 各0.2 髄液 各0.4	A U2	冷蔵	NT法	血清 4未満 髄液 1未満 倍	8～14	79 免疫 ①	*NT:下記参照 S	
	0934（5F152）	アデノウイルス 2型									
	0935（5F153）	アデノウイルス 3型									
	0936（5F154）	アデノウイルス 4型									
	0937（5F155）	アデノウイルス 5型									
	0938（5F156）	アデノウイルス 6型									
	0939（5F157）	アデノウイルス 7型									
	0940（5F161）	アデノウイルス 11型									
	0941（5F169）	アデノウイルス 19型									
	2153（5F171）	アデノウイルス 21型									
	2134（5F177）	アデノウイルス 37型									

①ウイルス抗体価（定性・半定量・定量）（1項目当たり）100ページを参照して下さい。

※CF（補体結合反応）：補体結合反応におきましては抗補体作用がみられ、測定不能になる場合がありますので、抗凝固剤を入れずに採血して速やかに血清分離し冷蔵保存してください。

※NT（中和反応）：細菌繁殖などにより細胞が汚染され、測定不能になる場合がありますのでご注意ください。

◆1【検体量】は、当社での分離後（血清・血漿）の量です。
◆2【保存条件】は、当社での保存条件です。

ウイルス学的検査

	項目コード（統一コード）	検査項目		◆1 検体量（mL）	容器	◆2 保存条件	検査方法	基準範囲	所要日数	実施料判断料	備考	検査目的及び異常値を示す主な疾患名
抗体検査	1002（5F313）	エコーウイルス	3型	血清各0.3	A	冷蔵	HI法	血清　8未満 倍	4～6	79 免疫①	M	【陽性】無菌性髄膜炎・中枢神経疾患・麻痺・発疹・ヘルパンギーナ・心嚢炎・心筋炎・筋痛症・気道疾患・肝炎
	1004（5F317）		7型									
	1005（5F321）		11型									
	1006（5F322）		12型									
	1007（5F311）	エコーウイルス	1型	血清各0.2 髄液各0.4	A U2	冷蔵	NT法	血清　4未満 髄液　1未満 倍	8～12	79 免疫①	*NT:下記参照 S	
	1008（5F313）		3型									
	1009（5F314）		4型									
	1010（5F315）		5型						8～14			
	1011（5F316）		6型						8～12			
	1012（5F317）		7型									
	1013（5F319）		9型									

①ウイルス抗体価（定性・半定量・定量）（1項目当たり）100ページを参照して下さい。

※NT（中和反応）：細菌繁殖などにより細胞が汚染され、測定不能になる場合がありますのでご注意ください。

ウイルス学的検査

◆1【検体量】は、当社での分離後（血清・血漿）の量です。
◆2【保存条件】は、当社での保存条件です。

	項目コード（統一コード）	検査項目	◆1 検体量（mL）	容器	◆2 保存条件	検査方法	基準範囲	所要日数	実施料判断料	備考	検査目的及び異常値を示す主な疾患名
抗体検査	1014（5F321）	エコーウイルス 11型	血清 各0.2 髄液 各0.4	A U2	冷蔵	NT法	血清 4未満 髄液 1未満 倍	8～14	79 免疫①	*NT:下記参照 S	【陽性】無菌性髄膜炎・中枢神経疾患・麻痺・発疹・ヘルパンギーナ・心嚢炎・心筋炎・筋痛症・気道疾患・肝炎
	1015（5F322）	12型						8～12			
	1016（5F323）	13型						8～14			
	（5F324）	14型						6～12			
	1485（5F326）	16型						8～12			
	1017（5F327）	17型						6～12			
	1479（5F328）	18型						8～14			
	1018（5F329）	19型						8～12			
	（5F331）	21型									
	1019（5F332）	22型									
	1020（5F334）	24型									
	1021（5F335）	25型									
	1022（5F340）	30型									

①ウイルス抗体価（定性・半定量・定量）（1項目当たり）100ページを参照して下さい。

※NT（中和反応）：細菌繁殖などにより細胞が汚染され、測定不能になる場合がありますのでご注意ください。

◆1【検体量】は、当社での分離後（血清・血漿）の量です。
◆2【保存条件】は、当社での保存条件です。

ウイルス学的検査

	項目コード（統一コード）	検査項目	◆1 検体量（mL）	容器	◆2 保存条件	検査方法	基準範囲	所要日数	実施料判断料	備考	検査目的及び異常値を示す主な疾患名
抗体検査	0979（5F289）	コクサッキーウイルス A群9型	血清0.3 髄液0.4	A U2	冷蔵	CF法	血清 4未満 髄液 1未満 倍	5～7	79 免疫 ①	*CF:下記参照 S	【陽性】手足口病（Cox A6・A16）・ヘルパンギーナ（Cox A群）・急性リンパ結節性咽頭炎（Cox A10）・無菌性髄膜炎・上気道感染症（Cox A21）・発疹症・心筋炎（B群）・流行性筋痛症
	0896（5F282）	コクサッキーウイルス A群2型	血清各0.2 髄液各0.4	A U2	冷蔵	NT法	血清 4未満 髄液 1未満 倍	8～14	79 免疫 ①	*NT:下記参照 S	
	0897（5F283）	A群3型									
	1433（5F284）	A群4型									
	2462（5F285）	A群5型									
	0898（5F286）	A群6型									
	0987（5F287）	A群7型									
	0988（5F289）	A群9型									
	2463（5F290）	A群10型									
	0989 L7820（5F296）	A群16型									

L:髄液コード

①ウイルス抗体価（定性・半定量・定量）（1項目当たり）100ページを参照して下さい。

※CF（補体結合反応）：補体結合反応におきましては抗補体作用がみられ、測定不能になる場合がありますので、抗凝固剤を入れずに採血して速やかに血清分離し冷蔵保存してください。

※NT（中和反応）：細菌繁殖などにより細胞が汚染され、測定不能になる場合がありますのでご注意ください。

ウイルス学的検査

◆1【検体量】は、当社での分離後（血清・血漿）の量です。
◆2【保存条件】は、当社での保存条件です。

	項目コード（統一コード）	検査項目		◆1 検体量（mL）	容器	◆2 保存条件	検査方法	基準範囲	所要日数	実施料判断料	備考	検査目的及び異常値を示す主な疾患名
抗体検査	0981（5F301）	コクサッキーウイルス	B群1型	血清 各0.3 髄液 各0.4	A U2	冷蔵	CF法	血清 4未満 髄液 1未満 倍	5～7	79 免疫①	*CF:下記参照 S	【陽性】手足口病（Cox A6・A16）・ヘルパンギーナ（Cox A群）・急性リンパ結節性咽頭炎（Cox A10）・無菌性髄膜炎・上気道感染症（Cox A21）・発疹症・心筋炎（B群）・流行性筋痛症
	0982（5F302）		B群2型									
	0983（5F303）		B群3型									
	0984（5F304）		B群4型									
	0985（5F305）		B群5型									
	0986（5F306）		B群6型									
	0990（5F301）	コクサッキーウイルス	B群1型	血清 各0.2 髄液 各0.4	A U2	冷蔵	NT法	血清 4未満 髄液 1未満 倍	8～14	79 免疫①	*NT:下記参照 S	
	0991（5F302）		B群2型									
	0992（5F303）		B群3型									
	0993（5F304）		B群4型									
	0994（5F305）		B群5型									
	0995（5F306）		B群6型									

①ウイルス抗体価（定性・半定量・定量）（1項目当たり）100ページを参照して下さい。

※CF（補体結合反応）：補体結合反応におきましては抗補体作用がみられ、測定不能になる場合がありますので、抗凝固剤を入れずに採血して速やかに血清分離し冷蔵保存してください。

※NT（中和反応）：細菌繁殖などにより細胞が汚染され、測定不能になる場合がありますのでご注意ください。

◆1【検体量】は、当社での分離後（血清・血漿）の量です。
◆2【保存条件】は、当社での保存条件です。

ウイルス学的検査

	項目コード（統一コード）	検査項目	◆1 検体量（mL）	容器	◆2 保存条件	検査方法	基準範囲	所要日数	実施料判断料	備考	検査目的及び異常値を示す主な疾患名
抗体検査	0951（5F385）	日本脳炎ウイルス	血清 0.5 髄液 1.0	A U2	冷蔵	HI法	ジャガー 10未満 ジャガー2ME 10未満 髄液 10未満 倍	5～8	79 免疫①	JaGAr株を使用 S	【陽性】日本脳炎
	0952 L7890（5F385）		血清 0.3 髄液 0.4			CF法	血清 4未満 髄液 1未満 倍	5～7		*CF:下記参照 S	
	0942 L9289（5F430）	RSウイルス	血清 0.3 髄液 0.4	A U2	冷蔵	CF法	血清 4未満 髄液 1未満 倍	5～7	79 免疫①	*CF:下記参照 S	【陽性】RSウイルス感染症
	0943（5F430）		血清 0.2 髄液 0.4			NT法		8～12		*NT:下記参照 S	
	0973 L7805（5F270）	エンテロウイルス 70型	血清 各0.2 髄液 各0.4	A U2	冷蔵	NT法	血清 4未満 髄液 1未満 倍	7～13		*NT:下記参照 S	【陽性】急性出血性結膜炎（70型）・手足口病（71型）
	0972 L7806（5F271）	71型									
	2957（5F011）	ヒトパルボウイルスB19 IgG	血清 各0.2	A	冷蔵	EIA法	0.80未満（－）	3～5	200 免疫②③	判定基準:下記参照 S	【陽性】伝染性紅斑（りんご病）・慢性溶血性貧血患者の骨髄無形成発作・胎児水腫
	2579（5F011）	IgM									

L:髄液コード

①ウイルス抗体価（定性・半定量・定量）（1項目当たり）100ページを参照して下さい。

②グロブリンクラス別ウイルス抗体価（1項目当たり）100ページを参照して下さい。

③ヒトパルボウイルスB19は、紅斑が出現している15歳以上の成人について、このウイルスによる感染症が強く疑われ、IgM型ウイルス抗体価を測定した場合に算定する。

※CF（補体結合反応）：補体結合反応におきましては抗補体作用がみられ、測定不能になる場合がありますので、抗凝固剤を入れずに採血して速やかに血清分離し冷蔵保存してください。

※NT（中和反応）：細菌繁殖などにより細胞が汚染され、測定不能になる場合がありますのでご注意ください。

ヒトパルボウイルスB19 判定基準

判定	抗体指数
－	0.80未満
±	0.80～0.99
＋	1.00以上

ウイルス学的検査

◆1【検体量】は、当社での分離後（血清・血漿）の量です。
◆2【保存条件】は、当社での保存条件です。

	項目コード（統一コード）	検査項目	◆1 検体量（mL）	容器	◆2 保存条件	検査方法	基準範囲	所要日数	実施料判断料	備考	検査目的及び異常値を示す主な疾患名
抗体検査	0962 L7819（5F194）	サイトメガロウイルス（CMV）	血清 0.3 髄液 0.4	A U2	冷蔵	CF法	血清 4未満 髄液 1未満 倍	5～7	79 免疫①	*CF:下記参照 S	【陽性】サイトメガロウイルス感染症・不顕性感染
	1041（5F194）	サイトメガロウイルス IgG	血清各0.5	A	冷蔵	CLIA法	6.0未満（－） AU/mL	3～5	200 免疫②	判定基準:下記参照	
	1040（5F194）	サイトメガロウイルス（CMV） IgM					0.85未満（－） Index			S	
	0974 L7872（5F432）	ムンプスウイルス	血清 0.2 髄液 0.4	A U2	冷蔵	HI法	血清 8未満 髄液 8未満 倍	4～6	79 免疫①	S	【陽性】流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）・無菌性髄膜炎・全身感染症（膵臓炎・睾丸炎・卵巣炎）
	0975 L7871（5F432）		血清 0.3 髄液 0.4			CF法	血清 4未満 髄液 1未満 倍	5～7		*CF:下記参照 S	
	0976 L7873（5F432）		血清 0.2 髄液 0.4			NT法		8～14		*NT:下記参照 S	
	1047（5F432）	ムンプスウイルス IgG	血清 0.2	A	冷蔵	EIA法	血清 2.0未満（－）	3～5	200 免疫②	判定基準:下記参照	
	1046 L7876（5F432）	ムンプスウイルス IgM	血清 0.2 髄液 0.4	A U2	冷蔵		血清 0.80未満（－） 髄液 0.80未満（－）			S	

L:髄液コード

①ウイルス抗体価（定性・半定量・定量）（1項目当たり）100ページを参照して下さい。
②グロブリンクラス別ウイルス抗体価（1項目当たり）100ページを参照して下さい。

※CF（補体結合反応）：補体結合反応におきましては抗補体作用がみられ、測定不能になる場合がありますので、抗凝固剤を入れずに採血して速やかに血清分離し冷蔵保存してください。
※NT（中和反応）：細菌繁殖などにより細胞が汚染され、測定不能になる場合がありますのでご注意ください。

サイトメガロウイルス（血清）判定基準

判定	IgG（AU/mL）	IgM（Index）
－	6.0未満	0.85未満
±		0.85～1.00未満*2
＋	6.0以上*1	1.00以上

*1：6.0～15.0 AU/mLの結果値の際には、適切な期間（例:2週間）内に再採取し、再検査をお勧めします。
*2：判定保留の際には、適切な期間（例:2週間）内に再採取し、再検査をお勧めします。

ムンプスウイルス（血清）判定基準

判定	IgG（EIA価）	IgM（抗体指数）
－	2.0未満	0.80未満
±	2.0～3.9	0.80～1.20
＋	4.0以上	1.21以上

◆1【検体量】は、当社での分離後（血清・血漿）の量です。
◆2【保存条件】は、当社での保存条件です。

ウイルス学的検査

	項目コード（統一コード）	検査項目	◆1 検体量（mL）	容器	◆2 保存条件	検査方法	基準範囲	所要日数	実施料 判断料	備考	検査目的及び異常値を示す主な疾患名
抗体検査	0944 L2057 (5F395)	風疹ウイルス	血清 0.2 髄液 0.4	A U2	冷蔵	HI法	血清 8未満 髄液 1未満 倍	4～6	79 免疫 ①	S	【高値】風疹、先天性風疹症候群 ［風疹の合併症として成人の場合］ 関節炎・脳炎・溶血性貧血・血小板減少性紫斑病・進行性風疹全脳炎・風疹ウイルスワクチン接種 【低値】HI価8倍未満の場合は未感染またはワクチン未接種、あるいは無効例と考えられる。妊娠5カ月くらいまで罹患しないよう留意が必要。出産後ワクチン接種が望まれる。
	1043 L7887 (5F395)	風疹ウイルス IgG	血清 各0.2 髄液 各0.4	A U2	冷蔵	EIA法	血清 2.0未満(－) 髄液 0.20未満(－)	3～5	200 免疫 ②	判定基準:下記参照 S	
	1042 L7888 (5F395)	風疹ウイルス IgM					血清 0.80未満(－) 髄液 0.80未満(－)				
	0950 (5F431)	麻疹ウイルス	血清 0.2 髄液 0.4	A U2	冷蔵	NT法	血清 4未満 髄液 1未満 倍	8～12	79 免疫 ①	*NT:下記参照 S	【陽性】麻疹（はしか）・中枢神経合併症・急性麻疹脳炎・亜急性硬化性全脳炎（SSPE）
	1045 L7868 (5F431)	麻疹ウイルス IgG	血清 各0.2 髄液 各0.4	A U2	冷蔵	EIA法	血清 2.0未満(－) 髄液 0.20未満(－)	3～5	200 免疫 ②	判定基準:下記参照 S	
	1044 L7869 (5F431)	麻疹ウイルス IgM					血清 0.80未満(－) 髄液 0.80未満(－)				

L:髄液コード

①ウイルス抗体価（定性・半定量・定量）（1項目当たり）100ページを参照して下さい。
②グロブリンクラス別ウイルス抗体価（1項目当たり）100ページを参照して下さい。

※NT（中和反応）： 細菌繁殖などにより細胞が汚染され、測定不能になる場合がありますのでご注意ください。

【麻疹ウイルスIgMの結果における注意事項】
伝染性紅斑（パルボウイルスB19感染）、デング熱、突発性発疹（HHV6感染）などでも麻疹ウイルスIgMが陽性となる症例があることが報告されています。診断においては臨床症状および他の検査を加味し、総合的に判断してください。

風疹ウイルス（血清）判定基準

判定	IgG（EIA価）	IgM（抗体指数）
－	2.0未満	0.80未満
±	2.0～3.9	0.80～1.20
＋	4.0以上	1.21以上

麻疹ウイルス（血清）判定基準

判定	IgG（EIA価）	IgM（抗体指数）
－	2.0未満	0.80未満
±	2.0～3.9	0.80～1.20
＋	4.0以上	1.21以上

ウイルス学的検査

◆1【検体量】は、当社での分離後（血清・血漿）の量です。
◆2【保存条件】は、当社での保存条件です。

	項目コード（統一コード）	検査項目	◆1 検体量（mL）	容器	◆2 保存条件	検査方法	基準範囲	所要日数	実施料判断料	備考	検査目的及び異常値を示す主な疾患名
抗体検査	0954 L7788（5F190）	単純ヘルペスウイルス（HSV）	血清 0.3 髄液 0.4	A U2	冷蔵	CF法	血清 4未満 髄液 1未満 倍	5～7	79 免疫①	*CF:下記参照 S	【陽性】角膜ヘルペス・角結膜炎・歯肉口内炎・ヘルペス性湿疹・ヘルペス脳炎・不顕性感染 〔1型〕主に上半身 〔2型〕主に下半身
	0955 L8262（5F191）	単純ヘルペスウイルス（HSV） 1型	血清各0.2 髄液各0.4	A U2	冷蔵	NT法	血清 4未満 髄液 1未満 倍	7～13	79 免疫①	*NT:下記参照 S	
	0956 L8263（5F192）	単純ヘルペスウイルス（HSV） 2型									
	1037 L7798（5F190）	単純ヘルペスウイルス（HSV） IgG				EIA法	血清 2.0未満（－） 髄液 0.20未満（－）	3～5	200 免疫②	判定基準:下記参照 S	
	1036 L7799（5F190）	単純ヘルペスウイルス（HSV） IgM					血清 0.80未満（－） 髄液 0.80未満（－）				
	0959 L7794（5F193）	水痘・帯状疱疹ウイルス（VZV）	血清 0.3 髄液 0.4	A U2	冷蔵	CF法	血清 4未満 髄液 1未満 倍	5～7	79 免疫①	*CF:下記参照 S	【陽性】水痘・帯状疱疹・水疱瘡・ヘルペス・VZV髄膜炎・VZV不顕性感染
	1039 L7803（5F193）	水痘・帯状疱疹ウイルス（VZV） IgG	血清各0.2 髄液各0.4	A U2	冷蔵	EIA法	血清 2.0未満（－） 髄液 0.20未満（－）	3～5	200 免疫②	判定基準:下記参照 S	
	1038 L7804（5F193）	水痘・帯状疱疹ウイルス（VZV） IgM					血清 0.80未満（－） 髄液 0.80未満（－）				

L:髄液コード

①ウイルス抗体価（定性・半定量・定量）（1項目当たり）100ページを参照して下さい。
②グロブリンクラス別ウイルス抗体価（1項目当たり）100ページを参照して下さい。

※CF（補体結合反応）：補体結合反応におきましては抗補体作用がみられ、測定不能になる場合がありますので、抗凝固剤を入れずに採血して速やかに血清分離し冷蔵保存してください。
※NT（中和反応）：細菌繁殖などにより細胞が汚染され、測定不能になる場合がありますのでご注意ください。

単純ヘルペスウイルス 判定基準

判定	IgM（抗体指数）	IgG（EIA価）	
		血清	髄液
－	0.80未満	2.0未満	0.20未満
±	0.80～1.20	2.0～3.9	0.20～0.39
＋	1.21以上	4.0以上	0.40以上

水痘・帯状疱疹ウイルス（血清）判定基準

判定	IgG（EIA価）	IgM（抗体指数）
－	2.0未満	0.80未満
±	2.0～3.9	0.80～1.20
＋	4.0以上	1.21以上

◆1【検体量】は、当社での分離後（血清・血漿）の量です。
◆2【保存条件】は、当社での保存条件です。

ウイルス学的検査

	項目コード（統一コード）	検査項目		◆1 検体量（mL）	容器	◆2 保存条件	検査方法	基準範囲	所要日数	実施料判断料	備考	検査目的及び異常値を示す主な疾患名
抗体検査	0916 L7843 (5F400)	インフルエンザウイルス	A型	血清 各0.3 髄液 各0.4	A U2	冷蔵	CF法	血清 4未満 髄液 1未満 倍	5～7	79 免疫 ①	*CF:下記参照 S	
	0924 L7853 (5F410)		B型									
	2028 (5F399)	インフルエンザ流行株	A型（H1N1）（H3N2）	血清 0.2 髄液 0.4	A U2	冷蔵	HI法	A型（H1N1）10未満 A型（H3N2）10未満 髄液 10未満 倍	4～6	158 免疫 ①	S	【陽性】A型・B型インフルエンザウイルス感染症
			B型					B-1 10未満 B-2 10未満 髄液 10未満 倍				
	0927 (5F421)	パラインフルエンザウイルス	1型	血清 各0.2 髄液 各0.4	A U2	冷蔵	HI法	血清 10未満 髄液 10未満 倍	4～6	79 免疫 ①	S	【陽性】パラインフルエンザウイルス感染症
	0928 (5F422)		2型									
	0929 (5F423)		3型									

L:髄液コード

①ウイルス抗体価（定性・半定量・定量）（1項目当たり）100ページを参照して下さい。
②グロブリンクラス別ウイルス抗体価（1項目当たり）100ページを参照して下さい。

※CF（補体結合反応）：補体結合反応におきましては抗補体作用がみられ、測定不能になる場合がありますので、抗凝固剤を入れずに採血して速やかに血清分離し冷蔵保存してください。

ウイルス学的検査

◆1【検体量】は、当社での分離後（血清・血漿）の量です。
◆2【保存条件】は、当社での保存条件です。

	項目コード（統一コード）	検査項目		◆1 検体量（mL）	容器	◆2 保存条件	検査方法	基準範囲	所要日数	実施料判断料	備考	検査目的及び異常値を示す主な疾患名
抗体検査	0917（5F203）	EBウイルス	抗EA IgG	血清各0.2	A	冷蔵	EIA法	0.5未満（－）	3～5	200 免疫 ②	判定基準：下記参照 S	【陽性】伝染性単核球症・慢性活動性EBV感染症・バーキットリンパ腫・上咽頭癌・日和見Bリンパ腫（最近胃癌との関連も指摘されている）
	0918（5F202）		抗VCA IgM									
	0919（5F202）		抗VCA IgG									
	0920（5F204）		抗EBNA IgG									
	1024（5F202）	EBウイルス	抗VCA IgG	血清各0.2	A	冷蔵	FA法	10未満 倍	4～6	200 免疫 ②	S	
	1025（5F202）		抗VCA IgM									
	1026（5F202）		抗VCA IgA							79 免疫 ①		
	1027（5F203）		抗EA-DR IgG							200 免疫 ②		
	1029（5F203）		抗EA-DR IgA							79 免疫 ①		
	2378（5F203）		抗EA-DR IgM									
	1030（5F204）		抗EBNA							79 免疫 ①		

①ウイルス抗体価（定性・半定量・定量）（1項目当たり）100ページを参照して下さい。
②グロブリンクラス別ウイルス抗体価（1項目当たり）100ページを参照して下さい。

EBウイルス（EIA法）判定基準

判定	抗体指数
－	0.5未満
±	0.5～0.9
＋	1.0以上

EBウイルス関連疾患と抗体検査との関係（●:推奨される組合せ検査）

検査項目名	未感染	EBV既感染健常者	EBV初感染（伝染性単核症） 急性期	EBV初感染（伝染性単核症） 回復期	慢性活動性EBV感染症	上咽頭癌
VCA-IgG	－	＋ ●	＋＋	＋	＋＋＋●	＋＋＋●
VCA-IgA	－	－	－	－	－～＋	＋ ●
VCA-IgM	－	－	＋ ●	－	－～＋	－
EA-DR-IgG	－	－	＋＋	＋	＋＋＋●	＋＋＋
EA-DR-IgA	－	－	－	－	－～＋	＋
EBNA	－	＋ ●	－ ●	－～＋	－～＋	＋

◆2【保存条件】は、当社での保存条件です。

ウイルス学的検査

	項目コード（統一コード）	検査項目	検体量（mL）	容器	◆2 保存条件	検査方法	基準範囲	所要日数	実施料 判断料	備考	検査目的及び異常値を示す主な疾患名
抗原検査	2161（5F150）	アデノウイルス抗原	便 1.0g	K	凍結	免疫クロマト法	（－）	3～9	60 免疫 ①	B	【陽性】流行性角結膜炎・咽頭結膜熱・胃腸炎・熱性咽頭炎・急性気道疾患
	1599（5F610）	ロタウイルス抗原	便 1g	K	冷蔵	イムノクロマト法	（－）	1～2	65 免疫 ①		【陽性】ロタウイルス感染症
	1311（5F630）	ノロウイルス抗原（イムノクロマト法）	便 1g	K	冷蔵	イムノクロマト法	（－）	1～2	150 免疫 **	**下記参照** ノロウイルス抗原定性は、下記のいずれかに該当する患者について、当該ウイルス感染症が疑われる場合に算定する。	
	1913（5F630）	ノロウイルス抗原（RT-PCR法）	便 小指頭代	K	冷蔵	RT-PCR法	（－）	2～3			【陽性】小児ウイルス性胃腸炎
	2220（5F630）	ノロウイルス抗原（EIA法）	便 小指頭代	K	凍結	EIA法	（－）	5～7		M	
	2021（5F190）	単純ヘルペス特異抗原	患部拭液標本1枚	Q5	凍結	蛍光抗体法	1型 （－） 2型 （－）	3～4	180 免疫 ②	採取方法:下記参照 B	【陽性】角膜ヘルペス・角結膜炎・歯肉口内炎・ヘルペス性湿疹・ヘルペス脳炎・不顕性感染
	0980（5F193）	水痘帯状ヘルペス抗原	患部拭液標本1枚	Q5	凍結	蛍光抗体法	（－）	3～4	227 免疫	採取方法:下記参照 B	【陽性】水痘・帯状疱疹・水疱瘡・ヘルペス・VZV髄膜炎・VZV不顕性感染

①アデノウイルス抗原定性（糞便）とロタウイルス抗原定性（糞便）又は定量（糞便）を同時に行った場合は、主たる検査のみ算定する。

②単純ヘルペスウイルス抗原定性は、ヘルペスウイルスの型別試験を行った場合に算定できる。

** ア、3歳未満の患者　イ、65歳以上の患者　ウ、悪性腫瘍の診断が確定している患者
エ、臓器移植後の患者　オ、抗悪性腫瘍剤、免疫抑制剤、又は免疫抑制効果のある薬剤を投与中の患者

単純ヘルペス特異抗原（FA）・水痘帯状ヘルペス抗原（FA）の採取方法

1.検体の採取

Ⅰ.水疱の場合
小水疱、膿疱、痂皮

Ⅱ.水疱でない場合
（潰瘍等）

針を挿入し、上部の皮あるいは痂皮を剥がします。

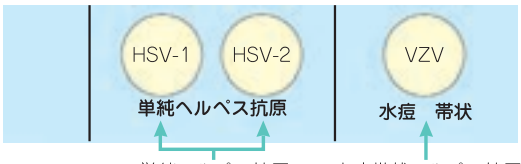
ピンセットで、剥がした皮を除去します

ポリエステル綿棒を生理食塩水や精製水で軽く湿らせ、病巣基底部全面を綿棒で強くぬぐいます。

《ご注意》
①早期の水疱病巣が検体として最適です。
②水疱内容液は検体として不適です。
③ウイルス感染細胞は病巣基底部にありますので、患者が痛いという位強くぬぐい、基底部の細胞を採取します。
④膿がでている場合は、病巣基底部をかき乱さないように注意し、綿棒でまず膿をぬぐい去り、別の綿棒で検体を採取して下さい。

2.検体塗抹方法

綿棒にて病巣部位より感染細胞を採取し、ご依頼の項目に応じ下記の位置に塗抹して下さい。スライドグラスのウェルに内側から円を描くようにこすらず、たたくように塗抹してください。この際、綿棒に付着している検体すべてが、塗抹されるよう綿棒を少しずつ回転させ、ウェルからはみ出さないように塗抹してください。



単純ヘルペス抗原　水痘帯状ヘルペス抗原

（※両ウイルスをご依頼の方は、3ウェルすべてに塗抹してください。）

3.風　乾

操作中検体が剥がれ落ちる原因ともなりますので、完全に乾燥させて下さい。ドライヤーの冷風で乾燥させることも可能です。

4.アセトン固定

検体の塗布してあるウェルにアセトンを滴下して固定し、蒸発させます。

5.提　出

輸送用ケースにスライドを入れ、テープ等で固定し凍結にてご提出ください。

ウイルス学的検査

◆2【保存条件】は、当社での保存条件です。

	項目コード（統一コード）	検査項目	検体量（mL）	容器	◆2 保存条件	検査方法	基準範囲	所要日数	実施料判断料	備考	検査目的及び異常値を示す主な疾患名
抗原検査	0926（5F194）	＊曜日指定＊ サイトメガロウイルスpp65抗原（C7-HRP）	血液3.0（EDTA-2Na）	E1	室温	直接酵素抗体法	（－）	3～5	356 免疫 ①	受託可能日は月～金曜日の午前診療分までとなります。 （午後診療分での提出は、受付できません。） 血液は採血後、速やかにご提出ください。 採血後24時間以内の血液を使用しない場合、検出率の低下が認められます。 S	該当ウイルス項目を参照下さい
	1293（5F194）	＊曜日指定＊ サイトメガロウイルスpp65抗原（C10,C11）	血液5.0（EDTA-2Na）	E1	冷蔵	間接酵素抗体法	（－）	3～5			
	2479（5F194）	サイトメガロウイルスDNA定性（CMV-DNA定性）	血液2.0（EDTA-2Na）	E1	冷蔵	PCR法	（－）	4～6		他項目との重複依頼は避けてください。（注1） S	
			髄液 0.7	U2	凍結						
			患部ぬぐい液								
			部分尿 0.7								
			組織 50mg								
	1606（5F194）	サイトメガロウイルス核酸定量	血漿 1.8	Y2	凍結	PCR法（リアルタイムPCR）	検出せず IU/mL	3～5	450 微生物 ②	他項目との重複依頼は避けてください。（注1） S	
	8305（5F194）	サイトメガロウイルス核酸検出（新生児尿）	部分尿 0.2	U2	凍結	等温核酸増幅法	（－）	4～10	801 微生物 ③	生後3週間以内に採取された新生児尿をご提出ください。 他項目との重複依頼は避けてください。 S	

①サイトメガロウイルスpp65抗原定性は免疫染色法により、臓器移植後若しくは造血幹細胞移植後の患者又はHIV感染者又は高度細胞性免疫不全の患者に対して行った場合に限り算定できる。ただし、高度細胞性免疫不全の患者については、当該検査が必要であった理由について、診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。

②サイトメガロウイルス核酸定量は、血液を検体としてリアルタイムPCR法によりサイトメガロウイルスDNAを測定した場合に算定する。

ア　臓器移植後若しくは造血幹細胞移植後の患者、HIV感染者又は高度細胞性免疫不全の患者に対して、サイトメガロウイルス感染症の診断又は治療効果判定を目的として行った場合。ただし、高度細胞性免疫不全の患者については、本検査が必要であった理由について、診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。

イ　症候性先天性サイトメガロウイルス感染症患者に対して、治療効果判定を目的として行った場合。

③サイトメガロウイルス核酸検出

ア　サイトメガロウイルス核酸検出は、先天性サイトメガロウイルス感染の診断を目的として、尿を検体として等温核酸増幅法により測定した場合に、1回に限り算定できる。

イ　先天性サイトメガロウイルス感染の診断を目的として、サイトメガロウイルス核酸検出と感染症免疫学的検査のウイルス抗体価（定性・半定量・定量）又はグロブリンクラス別ウイルス抗体価におけるサイトメガロウイルスを対象とした検査を併せて実施した場合には、主たるもののみ算定する。

（注1）本検査方法では、コンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取扱に十分ご注意ください。

＊曜日指定＊ は、月～金曜日の午前診療分までの提出でお願いします。（午後診療分での提出は、受付が出来ませんのでご注意下さい。）

◆2【保存条件】は、当社での保存条件です。

ウイルス学的検査

	項目コード（統一コード）	検査項目	検体量（mL）	容器	◆2保存条件	検査方法	基準範囲	所要日数	実施料判断料	備考	検査目的及び異常値を示す主な疾患名
抗原検査	2349（5F190）	単純ヘルペスウイルスDNA定性（HSV-DNA定性）	血液2.0（EDTA-2Na）	E1	冷蔵	PCR法	（－）	4～6		他項目との重複依頼は避けてください。（注1） S	該当ウイルス項目を参照下さい
	8054（5F190）		髄液0.7 / 患部ぬぐい液 / 組織50mg	U2	凍結						
	2685（5F190）	単純ヘルペスウイルスDNA定量（HSV-DNA定量）	血液5.0（EDTA-2Na）	E1	冷蔵	PCR法（リアルタイムPCR）	2.0×10^{1}未満 コピー/10^{6}cells	3～5	450 微生物 ①	他項目との重複依頼は避けてください。（注1） S	
			髄液0.7	U2	凍結		1.0×10^{2}未満 コピー/mL				
	2353（5F193）	水痘・帯状疱疹ウイルスDNA定性（VZZ-DNA定性）	血液2.0（EDTA-2Na）	E1	冷蔵	PCR法	（－）	4～6		他項目との重複依頼は避けてください。（注1） S	
			髄液0.7 / 患部ぬぐい液	U2	凍結						
	2697（5F193）	水痘・帯状疱疹ウイルスDNA定量（VZV-DNA定量）	血液5.0（EDTA-2Na）	E1	冷蔵	PCR法（リアルタイムPCR）	2.0×10^{1}未満 コピー/10^{6}cells	3～5	450 微生物 ①	他項目との重複依頼は避けてください。（注1） S	
			髄液0.7	U2	凍結		1.0×10^{2}未満 コピー/mL				
	1605（5F201）	EBウイルスDNA定量	血液2.0（EDTA-2Na）	E1	冷蔵	PCR法（リアルタイムPCR）	検出せず Log IU/mL	3～5	310 微生物	他項目との重複依頼は避けてください。（注1） S	
			血漿2.0	E1							

① 単純疱疹ウイルス・水痘帯状疱疹ウイルス核酸定量は、免疫不全状態であって、単純疱疹ウイルス感染症又は水痘帯状疱疹ウイルス感染症が強く疑われる患者を対象としてリアルタイムPCR法により測定した場合に、一連として1回のみ算定できる。

（注1）本検査方法では、コンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取扱に十分ご注意ください。

ウイルス学的検査

◆1【検体量】は、当社での分離後（血清・血漿）の量です。
◆2【保存条件】は、当社での保存条件です。

	項目コード（統一コード）	検査項目	◆1 検体量（mL）	容器	◆2 保存条件	検査方法	基準範囲	所要日数	実施料 判断料	備考	検査目的及び異常値を示す主な疾患名
HTLV-I検査	2935（5F450）	HTLV-Ⅰ（ATLA）抗体	血清 0.5	A	冷蔵	CLIA法	（－）	1～2	159 免疫		【陽性】HTLV-1キャリア・成人T細胞白血病（ATL）・HTLV-1関連脊髄症（HAM）・HTLV-1関連ぶどう膜炎（HU）
	7446（5F460）	HTLV-1抗体	血清 0.2	A	冷蔵	ラインブロット法（LIA法）	（－）	4～6	425 免疫 ①	判定基準：下記参照 測定対象は、抗HTLV-1抗体および抗HTLV-2抗体です。型別の報告ではありません。 S	
	7729（5F454）	HTLV-1核酸検出定性	血液7.0（EDTA-2Na）	E1	冷蔵	PCR法（リアルタイムPCR）	（－）（プロウイルスを認めませんでした）	11～17	450 微生物	他項目との重複依頼は避けてください。化学療法などにより細胞数が減少している場合は、必要量のDNAが抽出できない場合もあります。（注1） S	
	8415（5F454）	HTLV-1プロウイルスDNA定性	血液7.0（EDTA-2Na）	E1	冷蔵						
			組織 50mg	U2	凍結						
	1386（5F455）	HTLV-Ⅰ（ATLA）プロウイルスDNA（クロナリティ）	血液7.0（EDTA-2Na）	E1	冷蔵	サザンブロットハイブリダイゼーション		18～24		化学療法などにより細胞数が減少している場合は、必要量のDNAが抽出できない場合がありますので、あらかじめご了承ください。ホルマリンなどにより固定した組織は、高分子DNAが得られないため、サザンブロットハイブリダイゼーションによる解析は不可能です。 S	
			組織 250mg	U2	凍結						
HIV検査	1035（5F560）	HIV抗原・抗体	血清 0.5	A	冷蔵	CLIA法	（－）（S/CO：1.00未満）	2～3	127 免疫		【陽性】AIDS（HIV感染症）
	2356（5F560）	HIV-1/2抗体確認検査	血清 0.3	A	冷蔵	免疫クロマト法（イムノクロマト法）	（－）	4～7	660 免疫	他項目との重複依頼は避けてください。 B	
	2258（5F500）	HIV-1RNA定量	血漿 1.8	Y2	凍結	RT-PCR法（リアルタイムPCR）	検出せず コピー/mL	4～6	520 微生物	他項目との重複依頼は避けてください。（注1） S	

①HTLV-Ⅰ抗体（ウエスタンブロット法及びラインブロット法）は、HTLV-Ⅰ抗体定性、半定量又はHTLV-Ⅰ抗体によって陽性が確認された症例について、確定診断の目的としてウエスタンブロット法又はラインブロット法により行った場合に算定する。

（注1）本検査方法では、コンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取扱に十分ご注意ください。

HTLV-1抗体（ラインブロット法）判定基準

ラインが認められない		（－）
ラインが1本認められる（≧±）	gag p19か gag p24か env gp46 のいずれかが認められる	（－）
	env gp21 が認められる。	（±）
ラインが2本認められる（≧±）	env gp21 が認められない。	（±）
	env gp21 が認められる。	（＋）
ラインが3本以上認められるか（≧±）		（＋）

◆2【保存条件】は、当社での保存条件です。

ウイルス学的検査

	項目コード（統一コード）	検査項目	検体量（mL）	容器	◆2保存条件	検査方法	基準範囲	所要日数	実施料判断料	備考	検査目的及び異常値を示す主な疾患名
そ	2636（5F101）	HPV-DNA同定［中～高リスク型］	ぬぐい液	Q18	冷蔵	ハイブリッドキャプチャー法	（－） index 1.00未満	3～4	347 微生物 ①	測定対象は、16.18.31.33.35.39.45.51.52.56.58.59および68型の「中～高リスク型」HPVを検出致します。（型別判定はできません） M	【陽性】子宮頸癌
	2637（5F102）	HPV-DNA同定［低リスク型］						3～9		測定対象は、6.11.42.43.および44型の「低リスク型」HPVを検出致します。（型別判定はできません） M	【陽性】尖圭コンジローマなど
	1180（5F101）	HPV-DNA同定（LBC）［中～高リスク型］	子宮頸部	P5	冷蔵	ハイブリッドキャプチャー法	（－） index 1.00未満	4～5	347 微生物 ①	測定対象は、16.18.31.33.35.39.45.51.52.56.58.59および68型の「中～高リスク型」HPVを検出致します。（型別判定はできません） M	【陽性】子宮頸癌
の	1912（5F101）	HPV-DNA簡易ジェノタイプ	子宮頸部	P5	冷蔵	ロシュ・リアルタイムPCR法	16型　検出せず 18型　検出せず 他ハイリスク型　検出せず	4～5	347 微生物 ①	測定対象は、16.18.その他ハイリスク（31.33.35.39.45.51.52.56.58.59.68.および66型）です。その他ハイリスクについては、型別判定はできません。 M	【陽性】子宮頸癌
	1970（5F102）	HPV簡易ジェノタイプ（9種判別）	子宮頸部	専用	冷蔵	リアルタイムPCR法	検出せず	4～5	347 微生物 ①	6種の遺伝子型の型別判定と3種の遺伝子グループのグループ単位での検出有無を報告します。 ※1：下記参照 M	【陽性】子宮頸癌
	1921（5F101）	HPVジェノタイプ判定	子宮頸部	P7又はP5	冷蔵	PCR -γSSO法		4～7	2000 微生物 ②	検出可能な型は、16.18.31.33.35.39.45.51.52.56.58.59および68型の「中～高リスク型」HPVを検出致します。 M	【陽性】子宮頸癌

①HPV核酸検出及びHPV核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）は、予め行われた細胞診の結果、ベセスダ分類上ASC-US（意義不明異型扁平上皮）と判定された患者又は過去に子宮頸部円錐切除若しくはレーザー照射治療を行った患者に対して行った場合に限り算定できる。なお、過去に子宮頸部円錐切除又はレーザー照射治療を行った患者以外の患者については、細胞診と同時に実施した場合は算定できない。
HPV核酸検出とHPV核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）を併せて実施した場合は、主たるもの1つに限り算定する。

②HPVジェノタイプ判定

ア HPVジェノタイプ判定は、あらかじめ行われた組織診断の結果、CIN1又はCIN2と判定された患者に対し、治療方針の決定を目的として、ハイリスク型HPVのそれぞれの有無を確認した場合に算定する。

イ 当該検査は、HPV核酸検出及びHPV核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）の施設基準を届け出ている保険医療機関のみ算定できる。

ウ 当該検査を算定するに当たっては、あらかじめ行われた組織診断の実施日及び組織診断の結果、CIN1又はCIN2のいずれに該当するかを診療報酬明細書の摘要欄に記載する。

エ 同一の患者について、当該検査を2回目以降行う場合は、当該検査の前回実施日を上記に併せて記載する。

※1【HPV簡易ジェノタイプ（9種判別）】

・型別判定が可能なもの：16型・18型・31型・45型・51型・52型
・グループ判定を行うもの：33と58型・35と39と68型・56と59と66型
（いずれか、または全ての型に感染している場合に陽性となります。グループ内のどの型に感染しているかは判別できません。）

ウイルス学的検査

●ウイルス抗原抗体検査 参考資料

ウイルス抗体検査の特徴

検査方法	原　理	特　徴
補体結合反応（CF）	抗原抗体複合体と結合した補体を感作血球の不溶血を指標として間接的に証明します。	・群特異性が高い ・比較的早期に抗体消失 ・感染スクリーニング用
赤血球凝集抑制反応（HI）	赤血球凝集能をもつウイルスの場合、その凝集を抑制する抗体を証明します。	・型特異性が高い ・早期に抗体が上昇、持続する
蛍光抗体法（FA）	感染細胞中のウイルス抗原と抗体との反応を蛍光標識抗体で証明します。	・抗体分画が可能
中和反応（NT）	活性ウイルスを抗体により中和させ、感染防御抗体を証明します。	・型特異性が高い
酵素免疫法（EIA）	固相化したウイルス抗原と抗体を反応させ、酵素標識抗体との反応により証明します。	・抗体分画が可能 ・定量的データ ・他法に比して高感度
化学発光免疫測定法（CLIA）	検体中の抗体と磁性粒子に固相した抗原および化学発光物質で標識した抗原を反応させ、この発光強度を測定することにより、抗体の有無あるいは量を測定する方法です。	・特異性が高い ・高感度
受身（粒子）凝集反応（PA）	固相化ゼラチン粒子にウイルスを吸着させ、これに抗体を反応させ、凝集の有無により証明します。	・高感度
イムノクロマト法（IC）	メンブレンフィルター上に固相化されたHIV-1またはHIV-2抗原に、特異的に反応する抗体を検出します。	・感度・特異性が高い ・確認試験

検出抗体の性質

		性　質			
		動　態	抗ウイルス抗体活性	補　体結合能	胎　盤移行性
抗体	IgM	早期に産生されるが短期間で消失	＋	＋	－
	IgG	IgMに遅れて出現。漸減しながら長時間持続	＋	＋	＋
	IgA	IgMより多少遅れて出現するがIgMより長期間検出可能	＋	－	－

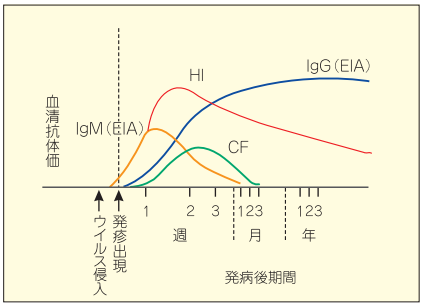
抗体価の解釈とペア血清検査の意義

ウイルス血清抗体価に正常値という概念はありません。ウイルス感染後に産生される抗体の検出は、過去にそのウイルスに感染したことを回顧的に示すだけで、現在の状態を必ずしも反映してはいません。

ウイルス抗体は感染の直後に高く、以後下降するパターンを示しますが、単一の血清の抗体価の高低だけで近い過去に感染があったかどうかの判定は出来ない場合が多いといえます。

ウイルス感染後の抗体応答パターン、各検査法の特徴、検査意義を理解し、目的に応じた検査法を選択する必要があります。

急性期（発病後早期）と回復期（発病後14～21日）のペア血清の抗体価が4倍以上上昇した場合有意と判断しそのウイルスの感染を推定します。ただし、治療にγグロブリンを投与した場合の抗体価の上昇は、必ずしも有意とは考えられません。



目的別検査法選択の目安

検査法の特徴により目的に合った検査の選択が必要です。自然感染では感染初期に応答するIgM抗体の検出やペア血清による抗体上昇をみることが有用です。

また、既往の有無やワクチンの効果判定にはEIAによるIgG抗体の検査が有用です。

	自然感染	既往の有無	ワクチンの効果判定
麻疹	NT,EIA（IgM）（IgG）	NT,EIA（IgG）	NT,EIA（IgG）
風疹	HI,EIA（IgM）（IgG）	HI,EIA（IgG）	HI,EIA（IgG）
ムンプス	CF,HI,NT,EIA（IgM）（IgG）	EIA（IgG）	EIA（IgG）
水痘	CF,EIA（IgM）（IgG）	EIA（IgG）	EIA（IgG）
日本脳炎	HI,CF		HI
インフルエンザ	CF,HI		HI

ウイルス学的検査

●ウイルス抗原抗体検査 参考資料

ウイルス抗体価（定性・半定量・定量）（1項目当たり）

同一検体についてウイルス抗体価（定性・半定量・定量）の測定を行った場合は、8項目を限度として算定する。
ウイルス抗体価（定性・半定量・定量）は、治療上必要な場合に行うものとし、次に掲げるものを当該検査の対象とする。

①アデノウイルス　②コクサッキーウイルス　③サイトメガロウイルス　④EBウイルス　⑤エコーウイルス　⑥ヘルペスウイルス　⑦インフルエンザウイルスA型　⑧インフルエンザウイルスB型　⑨ムンプスウイルス　⑩パラインフルエンザウイルスⅠ型　⑪パラインフルエンザウイルスⅡ型　⑫パラインフルエンザウイルスⅢ型　⑬ポリオウイルスⅠ型　⑭ポリオウイルスⅡ型　⑮ポリオウイルスⅢ型　⑯RSウイルス　⑰風疹ウイルス　⑱麻疹ウイルス　⑲日本脳炎ウイルス　⑳オーム病クラミジア　㉑水痘・帯状疱疹ウイルス

ウイルス抗体価（定性・半定量・定量）に当たって、同一検体について同一ウイルスに対する複数の測定方法を行った場合であっても、所定点数のみを算出する。

グロブリンクラス別ウイルス抗体価（1項目当たり）

同一検体について、グロブリンクラス別ウイルス抗体価の測定を行った場合は、2項目を限度として算定する。グロブリンクラス別ウイルス抗体価は、下記の項目のウイルスのIgG型ウイルス抗体価又はIgM型ウイルス抗体価を測定した場合に算定する。
ただし、⑦のヒトパルボウイルスB19は、紅斑が出現している15歳以上の成人について、このウイルスによる感染症が強く疑われ、IgM型ウイルス抗体価を測定した場合に算定する。

①ヘルペスウイルス　②風疹ウイルス　③サイトメガロウイルス　④EBウイルス　⑤麻疹ウイルス　⑥ムンプスウイルス　⑦ヒトパルボウイルスB19　⑧水痘・帯状疱疹ウイルス

同一ウイルスについてIgG型ウイルス抗体価及びIgM型ウイルス抗体価を測定した場合にあっては、いずれか一方の点数を算定する。
ウイルス抗体価（定性・半定量・定量）と併せて測定した場合にあっては、いずれか一方の点数を算定する。

ウイルス抗原検査の特徴

検査方法	原　理	特　徴
酵素免疫法（EIA）	ウイルス抗原と特異抗体を反応させ、酵素反応により検出。特異抗体に直接酵素を標識して検出する直接法と二次抗体に酵素標識する間接法がある。	・高感度
蛍光抗体法（FA）	ウイルス抗原と特異抗体を反応させ、蛍光色素により検出。特異抗体に直接蛍光物質を標識して検出する直接法と二次抗体に蛍光物質を標識する間接法がある。	・特異性が高い
遺伝子増幅法（PCR）	熱変性1本鎖DNAに目的のプライマー（特異的に増幅させたい領域の各DNA末端と相補的20～30塩基のDNA断片）を統合させ、DNAポリメラーゼによりDNA合成反応を行い、これを繰り返すことにより目的とするDNA配列を指数関数的に増幅。	・高感度・特異性が高い
サザンブロット ハイブリダイゼーション	制限酵素で消化した検体DNAをアガロース電気泳動で分画、変性させた1本鎖DNAをメンブランに転写後、標識プローブとハイブリダイゼーションさせ、目的遺伝子を検出。	・DNAの量的、質的変化の異常を解析

●医療関係者向けのウイルス検査法と抗体価の考え方

（医療関係者のためのワクチンガイドライン第3版令和2年7月より）

（　）は一般患者向けの抗体価です。

検査項目	検査法	十分な免疫なし		十分な免疫あり
		抗体価陰性	抗体価陽性 「基準を満たさない」	抗体価陽性 「基準を満たす」
麻　疹 （はしか）	NT法（中和法）	4倍未満	4倍	8倍以上
	EIA法-IgG	2.0未満 （一：2.0未満）	2.0～15.9 （±：2.0～3.9）	16.0以上 （十：4.0以上）
風　疹 （三日はしか）	HI法	8倍未満	8倍、16倍	32倍以上
	EIA法-IgG	2.0未満 （一：2.0未満）	2.0～7.9 （±：2.0～3.9）	8.0以上 （十：4.0以上）
水　痘 （VZV：水ぼうそう）	EIA法-IgG	2.0未満 （一：2.0未満）	2.0～3.9 （±：2.0～3.9）	4.0以上 （十：4.0以上）
流行性耳下腺炎 （ムンプス：おたふくかぜ）	EIA法-IgG	2.0未満 （一：2.0未満）	2.0～3.9 （±：2.0～3.9）	4.0以上 （十：4.0以上）

※4疾患とも補体結合反応（CF法）では測定しないこと。
※水痘については、平成25年度厚生労働科学研究費補助金新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業「ワクチン戦略による麻疹および先天性風疹症候群の排除、およびワクチンで予防可能疾患の疫学並びにワクチンの有用性に関する基礎的臨床的研究（研究代表者：大石和徳）」庵原分担報告書より引用し、改定した。

血液学的検査

◆2【保存条件】は、当社での保存条件です。

	項目コード（統一コード）	検査項目	検体量（mL）	容器	◆2 保存条件	検査方法	基準範囲	所要日数	実施料 判断料	備考	検査目的及び異常値を示す主な疾患名
血液一般・形態検査	0501（2A010）	白血球数（WBC）	血液 2.0	B	冷蔵	フローサイトメトリー法	33～86 ×10²/μL	1～2	21 血液 ①		【高値】［急性感染症］（細菌感染症）肺炎、虫垂炎、骨髄炎、扁桃炎など（ウイルス感染症の一部）伝染性単核球症など［血液系悪性腫瘍］骨髄性白血病、リンパ性白血病、単球性白血病［脱水による血液濃縮］他の血算項目（RBC、Htなど）の上昇や電解質異常を伴う［薬剤］ステロイド全身投与時【低値】膠原病、急性白血病、悪性再生不良性貧血、ウイルス感染の一部、麻疹、無顆粒球症、抗がん剤投与時、敗血症、放射線障害、顆粒球減少症
	0502（2A020）	赤血球数（RBC）				電気抵抗検出法	M 435～555 F 386～492 ×10⁴/μL				【高値】脱水状態、二次性多血症、ストレス多血症・真性多血症【低値】再生不良性貧血、腎性貧血、出血性貧血、鉄欠乏性貧血、鉄芽球性貧血、溶血性貧血、巨赤芽球性貧血、自己免疫性溶血性貧血、発作性夜間血色素尿症
	0503（2A030）	ヘモグロビン（Hb）				SLS-Hb法	M 13.7～16.8 F 11.6～14.8 g/dL				【高値】真性多血症、二次性多血症、良性多血症、ストレス多血症、高地居住者、脱水【低値】［小球性低色素性貧血］鉄欠乏性貧血、無トランスフェリン血症、鉄芽球性貧血［正球性正色素性貧血］再生不良性貧血、発作性血色素尿症、溶血性貧血［大球性正色素性貧血］（巨赤芽球性）葉酸欠乏症、悪性貧血、ビタミンB_{12}欠乏症（非巨赤芽球性）肝障害、その他
	0504（2A040）	ヘマトクリット（Ht）				赤血球パルス波高値検出法	M 40.7～50.1 F 35.1～44.4 %				【高値】真性多血症、二次性多血症（高地居住者、慢性呼吸器疾患など）、脱水、新生児【低値】［小球性貧血（MCV低値）］鉄欠乏性貧血、鉄芽球性貧血、サラセミアなど［正球性貧血（MCV正常）］急性溶血性貧血、再生不良性貧血、出血性貧血など［大球性貧血（MCV高値）］巨赤芽球性貧血（悪性貧血、葉酸欠乏性貧血）など
	0506（2A050）	血小板数（PLT）				電気抵抗検出法	15.8～34.8 ×10⁴/μL				【高値】慢性骨髄性白血病・真性多血症・原発性骨髄線維症・悪性腫瘍【低値】再生不良性貧血・白血病・悪性リンパ腫・多発性骨髄腫・巨赤芽球性貧血 血小板減少性紫斑病・膠原病
	0507（2A060）	平均赤血球容積（MCV）				計算法	83.6～98.2 fl				貧血の分類【小球性低色素性】鉄欠乏性貧血・慢性出血性貧血・遺伝性鉄芽球性貧血・サラセミア【正球性正色素性】溶血性貧血・再生不良性貧血・急性出血【大球性】巨赤芽球性貧血
	0508（2A070）	平均赤血球血色素量（MCH）					27.5～33.2 pg				
	0509（2A080）	平均赤血球血色素濃度（MCHC）					31.7～35.3 %				
	0505（2A110）	網状赤血球数（Ret）	血液 2.0	B	冷蔵	フローサイトメトリー法	2～27 ‰	1～2	12 血液		【高値】溶血性貧血・各種貧血に対する治療に反応した時・出血後【低値】再生不良性貧血・巨赤芽球性貧血・抗腫瘍剤投与後・甲状腺機能低下症
	0567（2A090）	好酸球数（EOS-数）	血液 2.0	B	冷蔵	フローサイトメトリー法	70～440 /μL	1～2	17 血液 ②		【増加】寄生虫・アレルギー・慢性骨髄性白血病・好酸球性白血病

①末梢血液一般検査は、赤血球数、白血球数、血色素測定（Hb）、ヘマトクリット値（Ht）、血小板数の全部又は一部を行った場合に算定する。

②同一検体について、好酸球数及び末梢血液像（自動機械法）又は末梢血液像（鏡検法）を行った場合は、主たる検査の所定点数のみを算定する。

◆2【保存条件】は、当社での保存条件です。

	項目コード（統一コード）	検査項目	検体量（mL）	容器	◆2 保存条件	検査方法	基準範囲	所要日数	実施料判断料	備考	検査目的及び異常値を示す主な疾患名
血液一般・形態検査	0511（2A160）	血液像（白血球分類）	血液 2.0	B	冷蔵	フローサイトメトリー法 目視法（鏡検）	好中球 St 2.0~13.0 Neut(St+S) S 38.0~58.0 N 40.0~71.0 好酸球(Eos) 0.2~6.8 好塩基球(Bas) 0.0~1.0 リンパ球(Lym) 26.6~46.6 単球(Mon) 2.3~7.7 異型リンパ球 0.0 %	1~2	15 血液 ①	異常細胞を認めた場合は、画像入り報告書でお返しします。 ＊鏡検法で実施した場合は、25点に実施料が変更になります。	［好中球増加］ 急性感染症、悪性腫瘍、白血病（慢性骨髄性）、炎症性疾患 ［リンパ球増加］ 伝染性単核症、リンパ性白血病、百日咳、流行性耳下腺炎、一部の慢性感染症 ［好酸球増加］ 各種のアレルギー疾患、寄生虫症、猩紅熱、膠原病 ［好塩基球の増加］ 骨髄増殖症候群、CML（とくに急性転化時） ［単球の増加］ 単球性白血病、発疹性の感染症（麻疹など）
	0526（2A170）	骨髄像（マルク）	塗抹標本 4~6枚	R	室温	鏡検法	103ページ参照	2~3	788 血液	報告書は、画像入りでお返しします。	【異常】白血病・骨髄異形成症候群・多発性骨髄腫・悪性腫瘍の骨髄転移・悪性貧血・再生不良性貧血・特発性血小板減少性紫斑病・鉄欠乏性貧血
	0561（2A180）	ALP染色	血液 2.0 または 固定標本 2~4枚	B または R	室温	朝長法	陽性率 60.5~99.5% 陽性指数 170~285	3~5	＊		【高値】類白血病反応・真性多血症・再生不良性貧血 【低値】慢性骨髄性白血病・発作性夜間血色素尿症
	0560（2A230）	ペルオキシダーゼ染色（P-O染色）				クロロナフトール法		3~5	＊		急性白血病におけるAMLとALLの鑑別に有用。顆粒系細胞（主に陽性）、リンパ系細胞（陰性）
	0564（2A240）	鉄染色				ベルリン青反応		3~5	＊		【鉄欠乏性貧血】 鉄芽球↓、マクロファージ内鉄↓ 【炎症・感染症】 鉄芽球↓、マクロファージ内鉄↑ 【鉄芽球性貧血】鉄芽球↑、環状鉄芽球(+)、マクロファージ内鉄↑
	0559（2A190）	エステラーゼ染色				α-NBE法		3~5	＊		
	0573（2A200）	PAS染色				過ヨウ素酸シッフ反応		3~5	＊		【急性白血病におけるAMLとALLの鑑別に有用】AMLの骨髄芽球は大部分陰性、一部びまん性に弱陽性。ALLのリンパ芽球では粗大顆粒状に陽性。 【赤白血病（M6）と巨赤芽球性貧血との鑑別に有用】赤白血病の異常赤芽球は陽性。巨赤芽球性貧血の赤芽球は大部分陰性。

＊ 末梢血液像と特殊染色を併せて行った場合は、特殊染色加算として、特殊染色ごとにそれぞれ37点を所定点数に加算する。
骨髄像と特殊染色を併せて行った場合は、特殊染色加算として、特殊染色ごとにそれぞれ60点を所定点数に加算する。

① 同一検体について、好酸球数及び末梢血液像（自動機械法）又は末梢血液像（鏡検法）を行った場合は、主たる検査の所定点数のみを算定する。

血液学的検査

◆2【保存条件】は、当社での保存条件です。

	項目コード（統一コード）	検査項目	検体量（mL）	容器	◆2保存条件	検査方法	基準範囲	所要日数	実施料判断料	備考	検査目的及び異常値を示す主な疾患名
原虫検査・その他	0566（2A400）	マラリア原虫検査	血液2.0	B	冷蔵	鏡検法	（－）	2～3	40 血液		
	0576（2A410）	フィラリア原虫検査	血液2.0	B	冷蔵	鏡検法	（－）	2～3	40 血液		
	0570（3D046）	HbA1c（ヘモグロビンA1c）	血液1.0	F	冷蔵	酵素法	4.6～6.2 %	1～2	49 血液 ①		【高値】糖尿病・腎不全・尿毒症・アルコール中毒・ヘモグロビン異常症 【低値】溶血性疾患・低血糖・肝硬変
	1226（2A300）	鼻汁好酸球	塗抹標本1枚	R	室温	鏡検法		1～2	15 血液		【陽性】アレルギー性鼻炎

①ヘモグロビンA1c（HbA1c）、グリコアルブミン又は1,5-アンヒドロ-D-グルシトール（1,5AG）のうちいずれかを同一月中に併せて2回以上実施した場合は、月1回に限り主たるもののみ算定する。ただし、妊娠中の患者、1型糖尿病患者、経口血糖降下薬の投与を開始して6月以内の患者、インスリン治療を開始して6月以内の患者等については、いずれか1項目を月1回に限り別に算定できる。また、クロザピンを投与中の患者については、ヘモグロビンA1c（HbA1c）を月1回に限り別に算定できる。

骨髄像　基準範囲

分類		基準範囲（%）	分類		基準範囲（%）
有核細胞数		10.0～25.0（×10⁴/μL）	赤芽球系（E）	前赤芽球	0.1～1.1
顆粒球系（M）	骨髄芽球	0.1～0.7		好塩基性赤芽球	0.4～2.4
	前骨髄球	1.9～4.7		多染性赤芽球	13.1～30.1
	骨髄球	8.5～16.9		正染性赤芽球	0.3～3.7
	後骨髄球	7.1～24.7		小計	15.0～36.2
	桿状核球	9.4～15.4	その他	リンパ球	8.6～23.8
	分節核球	3.8～11.0		形質細胞	0.0～3.5
	好酸球	1.1～5.2		単　球	0.0～0.6
	好塩基球	0.1未満		骨髄巨核球	0.1未満
	小計	34.7～78.8		細網細胞	0.0～0.8
				M/E比	1.1～3.5

◆1【検体量】は、当社での分離後（血清・血漿）の量です。
◆2【保存条件】は、当社での保存条件です。

	項目コード（統一コード）	検査項目	◆1 検体量（mL）	容器	◆2 保存条件	検査方法	基準範囲	所要日数	実施料判断料	備考	検査目的及び異常値を示す主な疾患名
凝固・線溶系検査	0582 (2B030)	プロトロンビン時間（PT）	血漿 0.3	C	冷蔵	自動化法	時間 10.5～13.5 秒 活性値 70.0～120.0％ INR 0.88～1.36	1～2	18 血液	INR:下記参照	【延長】凝固第Ⅰ、Ⅱ、Ⅴ、Ⅶ、Ⅹ因子欠乏症・薬剤投与（ワーファリン等）・肝障害・DIC・ビタミンK欠乏症
	0583 (2B020)	活性化部分トロンボプラスチン時間（APTT）	血漿 0.3	C	冷蔵	自動化法	24.0～34.0 秒	1～2	29 血液		【延長】内因系及び共通系凝固因子欠乏症・重症肝障害・ビタミンK欠乏症・播種性血管内凝固症候群（DIC）・薬剤投与（ワーファリン等）
	0586 (2B100)	フィブリノーゲン定量（Fib）	血漿 0.3	C	冷蔵	自動化法	150～350 mg/dL	1～2	23 血液		【高値】（後天的増加）感染症・悪性腫瘍・脳梗塞・心筋梗塞・糖尿病・ネフローゼ症候群・膠原病・手術後・血漿分画製剤の投与・ヘパリン投与中止後 【低値】（先天的減少）無（低）フィブリノゲン血症 （後天的減少）①消費亢進…DIC・巨大血栓症・大量出血・蛇毒②線溶亢進…ショック（感電）・血栓溶解療法・③産生低下…重症肝障害・L-アスパラギナーゼ投与
	0588 (2B120)	FDP定量	血漿 0.3	C	冷蔵	ラテックス凝集法	5.0以下 μg/mL	1～2	80 血液		【高値】播種性血管内凝固症候群（DIC）・悪性腫瘍・血栓性血小板減少性紫斑病（TTP）・溶血性尿毒性症候群（HUS）・血栓症・肝硬変
	1140 (2B120)		尿 2.0	U5	冷蔵	LPIA法	100以下 ng/mL	3～4	72 尿・糞便	M	
	2745 (2B140)	D-Dダイマー（定量）	血漿 0.5	C	冷蔵	ラテックス凝集法	1.0未満 μg/mL	1～2	(127) 血液		【高値】二次線溶の亢進状態・Pre-DIC・急性静脈血栓症・薬物投与（ウロキナーゼ、t-PAなど）・肺梗塞

(　) 患者から１回に採取した血液を用いて3項目以上行った場合は、所定点数にかかわらず、検査の項目数に応じて次に掲げる点数により算定する。
3～4項目（530点） 5項目以上（722点）

INR（International Normalized Ratio,国際標準比）
PTの測定値は各試薬の感受性差や機種間差による施設間差が大きいので、共通のものさしで比較できるようにしたWHOが推奨している表現方法である。

（INRの算出法） $INR = PR^{ISI}$

ISI: International Sensitivity index,国際感受性指数
PR: 患者血漿の凝固時間（秒） / 正常標準血漿の凝固時間（秒）

血液学的検査

◆1【検体量】は、当社での分離後（血清・血漿）の量です。
◆2【保存条件】は、当社での保存条件です。

	項目コード（統一コード）	検査項目	◆1 検体量（mL）	容器	◆2 保存条件	検査方法	基準範囲	所要日数	実施料判断料	備考	検査目的及び異常値を示す主な疾患名
凝固・線溶系検査	2027（2B210）	トロンビン・アンチトロンビンⅢ複合体（TAT）	血漿 0.4	C	凍結	CLEIA法	4.0未満 ng/mL	2～4	(171) 血液	J	【高値】DIC・敗血症・急性前骨髄性白血病・前立腺癌・肺癌・胃癌・深部静脈血栓症・心筋梗塞・狭心症・糖尿病・脳梗塞・閉塞性動脈硬化症・劇症肝炎・妊娠中毒症・術後・運動負荷・透析後・妊娠後期
	2025（2B280）	α2-プラスミンインヒビター・プラスミン複合体（PIC）	血漿 0.4	C	凍結	CLEIA法	0.8未満 μg/mL	3～6	(150) 血液	J	【高値】DIC・線溶活性化状態
	0591（2B260）	プラスミノーゲン定量	血漿 0.3	C	凍結	ラテックス凝集法	9.1～14.5 mg/dL	3～4	100 血液	B	【高値】悪性腫瘍・妊娠・血栓静脈炎 【低値】DIC・播種性血管内凝固症候群（特に線溶優位型の症例）・悪性腫瘍・炎症・妊娠・血栓静脈炎
	0592（2B260）	プラスミノーゲン活性	血漿 0.3	C	凍結	合成基質法	80～130 %	5～8	100 血液	J	
	0590（2B270）	α2-プラスミンインヒビター（アンチプラスミン）	血漿 0.4	C	凍結	発色性合成基質法	80～130 %	3～5	(128) 血液	J	【低値】血栓症・DIC・出血傾向（線溶亢進）肝障害・先天的欠損
	0589（2B200）	アンチトロンビンⅢ（AT-Ⅲ）	血漿 0.5	C	凍結	発色性合成基質法	75～135 %	2～4	70 血液	J	【低値】播種性血管内凝固症候群（DIC）・肺梗塞・外科手術・劇症肝炎・肝硬変・慢性肝炎・新生児・ネフローゼ症候群・妊娠・エストロゲン治療・経口避妊薬
	0605（2B110）	可溶性フィブリンモノマー複合体（SFMC）	血漿 0.2	C	凍結	凝集反応	（－）	3～5	93 血液	J	【高値】DIC・血栓症・凝固亢進状態

(○) 患者から1回に採取した血液を用いて3項目以上行った場合は、所定点数にかかわらず、検査の項目数に応じて次に掲げる点数により算定する。
3～4項目（530点） 5項目以上（722点）

◆1【検体量】は、当社での分離後（血清・血漿）の量です。
◆2【保存条件】は、当社での保存条件です。

	項目コード（統一コード）	検査項目	◆1 検体量（mL）	容器	◆2 保存条件	検査方法	基準範囲	所要日数	実施料判断料	備考	検査目的及び異常値を示す主な疾患名
凝固・線溶系検査	2233（2B700）	プロテインC抗原量	血漿 0.4	C	凍結	ラテックス凝集法	69～144 %	3～6	(226) 血液	J	【低値】先天性プロテインC欠損症や分子異常症・肝細胞障害・抗ビタミンK製剤投与・胆道系疾患・抗生物質長期投与・DIC・新生児期
	2302（2B700）	プロテインC活性	血漿 0.5	C	凍結	合成基質法	64～135 %	3～4	(227) 血液	M	
	2950（2B710）	プロテインS抗原量	血漿 0.2	C	凍結	ラテックス凝集反応	M 73～137 F 59～143 %	3～5	(154) 血液	測定対象はトータル（遊離型および複合体型）です。 S	
	1295（2B710）	プロテインS活性	血漿 0.4	C	凍結	凝固時間法	M 67～164 F 56～126 %	3～5	(163) 血液	S	【低値】SLE・肝細胞障害・DIC・経口避妊薬常用・抗ビタミンK製剤投与・先天性欠損症（タイプⅠ）・妊婦
	2380（2B711）	プロテインS（遊離型抗原量）	血漿 0.2	C	凍結	ラテックス凝集反応	M 50～131 F 49～133 %	3～5	(154) 血液	S	
	0664（5B045）	C1-インアクチベーター活性（C1-INH活性）	血漿 0.2	C	凍結	発色性合成基質法	70～130 %	3～5	253 免疫	S	【低値】血管神経性浮腫（HANE）・肝硬変
	2550（2B310）	トータルPAI-1（tPA・PAI-1複合体）	血漿 0.4	C	凍結	ラテックス凝集法	50.0以下 ng/mL	3～5	(240) 血液	対象項目:トータルPAI-1（tPA・PAI-1複合体および活性型・潜在型PAI-1）です。 J	【高値】播種性血管内凝固症候群（DIC・特に多臓器不全合併症例）・各種動静脈血栓症（深部静脈血栓症・急性心筋梗塞など）・外傷・ショック・手術侵襲など
	2771（2B730）	トロンボモジュリン	血清 0.6	A	凍結	CLEIA法	12.1～24.9 U/mL	3～9	(204) 血液 ①	B	【高値】播種性血管内凝固症候群（DIC）・膠原病（SLE・関節リウマチなど）・糖尿病・腎障害・劇症肝炎・非代償性肝硬変・成人呼吸窮迫症候群・肺血栓塞栓症候群・透析期間の長い腎透析者

(226) 患者から1回に採取した血液を用いて3項目以上行った場合は、所定点数にかかわらず、検査の項目数に応じて次に掲げる点数により算定する。
3～4項目（530点） 5項目以上（722点）

① トロンボモジュリンは、膠原病の診断若しくは経過観察又はDIC若しくはそれに引き続いて起こるMOF観察のために測定した場合に限り算定できる。

血液学的検査

◆1【検体量】は、当社での分離後（血清・血漿）の量です。
◆2【保存条件】は、当社での保存条件です。

	項目コード（統一コード）	検査項目		◆1 検体量（mL）	容器	◆2 保存条件	検査方法	基準範囲	所要日数	実施料判断料	備考	検査目的及び異常値を示す主な疾患名
凝固・線溶系検査	0594（2B350）	凝固因子活性検査	第Ⅱ（2）因子	血漿各0.4	C	凍結	凝固時間法	75～135 %	3～5	(223) 血液	S	【低値】肝癌・肝硬変・吸収不良症候群・腸管閉塞・慢性腸炎・低プロトロンビン血症・胆管閉塞・ワーファリン投与
	0595（2B370）		第Ⅴ（5）因子					70～135 %	3～5	(223) 血液	S	【低値】血小板増多症・重症肝障害・中毒・播種性血管内血液凝固症（DIC）・先天性第Ⅴ因子欠乏症
	0596（2B380）		第Ⅶ（7）因子					75～140 %	3～5	(223) 血液	S	【高値】経口避妊薬内服時・血液凝固亢進状態 【低値】肝癌・肝硬変・肝管閉塞・ビタミンK欠乏症・腸管閉塞・慢性腸炎・先天性第Ⅶ因子欠乏症
	0597（2B390）		第Ⅷ（8）因子					60～150 %	3～5	(223) 血液	S	【高値】アドレナリン投与・デスモプレシン（DDAVP） 【低値】SLE・線溶亢進・播種性血管内出血凝固症（DIC）・von Willebrand病・血友病A・血友病Aの保因者
	0599（2B400）		第Ⅸ（9）因子					70～130 %	3～5	(223) 血液	S	【低値】悪性腫瘍・自己免疫疾患・重症血友病B
	0600（2B410）		第Ⅹ（10）因子					70～130 %	3～5	(223) 血液	S	【高値】経口避妊薬内服時・血液凝固亢進状態 【低値】肝癌・肝硬変・肝管閉塞・腸管閉塞・慢性腸炎・アミロイドーシス・先天性第Ⅹ因子欠乏症
	0601（2B420）		第Ⅺ（11）因子					75～145 %	3～5	(223) 血液	S	【高値】経口避妊薬内服時・血液凝固亢進状態 【低値】重症肝障害・新生児・妊娠・播種性血管内血液凝固症（DIC）・先天性第Ⅺ因子欠乏症
	0602（2B430）		第Ⅻ（12）因子					50～150 %	3～5	(223) 血液	S	【高値】DDAVP投与・経口避妊薬内服時・血液凝固亢進状態 【低値】SLE・抗凝固物資の出現：膠原病・重症肝障害・新生児・播種性血管内血液凝固症（DIC）・先天性第Ⅻ因子欠乏症
	0603（2B440）		第ⅩⅢ（13）因子	血漿0.4	C	凍結	合成基質法	70～140 %	3～5	(223) 血液	S	【高値】第ⅩⅢ因子濃縮製剤の投与後に一過性に上昇する。 【低値】悪性腫瘍・肝障害・播種性血管内血液凝固症（DIC）・白血病・第ⅩⅢ因子欠乏症

(223) 患者から１回に採取した血液を用いて3項目以上行った場合は、所定点数にかかわらず、検査の項目数に応じて次に掲げる点数により算定する。
3～4項目（530点） 5項目以上（722点）

◆1【検体量】は、当社での分離後（血清・血漿）の量です。
◆2【保存条件】は、当社での保存条件です。

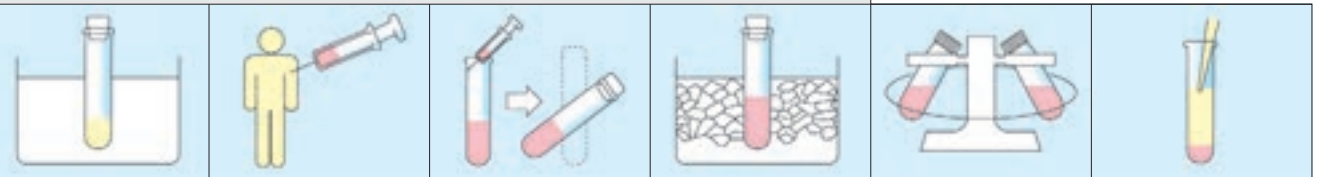
	項目コード（統一コード）	検査項目	◆1 検体量（mL）	容器	◆2 保存条件	検査方法	基準範囲	所要日数	実施料判断料	備考	検査目的及び異常値を示す主な疾患名
凝固・線溶系検査	0615（2B460）	凝固抑制第Ⅷ因子（第Ⅷ因子インヒビター）	血漿 1.0	C	凍結	ベセスダ法	検出せず ベセスダU/mL	3～5	(144) 血液 ①	S	【高値】悪性リンパ増殖性疾患・癌患者・自己免疫疾患・重症血友病A
	1332（2B470）	凝固抑制第Ⅸ因子（第Ⅸ因子インヒビター）	血漿 1.0	C	凍結	ベセスダ法	検出せず ベセスダU/mL	3～5	(144) 血液 ①	S	【高値】悪性腫瘍・自己免疫疾患・重症血友病B
	0593（2B450）	フォン・ウィルブランド因子抗原定量（第Ⅷ因子様抗原定量）	血漿 0.2	C	凍結	ラテックス凝集反応	50～155 %	3～5	(147) 血液	S	【高値】慢性腎炎・紫斑病性腎炎・ネフローゼ症候群・川崎病急性期・慢性肝炎・非代償性肝硬変・運動負荷・妊娠 【低値】von Willebrand病
	0598（2B480）	フォン・ウィルブランド因子活性（vWf:リストセチンコファクター）	血漿 0.5	C	凍結	固定血小板凝集法	60～170 %	3～5	(126) 血液	S	
	0607（2B600）	β-トロンボグロブリン（β-TG）	乏血小板血漿 0.3	E6	凍結	EIA法	50以下 ng/mL	3～7	(171) 血液	検体採取・注意事項：下記参照	【高値】DIC・腎不全・糖尿病・深部静脈血栓症・血栓性血小板減少性紫斑病・脳血管障害・虚血性心疾患（急性期） 【低値】巨核球減少性血小板減少症
	0608（2B620）	血小板第4因子（PF-4）	乏血小板血漿 0.3	E6	凍結	EIA法	20以下 ng/mL	3～7	(173) 血液	S	【高値】脳梗塞、心筋梗塞、播種性血管内凝固症候群（DIC）・脳血栓・糖尿病・骨髄増殖性疾患・膠原病・腎不全 【低値】血小板減少症、抗血小板剤投与

(144) 患者から1回に採取した血液を用いて3項目以上行った場合は、所定点数にかかわらず、検査の項目数に応じて次に掲げる点数により算定する。
3～4項目（530点） 5項目以上（722点）

① 凝固因子インヒビターは、第Ⅷ因子又は第Ⅸ因子の定量測定を行った場合に、それぞれの測定1回につきこの項で算定する。

β-TG、PF-4の検体採取方法および注意事項

下記の操作を2分以内に行ってください。



採取方法	あらかじめ専用容器（E6）を冷却しておいてください。	できるだけ20ゲージ（19～21ゲージでも可）の針を用いたプラスティック注射器で血液3.0mLを採取してください。 （採血にあたって、専用容器を使用しての直接採血は絶対にしないでください。）	針を取って静かに専用容器のフタを開け、血液2.7mLを静かに移し、ゆっくり2～3回転混和してください。	専用容器を速やかに砕氷と水の入ったラックに入れてください。	砕氷水に15～30分間放置後、採取血液を2000Gで30分間、2～4℃で遠心分離してください。（下表は、2000Gにおけるローターの回転半径と回転数との関係を示します。）	上清の表面よりやや下の部分をマイクロピペットで各0.3mL検体容器へ採取してください。血餅に近い部分からの採取は絶対に避けてください。（血漿の全量採取は避けてください。）検体は必ず凍結保存してください。（1ヶ月安定）
注意事項	砕氷水の水面より専用容器中の液面が下になるようにしてください。 角氷は使用しないでください。	真空採血管、カテーテルおよび他の方法は使用しないでください。駆血帯も使用しないでください。10mL以上の採血は避け、出来るだけ血管壁を損傷しないようにスムーズに採取してください。	指定の専用容器以外は使用しないでください。 専用容器は浸とうさせないでください。	砕氷水の水面より専用容器中の血液の液面が下になるようにしてください。	1時間以内に必ず冷却下で遠心分離してください。	

換算表

半径（cm）	回転数（rpm）	半径（cm）	回転数（rpm）
10	4,200	22	2,800
12	3,800	24	2,700
14	3,500	26	2,600
16	3,300	28	2,500
18	3,100	30	2,400
20	3,000		

染　色　体　検　査

◆2【保存条件】は、当社での保存条件です。

	項目コード（統一コード）	検査項目	検体量（mL）	容器	◆2保存条件	検査方法	基準範囲	所要日数	実施料判断料	備考	検査目的及び異常値を示す主な疾患名
先天異常染色体検査	0181（8B200）	G-Banding	血液各3.0（ヘパリン加）	H2	冷蔵	G-band		8～17	2477＋397遺・染色①	受託可能日は月～金曜日の午前診療分までとなります。 依頼書に臨床診断名および臨床所見などをご記入ください。新生児採血において、必要検体量に満たない場合はご相談ください。 S	［染色体の数的異常などに基づく様々な疾患］ ダウン症などのトリソミー症候群をはじめとする様々なトリソミー症候群やモノソミー症候群、リング症候群など ［性染色体異常］ ターナー症候群、クラインフェルター症候群など ［染色体異常による腫瘍性疾患］ 骨髄性白血病、急性リンパ性白血病（ALL）、悪性リンパ腫、Wilms腫瘍等の固形腫瘍など
	0183（8B200）	C-Banding				C-band		21～25			
	0182（8B200）	Q-Banding				Q-band					
	0185（8B200）	高精度分染法				高精度分染法					
	（8B430）	*倫理指針対象* *曜日指定* 13染色体	血液3.0（ヘパリン加）	H2	冷蔵	FISH法		8～10	2477遺・染色②	受託可能日は月～金曜日の午前診療分までとなります。 新生児採血において、必要検体量に満たない場合はご相談ください。 S	
	（8B480）	*倫理指針対象* *曜日指定* 18染色体	血液3.0（ヘパリン加）	H2	冷蔵	FISH法					
	2794（8B510）	*倫理指針対象* *曜日指定* 21染色体	血液3.0（ヘパリン加）	H2	冷蔵	FISH法					
	1655（8B530）	*倫理指針対象* *曜日指定* X染色体	血液3.0（ヘパリン加）	H2	冷蔵	FISH法					
	1656（8B540）	*倫理指針対象* *曜日指定* Y染色体	血液3.0（ヘパリン加）	H2	冷蔵	FISH法					

①分染法を行った場合は、分染法加算として、397点を所定点数に加算する。その種類、方法にかかわらず、1回の算定とする。

②FISH法を用いた場合については、患者1人につき1回に限り算定できる。ただし、びまん性大細胞型B細胞リンパ腫又は多発性骨髄腫の診断の目的で検査を行った場合に、患者の診断の確定までの間に3回に限り算定する。

染色体検査のご提出について

曜日指定 は、月～金曜日の午前診療分までの提出でお願いします。（午後診療分での提出は、受付が出来ませんのでご注意下さい。）

◆2【保存条件】は、当社での保存条件です。

	項目コード（統一コード）	検査項目	検体量（mL）	容器	◆2保存条件	検査方法	基準範囲	所要日数	実施料判断料	備考	検査目的及び異常値を示す主な疾患名
先天異常染色体検査	（8B373）	*倫理指針対象* *曜日指定* 7染色体 （ウイリアムス症候群）	血液3.0（ヘパリン加）	H2	冷蔵	FISH法		8～11	2477 遺・染色 ①	受託可能日は月～金曜日の午前診療分までとなります。 該当する疾患名にてご依頼ください。本検査は疾患に直接関与する遺伝子を検出する検査でなく、責任領域の欠失の有無を判断する検査です。新生児採血において、必要検体量に満たない場合はご相談ください。 S	
	0363（8B453）	*倫理指針対象* *曜日指定* 15染色体 （プラダーウイリ症候群）	血液3.0（ヘパリン加）	H2	冷蔵	FISH法		9～11		片親性ダイソミーの検索はできません。受託可能日は月～金曜日の午前診療分までとなります。 該当する疾患名にてご依頼ください。本検査は疾患に直接関与する遺伝子を検出する検査でなく、責任領域の欠失の有無を判断する検査です。新生児採血において、必要検体量に満たない場合はご相談ください。 S	
	（8B454）	*倫理指針対象* *曜日指定* 15染色体 （アンジェルマン症候群）	血液3.0（ヘパリン加）	H2	冷蔵	FISH法		9～11			
	（8B473）	*倫理指針対象* *曜日指定* 17染色体 （ミラーディカー症候群）	血液3.0（ヘパリン加）	H2	冷蔵	FISH法		8～11		受託可能日は月～金曜日の午前診療分までとなります。 該当する疾患名にてご依頼ください。本検査は疾患に直接関与する遺伝子を検出する検査でなく、責任領域の欠失の有無を判断する検査です。新生児採血において、必要検体量に満たない場合はご相談ください。 S	
	2831（8B523）	*倫理指針対象* *曜日指定* 22染色体 （22q11欠失） （CATCH22） conotruncal anomaly face症候群 velo-cardio-facial症候群 DiGerorge症候群	血液3.0（ヘパリン加）	H2	冷蔵	FISH法		9～11			

①FISH法を用いた場合については、患者１人につき1回に限り算定できる。ただし、びまん性大細胞型B細胞リンパ腫又は多発性骨髄腫の診断の目的で検査を行った場合に、患者の診断の確定までの間に3回に限り算定する。

染色体検査のご提出について

曜日指定 は、月～金曜日の午前診療分までの提出でお願いします。（午後診療分での提出は、受付が出来ませんのでご注意下さい。）

染　色　体　検　査

◆2【保存条件】は、当社での保存条件です。

	項目コード（統一コード）	検査項目	検体量（mL）	容器	◆2 保存条件	検査方法	基準範囲	所要日数	実施料判断料	備考	検査目的及び異常値を示す主な疾患名
血液疾患染色体検査	0186（8B220）	＊曜日指定＊ 染色体 G-Banding	骨髄液 1.0	M1	冷蔵	G-band		9～15	2477 ＋ 397 遺・染色① S	受託可能日は月～金曜日の午前診療分までとなります。 該当する疾患名にてご依頼ください。対象疾患名は下記をご参照ください。判定に時間を要する場合は、所要日数が20日前後となります。	［染色体の数的異常などに基づく様々な疾患］ ダウン症などのトリソミー症候群をはじめとする様々なトリソミー症候群やモノソミー症候群、リング症候群など ［性染色体異常］ ターナー症候群、クラインフェルター症候群など ［染色体異常による腫瘍性疾患］ 骨髄性白血病、急性リンパ性白血病（ALL）、悪性リンパ腫、Wilms腫瘍等の固形腫瘍など
			血液5.0（ヘパリン加）	H2							
	1395（8B396）	＊曜日指定＊ 末梢血好中球 BCR-ABL1 t(9;22)転座	血液5.0（ヘパリン加）	H2	冷蔵	FISH法		8～11		受託可能日は月～金曜日の午前診療分までとなります。 血液は採血後、速やかにご提出ください。採血後30時間以上経過した血液を使用した場合、細胞の形態的変化により、判定に影響がでる場合があるため検査できません。S	
	2760（8B395）	＊曜日指定＊ BCR-ABL1 t(9;22)転座	骨髄液 1.0	M1	冷蔵	FISH法		8～11	2477 遺・染色② S	受託可能日は月～金曜日の午前診療分までとなります。	
			血液5.0（ヘパリン加）	H2							
	2215（8B455）	＊曜日指定＊ PML-RARA t(15;17)転座	骨髄液 1.0	M1	冷蔵	FISH法		7～10			
			血液5.0（ヘパリン加）	H2							

①分染法を行った場合は、分染法加算として、397点を所定点数に加算する。その種類、方法にかかわらず、1回の算定とする。

②FISH法を用いた場合については、患者1人につき1回に限り算定できる。ただし、びまん性大細胞型B細胞リンパ腫又は多発性骨髄腫の診断の目的で検査を行った場合に、患者の診断の確定までの間に3回に限り算定する。

染色体検査のご提出について

＊曜日指定＊ は、月～金曜日の午前診療分までの提出でお願いします。（午後診療分での提出は、受付が出来ませんのでご注意下さい。）

血液疾患染色体検査（G-Banding）留意事項

1. ステロイド系薬剤、アルキル化薬剤、および代謝拮抗薬剤の投与中は染色体分裂像が得られず検査が出来ない場合があります。
2. 末梢血液でご依頼の際、血中に幼若細胞（blast）の出現がみられない場合、また寛解期患者の血液では染色体分裂像が得られず検査ができない場合があります。

血液疾患染色体（G-Banding）対象疾患名

・該当する疾患名にてご依頼ください。

Myeloid系	Lymphoid系
疾　患　名	疾　患　名
MDS（骨髄異形成症候群）	ALL（急性リンパ性白血病）
MPN（骨髄増殖性腫瘍）	CLL（慢性リンパ性白血病）
AML（急性骨髄性白血病）	ML（悪性リンパ腫）
BMT（骨髄移植）ドナー	MM/PL（多発性骨髄腫/形質細胞性白血病）
その他	その他

◆2【保存条件】は、当社での保存条件です。

	項目コード（統一コード）	検査項目	検体量（mL）	容器	◆2保存条件	検査方法	基準範囲	所要日数	実施料判断料	備考	検査目的及び異常値を示す主な疾患名
血液疾患染色体検査	2155（8B333）	＊曜日指定＊ BCL6 3q27転座	リンパ節 5×5×5mm	M1	冷蔵	FISH法		8～11	2477 遺・染色 ①	受託可能日は月～金曜日の午前診療分までとなります。 S	
			骨髄液 1.0								
			血液5.0（ヘパリン加）	H2							
	0303（8B463）	＊曜日指定＊ CBFB inv(16)逆位, t(16;16)転座	骨髄液 1.0	M1	冷蔵	FISH法		8～11			
			血液5.0（ヘパリン加）	H2							
	2044（8B414）	＊曜日指定＊ IGH-CCND1（IGH-BCL1） t(11;14)転座	リンパ節 5×5×5mm	M1	冷蔵	FISH法		8～11			
			骨髄液 1.0								
			血液5.0（ヘパリン加）	H2							
	7289（8B443）	＊曜日指定＊ IGH-BCL2 t(14;18)転座	リンパ節 5×5×5mm	M1	冷蔵	FISH法		8～11			
			骨髄液 1.0								
			血液5.0（ヘパリン加）	H2							
	2451（8B344）	＊曜日指定＊ IGH-FGFR3 t(4;14)転座	骨髄液 1.0	M1	冷蔵	FISH法		8～11			
			血液5.0（ヘパリン加）	H2							
	1205（8B345）	＊曜日指定＊ FIP1L1-PDGFRA del(4)長腕欠失（4q12欠失）	骨髄液 1.0	M1	冷蔵	FISH法		8～11			
			血液5.0（ヘパリン加）	H2							

①FISH法を用いた場合については、患者１人につき1回に限り算定できる。ただし、びまん性大細胞型B細胞リンパ腫又は多発性骨髄腫の診断の目的で検査を行った場合に、患者の診断の確定までの間に3回に限り算定する。

染色体検査のご提出について

＊曜日指定＊ は、月～金曜日の午前診療分までの提出でお願いします。（午後診療分での提出は、受付が出来ませんのでご注意下さい。）

遺伝子関連検査

◆2【保存条件】は、当社での保存条件です。

	項目コード（統一コード）	検査項目	検体量（mL）	容器	◆2保存条件	検査方法	基準範囲	所要日数	実施料判断料	備考	検査目的及び異常値を示す主な疾患名
白血病・悪性リンパ腫関連遺伝子	8489（8C127）	*曜日指定* minor BCR-ABL1 mRNA定量	骨髄液 1.0	M1	冷蔵	RT-PCR法（リアルタイムPCR）	キメラmRNAを検出せず コピー/μgRNA	4～6	2100 遺・染色 ①	受託可能日は月～金曜日の午前診療分までとなります。 検体採取後、速やかにご提出ください。他項目との重複依頼は避けてください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取扱に十分ご注意ください。 S	
			血液7.0（EDTA-2Na）	E1							
	1398（8C127）	*曜日指定* minor BCR-ABL1 mRNA定性	骨髄液 1.0	M1	冷蔵	RT-PCR法	キメラmRNAを検出せず	7～10			
			血液7.0（EDTA-2Na）	E1							
	1334（8C421）	*曜日指定* PML-RARA mRNA定量	骨髄液 1.0	M1	冷蔵	RT-PCR法（リアルタイムPCR）	キメラmRNAを検出せず コピー/μgRNA	4～6			
			血液7.0（EDTA-2Na）	E1							
	（8C421）	*曜日指定* PML-RARA mRNA定性	骨髄液 1.0	M1	冷蔵	RT-PCR法	キメラmRNAを検出せず	7～10			
			血液7.0（EDTA-2Na）	E1							
	8488（8C125）	*曜日指定* Major BCR-ABL1 mRNA定量	骨髄液 1.0	M1	冷蔵	RT-PCR法（リアルタイムPCR）	キメラmRNAを検出せず コピー/μgRNA	4～6			
	2934（8C125）	*曜日指定* Major BCR-ABL1 mRNA定性	骨髄液 1.0	M1	冷蔵	RT-PCR法	キメラmRNAを検出せず	7～10			
			血液7.0（EDTA-2Na）	E1							
	7244（8C125）	*曜日指定* Major BCR::ABL1 IS	血液7.0（EDTA-2Na）	E1	冷蔵	リアルタイムRT-PCR法	検出せず	4～7	2520 遺・染色 ②	受託可能日は月～金曜日の午前診療分までとなります。 検体は単独検体としてご提出ください。 M	
	0089（8C505）	*曜日指定* WT1 mRNA定量	血液7.0（EDTA-2Na）	E1	冷蔵	リアルタイムRT-PCR法	コピー/μgRNA	4～6	2520 遺・染色 ③		【高値】AML（急性骨髄性白血病）
			骨髄液 0.5	M1							

① 造血器腫瘍遺伝子検査は、PCR法、LCR法又はサザンブロット法により行い、月１回を限度として算定できる。

② Major BCR-ABL１（mRNA定量（国際標準値））は、慢性骨髄性白血病の診断補助及び治療効果のモニタリングを目的として、リアルタイムRT-PCR法により測定した場合に限り算定できる。

③ WT１mRNAは、リアルタイムRT-PCR法により、急性骨髄性白血病、急性リンパ性白血病又は骨髄異形成症候群の診断の補助又は経過観察時に行った場合に月１回を限度として算定できる。

白血病・悪性リンパ腫関連遺伝子検査ご提出について

曜日指定 は、月～金曜日の午前診療分までの提出でお願いします。（午後診療分での提出は、受付が出来ませんのでご注意下さい。）

◆2【保存条件】は、当社での保存条件です。

	項目コード（統一コード）	検査項目	検体量（mL）	容器	◆2保存条件	検査方法	基準範囲	所要日数	実施料判断料	備考	検査目的及び異常値を示す主な疾患名
癌関連遺伝子検査	1260（8C241）	大腸癌 RAS/BRAF 変異解析	未染スライド 5枚（5μm厚）	スライド	室温	PCR-γSSO法	変異陰性	5～8	4000 遺・染色 ①②③④	M	【臨床的意義】大腸癌の抗EGFR抗体薬の効果予測等 【異常所見】大腸癌におけるRAS遺伝子の変異
			組織 30mg（3mm角）	U2	凍結						
	1431（8C051）	肺癌 EGFR変異解析 コバスv2	未染スライド 5枚（5μm厚）	スライド	室温	リアルタイムPCR法	検出せず	6～8	2500 遺・染色 ①②⑤⑥	M	
	7744（8C051）	肺癌 EGFR変異解析 コバスv2〈血漿〉	血漿5.0	専用	凍結	リアルタイムPCR法	検出せず	6～8	2100 遺・染色 ⑦⑧⑨	EDTA-2K（6mL）採血管を2本採取お願いします。 M	

① 「悪性腫瘍遺伝子検査」、「造血器腫瘍遺伝子検査」、「免疫関連遺伝子再構成」、「FLT3遺伝子検査」または「JAK2遺伝子検査」のうちいずれかを同一月中に併せて行った場合は、主たるもののみ算定できます。

② 患者から1回に採取した組織等を用いて同一がん種に対して悪性腫瘍遺伝子検査を実施した場合は、次の通り算定します。
2項目：4000点　3項目：6000点　4項目以上：8000点

③ 大腸癌患者における治療方針の決定として、「RAS遺伝子検査」、「BRAF遺伝子検査」の2項目包括点数として、4000点を算定できます。

④ 早期大腸癌におけるリンチ症候群の除外を目的に本検査を実施した場合は、「BRAF遺伝子検査」として2500点のみ算定できます。RAS遺伝子検査の所定点数を併せて算定することはできません。また、マイクロサテライト不安定性検査を実施した年月日を、診療報酬明細書の摘要欄にご記入ください。

⑤ 肺癌の詳細な診断および治療法の選択を目的として患者本人に対して行った場合に限り、原則患者1人につき1回に限り算定できます。再発や憎悪から2次的遺伝子変異等が疑われ再度治療法を選択する必要がある場合にも算定できます。

⑥ 「肺癌 EGFR遺伝子変異解析コバスv2」、「肺癌 EGFR遺伝子変異解析コバスv2（血漿）」または「肺癌マルチ遺伝子PCRパネル」と同一月に併せて行った場合は、主たるもののみ算定できます。

⑦ 肺癌の詳細な診断および治療法を選択する場合は患者1人につき1回、肺癌の再発や憎悪により、EGFR遺伝子変異の2次的遺伝子変異等が疑われ、再度治療法を選択する場合は2回に限り算定できます。

⑧ 本検査の実施は、医学的な理由により、肺癌の組織を検体として、「肺癌 EGFR遺伝子変異解析」を行うことが困難な場合に限ります。肺癌の組織を検体とした検査が実施困難である医学的な理由を診療録および診療報酬明細書の摘要欄に記載する必要があります。

⑨ 肺癌の組織を検体とした「肺癌 EGFR遺伝子変異解析」、「肺癌 EGFR遺伝子変異解析（血漿）」または「肺癌マルチ遺伝子PCRパネル」を同一月中に併せて行った場合には、主たるもののみ算定できます。

【未染スライドご提出時の留意事項】

● 病理組織診断にて腫瘍が認められた部位をマーク（実線で囲む）したHE染色スライドを併せてご提出ください。

【ホルマリン固定検体の取り扱いについて】

● ホルマリン固定検体では、固定条件によって核酸の断片化は著しく、解析不能となる場合があります。
検体の取り扱いについては、日本肺癌学会の「臨床・病理 肺癌取扱い規約」および日本病理学会の「ゲノム診療用病理組織検体取扱い規程」をご参照ください。

ＨＬＡ関連検査

◆2【保存条件】は、当社での保存条件です。

	項目コード（統一コード）	検査項目	検体量（mL）	容器	◆2保存条件	検査方法	基準範囲	所要日数	実施料判断料	備考	検査目的及び異常値を示す主な疾患名
HLA	0197（5K020）	＊曜日指定＊ HLA-A,B（血清対応型タイピング）	血液2.0（EDTA-2Na）	E1	冷蔵	PCR-γSSO法		4～6		受託可能日は月～金曜日の午前診療分までとなります。 続柄・臨床診断名・投与薬剤名・輸血歴・移植歴は必ず明記してください。 HLA検査2項目以上同時依頼の場合は血液2.0mLで検査可能です。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取扱に十分ご注意ください。 S	
	0198（5K065）	＊曜日指定＊ HLA-DR（血清対応型タイピング）	血液2.0（EDTA-2Na）	E1	冷蔵	PCR-γSSO法		4～6			
	0336（5K116）	＊曜日指定＊ HLA-A（DNAタイピング）	血液2.0（EDTA-2Na）	E1	冷蔵	PCR-SBT法		7～8			
	1646（5K117）	＊曜日指定＊ HLA-B（DNAタイピング）	血液2.0（EDTA-2Na）	E1	冷蔵	PCR-SBT法		7～8			
	2254（5K118）	＊曜日指定＊ HLA-C（DNAタイピング）	血液2.0（EDTA-2Na）	E1	冷蔵	PCR-SBT法		7～8			
	9618（5K120）	＊曜日指定＊ HLA-DRB1（DNAタイピング）	血液2.0（EDTA-2Na）	E1	冷蔵	PCR-SBT法		7～8			
	1574（5K130）	＊曜日指定＊ HLA-DQB1（DNAタイピング）	血液2.0（EDTA-2Na）	E1	冷蔵	PCR-SBT法		7～8			
	（5K121）	＊曜日指定＊ HLA-DPB1（DNAタイピング）	血液2.0（EDTA-2Na）	E1	冷蔵	PCR-SBT法		7～8			

HLA検査の検体について

1.HLA-A、B、C、DPB1、DRB1、DQB1（DNAタイピング）検査は、必要に応じてPCR-SSP法、PCR-γSSO法を併用させていただきます。
2.移植後のHLAタイピングをご依頼の場合は、レシピエントとドナーのアリルが混在し判定できない場合がありますのであらかじめご了承ください。
[ご注意] 移植後のHLAタイピングをご依頼の場合は、移植前のHLAの結果と提供者のHLAの結果を必ず依頼書にご記入ください。

＊曜日指定＊ は、月～金曜日の午前診療分までの提出でお願いします。（午後診療分での提出は、受付が出来ませんのでご注意下さい。）

HLA（血清対応型タイピング）の種類

HLA-A		HLA-B				HLA-DR	
A1	A31(19)	B5	B37	B52(5)	B67	DR1	DR15(2)
A2	A32(19)	B7	B38(16)	B53	B70	DR2	DR16(2)
A3	A33(19)	B8	B39(16)	B54(22)	B71(70)	DR3	DR17(3)
A9	A34(10)	B12	B40	B55(22)	B72(70)	DR4	DR18(3)
A10	A36	B13	B41	B56(22)	B73	DR5	
A11	A43	B14	B42	B57(17)	B75(15)	DR6	
A19	A66(10)	B15	B44(12)	B58(17)	B76(15)	DR7	
A23(9)	A68(28)	B16	B45(12)	B59	B77(15)	DR8	
A24(9)	A69(28)	B17	B46	B60(40)	B78	DR9	
A25(10)	A74(19)	B18	B47	B61(40)	B81	DR10	
A26(10)	A80	B21	B48	B62(15)	B82	DR11(5)	
A28		B22	B49(21)	B63(15)		DR12(5)	
A29(19)		B27	B50(21)	B64(14)		DR13(6)	
A30(19)		B35	B51(5)	B65(14)		DR14(6)	

細胞性免疫検査

	項目コード（統一コード）	検査項目		検体量（mL）	容器	◆2 保存条件	検査方法	基準範囲	所要日数	実施料判断料	備考	検査目的及び異常値を示す主な疾患名
細胞性免疫検査	0194（51020）	＊曜日指定＊ T細胞百分率 B細胞百分率		血液3.0（ヘパリン加）	H2	室温	フローサイトメトリー法	T 66～89 B 4～13 %	4～6	193 免疫	受託可能日は月～金曜日の午前診療分までとなります。 S	【異常値】伝染性単核球症 T cell↑、B細胞系腫瘍 B cell↑、百日咳 T.B cell↑、Null系腫瘍 T.B cell↓、ウイルス感染症 T.B cell↓、T細胞系腫瘍 T cell↑
	2271（51021）	＊曜日指定＊ B細胞表面免疫グロブリン（Sm-Ig）	IgG	血液各1.0（ヘパリン加）（3項目以上依頼の場合3.0mL）	H2	室温	フローサイトメトリー法	1～3 %	4～6	155 免疫	受託可能日は月～金曜日の午前診療分までとなります。 S	
	2272（51022）		IgA					1～3 %				
	2273（51023）		IgM					3～12 %				
	2274（51024）		IgD					1～10 %				
	2269（51025）		K					3～8 %				
	2270（51026）		L					1～5 %				
		＊曜日指定＊ モノクローナル抗体によるリンパ球表面マーカーの自動解析		血液3.0（ヘパリン加）	H2	室温	フローサイトメトリー法	119ページ参照	4～6		受託可能日は月～金曜日の午前診療分までとなります。 実施項目一覧は、119～120ページを参照ください。 10項目以上依頼の場合は血液5.0mL採血してください。 S	
		＊曜日指定＊ Two-color解析によるリンパ球表面マーカー検査		血液3.0（ヘパリン加）	H2	室温	Two-color フローサイトメトリー法	120ページ参照	4～6			
	7511（51880）	＊曜日指定＊ Th1/Th2（IFN-γ×IL-4/CD4）		血液3.0（ヘパリン加）	H2	室温	フローサイトメトリー法	%	5～7		受託可能日は月～金曜日の午前診療分までとなります。 S	
	2306（51900）	＊曜日指定＊ NK細胞活性		血液5.0（保存液加）	専用（D）	冷蔵	^{51}Cr遊離法	18～40（参考値） %	4～6			【高値】Down症候群・ウイルス感染症の初期・顆粒リンパ球増殖異常症 【低値】Chediak-東症候群、Crohn病・SLE・重症複合免疫不全症・多発性硬化症（MS）・白血病

細胞性免疫検査のご依頼について

1.＊曜日指定＊ は、月～金曜日の午前診療分までの提出でお願いします。（午後診療分での提出は、受付が出来ませんのでご注意下さい。）
2.リンパ球が少ない場合は多めに採血してください。

細胞性免疫検査

◆2【保存条件】は、当社での保存条件です。

	項目コード（統一コード）	検査項目	検体量（mL）	容器	◆2保存条件	検査方法	基準範囲	所要日数	実施料判断料	備考	検査目的及び異常値を示す主な疾患名
細胞性免疫検査	7711	*曜日指定* 白血病・リンパ腫解析検査 （LLA）CD45ゲーティング （造血器悪性腫瘍細胞検査）	骨髄液 1.0	M1	冷蔵	フローサイトメトリー法		4～6	1940 血液 ①	受託可能日は月～金曜日の午前診療分までとなります。 実施項目：下記参照 S	
			血液5.0（ヘパリン加）	H2	室温						
	7712	*曜日指定* 悪性リンパ腫解析検査 （MLA）CD45ゲーティング （造血器悪性腫瘍細胞検査）	リンパ節 5×5×5mm	M2	冷蔵	フローサイトメトリー法		4～6			
			血液5.0（ヘパリン加）	H2	室温						
	1347	*曜日指定* 多発性骨髄腫解析検査 CD38マルチ解析 （造血器悪性腫瘍細胞検査）	骨髄液 1.0	M1	冷蔵	フローサイトメトリー法		4～6		受託可能日は月～金曜日の午前診療分までとなります。 実施項目：下記参照 S	
	1346	*曜日指定* 悪性リンパ腫解析検査 7AAD解析 （造血器悪性腫瘍細胞検査）	リンパ節 5×5×5mm	M2	冷蔵	フローサイトメトリー法		4～6		受託可能日は月～金曜日の午前診療分までとなります。 実施項目：下記参照 末梢血、骨髄液は避けてください。 S	

① 造血器腫瘍細胞抗原検査

ア. 造血器腫瘍細胞抗原検査はモノクローナル抗体を用いて蛍光抗体法、酸素抗体法、免疫ロゼット法等により白血病細胞又は悪性リンパ腫細胞の表面抗原又は細胞内抗原の検索を実施して病型分類を行った場合に算定できる。

イ. 対象疾病は白血病、悪性リンパ腫等である

ウ. 検査に用いられるモノクローナル抗体は、医薬品として承認されたものであり、検査に当たって用いたモノクローナル抗体の種類、回数にかかわらず、一連として所定点数を算定する。

細胞性免疫検査のご依頼について

1.*曜日指定* は、月～金曜日の午前診療分までの提出でお願いします。（午後診療分での提出は、受付が出来ませんのでご注意下さい。）

2.リンパ球が少ない場合は多めに採血してください。

白血球・リンパ腫解析検査（LLA）・悪性リンパ腫解析検査（MLA）
多発性骨髄腫解析検査CD38マルチ解析・悪性リンパ腫解析検査7AAD解析

項目	モノクローナル抗体
白血病・リンパ腫解析検査（LLA）	CD1a CD2 CD3 CD4 CD5 CD7 CD8 CD10 CD13 CD14 CD19 CD20 CD33 CD34 CD41 CD56 GP-A HLA-DR
悪性リンパ腫解析検査（MLA）	CD2 CD3 CD4 CD5 CD7 CD8 CD10 CD11c CD16 CD19 CD20 CD23 CD25 CD30 CD34 CD56 κ-chain λ-chain
多発性骨髄腫解析検査CD38マルチ解析	CD7 CD19 CD20 CD33 CD45 CD49e CD54 CD56 CD138 MPC-1 cy κ-chain cy λ-chain
悪性リンパ腫解析7AAD解析	CD2 CD3 CD4 CD5 CD7 CD8 CD10 CD19 CD20 CD25 CD30 CD34 CD38 CD45 CD56 IgM κ-chain λ-chain

◆2【保存条件】は、当社での保存条件です。

	項目コード（統一コード）	検査項目	検体量（mL）	容器	◆2保存条件	検査方法	基準範囲	所要日数	実施料判断料	備考	検査目的及び異常値を示す主な疾患名
細胞性免疫検査	0190（5I010）	＊曜日指定＊ PHAによるリンパ球幼若化検査	血液 各5.0（ヘパリン加）（同時依頼の場合は8.0mL）	H2	室温	^{3}H-サイミジン取り込み能	PHA＋ 20500～56800 CONTROL 127～456 cpm	8～9	345 免疫①	受託可能日は月～金曜日の午前診療分までとなります。 S	【低値】悪性腫瘍（白血病など）、原発性および続発性免疫不全症（AIDS、無γ-グロブリン血症など）、自己免疫性疾患（SLE、RAなど未治療時）、薬剤投与（抗腫瘍剤、免疫抑制剤）
	0191（5I011）	＊曜日指定＊ Con-Aによるリンパ球幼若化検査					Con-A＋ 20300～65700 CONTROL 127～456 cpm				【高値】橋本病ではConA刺激で上昇する。 【低値】原発性免疫不全症・複合免疫不全症・ADA欠損症・CD8欠損症・感染症・Down症候群・SLE・ネフローゼ症候群
	0188（5I014）	＊曜日指定＊ 薬剤によるリンパ球刺激試験（DLST）	1薬剤 血液12.0（ヘパリン加）	H2	室温	^{3}H-サイミジン取り込み能	（－）	9～11	①	受託可能日は月～金曜日の午前診療分までとなります。 1薬剤増ごとに血液5.0mL必要となります。血液と同時にご依頼薬剤もご提出ください。（原則として皮内反応注射薬は検査できまん。）ヘパリンが起因薬剤と疑われる場合は全ての採血管に専用容器（NK細胞活性）の容器を使用してください。 S	【高値】薬剤性肝障害・薬疹・薬剤性大腸炎・接触性皮膚炎・気管支喘息・アレルギー性喘息

①リンパ球刺激試験（LST）は、Con-A、PHA又は薬疹の被疑医薬品によるものである。（1薬剤　345点　　2薬剤　425点　　3薬剤以上　515点）

細胞性免疫検査のご依頼について

1.＊曜日指定＊ は、月～金曜日の午前診療分までの提出でお願いします。（午後診療分での提出は、受付が出来ませんのでご注意下さい。）
2.リンパ球が少ない場合は多めに採血してください。

薬剤によるリンパ球刺激試験（DLST）の検体について

1.1薬剤増ごとに血液5.0mL必要となります。
2.1薬剤で500万個のリンパ球が必要となります。場合により検査に必要なリンパ球数が得られず、検査不能となる場合があります。
3.目安として白血球数が3,000mm^{3}以下の場合は倍量程度を採血しご提出ください。 なお、詳しい白血球数とリンパ球%が判明している場合は、担当営業までお問い合わせください。
4.2項目以上ご依頼の場合は、必ず優先順位をご指示ください。
5.血液と同時にご依頼薬剤もご提出ください。
錠剤（1錠）・カプセル（1カプセル）・粉末（1回投与量程度1包）・リキッドタイプの飲み薬（0.5mL程度）・注射薬（1バイアル【アンプル】）
皮内反応用テストアンプルは微量のため検査できません。その他の薬剤以外で検査をご依頼の場合は、ご連絡ください。
6.ヘパリンが起因薬剤と疑われる場合は全て専用容器（NK細胞活性）に採血し、ご提出ください。
7.「麻薬及び向精神薬取締法」第一章第二条および「覚せい剤取締法」第三章および別表に掲げられている規制対象薬剤の受領はできません。
8.ご依頼の際は、麻薬、覚せい剤が含まれていないことをご確認いただき、依頼書等へご署名をお願いします。ご署名がない場合は、受領致しかねます。

細胞性免疫検査

●細胞表面マーカー

モノクローナル抗体によるリンパ球表面マーカーの自動解析実施項目一覧

＊曜日指定＊ は、月～金曜日の午前診療分までの提出でお願いします。（午後診療分での提出は、受付が出来ませんのでご注意下さい。）

項目コード（統一コード）	検査項目	基準範囲	実施料判断料	主として反応する細胞・代表的な反応性
0618 (5I060)	CD1a	1.0以下%		胸腺皮質細胞
0619 (5I064)	CD2	71.0～91.0%		T細胞・Eロゼット形成細胞
0617 (5I067)	CD3	58.0～84.0%	185 免疫	成熟（末梢）T細胞
0612 (5I070)	CD4	25.0～54.0%		ヘルパーT細胞
0613 (5I082)	CD8	23.0～56.0%		細胞傷害性T細胞
0614	CD4／CD8比	0.40～2.30		
2276 (5I073)	CD5	60.0～90.0%		T細胞・一部のB細胞
1322 (5I079)	CD7	72.0～90.0%		T細胞
2277 (5I088)	CD10	1.0以下%		ALL・好中球
2265 (5I092)	CD11b	18.0～49.0%		NK細胞・T細胞の一部
1323 (5I098)	CD13	9.0以下%		単球・顆粒球・骨髄細胞
1325 (5I101)	CD14	5.0以下%		単球
2278 (5I110)	CD16	6.0～39.0%		NK細胞（Fcγレセプター）好中球
1873 (5I119)	CD19	5.0～24.0%		B細胞
2279 (5I122)	CD20	3.0～20.0%		成熟B細胞
1872 (5I125)	CD21	3.0～18.0%		成熟B細胞
1379 (5I128)	CD22	2.0～17.0%		B細胞
2260 (5I137)	CD25	8.0～34.0%		1L-2レセプター Tac
1627 (5I152)	CD30	1.0以下%		活性化T・B細胞・ホジキン細胞
1328 (5I161)	CD33	5.0以下%		顆粒球・単球・骨髄細胞
1628 (5I164)	CD34	1.0以下%		造血幹細胞
2266 (5I176)	CD38	18.0～59.0%		活性化及び増殖細胞 形質細胞（強陽性）
1326 (5I238)	CD56	9.0～43.0%		NK細胞
2261 (5I241)	CD57	4.0～45.0%		NK細胞・LGL
2262 (5I680)	HLA-DR	11.0～46.0%		B細胞・活性化T細胞（HLA-DR抗原）単球

●細胞表面マーカー

Two-color解析によるリンパ球表面マーカー検査

＊曜日指定＊ は、月～金曜日の午前診療分までの提出でお願いします。（午後診療分での提出は、受付が出来ませんのでご注意下さい。）

項目コード（統一コード）	検査項目	基準範囲（%）		実施料 判断料
（5I700）	Two-color CD4/CD45RA	CD4− CD45RA+	30.0～57.0	185 免疫
		CD4− CD45RA−	5.0～23.0	
		CD4+ CD45RA−	15.0～34.0	
		CD4+ CD45RA+	9.0～37.0	
（5I701）	Two-color CD4/CD29	CD4− CD29+	22.0～59.0	
		CD4− CD29−	12.0～38.0	
		CD4+ CD29−	9.0～34.0	
		CD4+ CD29+	11.0～26.0	
（5I710）	Two-color CD11b/CD8	CD11b− CD8+	11.0～40.0	
		CD11b− CD8−	29.0～64.0	
		CD11b+ CD8−	8.0～32.0	
		CD11b+ CD8+	6.0～27.0	
		CD8／BRIGHT	20.0以下	
		CD8／DULL	3.0～17.0	
1373 （5I706）	Two-color HLA-DR/CD4	HLA-DR− CD4+	22.0～51.0	
		HLA-DR− CD4−	24.0～61.0	
		HLA-DR+ CD4−	8.0～37.0	
		HLA-DR+ CD4+	1.0～12.0	
1374 （5I707）	Two-color HLA-DR/CD8	HLA-DR− CD8+	15.0～49.0	
		HLA-DR− CD8−	28.0～62.0	
		HLA-DR+ CD8−	6.0～25.0	
		HLA-DR+ CD8+	2.0～27.0	
2644 （5I721）	Two-color CD57/CD16	CD57− CD16+	1.0～15.0	
		CD57− CD16−	49.0～87.0	
		CD57+ CD16−	2.0～40.0	
		CD57+ CD16+	2.0～27.0	

項目コード（統一コード）	検査項目	基準範囲（%）		実施料 判断料
（5I724）	Two-color CD16/CD56	CD16− CD56+	2.0～20.0	
		CD16− CD56−	57.0～91.0	
		CD16+ CD56−	9.0以下	
		CD16+ CD56+	4.0～33.0	
（5I703）	Two-color CD45RO/CD4	CD45RO− CD4+	6.0～34.0	185 免疫
		CD45RO− CD4−	28.0～58.0	
		CD45RO+ CD4−	7.0～32.0	
		CD45RO+ CD4+	10.0～32.0	
2264 （5I702）	Two-color CD4/CD8	CD4− CD8+	22.0～54.0	
		CD4− CD8−	14.0～38.0	
		CD4+ CD8−	23.0～52.0	
		CD4+ CD8+	7.0以下	
		CD4/CD8比	0.40～2.30	
（5I705）	Two-color HLA-DR/CD3	HLA-DR− CD3+	33.0～75.0	
		HLA-DR− CD3−	7.0～36.0	
		HLA-DR+ CD3−	3.0～18.0	
		HLA-DR+ CD3+	5.0～33.0	
（5I751）	Two-color CD4/CD25	CD4− CD25+	2.0～14.0	
		CD4− CD25−	37.0～69.0	
		CD4+ CD25−	15.0～39.0	
		CD4+ CD25+	6.0～21.0	
7510 （5I715）	Two-color CD20/CD5	CD20− CD5+	54.0～87.0	
		CD20− CD5−	9.0～40.0	
		CD20+ CD5−	9.0以下	
		CD20+ CD5+	13.0以下	

寄生虫学的検査・その他

◆2【保存条件】は、当社での保存条件です。

	項目コード（統一コード）	検査項目	検体量（mL）	容器	◆2 保存条件	検査方法	基準範囲	所要日数	実施料判断料	備考	検査目的及び異常値を示す主な疾患名
尿一般検査	1126（1A990）	尿中一般検査 PH	尿 10.0	U1	冷蔵	試験紙法	4.5～7.5	1～2	26 ①		【各種疾患のスクリーニング検査】腎炎・ネフローゼ症候群・糖尿病・肝、胆道疾患・尿路結石
		蛋白定性					（－）				
		糖定性					（－）				
		ウロビリノーゲン					（±）				
		ビリルビン定性					（－）				
		ケトン体					（－）				
		潜血反応					（－）				
	1134（1A030）	尿比重	尿 1.0	U1	冷蔵	屈折法	1.005～1.030	1～2			
	1164（1A015）	尿蛋白定量	蓄尿 1.0	U1	冷蔵	ピロガロールレッド法	20～120 mg/day 5以下 mg/dL	1～2	7 尿・糞便		
	1167（1A025）	尿糖定量	蓄尿 1.0	U1	冷蔵	ヘキソキナーゼ・G-6-PDH法	40～85 mg/day 2～20 mg/dL	1～2	9 尿・糞便		
	1141（1A105）	尿沈渣（染色法）	尿 10.0	U1	冷蔵	鏡検法 フローサイトメトリー法		1～2	27+9 尿・糞便 ①②		
穿刺液検査	1066	穿刺液一般検査 比重	穿刺液 5.0	U2	冷蔵	屈折計法		1～2			【滲出液】漿膜の炎症（化膿性・結核性）では、比重1.018以上、リバルタ反応（陽性）、蛋白量4g以上 【濾出液】非炎症性疾患（うっ血・血管壁の変性・浸透圧異常）では、比重1.015以下、リバルタ反応（陰性）、蛋白量2.5g以下
		細胞数				計算盤法					
		細胞分類				ギムザ染色					
		リバルタ反応									
	1073（1Z010）	穿刺液蛋白定量	穿刺液 0.5	U2	冷蔵	屈折計法		1～2	⑪ 生化Ⅰ		
	1074（1Z015）	穿刺液糖定量	穿刺液 0.5	U2	冷蔵	ヘキソキナーゼ・G-6-PDH法		1～2	⑪ 生化Ⅰ		

①当該保険医療機関内で検査を行った場合に算定する。
②染色標本による検査を行った場合は、染色標本加算として、9点を所定点数に加算する。

◆2【保存条件】は、当社での保存条件です。

	項目コード(統一コード)	検査項目	検体量(mL)	容器	◆2保存条件	検査方法	基準範囲	所要日数	実施料判断料	備考	検査目的及び異常値を示す主な疾患名
関節液検査	1081	関節液一般検査 色調	関節液10.0	U2	冷蔵		淡黄色透明	1～2	50 尿・糞便		【異常】関節リウマチ・化膿性関節炎・痛風・偽痛風
		関節液一般検査 比重				屈折計法	1.008～1.015				
		関節液一般検査 細胞数				計算盤法					
		関節液一般検査 細胞分類				ギムザ染色					
		関節液一般検査 滴下テスト					高い				
		関節液一般検査 ムチン					3+				
		関節液一般検査 Pca				鏡検法	(－)				【陽性】偽痛風
		関節液一般検査 尿酸結晶				鏡検法	(－)				【陽性】痛風
	1092	尿酸結晶	関節液1.0	U2	冷蔵	鏡検法	(－)	1～2	50 尿・糞便		【陽性】痛風
	1093	ピロリン酸Ca	関節液1.0	U2	冷蔵	鏡検法	(－)	1～2	50 尿・糞便		【陽性】偽痛風
	1090	関節液蛋白定量	関節液0.5	U2	冷蔵	屈折計法		1～2	⑪ 生化Ⅰ		
	1091	関節液糖定量	関節液0.5	U2	冷蔵	ヘキソキナーゼ・G-6-PDH法		1～2	⑪ 生化Ⅰ		

寄生虫学的検査・その他

◆2【保存条件】は、当社での保存条件です。

	項目コード（統一コード）	検査項目	検体量（mL）	容器	◆2保存条件	検査方法	基準範囲	所要日数	実施料判断料	備考	検査目的及び異常値を示す主な疾患名
髄液検査	1051（1C990）	髄液（リコール）一般検査 色	髄液3.0	U2	冷蔵	鏡検法	水様無色透明	1～2	62 尿・糞便		【高値】化膿性髄膜炎・結核性髄膜炎・流行性麻痺・梅毒・ウイルス性脳炎・脳出血・くも膜下出血・ギランバレー症候群 「比重」は炎症性疾患で、蛋白増量の時に比重増加
		比重				屈折計法	1.005～1.007				
		細胞数				計算盤法	0～5 /μL				
		細胞分類				ギムザ染色					
	1060（1C050）	髄液トリプトファン反応	髄液1.0	U2	冷蔵	里見変法	（－）	1～2			結核性髄膜炎の参考所見
	1061（1C010）	髄液蛋白定量	髄液0.5	U2	冷蔵	ピロガロールレッド法	10～40 mg/dL	1～2	⑪生化Ⅰ		【高値】化膿性髄膜炎・結核性髄膜炎・進行性麻痺・梅毒・ウイルス性脳炎・脳出血・くも膜下出血・ギランバレー症候群・脊髄腫瘍
	1062（1C015）	髄液糖定量	髄液0.5	U2	冷蔵	ヘキソキナーゼ・G-6-PDH法	50～75 mg/dL	1～2	⑪生化Ⅰ		【高値】過血糖・脳腫瘍・ステロイド剤投与 【低値】低血糖・髄膜炎
	1063	髄液クロール	髄液0.5	U2	冷蔵	電極法	120～125 mEq/L	1～2	⑪生化Ⅰ		
精液検査	1075（1Z992）	★予約検査★ 精液一般検査 総精子数	精液〔全量〕	U2	室温	計算盤法	39以上 ×10^6	1～2	70 尿・糞便	★予約検査★ 平日（月～土）の午前診療分までの受託となります。祝日・祭日は受託不可 必ず、出検時は会社の方に連絡をお願いします。 避妊器具での提出は不可	
		精子濃度					16以上 ×10^6/mL				
		運動率					%				
		正常形態率				鏡検法	4以上 %				
		精液量					1.4以上 mL				

◆2【保存条件】は、当社での保存条件です。

寄生虫学的検査・その他

	項目コード(統一コード)	検査項目	検査材料	容器	◆2保存条件	検査方法	基準範囲	所要日数	実施料判断料	備考	検査目的及び異常値を示す主な疾患名
糞便検査	1671 (1B010)	便虫卵検査 塗抹	便	K	冷蔵	厚層塗抹法	(－)	1～2	20 尿・糞便		
	1674 (1B015)	便虫卵検査 集卵	便	K	冷蔵	集卵法	(－)		15 尿・糞便		
	1683 (1B040)	便ヘモグロビン 免疫法	便	K5	冷蔵	ラテックス凝集比濁法	(－)	1～2	37 尿・糞便		【陽性】大腸癌・大腸ポリープ・直腸癌・潰瘍性大腸炎・胃癌
	1692 (1B040)	便ヘモグロビン 精密測定	便	K5	冷蔵	ラテックス凝集比濁法	100未満 ng/mL		41 尿・糞便		
	1698 (1B042)	便ヘモグロビン・トランスフェリン定性(Hb・Tf)	便	K3	冷蔵	金コロイド法	判定 (－) Hb (－) Tf (－)	3～5	56 尿・糞便	J	
	2117	虫体検出	※1	※2	室温	肉眼および鏡検	(－)	2～3	23 尿・糞便		
	2396 (1B020)	虫体鑑別	虫体	U2	冷蔵	肉眼/鏡検法		3～4		M	
	2292 (5E110)	クロストリジウム・ディフィシル毒素(トキシンA・B)	便 拇指頭大	K	冷蔵	EIA法	(－)	3～4	80 免疫	検出対象: トキシンA及び トキシンB B	嫌気性菌のCDは抗生物質投与等により腸内で増殖し腸炎の原因となる。
	0019 (5E110)	クロストリジウムディフィシル抗原(イムノクロマト法)	便	K	冷蔵	イムノクロマト法	CDトキシン(－) CD抗原 (－)	1～2	80 免疫	CD抗原及びCDトキシンの検出(＋)、(－)、判定保留、判定不能で報告 結果判定:下記参照	

※1 虫体または虫体の存在が疑われる材料をご提供ください。
※2 虫体の存在が疑われる材料の場合、その材料に適合した容器をご使用ください。

便CD抗原・トキシン 結果判定

抗原	トキシンA/B	解説
(＋)	(＋)	C.difficileのトキシン産生株の存在を示す
(－)	(－)	C.difficile感染症は否定的
(＋)	(－)	トキシン非産生株、もしくは低感度による偽陰性、両方の可能性を考慮する。C.difficileの存在は確実なので、培養を実施し、培養コロニーを用いて、トキシン産生能を確認することが勧められている。

微生物学的検査

◆2【保存条件】は、当社での保存条件です。

	項目コード（統一コード）	検査項目	検査材料	容器	◆2 保存条件	検査方法	基準範囲	所要日数	実施料判断料	備考	検査目的及び異常値を示す主な疾患名
一般細菌検査	1171（6A010）	一般細菌 塗抹鏡検	各種 材料	各種滅菌容器	冷蔵	グラム染色		1～2	67 微生物		
	1177（6B010）	一般細菌 培養・同定 口腔・気道呼吸器系	喀痰	T1 T6 U2	冷蔵	（培養）非選択培地と特定菌の分離用選択培地による （同定）①形態学的観察 ②各種の生化学的性状 ③菌の種類によって血清学的性状 質量分析法		2～7	180 微生物		
			咽頭粘液								
			鼻腔								
	9270（6B010）	消化管	糞便	K T1	冷蔵			2～7	200 微生物	腸チフス・パラチフス・サルモネラ・赤痢・ビブリオ・カンピロバクター・出血性大腸菌（O-157・O-26・O-111などを含む）を検査し、陰性の場合もご報告致します。	
	1195（6B010）		胆汁	U2							
			胃液								
	1197（6B010）	血液 穿刺液	血液	T4	室温			2～10	225 微生物	取扱い方法：135ページ参照 容器一覧：158ページ参照	
			髄液・穿刺液など	U2	冷蔵			2～7		穿刺液とは、胸水・腹水・髄液および関節液をいいます。	
	1196（6B010）	泌尿器生殖器	尿	U1 U2 T1	冷蔵			2～7	190 微生物	淋菌・髄膜炎菌の検査は、室温で保存お願いします。	
			腟分泌物								
			尿道分泌物								
	1198（6B010）	その他部位	耳漏・膿 皮膚・眼脂など	T1 T6 U2	冷蔵			4～7	180 微生物		

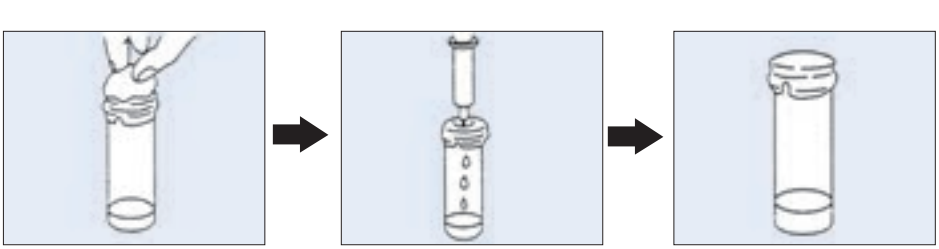
微生物学的検査

	項目コード（統一コード）	検査項目	検査材料	容器	◆2 保存条件	検査方法	基準範囲	所要日数	実施料判断料	備考	検査目的及び異常値を示す主な疾患名
一般細菌検査	1199（6B010）	嫌気性培養	各種 材料	T1 T3	冷蔵			4～11	122 加算 ①		
	1212	定量培養〔尿〕	尿	U2	冷蔵	定量白金耳法		2～3			
	2251（6C010）	一般細菌薬剤感受性検査 1菌種				感受性ディスク法 微量液体希釈法（MIC測定法）		2～4	185 微生物 ②	ディスク一覧表: 137ページ参照	
	2252（6C010）	一般細菌薬剤感受性検査 2菌種							240 微生物 ②		
	2253（6C010）	一般細菌薬剤感受性検査 3菌種以上							310 微生物 ②		
真菌検査	（6A105）	真菌 塗抹鏡検	各種 材料	各種滅菌容器	冷蔵			1～2	67 微生物		
	（6B105）	真菌 培養同定	各種 材料	各種滅菌容器	冷蔵			最終1ヶ月	培養同定に準じる		

①同一検体について一般培養と併せて嫌気性培養を行った場合は、嫌気性培養加算として、122点を所定点数に加算する。
②細菌薬剤感受性検査は、結果として菌が検出できず実施できなかった場合においては算定しない。

ケンキポーターの取扱い方法

Ⓐ 液状検体の場合（胸水、腹水、尿、穿刺液など）

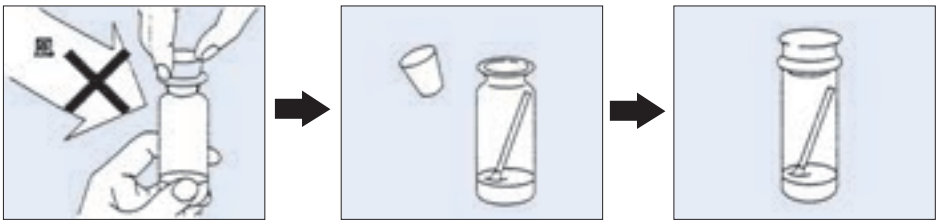


消毒用アルコール綿などを用いて穿刺部を消毒する。

消毒液が完全に乾燥してから注射針を刺し、検体を注入する。

冷蔵保存する。

Ⓑ 固形状検体の場合（便、膿、組織など）



容器は立てたままの状態で注意深くゴムキャップを外す。
（無風状態が理想）

速やかに（5秒以内）検体を入れる。

直ちにゴムキャップをかぶせて栓をする。

微生物学的検査

◆2【保存条件】は、当社での保存条件です。

	項目コード（統一コード）	検査項目	検査材料	容器	◆2 保存条件	所要日数	備考
鏡検目的菌	1233	真菌	皮膚、爪、毛、落屑	U2	常温	1～2	KOH直接鏡検法
	1213	白癬菌	皮膚、爪	U2	常温	1～2	KOH直接鏡検法
	1234	トリコモナス（トリコモナス原虫）	尿、腟分泌物、尿道分泌物	U2、T1	常温	1～2	
	1215	貧食像	各種材料	U2、T1、T8、T6、その他各種滅菌容器	冷蔵	1～3	
	2118	赤痢アメーバ	便、病変部位（組織切片、膿瘍液）	U2	常温	1～3	事前予約（夜間は受付不可）をお願いします。（至急にて搬送が必要になります。）検出時届出が必要です。
	2216	疥癬虫	皮膚、落屑	U2	常温	1～2	KOH直接鏡検法
	8157	墨汁法（クリプトコッカス）	髄液、その他	U2	冷蔵（凍結不可）	1～2	
培養目的菌 真菌	1028	アスペルギルス	呼吸器材料、その他	U2、T1、T8、T6	冷蔵	最終20日後判定	培養陰性時は、最終判定20日後になります。
	1232	カンジダ（酵母様真菌）	各種材料	U2、T1、T8、T6、その他各種滅菌容器	冷蔵	3～7	
	1213	白癬菌	皮膚、爪	U2	常温	最終20日後判定	培養陰性時は、最終判定20日後になります。
	1730	糸状菌	皮膚、爪、毛、落屑	U2	常温	最終20日後判定	培養陰性時は、最終判定20日後になります。
	1266	癜風菌（マラセチア）	皮膚、頭皮	U2	常温	最終20日後判定	オリーブオイル重層法による培養 培養陰性時は、最終判定20日後になります。
培養目的菌 耐性菌	2130	MRSA（メチシリン耐性黄色ブドウ球菌）	各種材料	U2、T1、T8、T6、その他各種滅菌容器	冷蔵	2～7	
	1094	VRE（バンコマイシン耐性腸球菌）	各種材料	U2、T1、T8、T6、その他各種滅菌容器	冷蔵	2～7	検出時届出が必要です。
	2958	PRSP（ペニシリン耐性肺炎球菌）	各種材料	U2、T1、T8、T6、その他各種滅菌容器	冷蔵	2～7	目的菌がなくても、肺炎球菌検出時はPRSP、PISP、PSSPで報告致します。
	9237	MDRP（多剤耐性緑膿菌）	各種材料	U2、T1、T8、T6、その他各種滅菌容器	冷蔵	2～7	広域β－ラクタム剤、アミノ配糖体、フルオロキノロンの3系統薬剤に対して耐性を示す緑膿菌
		BLNAR（βラクタマーゼ陰性アンピシリン耐性インフルエンザ菌）	各種材料	U2、T1、T8、T6、その他各種滅菌容器	冷蔵	2～7	薬剤感受性の実施菌については確認しています。（菌検出時はご報告致します。）
	1589	ESBL	各種材料	U2、T1、T8、T6、その他各種滅菌容器	冷蔵	2～7	薬剤感受性の実施菌については確認しています。（菌検出時はご報告致します。）
	9238	メタロβラクタマーゼ産生菌	各種材料	U2、T1、T8、T6、その他各種滅菌容器	冷蔵	2～7	薬剤感受性の実施菌については確認しています。（菌検出時はご報告致します。）
培養目的菌	1223	β溶血レンサ球菌（β溶連菌）	各種材料	U2、T1、T8、T6、その他各種滅菌容器	冷蔵	2～7	
	2182	GBS（B群溶連菌）	腟分泌物、尿道分泌物	U2、T1、T8、T6、その他各種滅菌容器	冷蔵	2～7	妊娠35週～37週のGBSスクリーニング目的時に使用してください。
	7222	GAS（A群溶連菌）	各種材料	U2、T1、T8、T6、その他各種滅菌容器	冷蔵	2～7	
	2395	レジオネラ菌	呼吸器材料、その他	U2、T1、T8、T6	冷蔵	5～9	検出時届出が必要です。

	項目コード(統一コード)	検査項目	検査材料	容器	◆2 保存条件	所要日数	備考
培養目的菌	1588	百日咳菌	鼻腔洗浄液、鼻腔吸引液	T1 専用培地	冷蔵	5～9	後鼻腔に柔らかいスワブを10秒程度留置して採取し、直ちに選択培地に塗布すると分離率が高くなります。(培地は事前に百日咳菌用にて請求してください。)レーヨン性の綿棒を使用。通常の綿棒には不飽和脂肪酸が含まれており、百日咳菌はこの脂肪酸に弱いと言われています。
	1224	淋菌	尿、腟分泌物、尿道分泌物、眼脂	T1、U2	常温	2～7	低温保管は死滅する可能性があります。
	1225	髄膜炎菌	髄液、その他	U2	常温	2～7	低温保管は死滅する可能性があります。
	7223	黄色ブドウ球菌	各種材料	U2、T1、T8、T6	冷蔵	2～7	
	1586	緑膿菌	各種材料	U2、T1、T8、T6	冷蔵	2～7	
	1779	ガードネレラ菌	腟分泌物	T1、U2	冷蔵	2～7	
	2709	アエロモナス	便、消化器系材料	K(培地入)、T1	冷蔵	2～7	
	1241	赤痢菌	便、消化器系材料	K(培地入)、T1	冷蔵	2～7	検出時届出が必要です。
	1590	コレラ	便、消化器系材料	K(培地入)、T1	冷蔵※	2～7	低温長時間保管は死滅する可能性があります。検出時届出が必要です。
	1245	腸チフス菌	便、消化器系材料	K(培地入)、T1	冷蔵	2～7	検出時届出が必要です。
	1229	パラチフス菌	便、消化器系材料	K(培地入)、T1	冷蔵	2～7	パラチフスA菌は、検出時届出が必要です。
	1363	病原性大腸菌O-157	便、消化器系材料	K(培地入)、T1	冷蔵	2～7	O-157陽性時は、ベロトキシン検査を追加検査(有料)します。ベロトキシン陽性時は届出が必要です。
	1562	(腸管)出血性大腸菌	便、消化器系材料	K(培地入)、T1	冷蔵	2～7	ベロトキシン検査については、産生可能性菌は自動追加します。検査不要の場合は申告をお願いします。(ベロ毒素産生の可能性が高い菌のみ実施など、その都度相談は可能です。) ベロトキシン陽性時は届出が必要です。
	1587	病原性大腸菌	便、消化器系材料	K(培地入)、T1	冷蔵	2～7	大腸菌が確認されれば大腸菌血清型別を実施。病原性大腸菌を対象とした血清型のスクリーニング検査であり、病原因子を特定するものではありません。
	1242	サルモネラ	便、消化器系材料	K(培地入)、T1	冷蔵	2～7	
	1243	ビブリオ	便、消化器系材料	K(培地入)、T1	冷蔵※	2～7	低温長時間保管は死滅する可能性があります。
	1244	カンピロバクター	便、消化器系材料	K(培地入)、T1	冷蔵	2～7	便、大腸粘膜の培養時には、目的菌が依頼されなくても検査します。 死滅し易い菌です。T1など培地入り容器での提出をお願いします。
	1512	セレウス菌	便、消化器系材料	K(培地入)、T1	冷蔵	2～7	
	1561	セラチア菌	各種材料	U2、T1、T8、T6	冷蔵	2～7	
	2131	エルシニア菌	便、消化器系材料	K(培地入)、T1	冷蔵	2～7	
	7194	クロストリジウム・ディフィシル菌	便、消化器系材料	T1、T3	冷蔵	2～7	嫌気性菌のため、嫌気性培養の依頼が必要となります(有料)。(当社T1カルチャースワブは嫌気性菌の輸送が可能です。)

微生物学的検査

◆2【保存条件】は、当社での保存条件です。

	項目コード（統一コード）	検査項目	検査材料	容器	◆2保存条件	検査方法	基準範囲	所要日数	実施料判断料	備考	検査目的及び異常値を示す主な疾患名
抗酸菌検査	1591（6A205）	抗酸菌 塗抹鏡検	喀痰など	T6 U2	冷蔵	チールネルゼン法		1～2	67 微生物		
	2687（6A205）		喀痰など			蛍光法			50 微生物 ①	蛍光法で、陽性の場合チールネルゼンで確認します。	
	1594（6B305）	抗酸菌 分離培養	喀痰など	T6 U2	冷蔵	固形培地法		4週 8週	209 微生物	陰性の場合8週まで（4週で中間報告）	
	1860（6B305）		喀痰など			液体培地法		3週 6週	300 微生物	陰性の場合6週まで（3週で中間報告）	
	7679	抗酸菌同定	菌株		室温	質量分析法		2～5	361 微生物 ②		
	1604（6C105）	結核菌（TB）薬剤感受性検査	菌株		室温	一濃度比率法		3～5 週	400 微生物 ③	増菌の為に4～8週程度必要とする場合があります。	*対象薬剤* SM・PAS・INH・KM・EVM・TH・EB・RFP・CS・LVFX
	2582（6C105）		菌株		室温	液体培地希釈法		3～5 週	400 微生物 ③	増菌の為に4～8週程度必要とする場合があります。	*対象薬剤* PZA
	1918	非結核性抗酸菌感受性（MIC測定）	菌株		室温	微量液体希釈法		2～3 週	400 微生物 ③	増菌の為に4～8週程度必要とする場合があります。	*対象薬剤・報告様式* 下記参照
	1919	迅速発育抗酸菌感受性（MIC測定）	菌株		室温	微量液体希釈法		2～3 週	400 微生物 ③	増菌の為に4～8週程度必要とする場合があります。	*対象薬剤・報告様式* 下記参照

①集菌塗抹法を行った場合には、集菌塗抹加算として、35点を所定点数に加算する。
②抗酸菌同定は、検査方法、培地数にかかわらず、1回のみ所定点数を算定する。
③抗酸菌薬剤感受性検査は、直接法、間接法等の方法及び培地数にかかわらず、感受性検査を行った薬剤が4種類以上の場合に限り算定する。

非結核性抗酸菌感受性（MIC測定）（◆）迅速発育抗酸菌感受性（MIC測定）（★） 検査対象薬剤

CAM（クラリスロマイシン） ◆★	AZM（アジスロマイシン）◆★
MFLX（モキシフロキサシン）◆★	AMK（アミカシン）◆★
MINO（ミノサイクリン）◆	INH（イソニアジド）◆
EB（エタンブトール）◆	RBT（リファブチン）◆
STFX（シタフロキサシン）◆★	KM（カナマイシン）◆
DOXY（ドキシサイクリン）◆★	LZD（リネゾリド）◆★
TH（エチオナミド）◆	RFP（リファピシン）◆
TOB（トブラマイシン）★	IPM（イミペネム）★
FRPM（フォロペネム）★	LVFX（レボフロキサシン）★
ST（スルファメトキサゾール/トリメトプリム）★	MEPM（メロペネム）★
CLF（クロファジミン）★	

非結核性抗酸菌感受性（MIC測定） 迅速発育抗酸菌感受性（MIC測定） 報告様式

【非結核性抗酸菌感受性】

1. 最小発育阻止濃度MIC値（単位:μg/mL）を報告。
2. CLSI判定基準のある薬剤は、S、I、Rも併せて報告。
3. MACの場合は、AMKとAMK（吸入）2種を報告。
4. AMK（吸入）はコメント欄での報告。

【迅速発育抗酸菌感受性】

1. 最小発育阻止濃度MIC値（単位:μg/mL）を報告。
2. CLSI判定基準のある薬剤は、S、I、Rも併せて報告。

微生物学的検査

	項目コード（統一コード）	検査項目	検査材料	容器	◆2保存条件	検査方法	基準範囲	所要日数	実施料判断料	備考	検査目的及び異常値を示す主な疾患名
抗酸菌検査	2744（6B620）	結核菌群核酸増幅検査（TB-PCR）	喀痰など〔2.0mL以上〕	T6 T8 U2	冷蔵	PCR法	結核菌群（－）	2～3	410 微生物	＊レセプト名称＊ 結核菌群核酸検出	
	2779（6B621）	抗酸菌群核酸増幅検査（MAC-PCR）	喀痰など〔2.0mL以上〕	T6 T8 U2	冷蔵	PCR法	アビウム（－） イントラセルラー（－）	2～3	421 微生物 ①	＊レセプト名称＊ MAC核酸検出	
	1931（5E301）	＊曜日指定＊ ★予約検査★ QFTゴールドプラス	全血 5.0mL	HL	冷蔵	ELISA法	（－）	3～7	593 免疫 ②	☆予約検査☆ 採血前には必ず連絡をください。 受付可能日は月～土曜日 結果（判定）解釈: 採取方法: 134ページ参照	
	0740（5E301）	＊曜日指定＊ T-SPOT.TB（インターフェロン-γ遊離試験）	全血 9.0mL（ヘパリン加）	専用	室温	ELISPOT（Enzyme Linked Immunospot法）	（－）	4～5		受託可能日は月～金曜日の午前診療分までとなります。 注意事項:下記参照 採取容器: 162ページ参照 M	

①マイコバクテリウム・アビウム及びイントラセルラー（MAC）核酸検出は、他の検査により結核菌が陰性であることが確認された場合のみに算定できる。抗酸菌同定と併せて実施された場合にあっては、主なもののみ算定する。

②結核菌特異的インターフェロン-γ産生能は、診察又は画像診断等により結核感染が強く疑われる患者を対象として測定した場合のみ算定できる。

結核菌群PCR（TB-PCR）・抗酸菌群PCR（MAC-PCR）の検査材料と最低必要量

検査材料	喀痰	気管支洗浄液 ※1	胃液 ※1	胸水 ※1	腹水 ※1	髄液 ※1	尿	血液 ※2	便	組織 ※3
最低必要量	1mL	5mL	5mL	5mL	5mL	2mL	10mL	5mL	0.5g	10mg

※1 気管支洗浄液・胸水・腹水・髄液などの材料は極めて菌量が少ないことが多く、出来る限り大量に採取・提出してください。（陽性率を上げるため）

※2 ヘパリン添加血はPCR反応を阻害するため、使用できません。EDTAまたは3.2%クエン酸Naの使用をお勧めします。

※3 ホルマリン固定はしないでください。ホルマリン固定によりDNAが断片化されてしまうため、PCRが検出されない可能性があります。組織は滅菌容器に滅菌生理食塩水を入れ、その中に入れてください。

T-SPOT、TB（インターフェロン-γ遊離試験）注意事項

1.受付可能日は月～金曜日の午前診療分となります。（54時間以内に検査を実施する必要があります。）
2.依頼書に採血日時をご記入下さい。
3.必ず指定容器を用いて、規定量（9mL）をご提出ください。
4.ご提出いただいた検体から検査に十分な細胞（末梢血単核球）数が得られない場合は、検査不能となる場合があります。
5.パネルA（ESAT-6）およびパネルB（CFP10）のスポット数を含めご報告致します。
6.健診等でまとまった数の検査を希望される場合は、予め依頼予定日を営業担当者にご連絡下さい。

微生物学的検査

◆2【保存条件】は、当社での保存条件です。

	項目コード(統一コード)	検査項目	検査材料	容器	◆2 保存条件	検査方法	基準範囲	所要日数	実施料判断料	備考	検査目的及び異常値を示す主な疾患名
透析液検査	4338	透析液エンドトキシン	透析液5.0mL	S2	冷蔵	比濁時間分析法		1～2		採取方法:下記参照	
	1316	R2A培養	透析液10.0mL	U2	冷蔵	平板塗抹法		10～20			

透析液の水質管理について

【透析液水質管理加算】

〔点　　数〕　10点（患者1人の透析1回につき）

〔加算基準〕

① 関連学会から示されている基準に基づき、水質管理が適切に実施されていること。
② 透析機器安全管理委員会を設置し、その責任者として専任の医師または専任の臨床工学技士が1名以上配置されていること。

〔説　　明〕

これは、標準透析液の水質が確保されていれば、患者一人に対して透析毎に8点請求できます。
関連学会とは、透析医学会または、臨床工学技士会のことをいいます。

透析液採取管ワコー使用方法

採取管の赤いプラスチックキャップを採取直前に外して下さい。

中央ゴムキャップ部には触れないで下さい。
（消毒は不要です。）
透析液5mLを注射筒で採取管に注入して下さい。

透析液を注入後、注射針が透析液に触れていないことを確認して、採取管の空気を注射筒へ戻して下さい。

採取後よく混和し、2～10℃で保存して下さい。エンドトキシン測定時にはアルミキャップ及びゴム栓を外して透析液をサンプリングして下さい。

結核菌検査の種類とポイント

■抗酸菌は結核菌・非定型抗酸菌・らい病菌（ハンセン病）などの総称です。

④のレセプト名は「結核菌群核酸検出」

⑤のレセプト名は「マイコバクテリウム・アビウム及びイントラセルラー（MAC）核酸検出」
⑥のレセプト名は「抗酸菌同定」
⑦のレセプト名は「結核菌特異的インターフェロン-γ産生能」です。

血液検査

抗酸菌 ①塗　抹 ②分離培養	④結核菌群 核酸増幅検査 （TB-PCR）	⑤抗酸菌群 核酸増幅検査 （MAC-PCR）	⑥抗酸菌同定 （質量分析法）	⑦IGRA検査 （QFT）
①【抗酸菌塗沫】 ■チールネルゼン法 ■蛍光法 蛍光顕微鏡による検鏡。精度が高い。陽性の場合はチールネルゼン法でも確認する。 ■集菌法加算（35点） 喀痰を均等化し、遠心する方法。感度が優位に高くなる。現在、蛍光法の時に実施可能。 ②【分離培養】 結果は4週目（中間）と8週目（最終）の2回。 ■液体培地法 （MGIT）は検査が早く（3週・6週）、精度も高い。	■培養をしないで、直ちに遺伝子検査で抗酸菌を検出する。DNAを増幅して検査する。 ■検体から直接、DNAを抽出し、PCR法で遺伝子を増幅、結核菌群、M.avium及びM.intracellulareに特異的なDNAプローブを固相化したマイクロウエルプレート上でハイブリダイゼーションして同定、検出を行う方法。 ■小川培地の培養結果の陽性例との比較では感度・特異性ともに高いが、既治療例では特異性がやや低くなる。 （コード2744）	■TB-PCRが陰性の時、アビウムイントラセルラー抗酸菌の検査が同時にできる。非結核性抗酸菌の判別検査。 ■他の非結核性抗酸菌を調べるためにも、同時に培養を実施する。 またPCRでは薬の効き具合（感受性）が判りませんので、培養は必要。 ■陽性の場合は、アビウム菌又はイントラセルラーレ菌の確定（肺MAC症） （コード2779）	■本検査は、MALDI-TOF MS技術を用いた質量分析法により、細菌の持つタンパク質をイオン化し、マススペクトルパターンから菌種を同定するもので、30種類以上の抗酸菌を高感度・高精度に同定することが可能。 ■検体からの直接検査は不可。コロニー（菌）からの検査となります。 （コード7679）	■血液検査。予約検査。事前に御連絡ください。 ■採血後、48時間以内に検査を実施しなければならない。 ■感染より2ヶ月以上経過しないと反応しない。 ■BCGやMAC感染の影響を受けないので正確な判定ができる。 ■潜在性結核菌感染症（保菌者）の確認 ■過去に既往歴のある場合は不適 ■専用容器使用 受託可能日は月曜～土曜日に採血してください。 ■ヒトが結核菌に感染すると体内のT細胞が、その情報を記憶し、ふたたび結核菌あるいは結核菌と同様な抗原が侵入してきた際に「IFN-γ」と言う物質を産生する。それにより感染の有無を調べる検査がクォンティフェロン。 （コード1931）
■抗酸菌塗抹 チール法　67点 蛍光法　50点 （集菌法を実施した場合は35点加算） ■抗酸菌分離培養 209点 （液体培地法は300点）	実施料 410点 判断料 微生物学	実施料 421点 判断料 微生物学	実施料 361点 判断料 微生物学	実施料 593点 判断料 免疫学

③抗酸菌 感受性検査 （耐性検査）	■結核菌及び非結核性抗酸菌（迅速発育菌含む）の抗菌性物質に対する感受性を実施します。 ■検体からの直接検査は不可の為、コロニー（菌）からの検査となります。 ■増菌の為、4～8週程度必要とする場合がございます。 ■実施料:400点　判断料:微生物学

結核菌検査のフローチャート

結核検査の進め方

■抗酸菌は、結核菌・非結核性・らい菌などの総称です

レントゲン・問診などで結核が疑われる時

抗酸菌検査（結核菌）

発症の確認

感染（保菌）の確認

喀痰 咽頭粘液

血　液

④TB-PCR

■TB-PCR陽性で確定。
■TB-PCR陰性でも非結核性抗酸菌かどうかを確認する時にMAC-PCR。

⑥MAC-PCR

非結核性抗酸菌の確認検査

①抗酸菌鏡検（塗抹）

■塗抹は蛍光法がベスト
■蛍光法で陽性時はチール法で確認
■抗酸菌の確認

②抗酸菌分離培養（固形培地法）小川培地（4週・8週）

■基本的な分離培養方法
■抗酸菌の確定（結核菌陽性とは言えない）

②抗酸菌分離培養（液体培地法）MGIT（3週・6週）

■液体培地法（MGIT）は陰性は3週、6週で報告。
■陽性は陽性になった時点で報告いたします。
■抗酸菌の確定（結核菌陽性とは言えない）

⑦抗酸菌同定（質量分析法）

③感受性検査

■培養陽性は抗酸菌が陽性で、結核菌が陽性とは言えないのでTB-PCRを実施。陽性で確定。⇨

④TB-PCR

③感受性検査

■TB-PCR陽性で確定。
■TB-PCRが陰性でも非結核性抗酸菌かどうかを確認する時はMAC-PCR。

⑥MAC-PCR

③感受性検査

非結核性抗酸菌の確認検査

MAC-PCRの結果

陽性…アビウム菌又はイントラセルラーレ菌の確定となる（肺MAC症）

陰性…抗酸菌同定（質量分析法）で他の抗酸菌を特定する

陰性の時

⑦抗酸菌同定（質量分析法）

■非結核性抗酸菌の同定検査。多種類の非結核性抗酸菌を鑑別できる。

⑧QFT

■ツベルクリン反応と同じく感染の有無（保菌）を確認する検査（潜在性結核菌感染症の確認）
■免疫力の低下した患者は偽陰性の可能性あり。
■QFTゴールドプラスは採血条件がございますので、当社検査案内書を参照下さい。
■判定結果に判定保留がない。

T-SPOT

■結核患者に接触して最低3週間以上経過していること。（確実な診断は8～12週経過した時）
■リンパ球を規定するため、細胞数減少の影響を受けにくい。
■過去と最近の感染の区別が困難。
■5歳以下は免疫力が弱く、偽陽性の可能性あり。

又は

結核菌群抗原（イムノクロマトグラフィー法）

■結核菌群の同定検査。
■レセプト名「結核菌群抗原定性」
■結核菌群と非結核性抗酸菌の鑑別。

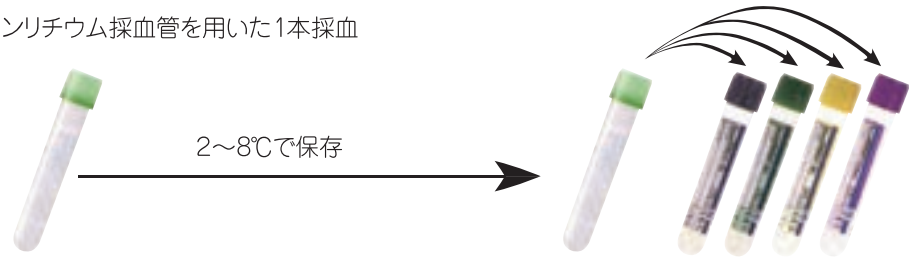
QuantiFERON® TB ゴールド プラス (QFT®-Plus)

QFT-Plusの特徴

- **1本採血で48時間保存が可能**
  ヘパリンリチウム採血管による1本採血の全血検体を2～8℃で最長48時間保存可能
  （QFTプラスチューブに直接採血した場合は、22±5℃で16時間以内に培養を開始）
- **CD4+T細胞に加えCD8+T細胞の応答を検出**
- **判定保留なし**
  海外と同じ判定基準に

ヘパリンリチウム採血管1本での血液採取が可能です（1本採血）

ヘパリンリチウム採血管を用いた1本採血



・採血量は5mL以上
・採血後は採血管を転倒混和

・血液検体を室温（22±5℃）に戻す
・4本のQFTプラスチューブに1mLずつ血液を分注
・分注は特定の順序で行う必要はない
（通常は QFT Nil チューブ、QFT TB1 チューブ、
QFT TB2 チューブ、QFT Mitogen チューブの順で行う）
・分注後は QFT プラスチューブを上下に5秒間又は10回
振って混合

ヘパリンリチウム真空採血管へ5mL以上採血	転倒混和	保存	室温に戻し転倒混和後、QFTプラスチューブへ1mLずつ分注	上下に5秒間又は10回振って混合	培養	
22±5℃		2～8℃	22±5℃		37±1℃	ELISA
～3時間		～48時間	～2時間		16～24時間	

●結果の解釈について

Nil値（IU/mL）	TB1値（IU/mL）	TB2値（IU/mL）	Mitogen値（IU/mL）	結果	解釈
8.0以下	0.35以上かつNil値の25%以上	不問	不問	陽性	結核感染を疑う
	不問	0.35以上かつNil値の25%以上			
	0.35未満、あるいは0.35以上かつNil値の25%未満		0.5以上	陰性	結核感染していない
			0.5未満	判定不可	結核感染の有無について判定できない
8.0を超える	不問				

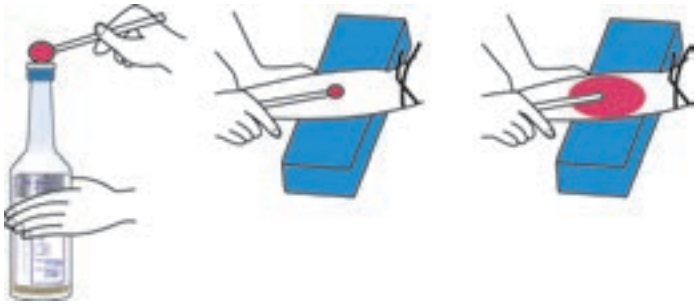
微生物学的検査

血液培養の取扱い方法

準　備

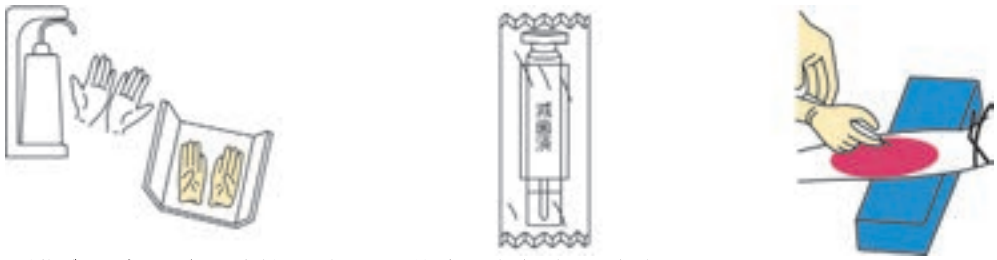
●確実に原因菌を検出する為に、好気ボトル·嫌気ボトルの2本を用意します。

消　毒



ボトルのゴム栓をアルコール綿で消毒する。
採血者はディスポ手袋を着用し採血を行う。
患者の血管穿刺部位を10%ポピドンヨード液もしくは、アルコール綿でしっかりと清拭する。
乾燥を待ち、再度アルコール綿で渦巻き状に広範囲に消毒し、乾燥を待ち採血を行う。

採　血



滅菌ディスポーサブルの注射器を使用して、静脈より血液を必要量採血する。

採　血

通常8～10mLを採取し消毒した2本の血液ボトルゴム栓に穿刺してそれぞれほぼ等量の血液を接種する。
（嫌気ボトル、好気ボトルの順で5～10mL程度注入）
注射針を非貫通性プラスチック容器に廃棄する（感染性廃棄物）。

採血後

ボトルの内容物を静かに転倒混和し、ボトルにオーダーラベルを貼付、または直接採血日時·患者名等を記入する。

*異なる部位の2セット（左右の腕等）の採取が推奨されている。

① 採血後のボトルはすぐに提出してください（室温放置24時間以内）。
それ以上の時間放置された場合は、必ずその旨を記載して提出してください。

② ボトルの穿刺部位には血液が付着しているので、取り扱いの際には感染に注意してください。

●主な微生物輸送培地・容器

専用容器（保管） / 材料			容器名	喀痰容器	カルチャースワブ（青）	カルチャースワブ（オレンジ）	カルチャースワブ（黒）	採便容器	血液培養	滅菌容器	ケンキポーター	ヘリコポーター
			容器コード	T8	T1	T1	T1	K	T4	U2	T3	T7
			容器保存	室温	室温	室温	室温	室温	室温	室温	室温	冷蔵
			容器						好気ボトル			
分類	材　料	検体量（mL）	保存・輸送条件	案内P159 滅菌大型	案内P158 1号	案内P158 細軸カーボン入	案内P158 カーボン入	案内P155 培地入	案内P158 好気・嫌気ボトル	案内P159 滅菌試験管	案内P158 培地入⑧	案内P159 培地入⑨
口腔気道呼吸器	喀痰	2〜3	冷蔵	● ④			●			●		
	咽頭粘液・気道分泌物など	適量	冷蔵		●	●	○					
	鼻咽頭	適量	冷蔵		●	○	●					
消化器	糞便	適量	冷蔵		● ⑥			○ ⑥			●	
	胆汁	5〜10	冷蔵	●						○	●	
	胃液	2〜3	冷蔵	●						○		
泌尿器生殖器	尿	5〜10	冷蔵							● ③		
	尿道分泌物	適量	冷蔵		●		○ ②					
	腟分泌物	適量	冷蔵		●		○ ②					
穿刺液血液	髄液	2〜3	室温						●	○ ②		
	胸水・腹水・関節液	5〜10	冷蔵							●	○	
	血液（動脈血・静脈血）	最適量 8〜10	室温						● 好気・嫌気⑤			
その他部位	膿（開放性）	適量	冷蔵		○	●	●					
	膿（閉鎖性）	適量	冷蔵		●	●	●				○	
	耳漏	適量	冷蔵		●	○	○					
	眼脂	適量	冷蔵			○	○					
	皮膚・爪	適量	冷蔵							○		
	胃生検組織（ヘリコバクター・ピロリ専用）	適量	冷蔵									○ ⑨

● 主として用いられる検体　　● 必要に応じて用いられる検体

〔微生物検体採取と保存上のご注意〕

①検体は原則発病初期・無菌的に採取して、通常冷蔵保存（2〜8℃）とし、乾燥しないよう十分に注意して提出をお願いします。
②淋菌、髄膜炎菌が疑われる場合は、室温にて保存して下さい。常温にて輸送するためその他指示欄に記入をお願いします。
③尿の採取は、早朝尿が望ましく、また通常は前半尿を捨て、中間尿での提出をお願いします。
④喀痰採取時は口腔内常在菌による汚染を防ぐため、滅菌生理食塩水で2〜3回うがいしてから採取して、できるだけ唾液・鼻粘膜の混入は避けて下さい。
⑤血液培養の採取に当たり、穿刺部位を充分に消毒して下さい。（※検査案内「血液培養の取扱い方法」を参照のこと。）
　血液培養ボトルは室温にて保存して下さい。また、抗菌薬投与前に採血し、好気・嫌気の2本1組での使用をお願いします。
⑥糞便はできるだけ急性期の排出便の提出をお願いします。糞便の量は1g程度採取し採取容器の培地深部に入れて下さい。
⑦化学療法中の患者からの採取は、24時間以上中止してから採取して下さい。中止できない場合は、血中濃度が低下した時期に行って下さい。
⑧嫌気性培養をご要望の場合は、ケンキポーター（T3）などの専用容器でご提出下さい。（T1容器も嫌気培養に使用可能です。）
⑨ヘリコバクター専用の輸送培地です。胃生検組織を培地の表面より0.5〜1.5cmの深さまで入れ提出して下さい。

〔微生物検体のご依頼について〕

・検査材料名または材料採取部位は、必ず明記して下さい。臨床所見や海外渡航歴（下痢便）などは、依頼書右下「その他指示」欄に記入して下さい。
・下記の目的菌の存否につきましては、培地選択のため明記して下さい。特殊な菌については事前にお問い合わせ下さい。
　淋菌、髄膜炎菌、コレラ、腸炎ビブリオ、百日咳菌、ジフテリア菌、レジオネラ菌、クロストリジウム・ディフィシル、嫌気性菌
・糞便での嫌気性菌をご依頼の場合は、便中に嫌気性の常在菌が多いため、クロストリジウム・ディフィシルの有無のみご報告いたします。
・ゲックラー（Geckler）分類（喀痰の汚染度を表す基準）は、材料が喀痰で【一般細菌　塗抹鏡検】を依頼されると自動的にご報告いたします。

微生物学的検査

●薬剤感受性ディスク一覧表

系統	コード	略　号	薬剤名	商品名
ペニシリン系	1246	ABPC	アンピシリン	ビクシリン
	1279	MPIPC	オキサシリン	
	1255	PCG	ベンジルペニシリン	ペニシリンG
	1258	PIPC	ピペラシリン	ペントシリン
	1261	AMPC	アモキシシリン	サワシリン、パセトシン
	1483	SBTPC	スルタミシリン	ユナシン
セフェム系	1294	CET	セファロチン	コアキシン
	1297	CEZ	セファゾリン	セファメジン
	1324	CEX	セファレキシン	ケフッレクス
	1309	CCL	セファクロル	ケフラール
	1327	CXD	セフロキサジン	オラスポア
	1312	CTM	セフォチアム	パンスポリン、ハロスポア
	1351	CXM	セフロキシム	オラセフ
	1345	CTX	セフォタキシム	クラフォラン、セフォタックス
	1336	CZX	セフチゾキシム	エポセリン
	1957	CDZM	セフォジジム	ケニセフ
	1573	CTRX	セフトリアキソン	ロセフィン
	1925	CAZ	セフタジジム	モダシン
	1477	CFPM	セフェピム	マキシピーム
	2392	CPR	セフピロム	ケイテン、プロアクト
	1480	CZOP	セフォゾプラン	ファーストシン
	1318	CPZ	セフォペラゾン	セフォペラジン
	1384	CFIX	セフィキシム	セフスパン
	1387	CFTM	セフテラム	トミロン
	1417	CPDX	セフポドキシム	バナン
	2303	CFDN	セフジニル	セフゾン
	2684	CDTR	セフジトレン	メイアクト
	1369	CFPN	セフカペン	フロモックス
セファマイシン系	1303	CMZ	セフメタゾール	セフメタゾン
	1321	LMOX	ラタモキセフ	シオマリン
	1375	CBPZ	セフブペラゾン	トミポラン
	1357	CMNX	セフミノクス	メイセリン
	1922	FMOX	フロモキセフ	フルマリン
合剤	1270	C/A	クラブラン酸アモキシシリン	オーグメンチン、クラバモックス
	1381	S/C	セフォペラゾン／スルバクタム	スルペラゾン
	1360	S/A	アンピシリン／スルバクタム	ユナシン、スルバシリン
	0791	T/P	ピペラシリン/タゾバクタム	ゾシン
カルバペネム	1567	IPM	イミペネム	チエナム
	2423	PAPM	パニペネム	カルベニン
	1348	MEPM	メロペネム	メロペン
	1492	FRPM	ファロペネム	ファロム
	1265	BIPM	ビアペネム	オメガシン
	1481	DRPM	ドリペネム	ファニバックス
＊7	1570	AZT	アズトレオナム	アザクタム

系統	コード	略　号	薬剤名	商品名
アミノグリコシド系	1429	SM	ストレプトマイシン	ストレプトマイシン
	1396	KM	カナマイシン	カナマイシン
	1399	FRM	フラジオマイシン	
	1405	GM	ゲンタマイシン	ゲンタシン
	1414	TOB	トブラマイシン	トブラシン
	1408	DKB	ジベカシン	パニマイシン
	1411	AMK	アミカシン	アミカシン
	2188	ABK	アルベカシン	ハベカシン
	1426	ISP	イセパマイシン	イセパシン
マクロライド系	1456	EM	エリスロマイシン	エリスロシン
	2178	CAM	クラリスロマイシン	クラリス
	2696	RXM	ロキシスロマイシン	ルリッド
	1459	LM	ロイコマイシン	
	1465	SPM	スペラマイシン	
	1468	JM	ジョサマイシン	
	1471	MDM	ミデカマイシン	
	1474	RKM	ロキタマイシン	
	1495	AZM	アジスロマイシン	ジスロマック
キノロン系	1531	NA	ナリジクス酸	ウイントマイロン
	1534	PPA	ピペミド酸	ドルコール
	1543	NFLX	ノルフロキサシン	バクシダール
	1552	ENX	エノキサシン	
	1951	LFLX	ロメフロキサシン	
	2397	FLRX	フレロキサシン	
	1546	OFLX	オフロキサシン	タリビット
	2417	LVFX	レボフロキサシン	クラビット
	1954	TFLX	トスフロキサシン	オゼックス
	1390	CPFX	シプロフロキサシン	シプロキサン
	1438	OBFX	オルビフロキサシン	
	1537	BAYT	バイトリル	
	1290	GFLX	ガチフロキサシン	ガチフロ
	1498	PZFX	パズフロキサシン	パシル、パズクロス
	2212	PUFX	プルリフロキサシン	スオード
	1380	GRNX	ガレノキサシン	ジェヌナック
	8045	STFX	シタフロキサシン	グレースビット
	2173	MFLX	モキシフロキサシン	
＊1	1486	LCM	リンコマイシン	リンコシン
	1489	CLDM	クリンダマイシン	ダラシン
＊2	1441	TC	テトラサイクリン	
	1447	DOXY	ドキシサイクリン	ビブラマイシン
	1444	MINO	ミノサイクリン	ミノマイシン
＊3	1501	CP	クロラムフェニコール	クロロマイセチン
＊4	1306	VCM	バンコマイシン	
	2213	TEIC	テイコプラニン	タゴシット
	7196	DAP	ダプトマイシン	キュビシン
＊5	1522	CL	コリスチン	
	1525	PL	ポリミキシン	
＊6	1271	LZD	リネゾリド	ザイボックス
その他	1528	FOM	ホスホマイシン	ホスミシン
	1555	MUP	ムピロシン	バクトロバン
	1558	ST	スルファメトキサゾール／トリメトプリム	バクタ、バクトラミン
	0914	RFP	リファンピシン	リファジン、リマクタン

＊1 リンコマイシン系　＊2 テトラサイクリン系　＊3 クロラムフェニコール系　＊4 グリコペプチド系
＊5 ポリペプチド系　＊6 オキサゾリジノン系　＊7 モノバクタム

◆2【保存条件】は、当社での保存条件です。

	項目コード(統一コード)	検査項目	検査材料	検体量	容器	◆2保存条件	検査方法	所要日数	実施料判断料	備考	検査目的及び異常値を示す主な疾患名
細胞診検査	1120 (7A020)	婦人科 細胞診（直接塗抹法）	子宮膣部・頸部・内膜・その他	塗抹標本1枚	R	室温	パパニコロ染色等	3～6	150 病理		
	2230 (7A020)	婦人科 細胞診（LBC法）	子宮膣部・頸部・内膜・その他	容器ごと	P5	室温	パパニコロ染色等	3～6	150+45 病理	*液状化検体加算として、45点を所定点数に加算する。	
	1121 (7A010)	その他 細胞診	喀痰・尿・腹水・胸水・穿刺液・その他	塗抹標本	R	室温	パパニコロ染色等	3～6	190 病理		
				容器ごと							

【細胞診　各種材料の標本作製法と固定法】

①『喀　痰』

2枚のスライドガラスの間に「小豆」大の喀痰をはさみ前後左右に押しつぶすように満遍なくのばして下さい。（すり合わせ法）
癌細胞は血痰部や不透明白濁部、ゼリー状粘液部に多く含まれるので、その部分を塗抹して下さい。塗抹後直ちに湿固定（95%エタノールに30分固定又はコーティング剤）を行って下さい。

②『各種擦過物』

擦過物は非常に乾燥しやすいので塗抹と同時に湿固定（95%エタノールに30分固定又はコーティング剤）を行って下さい。

③『各種針穿刺吸引』（乳腺・肝・膵・甲状腺・肺・リンパ節・前立腺など）

スライドガラスに静かに吹きだす。検体が微量の時はもう1枚のスライドガラスを合わせてからはがす。やや多めに得られた時や多量の場合は引きガラス法（Wedge法）で塗抹する。
2枚は湿固定（95%エタノールに30分固定又はコーティング剤）1枚は乾燥固定。

④『各種洗浄液・液体検体・体腔液・尿など』

各種洗浄液と同様に1500rpm　5分間（リコールは900rpm　5分間）遠心後、沈渣物をすり合わせ法、又は引きガラス法にて標本を作製する。
2枚は湿固定（95%エタノールに30分固定又はコーティング剤）1枚は乾燥固定。
血液の検体の場合は、バッフィコート部分を塗抹して下さい。

⑤『捺印標本』

組織の割面はメスやカミソリを用いて、新しい面で捺印して下さい。
1枚は湿固定（95%エタノールに30分固定又はコーティング剤）1枚は乾燥固定。

⑥『圧挫標本』（脳組織、各種組織）

組織の小塊を2枚のスライドガラスの間にはさみ親指で上から押し組織が伸展したら横にうかす様にして2枚のスリガラスをはなす。（圧挫法）
1枚は湿固定（95%エタノールに30分固定又はコーティング剤）1枚は乾燥固定。

⑦『婦人科』

塗抹後直ちに湿固定（95%エタノールに30分固定又はコーティング剤）

⑧『蓄　痰』（3～5日分）…容器ごとに提出

1日1回早朝痰を容器に喀出する。痰を入れたらフタをして、15～20回強く振り、暗所に保管。この操作を3日～5日連続して行う。
痰が多すぎる時は、40目盛をこえないように注意。痰の出にくいときは、容器等に熱湯を入れてその容器の上で蒸気を吸いながら大きく深呼吸を5～6回すると痰は出やすくなります。

〔注意〕検体採取から固定までの許容時間限度（冷蔵）

- 喀痰・胸水・腹水・心嚢液……12時間
- 髄液・穿刺液・洗浄液・尿……1時間以内
- 十二指腸液・膵液・胆汁……氷冷中の容器に採取し、1時間以内
- 擦過物・吸引物……5秒以内に塗抹固定

検体を長時間放置しますと、細胞の変性、融解をおこしてきますので、誤判定の原因になります。
迅やかに標本の作製をお願いします。可能であれば市販の固定液を使用して下さい。（標本作製が難しい場合）

【標本提出方法】 作製した標本は室温で保存し、専用依頼書に必要事項を記入して同時に提出して下さい。（液状検体・体腔液・尿などは冷蔵）

病理学的検査

◆2【保存条件】は、当社での保存条件です。

	項目コード（統一コード）	検査項目	検査材料	検体量	容器	◆2 保存条件	検査方法	所要日数	実施料判断料	備考	検査目的及び異常値を示す主な疾患名
病理組織検査	1118（7B010）	病理組織検査	ホルマリン固定組織		W	室温	HE染色等	4～6	1臓器860病理		
		エストロゲンレセプター（ER）	ホルマリン固定組織	パラフィンブロック	W	室温	IHC法	4～6	720病理		
				無染標本	R						
		プロゲステロンレセプター（PgR）	ホルマリン固定組織	パラフィンブロック	W	室温	IHC法	4～6	690病理		
				無染標本	R						
		HER2（IHC法）	ホルマリン固定組織	パラフィンブロック	W	室温	IHC法	4～6	690病理		
				無染標本	R						
		HER2（DISH法）	ホルマリン固定組織	パラフィンブロック	W	室温	DISH法	5～8	2700病理		
				無染標本	R						
		HER2（FISH法）	ホルマリン固定組織	パラフィンブロック	W	室温	FISH法	5～8	2700病理		
				無染標本	R						
		ALK融合タンパク《高感度IHC法》	ホルマリン固定組織	パラフィンブロック	W	室温	IHC法	4～6	2700病理		
				無染標本	R						
		PD-L1（22C3）	ホルマリン固定組織	パラフィンブロック	W	室温	IHC法	4～6	2700病理	肺癌・頭頸部癌の採取部位の記載をお願いします。	
				無染標本	R						
		PD-L1（SP142）	ホルマリン固定組織	パラフィンブロック	W	室温	IHC法	4～6	2700病理	乳癌・肺癌の採取部位の記載をお願いします。	
				無染標本	R						
その他		一般特殊染色	ホルマリン固定組織	パラフィンブロック	W	室温		3～8		事前に項目確認をお願いします。	
				無染標本	R						
		免疫組織化学染色	ホルマリン固定組織	パラフィンブロック	W	室温		3～8			
				無染標本	R						

【病理組織　検体の採取･出検条件】

【検　査　材　料】各種臓器組織

【採取･提出方法】①10%中性緩衝ホルマリン固定
②固定は採取後､直ちに実施して下さい。
③検体中に絹糸･ガーゼ･金属片がある場合､あらかじめ除去して下さい。
④検体容器は広口で検体が変形しない大きさのものを使用して下さい。
⑤専用の依頼書に必要事項を記入して同時に提出して下さい。

病理組織及び細胞診に関する注意事項

●組織及び細胞診につきましては、より正確な結果を得る為、専用依頼書に年齢・性別・臨床診断等の記入を必ずお願い致します。
●組織診標本・ブロックは、原則として15年間保存させて頂きます。
●細胞診標本は、原則として5年間保存させて頂きます。
●病理組織につきましては、原則として固定液は10%中性緩衝ホルマリン液に入れて下さい。
また、その他の固定液を用いる場合は予めご連絡下さい。
●病理組織材料が大きい場合は、当社にて切り出しを致します。
切り出し方向・個数等ご希望がある場合は、必ずご指定下さい。ご指定のない場合は当社に一任されたものとさせて頂きます。

病理組織検査　実施料の算定について

1）「病理組織標本作製」として1臓器につき860点を算定することができます。(1臓器 860点　2臓器 1720点　3臓器以上 2580点)
但し､病理標本作製に当たって､3臓器以上の標本作製を行った場合は､3臓器を限度として算定する。

2）リンパ節については､所属リンパ節ごとに1臓器として数えます。
但し､複数の所属リンパ節が1臓器について存在する場合は､当該複数の所属リンパ節を1臓器として数える。

3）次に揚げるものは､各区分ごとに1臓器として算定する。

ア　気管支及び肺臓	カ　上行結腸､横行結腸及び下行結腸
イ　食道	キ　S状結腸
ウ　胃及び十二指腸	ク　直腸
エ　小腸	ケ　子宮体部及び子宮頸部
オ　盲腸	

4）酵素抗体法を用いた検査を行った場合は､1臓器に対して400点を算定することができます。
確定診断のために4種類以上の抗体を用いた免疫染色が必要な患者に対して､標本作製を実施した場合には､1200点を所定点数に加算する。「確定診断のために4種類以上の抗体を用いた免疫染色が必要な患者」とは､原発不明癌､原発性脳腫瘍､悪性リンパ腫､悪性中皮腫､肺悪性腫瘍(腺癌､扁平上皮癌)､消化管間質腫瘍(GIST)､慢性腎炎､内分泌腫瘍､軟部腫瘍､皮膚の血管炎､水疱症(天疱瘡､類天疱瘡等)､悪性黒色種､筋ジストロフィー又は筋炎が疑われる患者を指す。これらの疾患が疑われる患者であっても3種類以下の抗体で免疫染色を行った場合は､当該加算は算定できない。

参　考　文　献

◎最新染色法のすべて　月刊 MEDICAL TECNOLOGY別冊　医歯薬出版株式会社　2011年
◎細胞診を学ぶ人のために　第6版　坂本穆彦･他　株式会社医学書院　2019年
◎JAMT技術教本シリーズ　病理検査技術教本　池田和博　丸善出版株式会社　2017年

特定健診の注意事項

健康診査における検体検査の精度管理を行う上では、検査前の準備、検査手順等を適切に実施する必要がある。健康診査における現状を踏まえ、以下のとおり、精度管理を行う上で、特に留意すべき事項を取りまとめた。今後、標準的な健康診査の手順を確立していくことが望まれる。

1. 健診者への事前注意事項

◎健診前の食事については、健診前10時間以上は、水以外のすべての飲食物を摂取しないように指示すると共にアルコールの摂取や激しい運動は、健診の前日は控えること。また午後に健診を実施する場合は、HbA1c検査を実施する場合であっても、軽めの朝食とするとともに、他の検査結果への影響を軽減するために、健診まで水以外の飲食物を摂取しないことが望ましい。やむを得ず空腹時以外に採血を行う場合には、食後3時間半以降に採血を行う。

2. 採血時

◎採血は適切に行われること。

注）採血手技や採血時の留意事項は、日本臨床検査標準協議会（JCCLS）の標準採血法ガイドライン（GP4-A3）を参考にする。

3. 採血管の選択

◎血清検査項目（TG, HDL-C, LDL-C, AST, ALT, γ-GT）の測定用には、原則として分離剤入りのプレイン管を用いること。
◎空腹時血糖測定用には、解糖阻止剤のフッ化ナトリウム（NaF）入りの採血管を用いること。
◎ヘモグロビンA1c（HbA1c）の測定用には、血糖測定用の採血管あるいはEDTA入りの採血管を用いること。

4. 採取した検体の取扱

（1）血清（血中脂質検査及び肝機能検査）

◎採血後、原則として早急に遠心分離し、24時間以内に測定するのが望ましい。
なお、これが困難な場合は、採血後に採血管は冷蔵又は室温で保存し、12時間以内に遠心分離する。
◎血清は、測定まで冷蔵（4～10℃下）で保存し、採血から72時間以内に測定すること。
◎LDLコレステロールは、トリグリセライド400mg/dL以上や食後採血の場合を除き、Friedewald式で計算する。
◎トリグリセライド400mg/dL以上や食後採血の場合は、Non-HDLコレステロール値を用いて評価する。
ただし、LDLコレステロールの直接測定法も可。
◎LDLコレステロール（Friedewald式）及びNon-HDLは、次式により計算する。
Friedewald式によるLDLコレステロール（mg/dL）＝総コレステロール（mg/dL）－HDLコレステロール（mg/dL）－中性脂肪（mg/dL）/5
Non-HDLコレステロール値（mg/dL）＝総コレステロール値（mg/dL）－HDLコレステロール値（mg/dL）
◎空腹時中性脂肪であることを明らかにすること。やむを得ず空腹時以外に採血を行う場合は、随時中性脂肪により血中脂質検査を行うことができる。なお、空腹時とは、絶食10時間以上とする。

（2）血糖検査

◎空腹時血糖であることを明らかにすること。（やむを得ない場合には随時血糖検査）
なお、10時間以上食事していない場合を空腹時血糖とすること。
◎やむを得ず空腹時以外において採血を行い、HbA1cを測定しない場合は、食直後を除き随時血糖により血糖検査を行うことを可とする。なお、食直後とは、食事開始から3.5時間未満とする。
◎原則として、フッ化ナトリウム入り採血管を用い、採血後は採血管内のフッ化ナトリウム（NaF）を血液に速やかに溶かすこと。

注）例えば採血管をゆっくり転倒混和5回以上行うか、あるいはローターに3分以上かける。

◎混和後、採血管は測定まで冷蔵（4～10℃下）で保存し、採血から6時間以内に測定又は遠心分離することが望ましいが、困難な場合には、採血から12時間以内に測定又は遠心分離し、測定まで冷蔵で保存し採血から72時間以内に測定すること。

（3）HbA1c検査

◎フッ化ナトリウム入り採血管又はエチレンジアミン四酢酸（EDTA）入り採血管を用いること。
◎混和後、採血管は測定まで冷蔵（4～10℃下）で保存し、採血から48時間以内に測定すること。

（4）尿

◎原則として、中間尿を採尿する。
◎採尿後4時間以内に試験紙法で検査を行うことが望ましい。
◎困難な場合には、尿検体を専用の試験管に移して密栓し、室温で保存する場合は24時間以内、冷蔵（4～10℃下）で保存する場合は48時間以内に測定すること。

注）試験紙法の検査は、尿試験紙検査法JCCLS指針に従う。

（5）貧血検査

◎エチレンジアミン四酢酸（EDTA）入り採血管を用いること。
◎混和後、採血管は測定まで室温で保存し、採血から12時間以内に測定すること。

（6）血清クレアチニン検査

◎eGFRについては次式により計算する。
男性：eGFR（mL/分/1.73m^2）＝194×血清クレアチニン値$^{-1.094}$×年齢$^{-0.287}$
女性：eGFR（mL/分/1.73m^2）＝194×血清クレアチニン値$^{-1.094}$×年齢$^{-0.287}$×0.739

5. 検体の搬送

◎検体の搬送は、上記の保存条件のもとに適切に行うこと。

6. 測定方法

◎測定試薬の添付文書の指示にしたがって行うこと。
◎測定試薬は標準化されたもので薬事法認可のものを用いること。
◎測定装置は薬事法認可のものを用いること。

7. 内部精度管理

◎健診機関内において、健診の実施における検体採取・輸送・保存・測定・検査結果等について、管理者の配置等管理体制、実施手順、安全性の確保等の装置を講じるように努め、検査測定値の精度管理を行う。

8. 外部精度管理

◎日本医師会、日本臨床衛生検査技師会、全国労働衛生団体連合会等が実施する外部精度管理調査を少なくともいずれか一つ定期的に受け、検査測定値の第三者による精度管理が行われるようにする。

9. 測定のみのアウトソーシング

◎検体の測定を外部委託する場合は、上記と同様の検査手順と精度管理の条件を適用すること。

10.検査後の留意事項

◎検査結果については、報告書の記載内容の確認を行う。

【参考】
標準的な健診・保健指導プログラム【令和6年度版】

検査項目			特定健診診査
診察	質問		○
	計測	身長	○
		体重	○
		BMI	○
		腹囲	○注1
	理学的所見（身体診察）		○
	血圧		○注2
肝機能検査	AST（GOT）		○
	ALT（GPT）		○
	γ-GT（γ-GTP）		○
血中脂質検査	空腹時中性脂肪		○
	随時中性脂肪		○
	HDLコレステロール		○
	LDLコレステロール		○注3
	（Non-HDLコレステロール）		
血糖検査	空腹時血糖		◎
	HbA1c		◎
	随時血糖		◎注4
尿検査	尿糖		○
	尿蛋白		○
血液学検査〔貧血検査〕	ヘマトクリット値		△
	血色素量		△
	赤血球数		△
心電図			△
眼底検査			△
血清クレアチニン（eGFR）			△

注1）立位、軽呼吸時において、臍（へそ）の高さで測定すること。脂肪の蓄積が著明で臍が下方に変化している場合は、肋骨下縁と上前腸骨棘の中点の高さで測定すること。

注2）測定回数は、原則2回とし、その2回の測定値の平均値を用いること。ただし、実施状況に応じて、1回の測定についても可とする。

注3）中性脂肪（血清トリグリセライドが400mg/dL以上である場合又は、食後採血の場合は、LDLコレステロールに代えてNon-HDLコレステロール（総コレステロールからHDLコレステロールを除いたもの）で評価を行うことができる。

注4）やむを得ず空腹時以外に採血を行い、HbA1cを測定しない場合は、食直後（食事開始時から3.5時間未満）を除き随時血糖により血糖検査を行うことを可とする。

○ 必須事項（基本的な健診項目）
△ 医師の判断に基づき選択的に実施する項目
◎ いずれかの項目の実施でも可

特定健診検査項目の診断の判定値

検査項目名	データ基準		単位	備考
	保健指導判定値	受診勧奨判定値		
空腹時中性脂肪	≧150	≧300	mg/dL	空腹時の測定を原則食後時間の表記
随時中性脂肪	≧175	≧300		
HDLコレステロール	＜40	−	mg/dL	
LDLコレステロール	≧120	≧140	mg/dL	
Non-HDLコレステロール	≧150	≧170	mg/dL	
空腹時血糖	≧100	≧126	mg/dL	
随時血糖	≧100	≧126	mg/dL	食後時間の表記
HbA1c	≧5.6	≧6.5	%	
AST（GOT）	≧31	≧51	U/L	
ALT（GPT）	≧31	≧51	U/L	
γ-GT（γ-GTP）	≧51	≧101	U/L	
eGFR	＜60※1	＜45※1	mL/分/1.73m²	
血色素量〔ヘモグロビン値〕	男性 ≦13.0 女性 ≦12.0	男性 ≦12.0 女性 ≦11.0	g/dL	

※1 データ基準については日本腎臓学会「CKD診療ガイド」等に基づく。

特定健診・特定保健指導

保健指導対象者の選定とレベル分け

1）基本的な考え方

◎内臓脂肪の蓄積により、心疾患等のリスク要因（高血圧、高血糖、脂質異常等）が増え、リスク要因が増加するほど心疾患等が発症しやすくなる。
このため、保健指導対象者の選定は、内臓脂肪蓄積の程度とリスク要因の数に着目する事が重要となる。
◎内臓脂肪の蓄積を基本とし、リスク要因の数によって保健指導レベルを設定していくとともに、比較的若い時期（65歳未満）の方が生活習慣の改善を行った予防効果が期待できると考えられるため、年齢に応じた保健指導レベルの設定をしていく。
◎その際、効果的・効率的に保健指導を実施していくためには、予防効果が大きく期待できる者を明確にし、保健指導対象者を選定する。
◎特定健診に相当する健診結果を提出した者に対しても、特定健診を受診した者と同様に、特定保健指導を実施する。

2）特定保健指導レベル

健診結果に基づき、4つのステップでメタボリックシンドロームのリスクに応じて保健指導レベルを決定します。
生活習慣の改善の必要が高い人を「積極的支援レベル」、中程度の人を「動機づけ支援レベル」、低い人を「情報提供レベル」と3つのレベルに分け、保健指導が行われます。

STEP1
腹囲とBMIで内臓脂肪蓄積のリスクを判定

①腹　囲	②BMI	③
男性　85cm以上 女性　90cm以上	男性　85cm未満 女性　90cm未満 かつ　BMI 25以上	①②以外の人

STEP2
STEP1で①②に該当した場合
健診結果・調査票より追加リスクをカウント

①血　糖	②脂　質	③血　圧	④喫　煙
空腹時血糖 100mg/dL以上	空腹時中性脂肪 150mg/dL以上 随時中性脂肪 175mg/dL以上	収縮期（最高） 130mmHg以上	あ　り
または	または	または	
HbA1c 5.6%以上	HDLコレステロール 40mg/dL未満	拡張期（最低） 85mmHg以上	STEP2 ①～③のリスクが1つ以上の場合のみカウント
または	または	または	
薬剤治療を受けている場合	薬剤治療を受けている場合	薬剤治療を受けている場合	

＋

STEP3
STEP1、2から保健指導レベルをグループ分け

STEP1で　①に該当した場合 STEP2の　追加リスクが			STEP1で　②に該当した場合 STEP2の　追加リスクが			STEP1で③に該当した場合
2以上	1	0	3以上	1～2	0	
積極的支援	動機づけ支援	情報提供	積極的支援	動機づけ支援	情報提供	情報提供

STEP4

●服薬中の方は継続的に医療機関に来診しているため、保健指導の対象となりません。
ただし、主治医の依頼または了解のもと、必要に応じて保健指導を行うこともあります。
●前期高齢者（65～74歳）は、積極的支援の対象となった場合でも動機づけ支援となります。

特定保健指導

1）糖尿病などの生活習慣病の予備群に対する保健指導

◎対象者の生活を基盤とし、対象者が自らの生活における課題に気づき、健康的な行動変容の方向性を自らが導き出せるように支援すること。
◎対象者に必要な行動変容に関する情報を提示し、自己決定できるように支援することであり、そのことによって対象者が健康的な生活を維持できるよう支援すること。

2）対象者ごとの保健指導プログラムについて

◎保健指導の必要性ごとにレベル分けされる。
◎各保健指導プログラムの目標を明確化した上で、サービスを提供する必要がある。

情報提供レベル
健診結果と同時実施

メタボリックシンドロームのリスクがなしと判断された方が対象
自らの身体状況を認識するとともに、健康な生活習慣に対する理解と関心を深め、
生活習慣を見直すきっかけとなるよう、健診結果の提供にあわせて、基本的な情報を提供します。

動機づけ支援レベル
原則1回の支援

メタボリックシンドロームのリスクが出はじめた方が対象
医師、保健師または管理栄養士の個別の面接・指導が行われます。
自らの健康状態を自覚し、生活習慣の改善点に気づき、
無理のない行動目標を設定し、それを行動に移すための必要なサポートが受けられます。

積極的支援レベル
3ヶ月以上継続的支援

メタボリックシンドロームのリスクが重複している方が対象
医師、保健師または管理栄養士の面接・指導のもとに積極的な指導が行われます。
自らの健康状態を自覚し、生活習慣の改善のための自主的な取り組みを
実践できる目標を自分で選択して、継続的に実行するために必要なサポートが受けられます。

参考文献一覧

検査項目	参考文献
生化学的検査	
総蛋白(TP)	JCCLS共用基準範囲
アルブミン(Alb)	JCCLS共用基準範囲
A/G比	JCCLS共用基準範囲
蛋白分画	金井正光:臨床検査法提要　第32版:481−486(金原出版)　2005
AST(GOT)	JCCLS共用基準範囲
ALT(GPT)	JCCLS共用基準範囲
γ-GT(γ-GTP)	JCCLS共用基準範囲
ALP(アルカリフォスファターゼ)	JCCLS共用基準範囲
ALPアイソザイム	星野　忠,他:臨床化学　48　補冊1:229,2019
LD(LDH)(乳酸脱水素酵素)	JCCLS共用基準範囲
LD(LDH)アイソザイム	井出純子,他:日本臨床検査自動化学会　28:2003
LAP(ロイシンアミノペプチダーゼ)	臨床検査法提要　改訂　第34版:585−587(金原出版)　2015
コリンエステラーゼ(ChE)	JCCLS共用基準範囲
アミラーゼ(AMY)	JCCLS共用基準範囲
アミラーゼアイソザイム	星野　忠,他:日本臨床検査自動化学会会誌　37(3):293−297,2012
P型アミラーゼ	池田勝義,他:日臨検自動化会誌　27,183,2002
リパーゼ	櫻林郁之助,熊坂一成:臨床検査項辞典　第1版　229,2003
トリプシン	河野幹彦,櫻林郁之介:医学と薬学　53(5),635,2005 宮谷博幸,他:医学と薬学　56(5),771,2006
膵ホスホリパーゼA2(膵PLA2)	竹田昌弘,他:ホルモンと臨床　38:729−734,1990
アルドラーゼ(ALD)	宮原洋一:Med. Technol. 12,157,1984
CK(CPK)	JCCLS共用基準範囲
CK(CPK)アイソザイム	井出純子,他:日本臨床検査自動化学会　28:2003
CK(CPK)-MB〔免疫阻害法〕	櫻井機一,熊坂一成:臨床検査項辞典　第1版:194(医歯薬出版)　2003
リゾチーム	北村元仕:実践臨床化学　増補:432−436,1982
アンギオテンシンⅠ転換酵素(ACE)	Kasahara Y et al :Clinical Chemistry 27(11):1922−1925,1981
NAG	渡辺信子,他:JJCLA20,134−141,1995
グアナーゼ(GUA)	手登根　稔,他:検査と技術　13(10):901−905,1985
アデノシンデアミナーゼ(ADA)	佐野史良,他:臨床検査機器・試薬9(4):715−720,1986
ペプシノゲン(PG)	ペプシノゲン法の具体的施行法と陰性癌の対策
胃がんリスク層別化検査(ABC分類)	胃がんリスク層別化検査　2016年度改訂版
クレアチニン(CRE)	JCCLS共用基準範囲
クレアチン(CRT)	林　泰之,玄番明夫:正常値ガイドブック・その他臨床応用:224−225,1985
尿酸(UA)	痛風の治療ガイドライン　2010
尿素窒素(UN)	JCCLS共用基準範囲
アンモニア(NH3)	佐々木匡秀,他:人体成分のサンプリング　第4刷:103−109,1978
総ホモシステイン	Christian Hellmuth, et al : Journal of Chromatography B. 879:83−89,2011
γ-アミノ酪酸(GABA)	Fujiwara M,et al :Analytical Biochemistry 166:72−78,1987
BTR	飯塚誠一,他:現代医療　26(増Ⅱ):99,1994
アミノ酸分析〔2種類・39種類・9種類〕	Kazutaka Shimbo et al: Biomedical Chromatography 24:683−691,2010
アミノ酸分析〔41種類〕	日本生化学会:生化学実験講座11 アミノ酸代謝と生体アミン　1版:53−67,1976
総ビリルビン(T-Bil)	JCCLS共用基準範囲
直接ビリルビン(D-Bil)	秋山健児,牧野　勲:臨床医　19(増刊号):242−244,1993
コプロポルフィリン定性	近藤雅雄:日本臨床　53(6):1377−1382,1995
コプロポルフィリン定量〔尿中〕	近藤雅雄:日本臨床　53(6):1377−1382,1995
コプロポルフィリン定量〔血液〕	Salmi M et al : Clinical Chemistry 26(13):1832−1835,1980
ウロポルフィリン定量〔尿中〕	近藤雅雄:日本臨床　53(6):1377−1382,1995
ポルフォピリノーゲン定量	近藤雅雄,他:日本臨床　53,1364−1370,1995
δ-アミノレブリン酸(δ-ALA)	園藤陽子,他:産業医学　35:126−127,1993
赤血球遊離プロトポルフィリン	新沼幸子,他:産業医学　23:254−259,1981
血糖(グルコース)	JCCLS共用基準範囲
HbA1c	日本糖尿病学会　編・著　糖尿病治療ガイド　2014−2015
1,5AG	山内俊一:日本臨床　53, 553−556,1996
グリコアルブミン(GA)	臨床検査法提要　改訂　第35版:524−525(金原出版)　2020
総コレステロール(T-Ch)	動脈硬化学会ガイドライン　2002より
HDLコレステロール	動脈硬化学会ガイドライン　2002より
LDLコレステロール	動脈硬化性疾患予防ガイドライン　2017
中性脂肪(TG)	動脈硬化性疾患予防ガイドライン　2017
リン脂質(PL)	金井正光:臨床検査法提要　第32版:545−546(金原出版)　2005
遊離脂肪酸(NEFA)	山田秀明,他:ビタミン54,489−501,1980 荘司牧子,他:JCCLA6,206−210,1981
RLPコレステロール	大石千早,他:日本臨床検査時自動化学会会誌　35(1):83−87,2010
コレステロール分画	小田幸夫,他:臨床病理　27(12):1142−1146,1979
酸化LDL(MDA-LDL)	小谷一夫:酸化ストレスマーカー学術出版センター:243−246,2005
脂肪酸4分画	小沢昭夫,他:分析化学　31:87−91,1982 Sattler, W, et al :Anal. Biochem. 198,184,1991
総胆汁酸(TBA)	眞重文子,山中　学:臨床化学8,191,1979
リポ蛋白分画	浦田武義,他:臨床検査　23(9):871−880,1979
リポ蛋白分画〔HPLC法〕	廣渡祐史,他:臨床化学41,327−335,2012
アポリポ蛋白	櫻林郁野介,他:動脈硬化　24(11):745,1997
ナトリウム(Na)〔血清〕	JCCLS共用基準範囲
クロール(Cl)〔血清〕	JCCLS共用基準範囲

参考文献一覧

検査項目	参考文献
生化学的検査	
カリウム(K)〔血清〕	JCCLS共用基準範囲
カルシウム(Ca)〔血清〕	JCCLS共用基準範囲
イオン化カルシウム	桑　克彦:検査と技術　19(2):119−124,1991
無機リン(IP)〔血清〕	JCCLS共用基準範囲
マグネシウム(Mg)	神林敬一郎:総合臨床　17:2336−2344,1968
浸透圧〔血清〕	櫻井機一,熊坂一成:臨床検査項辞典　第1版:187−188(医歯薬出版)　1998
浸透圧〔尿〕	金井正光,他:臨床検査法提要　第35版(金原出版):575−576,2020
ビタミンA	Henry, R. et al. : Clinical Chemistry Principles and Technics 2nd Ed. ,p. 1375. Harper & Row Publishers, 1974
ビタミンB1	宮川秀則,他:生物試料分析　36(4):327,2013
ビタミンB2	安田和人,他:臨床病理　29,564,1981
ビタミンB6	吉田継親,他:薬学雑誌　98,1319,1978
ビタミンB12	安田和人,他:医学と薬学　41(4):672−680,1999
ビタミンC(アスコルビン酸)	Lykkesfeldt　J,et　al　:Analytical　Biochemistry　229:329−335,1995
1,25-(OH)2ビタミンD	鈴木正司,他:臨床透析　14,371,1998
25-OHビタミンD[くる病]	浜口拓郎,他:医学と薬学　76(7),999,2019
25OHビタミンD[骨粗鬆症]	Batista　MC,　et　al,　:Clin　Chem　Lab　Med,　2018
ビタミンE	阿部皓一,他:栄養と食糧　28:277,1975
葉酸	安田和人,他:医学と薬学　41(4):672−680,1999
ビタミンK分画	langenberg　JP　et　al　:Journal　of　Chromatography　305:61−72,1984
カルニチン分画	伊丹儀友,他:臨床検査58(5):651−658,2014
ニコチン酸(ナイアシン)	宮沢　滋:ビタミン56(9･10):487−499,1982
血清鉄(Fe)	JCCLS共用基準範囲
総鉄結合能(TIBC)〔計算法〕	金井正光:臨床検査法提要　第32版:579−582(金原出版) 2005
不飽和鉄結合能(UIBC)〔比色法〕	櫻井機一,熊坂一成:臨床検査項辞典　第1版:404(医歯薬出版) 2003
銅(Cu)[血清]	金井正光,他:臨床検査法提要　金原出版　35:594, 2020
銅(Cu)[尿]	奥田　稔,他:臨床病理(特17),84−98,1970
鉛(Pb)	原田　章,他:鉛健康診断のすすめ方,56,1990(全衛連)
亜鉛(Zn)[血清]	日本臨床栄養学会『亜鉛欠乏症の診療指針2018』
水銀(Hg)	吉村悦郎,他:地球環境　13,219−225,2008 宮永昭一,他:食品衛生学雑誌　25,30−34,1984
カドミウム(Cd)	Lagesson, V. et al : Clin. Chem.　25,1948,1979
マンガン(Mn)	Tsalev D. L. et al, : Bull. Environ. Contam. Toxicol. 17,660,1977
クロム(Cr)〔血液〕	田中俊行,他:医学と生物学　101,277−281,1980
アルミニウム(Al)	Bertholf, R. L. et al : Clin. Chem. ,　29,1087,1983
ヒアルロン酸	島村　朗,他:医学と薬学　44,1141,2000
シアル酸	水田　亘,他:臨床病理　特(54):128−134,1983
乳酸	浅沼和子,他:生物試料分析　8(3):16,1985
ピルビン酸	浅沼和子,他:生物試料分析　8(3):16,1985
ケトン体分画〔静脈血〕	Harano, Y. et al : Clin. Chim. Acta 134,327,1983
ケトン体分画〔動脈血〕	西ヶ谷晴美,他:医学検査　45(3):353,1996
馬尿酸	岸浪菊江子,他:臨床化学　17(3):128−135,1988
メチル馬尿酸	岸浪菊江子,他:臨床化学　17(3):128−135,1988
2,5-ヘキサンジオン	Iwata M et al : Int Arch Occup Environ Health　51:253−260,1983
N-メチルホルムアミド	Mraz J et al : Journal of Chromatography　414:399−404.1987
マンデル酸(エチルベンゼン)	岸浪菊江子,他:臨床化学　17(3):128−135,1988
スチレン代謝物	岸浪菊江子,他:臨床化学　17(3):128−135,1988
総三塩化物	城山　康,他:松仁会医誌　25(2):225−231,1986
トリクロル酢酸	城山　康,他:松仁会医誌　25(2):225−231,1986
PFD(PABA排泄率)	Yamato C et al : Anal. Biochem.　98,13,1979
結石分析	神　ちひろ,他:分析化学　53(7):735−741,2004
エタノール	鈴木加奈子:薬毒物分析実践ハンドブック,P,118,じほう,東京,2002
メタノール	深掘すみ江,中明賢二:労働科学　59,555,1983
アセトン定量	深掘すみ江,中明賢二:労働科学　59,555,1983
骨塩定量検査	原発性骨粗鬆症の診断基準　2012
内分泌学的検査	
成長ホルモン(GH)	小山沙世,他:医学と薬学　68:899,2012
甲状腺刺激ホルモン(高感度TSH)	玉井　一,他:医学と薬学　42(4):609−622,1999
黄体形成ホルモン(LH)	青野敏博:ホルモンと臨床　36:1087,1988
卵胞刺激ホルモン(FSH)	青野敏博:ホルモンと臨床　36:1087,1988
副腎皮質刺激ホルモン(ACTH)	阿部正樹,他:医学と薬学　57:239,2007
抗利尿ホルモン(ADH･AVP)	田中誠仁,他:医学と薬学　72:(8),1379,2015
ソマトメジン-C(IGF-Ⅰ)	Isojima, T. et al : Endocr. J.　59.771−780,2012
トリヨードサイロニン(T3)	玉井　一,他:医学と薬学　42(4),609,1999
遊離トリヨードサイロニン(FT3)	FT3･アボット試薬添付文書　(第5版)
サイロキシン(T4)	玉井　一,他:医学と薬学　42(4):609,1999
遊離サイロキシン(FT4)	玉井　一,他:医学と薬学　42(4):609−622,1999
サイロキシン結合グロブリン(TBG)	家入蒼生夫:日本臨床　63(増刊号8),272,2005
サイログロブリン(Tg)	北川　亘,他:医学と薬学　71,1655−1666,2014
抗サイログロブリン抗体(TgAb)	森田新二,他:医学と薬学　55,775−782,2006

参考文献一覧

検査項目	参考文献
内分泌学的検査	
抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体（抗TPO抗体）	森田新二,他:医学と薬学　55,775−782,2006
TSHレセプター抗体定量（第3世代）	抗TSHレセプターヒトモノクローナル抗体（M22）を用いた電気化学発光免疫測定法（ECLIA）による抗TSHレセプター抗体（TRAb）
TSH刺激性レセプター抗体	保科元気,他:医学と薬学　79（8）:1079,2022 田上哲也,他:医学と薬学　79（8）:1087,2022
PTH-intact	「慢性腎臓病に伴う骨・ミネラル代謝異常の診療ガイドライン」314−316,2012
副甲状腺ホルモン（whole-PTH）	古屋　実,他:医学と薬学　67,757−765,2012
PTHrP-intact	福本誠二,他:ホルモンと臨床　40,1309−1314,1992
カルシトニン	北川　亘,他:医学と薬学　72（1）,97−108,2015
オステオカルシン	戸来　孝,他:日本臨床検査自動化学会会誌40（1）:52−57,2015
骨型アルカリフォスファターゼ（BAP）	倉澤健太郎,他:医学と薬学　55,279−285,2006
total P1NP	日高好博,他:医学と薬学　70,357−365,2013
ucOc（低カルボキシル化オステオカルシン）	西村　順,他:医学と薬学　57:523−535,2007
TRACP-5b	西沢良記,他:医学と薬学　54,709−717,2005
デオキシピリジノリン	山本逸雄,他:ホルモンと臨床　44（7）:747−757,1996
11-OHCS	宇田川美佐子,他:臨床化学　5（3）:321−325,1977
アルドステロン	西川哲男,他:糖尿病・内分泌代謝科　52（5）:496,2021
コルチゾール〔血清〕	田中秀樹,他:日本臨床　57（増刊）:124−128,1999
コルチゾール〔尿中〕	関口昌江,他:医学と薬学　69（6）:985,2013
DHEA-S	増戸梨恵,他:医学と薬学　56（3）:443,2006
VMA定性	金井　泉:臨床検査　30:136−137:1996
VMA定量〔尿中〕	Flood,J.G.et al :Clin.Chem.25,1234,1979
HVA定量〔尿中〕	Rosano,T.G.et al :Clin.Chem.27,228,1981
カテコールアミン3分画〔尿中〕	守　和子:第47,48回島津デュポン高速液体クロマトグラフィー講座,高速液体クロマトグラフィーセミナー要旨集,6,1977
カテコールアミン3分画〔血漿〕	辻　潮,他:機器・試薬　11,635,1988
メタネフリン2分画	守　和子:第47,48回島津デュポン高速液体クロマトグラフィー講座,高速液体クロマトグラフィーセミナー要旨集,6,1977
5-HIAA〔尿中〕	Rosano,T.G.et al :Clin.Chem.28,207,1982
インスリン（IRI）	唐澤美佳,他:医療と検査機器・試薬　29（5）:479−484,2006
インスリン抗体	内潟安子,他:医学と薬学　65（4）:525−530,2011
C-ペプチド（CPR）〔血中〕	唐澤美佳,他:機器・試薬　29（5）:485−491,2006「ルミパルスプレストⅡ」を用いた「ルミパルスプレストC-ペプチド」測定試薬の基本性能および基準値の検討
膵グルカゴン	稲垣貴之,他:医学と薬学　72,491−497,2015 菊池唯史,他:医学と薬学　75,417−424,2018
抗GAD抗体	川崎英二,他:医学と薬学　66,345−352,2011
抗IA-2抗体	川崎英二,他:医学と薬学　75,669−680,2018
抗ランゲルハンス氏島抗体（ICA）	Bonifacio E,et al :The Lancet 355:147−149,1990
エストラジオール〔妊婦〕	三室卓久,他:産科と婦人科　71（増刊）,115,2004 岩佐　武,他:産科と婦人科　73（1）,133,2006
エストラジオール〔非妊婦〕	皆方良介,他:機器と試薬　22（5）:429−438,1999
プロゲステロン	松崎利也,他:医学と薬学　73（3）:323−333,2016
妊娠試験（HCG定性）	谷沢　修:第22回日本産婦人科学会講演要旨
HCG定量（ヒト絨毛性ゴナドトロピン）	花川準司,他:臨床検査機器・試薬　20（4）:609−613,1997
抗ミュラー管ホルモン（AMH）	浅田義正,他:医学と薬学　76（10）:1527−1532,2019
子宮頸管粘液中顆粒球エラスターゼ	北村　光,他:臨床検査機器・試薬　21（4）:357−361,1998
ヒト癌胎児性フィブロネクチン	Lockwood CJ,et al: The New England Journal of Medicine 325（10）:669−674,1991
レニン活性（PRA）	宇野貴史,他:医学と薬学　73（3）:311,2016
レニン定量（ARC）	佐藤文俊,他:医学と薬学　76（12）:1819−1826,2019 猿田享男　日本臨床63（増刊号）:328−331,2005
エリスロポエチン	増田詩織,他:医学と薬学　67（2）:297,2012 市原清志:日本臨床検査自動化学会会誌　37（suppl.1）,15,2012
肝細胞増殖因子（HGF）	武藤泰敏,他:肝胆膵　25,541,1992
アデイポネクチン	船橋　徹,他:循環器専門医　14,353,2006
サイクリックAMP	孫　孝義,他:日内分泌会誌　61（9）:912−923,1985
h-ANP（ヒト心房性Na利尿ペプチド）	金井正光:臨床検査法提要　第34版:603−605（金原出版）2015
BNP（ヒト脳性Na利尿ペプチド）	櫻林郁之介:臨床検査項辞典　第1版:頁646:2003
NT-proBNP	Prontera C, et al : Clin Chem Lab Med42（1）:37−44,2004
薬物分析検査	
フェノバルビタール	Larkin JG, et al:Antiepileptic drug monitoring at the epilepsy clinic:A proapective, 89−95 1991
プリミドン	宮本侃治:臨床化学6（3）:202−211,1978
フェニトイン	Finn AL,et al:Practical Applications of Drug Monitoring. New York,vol 2, pp63−85 1981
カルバマゼピン	Levy RH,et al:.Applied Pharmacokinetics:Principles of Therapeutic Drug Monitoring, pp 540−569　1987
エトスクシミド	宮本侃治:臨床化学6（3）:202−211,1978
バルプロ酸	acobs DS,et al:Laboratory Test Handbook.4th ed,577−578 1996
ゾニサミド	熊谷　昇,他:臨床医薬　5:843,1989
ジアゼパム	Brodie RR, et al: Journal of Chromatography 150:361−366,1978
トピラマート	小嶺幸弘:沖縄医報　45（9）,51,2009 金澤　治:こころの科学（157）,45,2011
レベチラセタム	赤松直樹,他:Epilepsy　4（2）,129,2010
ペランパネル	花田敬久:脳2116（3）,322,2013 Mano, Y. et al, : J. Pharm. Biomed. Ana. 107,56,2015
ラコサミド	Kim, J. S. et al. : Brain Dev　36（6）,510,2014

参考文献一覧

検査項目	参考文献
薬物分析検査	
プロカインアミド	木村英樹,他:日本臨床検査自動化学会誌33(5):860−864,2008
プロプラノロール	Ahnoff M et al: Journal of Chromatography 340:73−138,1985
リドカイン	宮本侃治:臨床化学6(3):202−211,1978
ジソピラミド	扇谷茂樹,他:臨床検査機器·試薬 6(2):520−523,1983
キニジン	木村英樹,他:日本臨床検査自動化学会誌33(5):860−864,2008
ピルメノール	市川 林,他:臨床医薬 11(4):903−906,1995
ベプリジル	鎌倉 令,他:心電図 31(2),150,2011
プロパフェノン	Haefeli.E.W.,et al :Clin.Pharmacol.Ther.48(3):245,1990
ジゴキシン	水内由利,他:医学と薬学 35(4):847−851,1996
テオフィリン	石橋みどり,他:医学と薬学 42(6):1061−1074,1999
アルベカシン	Jolley M. E. ,et al: Clin. Chem. 27,1575,1981
バンコマイシン	抗菌薬TDMガイドライン
テイコプラニン	諸岡美里,他:日本臨床検査自動化学会会誌 38(1):79−82,2013
エベロリムス	小谷一夫:今日の移植 26(6),505,2013
ミコフェノール酸	小林昌宏,他:TDM研究 25(4),133,2008
リチウム	櫻井機一,熊坂一成:臨床検査項辞典 第1版:469(医歯薬出版) 2003
ハロペリドール	上野 哲,他:日臨検自動化会誌 29,360,2004
ブロムペリドール	上野 哲,他:日臨検自動化会誌 29,360,2004
クロザピン	矢田勇慈:臨床精神薬理 25(1),9,2022 野村信行:臨床精神薬理 23(1),85,2020
サリチル酸	野口佳男,他:基礎と臨床 21:511,1987
アセトアミノフェン	木村英樹,他:日本臨床検査自動化学会誌33(5):860−864,2008
メトトレキサート	メトトレキサート点滴静注液添付文書
イマチニブ	Picard S, et al: Blood 109(8),3496,2007
血清学的検査	
ASO(抗ストレプトリジンO抗体)	日本臨床 53巻,1995 増刊号,下巻,121−125
梅毒 RPR法定性	大里和久:日本性感染症学会誌 13:124−130,2002
梅毒 TPHA法定性	性感染症診断·治療ガイドライン 2016
梅毒 RPR法定量	大里和久:日本性感染症学会誌 13:124−130,2002
梅毒 TPHA法定量	性感染症診断·治療ガイドライン 2016
梅毒 FTA-ABS	厚生省監修:微生物検査必携 細菌·真菌検査(第3版),H−83,1987
梅毒 IgM FTA-ABS	厚生省監修:微生物検査必携 免疫血清反応検査(第2版),196,1978
ヘリコバクターピロリ抗体	兒玉雅明,他:医学と薬学 73(6):737−744,2016
尿中ヘリコバクターピロリ抗体	Kstsuragi K. et al : Helicobacter 3,289−295,1998
便中ヘリコバクターピロリ抗体	福田能啓,他:医学と薬学 52:261−266,2004
尿素呼気試験	日本ヘリコバクター学会ガイドライン,2003
寒冷凝集反応	金井正光:臨床検査法提要 第32版:919−921(金原出版) 2005
マイコプラズマ抗体〔PA法〕	金井正光:臨床検査法提要 第32版:919−921(金原出版) 2005
マイコプラズマ抗体〔CF法〕	北村元仕,他:臨床検査マニュアル(文光堂):880,1988
マイコプラズマ·ニューモニエ核酸同定	国立感染症研究所病原体検出マニュアル「マイコプラズマ肺炎」平成23年9月
アスペルギルス抗原	堀口裕司:感染症学雑誌 78,566−573,2004
カンジダマンナン抗原	新崎晃弘,他:臨床検査機器·試薬 23,197−203,2000
クリプトコッカス抗原	二見修平,他:Jpn.J.Med.Mycol 30(3):211.1989
(1→3)β-D-グルカン	検査と技術 Vol.33 No.7 頁687−690,2005
エンドトキシン定量	検査と技術 Vol.33 No.7 頁687−690,2005
プロカルシトニン	薬の影響を考える臨床検査値ハンドブック 第2版 P198−199,2014
抗トリコスポロンアサヒ抗体	三宅修司,他:日本呼吸器学会誌 39(1):7−11,2001
トキソプラズマ抗体 IgG·IgM	Diagnostic Microbioligy and Infectious Disease 65(2009)279−287
ツツガ虫 カトー IgG·IgM	山本正悟:臨床とウィルス 12(3):270,1984
ツツガ虫 カープ IgG·IgM	山本正悟:臨床とウィルス 12(3):270,1984
ツツガ虫 ギリアム IgG·IgM	山本正悟:臨床とウィルス 12(3):270,1984
百日咳抗体〔EIA法〕	岡田賢司:医学と薬学 65(4),531,2011 岡田賢司:臨床検査 56(4),412,2012
百日咳抗体 IgA·IgM	小児呼吸器感染症診療ガイドライン作成委員会:小児呼吸器感染症診療ガイドライン 2017,236−240,2016
尿中レジオネラ抗原	新垣紀子,他:感染症誌 73,421,1999
ニューモシスチスカリニDNA	Wakefield AE et al :The Lancet 336:451−453,1990
クラミドフィラ(クラミジア)ニューモニエ抗体 IgG·IgA	宮下修行:化学療法の領域 31(S-1),1013−1021,2015
クラミドフィラ(クラミジア)ニューモニエ抗体 IgM	宮下修行,他:小児科診療 71,95−99,2008
クラミドフィラ(クラミジア)シッタシ IgG·IgM	厚生省監修:微生物検査必携 ウイルス·クラミジア·リケッチア検査 第3版 第1分冊:62−75,1987
オーム病クラミドフィラ	北村元仕,他:臨床検査マニュアル (文光堂):880−886,1988
クラミジアトラコマチス抗体 IgG·IgA	梶原祥子,他:医学と薬学 37(3):711−719,1997
トリコモナス/マイコプラズマ· ジェニタリウム同時核酸検出	高橋 聡:日本性感染症学会誌 32(1),1,2021
リウマチ因子定量(RF)	日本臨床53巻·1995増刊号,下巻,422−426
抗ガラクトース欠損IgG抗体(CARF)	平山吉郎,他:医学と薬学 42(5):817−828,1999
MMP-3	横内敬二,他:「パナクリアMMP-3〔プレート〕キットの自動化および基準値範囲設定に関する検討」 新薬と臨床, 50,215−221,2001
IgG型リウマチ因子	栗原夕子,他:リウマチ科 22,499−510,1999
抗CCP抗体(抗シトリル化ペプチド抗体)	三森経世:間接リウマチ早期診断と抗CCP抗体 リウマチ科 34(3)
免疫複合体(モノクローナルRF)	森 勝志,他:医学と薬学 27(2):347−354,1992

参考文献一覧

検査項目	参考文献
血清学的検査	
抗アクアポリン4抗体	高橋利幸,他:医学と薬学　73(10):1297−1300,2016
抗核抗体(ANA)	MBL抗核抗体検査技術資料　No.1〜5
抗DNA抗体	鈴木王洋,他:臨床免疫　25,1096−1102,1993
抗ds-DNA抗体　IgG〔CLEIA法〕	西山　進,他:医学と薬学　69(4),689,2013 礒田健太郎,他:医学と薬学　70(1),119,2013
抗ds-DNA抗体　IgM〔ELISA法〕	山下雅樹,他:医学と薬学　58(5):763−767,2007
抗ss-DNA抗体　IgG〔CLEIA法〕	西山　進,他:医学と薬学　69(4),689,2013 礒田健太郎,他:医学と薬学　70(1),119,2013
抗ss-DNA抗体　IgM〔ELISA法〕	山下雅樹,他:医学と薬学　58(5):763−767,2007
抗RNP抗体〔オクタロニー法〕	金井正光,他:臨床検査法提要　第30版(金原出版):973−975,1993
抗RNP抗体〔FEIA法〕	朝倉奈津子,他:医学と薬学　62,747−757,2009
抗Sm抗体〔オクタロニー法〕	金井正光,他:臨床検査法提要　第30版(金原出版):973−975,1993
抗Sm抗体〔FEIA法〕	高崎芳成,他:医学と薬学　72,139−146,2015
抗SS-A/Ro抗体〔オクタロニー法〕	金井正光,他:臨床検査法提要　第30版(金原出版):973−975,1993
抗SS-A/Ro抗体〔FEIA法〕	朝倉奈津子,他:医学と薬学　62,747−757,2009
抗SS-B/La抗体〔オクタロニー法〕	金井正光,他:臨床検査法提要　第30版(金原出版):973−975,1993
抗SS-B/La抗体〔FEIA法〕	朝倉奈津子,他:医学と薬学　62,747−757,2009
抗Scl-70抗体〔オクタロニー法〕	金井正光,他:臨床検査法提要　第30版(金原出版):973−975,1993
抗Scl-70抗体〔FEIA法〕	濱口儒人,他:医学と薬学　72,1907−1911,2015
抗Jo-1抗体〔オクタロニー法〕	西海正彦:臨床検査機器・試薬　13(4):835−838,1990
抗Jo-1抗体〔FEIA法〕	朝倉奈津子,他:医学と薬学　62,747−757,2009
抗ARS抗体	村上昭弘,他:医学と薬学　71,1403−1410,2014
抗MDA5抗体	Gono, T et al, :Mod Rheumatol. 29,140−145,2019
抗Mi-2抗体	室　慶直:医学のあゆみ　239,83−87,2011
抗TIF1-γ抗体	室　慶直:医学のあゆみ　239,83−87,2011
抗セントロメア抗体	小島和夫,他:医学と薬学　69(4),677,2013
抗RNAポリメラーゼⅢ抗体	Kuwana. M. et al :Arthritis Rheum. 52,2425,2005
抗ミトコンドリア抗体	岡野哲郎,他:臨床病理　37,1367−1372,1989
抗ミトコンドリアM2抗体	坪井五三美,他:医学検査　69,602−607,2020 丹野瑞木,他:医学と薬学　67,485−495,2012
抗LKM-1抗体	竹村真理,他:医学と薬学　46(1):109−114,2001
抗平滑筋抗体	西岡幹夫,他:肝胆膵　11,591−597,1985
抗胃壁細胞抗体	長島秀夫,他:日本臨床　40:937,1982
抗好中球細胞質抗体(PR3-ANCA)	平田寛之,他:医学と薬学　66,1099−1108,2011
抗好中球細胞質抗体(MPO-ANCA)	平田寛之,他:医学と薬学　66,1099−1108,2011
抗糸球体基底膜抗体(抗GBM抗体)	平田寛之,他:医学と薬学　66(6):1099,2011
抗デスモグレイ1抗体	吉田かおり,他:医学と薬学　70:989−1000,2013
抗デスモグレイ3抗体	吉田かおり,他:医学と薬学　70:989−1000,2013
抗BP180抗体	吉田かおり,他:医学と薬学　70:989−1000,2013
抗アセチルコリンレセプター抗体	太田光熙,他:ホルモンと臨床　48,89,2000
抗筋特異的チロシンキナーゼ抗体	本村政勝,他:医学と薬学　70,421−428,2013
抗血小板抗体	坂本久浩:Med. Technol. 11,724,1983
PAIgG(血小板関連IgG)	林　悟,他:臨床病理　32(11):1253−1257,1984
HIT抗体	阪田敏幸:医学と薬学　68(3),547,2012 宮田茂樹:日本検査血液学会雑誌　12(1),60,2011
便中カルプロテクチン〔FEIA法〕	松岡克善,他:医学と薬学　74,717−726,2017
ロイシンリッチα2グリコプロテイン(LRG)	伊藤いづみ,他:臨床栄養　135(6):748,2019 飯田智哉,他:IBD Research　10(4):212,2019
抗カルジオリピンβ2グリコプロテインⅠ複合体抗体	小池隆夫,他:医学と薬学　26,535,1991
抗カルジオリピン抗体 IgG・IgM(EIA法)	小川昌起,他:医学と薬学　78,447−459,2021
ループスアンチコアグラント〔APTT凝固時間法〕	後藤守孝,他:Modern　Physician　15(12):1545−1550,1995
ループスアンチコアグラント〔リン脂質中和法〕	藤岡　貴,他:医学と薬学　73(5):621−626,2016
ループスアンチコアグラント〔希釈ラッセル〕	藤岡　貴,他:医学と薬学　73(5):621−626,2016
抗リン脂質抗体(APL)パネル	出口雅士,他:産科と婦人科　87(suppl),230,20,20 渥美達也:腎と透析　84(4),572,2018
IgG	JCCLS共用基準範囲
IgA	JCCLS共用基準範囲
IgM	JCCLS共用基準範囲
IgG4	Usami Y , et al. : Clin. Chim. Acta., 2019 松本友里,他:医学と薬学　75(7),849,2018
IgGサブクラス分画	川　茂幸,他:医学と薬学　74(4),463−470,2017
免疫電気泳動(IEP)(抗ヒト全血清による同定)	大谷英樹,他:日常検査法シリーズ11　免疫電気泳動　2版:8−26,1977
免疫電気泳動(特異抗血清による同定)	大谷英樹,他:日常検査法シリーズ11　免疫電気泳動　2版:8−26,1977
尿中ベンスジョーンズ蛋白の同定	大谷英樹,他:日常検査法シリーズ11　免疫電気泳動　2版:8−26,1977
遊離L鎖κ/λ比	守田由香,他:医学と薬学　74,945−950,2017
オリゴクローナルバンド	佐々木征治,他:最新電気泳動実験法(医歯薬出版):61−74,1999
ミエリン塩基性蛋白(MBP)	Ohta M,et al: Clinical Chemistry 46(9):1326−1330,2000
クリオグロブリン定性	Okazaki,T.,et al: Clin Chem. 44(7):1558,1998
血清補体価(CH50)	中藤聡子,他:臨床検査機器・試薬19(4):609−613,1996
C1q	櫻林郁之介,他:臨床病理　(特)53:71−81,1983
C3	JCCLS共用基準範囲
C4	JCCLS共用基準範囲
CRP定量	JCCLS共用基準範囲

参考文献一覧

検査項目	参考文献
血清学的検査	
血清アミロイドA蛋白	Benditt, E. P. Eriksen, N:Proc. Natl. Acad. Sci. USA 74:4025−4028, 1977 Maury. C. P. :Clin. Sci 68:233−238,1985
α1-アンチトリプシン(α1-AT)	斎藤憲祐:臨床病理,(特101):38−47,1996
ハプトグロビン	櫻林郁之介,他:臨床病理　特(53):71−81,1983
H-FABP	藤田　孝,他:機器·試薬　33(5):629,2010
心室筋ミオシン軽鎖Ⅰ	宮崎修一,他:医学と薬学　52:443−449,2004
心筋トロポニンT	桜井みどり:「生物試料分析」　第37巻·第2号(2014)別冊
フェリチン定量	内田立身:血清フェリチン測定とその臨床的意義, 臨床検査, 45(7), 727(2001)
トランスフェリン	伊藤忠一:検査と技術　16(7):593−598,1988
プロコラーゲンⅢペプチド(P-Ⅲ-P)	北原志穂,他:医学と薬学　72(9):1579−1590,2015
Ⅳ型コラーゲン	重村雅彦,他:日臨検自動化会誌　28,513,2003
Ⅳ型コラーゲン·7S	大高木結媛,他:医学と薬学77(5):785,2020
M2BPGi	久野　威:医学のあゆみ　249,666−670,2014
尿中マイクロトランスフェリン	今野　稔:医学と薬学　32(3):555,1994
尿中アルブミン定量	金井正光,他:臨床検査法提要　金原出版　34:136−157,2015
尿中Ⅳ型コラーゲン	小幡賢一,他:臨床検査機器·試薬　18,439−444,1995
尿中L型脂肪酸結合蛋白(L-FABP)	池森(上條)敦子,他:臨床科学　43,20−24,2014
プレアルブミン(トランスサイレチン)	笹野桂子,他:医学検査　51(8):1146−1149,2002
レチノール結合蛋白	三浦信樹,他:臨床病理　57(3):195,2009
KL-6	西村　順,他:医学と薬学　41(6):1159,1999
肺サーファクタントプロテインA(SP-A)	大木　卓,他:医学と薬学　71(1):161−166,2014
肺サーファクタントプロテインD(SP-D)	土居耕介,他:医学と薬学　78(3):261−267,2021
α1-マイクログロブリン(α1MG)	徳山昌司郎,他:医学と薬学　39(4),835,1998 伊藤喜久:検査と技術　16(7),658,1988 伊藤喜久:臨床検査　32(8),863,1988
α2-マクログロブリン(α2-M)	飯村康夫,他:日本臨牀　42(春季臨増),1209,1984
β2-マイクログロブリン(BMG)〔血清〕	金井正光:臨床検査法提要　第35版(金原出版):489−490　2020
β2-マイクログロブリン(BMG)〔尿中〕	伊藤浩治,他:医療と検査機器·試薬　26(2),127,2003
セルロプラスミン	飯村康夫,他:日本臨牀　42(春季臨増):1209,1984
ABO式血液型	金井正光:臨床検査法提要　第32版:925−934,2005
RH(D)式血液型	金井正光:臨床検査法提要　第32版:934−942,2005
Rh-Hr式血液型	山崎順啓:Med　Technol.11,631,1983
直接クームス試験	日臨技　輸血検査標準法　改訂第3版
間接クームス試験	金井正光:臨床検査法提要　第32版:948−959,2005
不規則抗体	金井正光:臨床検査法提要　第32版:948−954,2005
不規則抗体同定	浅井隆善:医学のあゆみ　167(9):700,1993
血液型不適合妊娠	支倉逸人:日本臨床　26(2):262−272,1968
交差適合試験	金井正光:臨床検査法提要　第32版:958−959,2005
アレルギー検査	
IgE(非特異的IgE)	森,他:検査と技術　16:641−644,1988
特異的IgE	奥平博一,他:アレルギー　40,544,1991
View アレルギー39	鈴木義徳,他:臨床病理　60(7),621,2012
アトピー鑑別試験(ファディアトープ)	我妻義則,他:医学と薬学　23,83−88,1990
TARC	アトピー性皮膚炎診療ガイドライン　2018
腫瘍関連検査	
癌胎児性抗原(CEA)	田端介富,他:「全自動化学発光免疫測定装置ARCHITECTによるCEAとCA19−9測定の基礎的検討」試薬 22(5):419,1999
α-フェトプロテイン定量(AFP定量)	櫻林機一,熊坂一成:臨床検査項辞典　第1版:735(医歯薬出版),2003
AFPレクチン分画	Shimizu, K, et al : Clin. Chim. Acta 214, 3, 1993 Oka, H. et al : J. Gastroenterol. Hepatol. 16, 1378, 2001
PIVKA-Ⅱ	編集 和田　攻 他:臨床検査ガイド　2009−2010　第1版,頁86−900,2009
塩基性フェトプロテイン(BFP)	設楽光弘,他:臨床病理　36(9):1039−1044,1988
SCC抗原	大井邦枝,他:「全自動化学発光免疫装置ARCHITECTi2000型によるSCC抗原測定の基礎検討」 医学と薬学　52(1):93−99,2004
シフラ(CYFRA)	黒田雅顕:医療と検査機器·試薬　29(6):597−602,2006
ProGRP	宮越静代,他:医学と薬学　63,809,2010 Yoshimura, T. et al. : Tumor Biol. 29,224,2008
NSE(神経特異エノラーゼ)	矢田紗世,他:医学と薬学　74(7):831−840,2017
シアリルLe^{X}-i抗原(SLX)	井村裕夫,他:癌と化学療法　14(5):1315−1321,1987
CA15-3	黒田雅顕:医療と検査機器·試薬　29(6):589−596,2006
BCA225	小林美耶子,他:医学と薬学　72(7):1249−1259,2015
血清HER2タンパク	LuftherD, et al : Int. J. Biol. Markers　19,1,2004
前立腺特異抗原(PSA)	武田　悟:「化学発光免疫測定法による総PSA,遊離PSA測定の基礎検討および臨床応用」 Prog. Med　21:2279−2283,2001
PSA-ACT	荒井京子,他:泌尿器外科　17,399,2004
γ-セミノプロテイン(γ-Sm)	佐藤達郎,他:医学と薬学　43(1):97−106,2000
DUPAN-2	櫻林郁之介,他:臨床病理　34(6):705−710,1986
エラスターゼ1	大出勝也,他:肝と膵　23(6):477−480,2002
CA19-9	堀内祐次,他:「血中CA19-9測定試薬アーキテクト·CA19-9XRの評価」医学と薬学 56(5):743−751,2006
SPan-1	梅山　馨,他:膵臓　3(4):528−539,1988

参考文献一覧

検査項目	参考文献
腫瘍関連検査	
NCC-ST-439	吉岡　久,他:臨床病理　35(11):1233−1238,1987
抗p53抗体	橋本礼輔,他:医学と薬学　75:955−964,2018
HE4(ヒト精巣上体蛋白4)	木村英三:産婦人科の実際　64(8):1055,2015 竹内　聡,他:Biotherapy　23(2):136,2009
CA125	日本臨床　1985年秋季増刊　血液·尿化学検査免疫学的検査:438,1985
CA602	野澤志朗,他:癌と化療　19,2085,1992
CA54/61	野澤志朗,他:癌と化学療法　19(12):2085−2093,1992
CA72-4	矢田紗世,他:医学と薬学　74(7):831−840,2017
シアリルTn抗原(STN)	井村裕夫,他:癌と化学療法　16(9):3213−3219,1989
Ⅰ型コラーゲンC末端テロペプチド(ⅠCTP)	清原　剛,他:ホルモンと臨床　42(12):1189−1193,1994
可溶性IL-2レセプター(sIL-2R)	大西澪奈子:日本臨床検査医学会誌　68(6):513,2020
5-S-CD	Wakamatsu K et al：Clinical Chemistry　40(3):495−496,1994
可容性メソテリン関連ペプチド	中町　衛,他:医学と薬学　65(2):261−267,2011
ウイルス学的検査	
HBs抗原定性	金井正光:臨床検査法提要　第32版:1368−1369,2005
HBs抗原定量	関口　仁,他:臨床検査機器·試薬　22(4):283−288,1999
HBs抗体定量	藤原拓樹,他:医学と薬学　42(4):623−627,1999
HBe抗原	宮川正明,他:医学と薬学　52(4):621−628,2004
HBe抗体	宮川正明,他:医学と薬学　52(4):621−628,2004
HBc抗体	飯田健一,他:Prog.Med.22(4):1037−1046,2002
IgM-HBc抗体	中尾瑠美子,他:医学と薬学　52,847−858,2004
B型肝炎ウイルスコア関連抗原	Inoue T. et al：J Hepatol　75(2):302−310,2021
HBV-DNA定量《TapManPCR法》	菅原昌章,他:医学と薬学　73(10),1329,2016
HBVゲノタイプ	田中靖人,他:臨床病理　57,42−47,2009
IgG-HA抗体	矢野公士,他:医学と薬学　58,151−161,2007
IgM-HA抗体	矢野公士,他:医学と薬学　58,151−161,2007
HCV抗体(第3世代)	森山隆則,他:アーキテクトHCVの臨床的検討,Prog　Med　19:2865−2869,1999
HCV群別(グルーピング)	長谷川　瞳,他:医学と薬学　70(3):633−641,2013
HCV抗原(コア蛋白質)	田原和子,他:日本臨床検査自動化学会会誌　36(2)267−274,2011
HCV-RNA定量《TaqManPCR法》	菅原昌章,他:医学と薬学　73(10),1329,2016
HCVRNAコアジェノタイプ	Ohno T, et al：Journal of Clinical Microbiology　35(1):201−207,1997
IgA-HEV抗体	飯野四郎,他:医学と薬学　53,461−469,2005
ウイルス抗体価〔CF法〕	北村元仕,他:臨床検査マニュアル(文光堂):880−886,1988
ウイルス抗体価〔NT法〕	国立予防衛生研究所学友会:ウイルス実験学　総論　2版　(丸善):260−274,1973
ウイルス抗体価〔HI法〕	国立予防衛生研究所学友会:ウイルス実験学　総論　2版　(丸善):214−225,1973
日本脳炎ウイルス(JaGAr株)〔HI法〕	厚生省監修:微生物検査必携　ウイルス·クラミジア·リケッチア検査　第3版　第2分冊:81−97,1987
ヒトパルボウイルスB19〔EIA法〕	要藤裕孝,他:感染症学雑誌　69(10):1135−1140,1995
サイトメガロウイルス　IgG·IgM〔CLIA法〕	熊田洋高,他:医学と薬学　72(6):1087−1094,2015
ムンプスウイルス　IgG〔EIA法〕	尾崎隆男,他:臨床とウイルス　50(3):129−133,2022
風疹ウイルス　IgM〔EIA法〕	佐藤俊則,他:臨床とウイルス　23(1):44−47,1995
水痘·帯状疱疹ウイルス　IgG〔EIA法〕	吉田　晃,他:臨床とウイルス　13(4):490−496,1985
水痘·帯状疱疹ウイルス　IgM〔EIA法〕	平野　勝,他:医学と薬学　42(2):641−645,1999
グロブリンクラス別ウイルス抗体価	厚生省監修:微生物検査必携　ウイルス·クラミジア·リケッチア検査　第3版　第1分冊:48−61,1987
インフルエンザウイルスA型〔HI法〕	国立予防衛生研究所学友会:ウイルス実験学　総論　2版　(丸善):260−274,1973
EBウイルス〔EIA法〕	脇口　宏,他:医学と薬学　58(2):363−369,2007
EBウイルス〔FA法〕	日沼頼夫,他:臨床病理　特(35):179−189,1978
アデノウイルス抗原	小島　禎,他:JARMAM　11,93−98,2009
単純ヘルペス特異抗原	川名　尚,他:感染症学雑誌　61,1030−1037,1987
水痘帯状ヘルペス抗原	佐多徹太郎,他:日本臨牀　47,356−360,1989
サイトメガロウイルスpp65抗原(C7-HRP)	権藤久司,他:臨床血液　34(11):1438−1444,1993
サイトメガロウイルスpp65抗原(C10,C11)	浅井隆善,他:今日の移植　7(6):553−559,1994
サイトメガロウイルスDNA定性	Olive DM,et al：Journal of Clinical Microbiology　27(6):1238−1242,1989
サイトメガロウイルス核酸定量	森　沙耶香,他:医学と薬学　77(8):1181−1188,2000
サイトメガロウイルス核酸検出(新生児尿)	Mitani Y, et al：Nat Methods　4(3):257−262,2007
単純ヘルペスウイルスDNA定性	Cao M,et al：J Invest Dermatol　82:391−392,1989
単純ヘルペスウイルスDNA定量	Stevens J：実験医学　15(7S):728−733,1997
水痘·帯状疱疹ウイルスDNA定性	本藤　良,他:日本臨床　50(特別号):160−165,1992
水痘·帯状疱疹ウイルスDNA定量	Kimura H, et al：The Journal of Infectious Diseases　178:310−317,1998
EBウイルスDNA定量	Kimura H, et al：J Clin Microbiol　37(1):132−136,1999
HTLV-Ⅰ抗体(ラインブロット法)	Zrein M, et al：Clin Diagn Lab Immunol　5(1):45−49,1998
HTLV-Ⅰ核酸検出定性	Miyazato P, et al：Journal of Virology　80(21):10683−10691,2006
HTLV-Ⅰプロウイルス DNA定性	Miyazato P, et al：Journal of Virology　80(21):10683−10691,2006
HTLV-Ⅰプロウイルス DNA(クロナリティ)	渡辺俊樹,他:Medical Immunology　16(6):785−791,1988
HIV-1RNA定量	目崎和久,他:医学と薬学　73(6):705−709,2016
HPV-DNA同定〔ハイブリッドキャプチャー法〕	石　和久,他:医学と薬学　39,849,1998
HPV-DNA 簡易ジェノタイプ	三浦俊昭,他:医学と薬学　69(1):157,2013
HPV-DNA 簡易ジェノタイプ(9種判別)	日本産科婦人学会:産婦人科診療ガイドライン2011,2011 Sagawa. T. et al：J. Med. Virol. 88,324,2016
HPVジェノタイプ判定	尾崎　聡,他:臨床病理　60(7):621,2012

参考文献一覧

検査項目	参考文献
血液学的検査	
白血球数(WBC)	JCCLS共用基準範囲
赤血球数(RBC)	JCCLS共用基準範囲
ヘモグロビン(Hb)	JCCLS共用基準範囲
ヘマトクリット(Ht)	JCCLS共用基準範囲
血小板(PLT)	JCCLS共用基準範囲
指数	JCCLS共用基準範囲
網状赤血球(Ret)	金井　泉,金井正光:臨床検査法提要　改訂第30版:269−271(金原出版)　1993
好酸球数(EOS-数)	金井　泉,金井正光:臨床検査法提要　改訂第30版:317(金原出版)　1998
血液像(白血球分類)	小宮正文　カラーアトラス　血液像と骨髄像 :1981 血液形態検査標準化ワーキンググループ:血液形態検査に関する勧告法
骨髄像(マルク)	金井正光:臨床検査法提要　第34版:276−283,2015
ALP染色	金井　泉,金井正光:臨床検査法提要　改訂第29
鼻汁好酸球	金井正光:臨床検査法提要　改訂第32版:857−858(金原出版)　2005
プロトロンビン時間(PT)	金井　泉,金井正光:臨床検査法提要　改訂第31版,1998
活性化部分トロンボプラスチン時間(APTT)	試薬添付文書より引用
フィブリノーゲン定量(Fib)	新臨床検査技師講座10　血液学,223,1985
FDP定量〔血漿〕	臨床検査講座15　第3版:225,1983
FDP定量[尿中]	堀内伸純,他:機器・試薬　14:267,1991
D-Dダイマー定量	メディカルテクノロジー別冊:臨床検査項辞典
トロンビン・アンチトロンビンⅢ複合体	金井正光,他:臨床検査法提要　金原出版　34:430,2015
α2-プラスミンインヒビター・プラスミン複合体	金井正光,他:臨床検査法提要　金原出版　34:435,2015
プラスミノーゲン定量	櫻林郁之介,他:検査と技術　16,607−613,1988
プラスミノーゲン活性	小谷　毅,他:JJCLA　21,285−290,1996
α2-プラスミンインヒビター(アンチプラスミン)	金井正光,他:臨床検査法提要　金原出版　34:426,2015
アンチトロンビンⅢ(AT-Ⅲ)	金井正光,他:臨床検査法提要　金原出版　34:415,2015
可溶性フィブリンモノマー複合体(SFMC)	金井正光,他:臨床検査法提要　金原出版　34:429,2015
プロテインC抗原量	金井正光,他:臨床検査法提要　金原出版　34:417,2015
プロテインS抗原量	安藤秀実,他:医療と検査機器・試薬　41(5):509−519,2018
プロテインS活性	藤岡　貴:医学と薬学　73(5):621−626,2016
プロテインS(遊離型抗原量)	安藤秀実,他:医療と検査機器・試薬　41(5):509−519,2018
C1-インアクチベーター活性	Dick W., et al : Immuno. Infekt.13:113−118,1985
トータルPA Ⅰ-1	金井正光,他:臨床検査法提要　金原出版　34:428,2015
トロンボモジュリン	小野真弓,他:JJCLA38,114−117,2013
凝固因子活性検査	安達眞二:Medical Technology 24(6):629−633,1996
凝固因子活性検査第XⅢ因子(13)	Fickenscher K et al : Thrombosis and Haemostasis 65(5):535−540,1991
凝固抑制第Ⅷ因子・第Ⅸ因子	Sirridge, MS et a l : Laboratory Evalution of Hemostasis and Thrombosis 3rd : 196−198,1983
フォン・ウィルブランド因子活性	Macfarlane DE et al : Thrombos Diathes Haemorth 34:306−308,1975
β-トロンボグロブリン	高橋芳右,他:血液と脈管　18(4):326−335,1987
血小板第4因子	高橋芳右,他:血液と脈管　18(4):326−335,1987
染色体検査	
染色体　G-Banding	Seabright M:The Lancet 2:971−972,1971
染色体　C-Banding	Sumner AT,et al: Exp Cell Res 75:304−306,1972
染色体　Q-Banding	Caspersson T,et al: Hereditas 67:89−102,1971
染色体　高精度分染法	Ikeuchi T,et al: Proc Japan Acad 55(1):15−18,1979
染色体　FISH法	稲澤譲治:臨床FISHプロトコール　阿部達生監修　(秀潤社):90−95,1997
血液疾患染色体　G-Banding	Seabright M: The Lancet 2:971−972,1971
遺伝子関連検査	
minor BCR-ABL1mRNA定量	飯嶋健太朗,他:SRL宝函　24(1・2):65−68,2000
minor BCR-ABL1mRNA定性	Kawasaki ES,et al: Proc Natl Acad Sci USA 85(15):5698−5702,1988
PML-RARAmRNA定量	飯嶋健太朗,他:SRL宝函　24(1・2):65−68,2000
PML-RARAmRNA定性	Borrow J et al: Science 249:1577−1580,1990
Major BCR-ABL1mRNA定量	飯嶋健太朗,他:SRL宝函　24(1・2):65−68,2000
Major BCR-ABL1mRNA定性	Kawasaki ES,et al: Proc Natl Acad Sci USA 85(15):5698−5702,1988
Major BCR::ABL1 IS	Hughes TP, et al: N Engl J Med, 349,1423,2003
WT1 mRNA定量	宮脇修一,他:臨床血液　46:1279,2005
大腸癌 RAS/BRAF変異解析	日本臨床腫瘍学会:大腸癌診療における遺伝子関連検査のガイダンス:第3版,2016
肺癌 EGFR変異解析 コバスv2	Janne PA, et al. : N Engl J Med. 372(18),1689,2015
肺癌 EGFR変異解析 コバスv2〈血漿〉	Sun JM, et al. : Expert Opin Pharmacother 18(2),225,2017 日本肺癌学会:肺癌患者におけるEGFR遺伝子変異検査の手引き(第3.05版),2016
HLA・移植関連検査	
HLA-A,B(血清対応型タイピング)	吉川枝里,他:MHC　10(1):21−31,2003
HLA-DR(血清対応型タイピング)	吉川枝里,他:MHC　10(1):21−31,2003
HLA-A(DNAタイピング)	石川善英:MHC　5(2):96−100,1998
HLA-B(DNAタイピング)	石川善英:MHC　5(2):96−100,1998
HLA-C(DNAタイピング)	石川善英:MHC　5(2):96−100,1998
HLA-DRB1(DNAタイピング)	成瀬妙子,他:MHC　5(2):101−106,1998
HLA-DQB1(DNAタイピング)	成瀬妙子,他:MHC　5(2):101−106,1998
HLA-DPB1(DNAタイピング)	成瀬妙子,他:MHC　5(2):101−106,1998

参考文献一覧

検査項目	参考文献
細胞性免疫検査	
T細胞百分率　B細胞百分率	Wauwe JV,et al: Immunology 44:865−871,1981
B細胞表面免疫グロブリン	Ip SH, et al: Clinical Chemistry 28(9):1905−1909,1982
モノクローナル抗体によるリンパ球表面マーカーの自動解析	Ip SH, et al: Clinical Chemistry 28(9):1905−1909,1982
Th1/Th2(IFN-γ × IL-4/CD4)	渋谷和子:細胞工学17(5):807−816,1998
NK細胞活性	康　浩一,他:Medical Technology 21(7):574−580,1993
白血病･リンパ腫解析検査【LLA】	Borowitz MJ,et al: American Journal of Clinical Pathology100:534−540,1993
悪性リンパ腫解析検査【MLA】	Borowitz MJ,et al: American Journal of Clinical Pathology100:534−540,1993
多発性骨髄腫解析検査 CD38マルチ解析	HASSERT J,ET AL:CYTOMETRY 22:264−281,1995.
悪性リンパ腫解析検査 7AAD解析	HASSERT J,ET AL:CYTOMETRY 22:264−281,1995.
リンパ球幼若化検査(Con-A･PHA)	笠原　忠,他:臨床検査 23(7):660−667,1979
薬剤によるリンパ球刺激試験(DLST)	北見啓之,他:臨床免疫 15(9):727−736,1983
寄生虫学的検査･その他	
尿中一般検査	金井正光:臨床検査法提要　改訂第33版:86−112(金原出版)　2010
尿比重	金井正光:臨床検査法提要　改訂第32版:166−167(金原出版)　2005
尿沈渣	日本臨床検査標準協議会(JCCLS),尿沈渣検査法　2000
穿刺液一般検査	金井正光:臨床検査法提要　改訂第32版:237−244(金原出版)　2005
穿刺液蛋白定量	金井正光:臨床検査法提要　改訂第32版:240(金原出版)　2005
関節液一般検査	金井正光:臨床検査法提要　改訂第32版:244−247(金原出版)　2005
関節液蛋白定量	金井正光:臨床検査法提要　改訂第32版:246(金原出版)　2005
髄液一般検査	金井正光:臨床検査法提要　改訂第32版:248−263(金原出版)　2005
髄液トリプトファン反応	金井正光:臨床検査法提要　改訂第32版:262(金原出版)　2005
精液一般検査	金井正光:臨床検査法提要　第34版:227,2015
便虫卵検査(塗抹)	金井正光:臨床検査法提要　改訂第32版:1089−1098(金原出版)　2005
便虫卵検査(集卵)	金井正光:臨床検査法提要　改訂第32版:1089−1098(金原出版)　2005
便ヘモグロビン	南　義弘,山本慶和:免疫学的便潜血反応の自動分析 検査と技術 Vol.19:40･44(1)
便ヘモグロビン･トランスフェリン定性	山縣文夫,他:医療と検査機器･試薬 29(2):121,2006
虫体鑑別	横川　定,他:人体寄生虫学提要,菊屋書房,東京,1974
クロストリジウム･ディフィシル毒素	CEP08054-Evaluation report : NHS Purchasing and Supply Agency:2009
微生物学的検査	
抗酸菌塗抹鏡検	抗酸菌検査ガイド2016:29−38
抗酸菌分離培養	抗酸菌検査ガイド2016:39−45
抗酸菌薬剤感受性検査	抗酸菌検査ガイド2016:87−102
結核菌群核酸増幅検査(TB-PCR)	抗酸菌検査ガイド2016:69−71
抗酸菌群核酸増幅検査(MAC-PCR)	抗酸菌検査ガイド2016:69−71
T-SPOT. TB	原田登之,他:モダンメディア 54(5),148,2008

容　器　一　覧

●専用容器の種類と採取上の注意点

A
生化学（分離剤入り）

（9mL）

内容	分離剤
容量	9mL
貯蔵方法	室温
有効期間	容器に表示

適用検査項目と採取上の注意

〔 適用検査項目 〕
- 生化学的検査
- 内分泌学的検査
- 血清学的検査
- ウイルス学的検査
- その他

〔 採取上の注意 〕
- 血液（必要量）を採取し、ゆっくり5～6回転倒混和したのち、静置してください。

B
血球用

内容	EDTA-2K　3.17㎎
採取量	2mL
貯蔵方法	室温
有効期間	容器に表示

適用検査項目と採取上の注意

〔 適用検査項目 〕
- 末梢血液一般検査　・網状赤血球数
- 血液像　・血液型　・クロスマッチ
- 不規則抗体　・その他

〔 採取上の注意 〕
- 血液2 mLを採取し、よく転倒混和させ、冷蔵保存して下さい。
- 容器に注入後、混和不足による凝固が生じた場合データーに影響しますので、よく混和して下さい。

A2
生化学（分離剤無し）

容量	5mL
貯蔵方法	室温
有効期間	容器に表示

適用検査項目と採取上の注意

〔 適用検査項目 〕
- 血液型
- クロスマッチ
- 血中薬物濃度

〔 採取上の注意 〕
- 血液（必要量）を採取し、ゆっくり5～6回転倒混和したのち、静置してください。

BV
ビタミンB1・B2

内容	EDTA-2Na
容量	4mL
貯蔵方法	室温
有効期間	容器に表示

適用検査項目と採取上の注意

〔 適用検査項目 〕
- ビタミンB_1
- ビタミンB_2

A4
アルミニウム

内容	凝固促進剤 ヘパリン中和剤 血清分離剤
採取量	3.0mL
貯蔵方法	室温
有効期間	容器に表示

適用検査項目と採取上の注意

〔 適用検査項目 〕
- アルミニウム

〔 採取上の注意 〕
- 血液3.0mLを採取し、転倒混和したのち提出してください。
（採血後、開栓不可）
- 単独検体

F
血糖用

内容	フッ化Na　2.5㎎ ヘパリンNa　25uspu EDTA-2Na　7.4㎎
採取量	2mL
貯蔵方法	室温
有効期間	容器に表示

適用検査項目と採取上の注意

〔 適用検査項目 〕
- 血糖（グルコース）
- ヘモグロビンA1c

〔 採取上の注意 〕
- 血液2mLを採取し、よく転倒混和させ、冷蔵保存して下さい。
- 容器に注入後、混和不足による凝固が生じた場合データーに影響しますので、よく混和して下さい。

●専用容器の種類と採取上の注意点

C
凝固検査用

内容	3.2%クエン酸Na
採取量	1.8mL
貯蔵方法	室温
有効期間	容器に表示

適用検査項目と採取上の注意

〔 適用検査項目 〕

・プロトロンビン時間　・APTT
・フィブリンノーゲン　・血中FDP
・D-Dダイマー　・AT-Ⅲ
・凝固因子関係　・その他

〔 採取上の注意 〕

・3.2%のクエン酸Naに血液1.8mL（試験管に白い線あり）の割合で採血し、よく転倒混和させ、冷蔵保存して下さい。

E1
EDTA-2Na

（5mL）　（7mL）

内容	EDTA-2Na
容量	5mL・7mL
貯蔵方法	室温
有効期間	容器に表示

適用検査項目と採取上の注意

〔 適用検査項目 〕

・ACTH　・ProGRP
・レニン活性　・レニン定量
・カテコールアミン　・BNP
・その他
・遺伝子検査（遠心不可）

〔 採取上の注意 〕

・血液（必要量）を採取し、静かに転倒混和したのち提出してください。
・全血項目については、そのまま提出してください。

C2
ビタミンK分画用

内容	3.2%クエン酸Na0.5mL
採取量	4.5mL
貯蔵方法	室温
有効期間	容器に表示

適用検査項目と採取上の注意

〔 適用検査項目 〕

・ビタミンK分画
・その他

〔 採取上の注意 〕

・3.2%のクエン酸Na0.5mLに血液4.5mLの割合で採血し、よく転倒混和したのち提出してください。

E2
EDTA2Na+アプロチニン入

内容	EDTA-2Na アプロチニン
採取量	3mL
貯蔵方法	室温
有効期間	容器に表示

適用検査項目と採取上の注意

〔 適用検査項目 〕

・h-ANP
・膵グルカゴン
・PTHrp-intact

〔 採取上の注意 〕

・血液（必要量）を採取し、静かに転倒混和したのち提出してください。

D4
ACD-A保存液

内容	ACD-A保存液入り
貯蔵方法	室温
有効期間	容器に表示 （アルミ包装開封後1ヶ月）

適用検査項目と採取上の注意

〔 適用検査項目 〕

・PAIgG（血小板関連IgG）

〔 採取上の注意 〕

・本文61ページを参照して下さい。
・検体は当日中にご提出ください。

E6
β-トロンボグロブリン
血小板第4因子

内容	テオフィリン アデノシン ジピリダモール クエン酸ナトリウム クエン酸
貯蔵方法	遮光・冷蔵
有効期間	容器に表示

適用検査項目と採取上の注意

〔 適用検査項目 〕

・β-トロンボグロブリン（β-TG）
・血小板第Ⅳ因子（PF-4）

〔 採取上の注意 〕

・本文108ページを参照して下さい。

容　器　一　覧

●専用容器の種類と採取上の注意点

G
アンモニア

内容	タングステン酸Na4mL
採取量	1.0mL
貯蔵方法	室温
有効期間	容器に表示

適用検査項目と採取上の注意

［適用検査項目］
・血中アンモニア

［採取上の注意］
・指定の採取量（試験管の白線あり）を採血し、よく転倒混和し遠心分離して下さい。
・上澄液は、凍結保存して下さい。
・分離が不可能な場合は、データーに影響しますので至急に連絡下さい。

I 1
乳酸･ピルビン酸

内容	過塩素酸除蛋白液1.0mL
採取量	1.0mL
貯蔵方法	冷蔵
有効期間	容器に表示

適用検査項目と採取上の注意

［適用検査項目］
・乳酸
・ピルビン酸

［採取上の注意］
・血液を正確に1.0mL（試験管に黒線あり）を採取し、十分に転倒混和したのち、提出してください。

H2
ヘパリン

（5mL）　（10mL）

内容	ヘパリンNa 65IU（5mL） ヘパリンNa 130IU（10mL）
容量	5mL･10mL
貯蔵方法	室温
有効期間	容器に表示

適用検査項目と採取上の注意

［適用検査項目］
・鉛　・水銀　・カドミウム　・マンガン
・クロム　・エタノール　・その他
・染色体検査（遠心不可）

［採取上の注意］
・必要量の血液を採取し、静かに転倒混和したのち提出してください。
・全血項目については、そのまま提出してください。

K
糞便

（培地無し）（培地入り）

採取量	小指頭大
貯蔵方法	室温
有効期間	2年（培地無し） 1年（培地入り）

適用検査項目と採取上の注意

［適用検査項目］
（培地無し）
・糞便関係　・その他

（培地入り）
・便培養関係

［採取上の注意］
・小指頭大の便を入れ、冷蔵保存して下さい。
・本文136ページを参照して下さい。

HL
ヘパリンリチウム

容量	5mL
貯蔵方法	室温
有効期間	容器に表示

適用検査項目と採取上の注意

［適用検査項目］
・QFTゴールドプラス

［採取上の注意］
・採取方法は、本文134ページを参照して下さい。
・★予約検査★　につき採血前には、必ず連絡を下さい。
・受付可能日：月～土曜日

K3
便ヘモグロビン&トランスフェリン

内容	保存液
採取量	適量
貯蔵方法	室温
有効期間	容器に表示

適用検査項目と採取上の注意

［適用検査項目］
・ヘモグロビン･トランスフェリン定性
・ヘモグロビン･トランスフェリン定量

［採取上の注意］
・採取方法は、容器の説明書を参照してください。

●専用容器の種類と採取上の注意点

K5
便ヒトヘモグロビン

内容	保存液
貯蔵方法	室温
有効期間	容器に表示

適用検査項目と採取上の注意

［適用検査項目］
- 便ヒトヘモグロビン（免疫法）
- 便ヒトヘモグロビン（精密測定）

［採取上の注意］
- 便採取後は、冷蔵保存して下さい。
- 採取方法は、容器の説明書を参照してください。

M2
細胞性免疫検査用

内容	FBS PBS 硫酸カナマイシン
貯蔵方法	凍結
有効期間	容器に表示

適用検査項目と採取上の注意

［適用検査項目］
- 悪性リンパ腫解析検査（MLA）
- 悪性リンパ腫解析検査（7AAD解析）

［採取上の注意］
- リンパ節　5×5×5mmを左図の容器に浮遊させ、冷蔵保存してください。
- 検体は、当日中にご提出ください。

KH
便中ヘリコバクターピロリ抗原

貯蔵方法	室温
有効期間	容器に表示

適用検査項目と採取上の注意

［適用検査項目］
- 便中ヘリコバクターピロリ抗原

［採取上の注意］
- 本文69ページを参照して下さい。

P2
蓄痰

内容	保存液
貯蔵方法	室温
有効期間	1年

適用検査項目と採取上の注意

［適用検査項目］
- 細胞診検査（蓄痰）

M1
マルク容器（骨髄液）

内容	RPMI-1640 FBS 硫酸カナマイシン ノボヘパリンNa 炭酸水素Na HEPES
貯蔵方法	凍結
有効期間	色が薄いピンクの状態で使用してください。 凍結時：淡黄色 解凍時：薄いピンク色

適用検査項目と採取上の注意

［適用検査項目］
- 血液疾患染色体（骨髄液用）
- その他

［採取上の注意］
- 指定の採取量を採取し、よく混和させ、冷蔵保存してください。
- 検体は、当日中にご提出ください。

P5
Thinlayer

内容	Thinlayer保存液
貯蔵方法	室温
有効期間	1年

適用検査項目と採取上の注意

［適用検査項目］
- 婦人科細胞診（液状検体法）

［採取上の注意］
- 検体を採取した器具を保存液の中にすばやく入れ、検体を撹拌させます。

容　器　一　覧

●専用容器の種類と採取上の注意点

P7
HPVジェノタイプ判定

内容	メタノール含有
貯蔵方法	室温
有効期間	容器に表示

適用検査項目と採取上の注意

［適用検査項目］
・HPVジェノタイプ判定

Q12
クラミジア・淋菌PCR（子宮頸部・咽頭用）

内容	塩酸グアニジン
貯蔵方法	室温
有効期間	容器に表示

適用検査項目と採取上の注意

［適用検査項目］
・クラミジア・トラコマチス核酸検出PCR
・淋菌核酸検出PCR

［採取上の注意］
・本文70ページを参照して下さい。

Q5
単純ヘルペス特異抗原 水痘帯状ヘルペス抗原

貯蔵方法	室温
有効期間	容器に表示

適用検査項目と採取上の注意

［適用検査項目］
・単純ヘルペス特異抗原（FA法）
・水痘帯状ヘルペス抗原（FA法）

［採取上の注意］
・本文94ページを参照して下さい。

Q15
トリコモナス/マイコジェニタリウム（ぬぐい液用）

内容	塩酸グアニジン
貯蔵方法	室温
有効期間	容器に表示

適用検査項目と採取上の注意

［適用検査項目］
・トリコモナス/マイコプラズマ・ジェニタリウム同時核酸検出

Q11
ヒト癌胎児性フィブロネクチン

内容	抽出液
貯蔵方法	室温
有効期間	容器に表示

適用検査項目と採取上の注意

［適用検査項目］
・ヒト癌胎児性フィブロネクチン

［採取上の注意］
・本文39ページを参照して下さい。

Q17
子宮頸管粘液中顆粒球エラスターゼ

内容	抽出液（リン酸バッファー）
貯蔵方法	室温 抽出液　冷蔵
有効期間	容器に表示

適用検査項目と採取上の注意

［適用検査項目］
・子宮頸管粘液中顆粒球エラスターゼ

［採取上の注意］
・本文39ページを参照して下さい。

●専用容器の種類と採取上の注意点

Q18
HPV-DNA（ハイブリッドキャプチャー法）

（検診用）　（妊婦用）

内容	トリスヒドロキシメチルアミノメタン EDTA アジ化ナトリウム（0.1%未満） 塩
貯蔵方法	室温
有効期間	容器に表示

適用検査項目と採取上の注意

［適用検査項目］
・HPV-DNA同定
（ハイブリッドキャプチャー法）

［採取上の注意］
・採取方法は、容器の説明書を参照してください。

T1
カルチャースワブ

（青）1号　（オレンジ）2号　（黒）3号

内容	アミーズ培地
貯蔵方法	室温
有効期間	容器に表示

適用検査項目と採取上の注意

［適用検査項目］
・一般細菌培養用
　青：一般細菌用
　オレンジ：耳鼻科用
　黒：産婦人科用

［採取上の注意］
・本文136ページを参照して下さい。
・嫌気性菌にも使用できます。

S
β-Dグルカン エンドトキシン

内容	ヘパリンNa
採取量	3.0mL
貯蔵方法	室温
有効期間	容器に表示

適用検査項目と採取上の注意

［適用検査項目］
・（1→3）β-D-グルカン
・エンドトキシン定量

［採取上の注意］
・血液3.0 mLを真空採血し、転倒混和したのち、そのまま冷蔵保存して下さい。
・他項目との重複依頼は避けて下さい。

T3
ケンキポーター

内容	レザスリン培地CO_2
貯蔵方法	室温
有効期間	容器に表示

適用検査項目と採取上の注意

［適用検査項目］
・微生物学検査（嫌気性培養用）
・クロストリジウムディフィシル培養

［採取上の注意］
・本文126·136ページを参照して下さい。

S2
透析液エンドトキシン

内容	安定化剤 0.5mL含有
採取量	5.0mL
貯蔵方法	冷蔵
有効期間	容器に表示

適用検査項目と採取上の注意

［適用検査項目］
・透析液エンドトキシン

［採取上の注意］
・本文131ページを参照して下さい。

T4
血液培養

（好気性）　（嫌気性）

内容	保存培地
採取量	8～10mL
貯蔵方法	室温
有効期間	容器に表示

適用検査項目と採取上の注意

［適用検査項目］
・微生物学検査

［採取上の注意］
・ボトルのゴム栓をアルコール綿で消毒。患者の血管穿刺部位を10%ポビドンヨード液もしくは、アルコール綿でしっかりと清拭する。乾燥を待ち、再度アルコール綿で渦巻き状に広範囲に消毒し、乾燥を待ち採血を行う。
・本文135～136ページを参照して下さい。

容　器　一　覧

●専用容器の種類と採取上の注意点

T6
喀痰容器（大･小）

貯蔵方法　室温

（小）

（大）

適用検査項目と採取上の注意

［ 適用検査項目 ］
- 一般細菌（塗抹鏡検・培養）
- 抗酸菌（塗抹鏡検・培養）
- その他

T8
喀痰容器

貯蔵方法　室温

（スポイド）　（滅菌）

適用検査項目と採取上の注意

［ 適用検査項目 ］
- 一般細菌培養
- 抗酸菌培養
- 細胞診
- その他

［ 採取上の注意 ］
- 本文136ページを参照して下さい。

T6
喀痰容器（広口）

貯蔵方法　室温

（広口）

適用検査項目と採取上の注意

［ 適用検査項目 ］
- 一般細菌（塗抹鏡検・培養）
- 抗酸菌（塗抹鏡検・培養）
- その他

U1
尿検査用

貯蔵方法　室温

有効期間　2年

適用検査項目と採取上の注意

［ 適用検査項目 ］
- 尿検査全般

T7
ヘリコポーター

貯蔵方法　冷蔵

有効期間　容器に表示

適用検査項目と採取上の注意

［ 適用検査項目 ］
- ヘリコバクターピロリ培養

［ 採取上の注意 ］
- 本文136ページを参照して下さい。

U2
滅菌試験管

貯蔵方法　室温

有効期間　2年

適用検査項目と採取上の注意

［ 適用検査項目 ］
- 細菌検査
- その他

［ 採取上の注意 ］
本文136ページを参照して下さい。

●専用容器の種類と採取上の注意点

U3
遮光容器

貯蔵方法	室温

適用検査項目と採取上の注意

［適用検査項目］
・有機溶剤関係
・その他

U7
尿中ミオグロビン

内容	二亜硫酸ナトリウム プロクリン EDTA-3Na
容量	6.0mL
貯蔵方法	室温
有効期間	容器に表示

適用検査項目と採取上の注意

［適用検査項目］
・尿中ミオグロビン

［採取上の注意］
・尿を指定範囲内に入れ、静かに転倒混和したのち提出してください。
・凍結保存は避けて下さい。

U5
尿中FDP

内容	抗プラスミン剤
容量	2.0mL
貯蔵方法	室温
有効期間	容器および外袋表示

適用検査項目と採取上の注意

［適用検査項目］
・尿中FDP

［採取上の注意］
・尿2.0mLを採尿し、静かに転倒混和したのち提出してください。

U8（うがい液）
U18（尿）
クラミジア・淋菌PCR（うがい液・尿）

内容	塩酸グアニジン
貯蔵方法	室温
有効期間	容器に表示

適用検査項目と採取上の注意

［適用検査項目］
・クラミジア・トラコマチス核酸検出PCR
・淋菌核酸検出PCR

［採取上の注意］
・本文70ページを参照してください。

U6
PSP

貯蔵方法	室温
有効期間	2年

適用検査項目と採取上の注意

［適用検査項目］
・ＰＳＰ試験

U10
尿中Ⅳ型コラーゲン

内容	0.5mLトリス塩酸緩衝液（pH7.5）入り
採取量	5.0mL
貯蔵方法	室温
有効期間	容器に表示

適用検査項目と採取上の注意

［適用検査項目］
・尿中Ⅳ型コラーゲン

［採取上の注意］
・早朝一番尿を採取し、専用容器に注入し、よく混和させ提出してください。
・凍結保存および他項目との重複依頼は避けてください。

容　器　一　覧

●専用容器の種類と採取上の注意点

U16
マイコプラズマ・ニューモニエ核酸同定

（咽頭）（鼻咽頭）

貯蔵方法	室温
有効期間	容器に表示

適用検査項目と採取上の注意

［適用検査項目］
・マイコプラズマ・ニューモニエ核酸同定《LAMP法》

W
組織診用（大・小）

（小）　（大）

貯蔵方法	室温

適用検査項目と採取上の注意

［適用検査項目］
・組織検査

［採取上の注意］
・病医院にて、10％中性緩衝ホルマリンを容器にいれてご使用ください。

U17
百日咳菌核酸検出

貯蔵方法	室温
有効期間	容器に表示

適用検査項目と採取上の注意

［適用検査項目］
・百日咳菌核酸検出《LAMP法》

W
組織診用（広口）

（広口）

貯蔵方法	室温

適用検査項目と採取上の注意

［適用検査項目］
・組織検査

［採取上の注意］
・病医院にて、10％中性緩衝ホルマリンを容器にいれてご使用ください。

U19
トリコモナス/マイコジェニタリウム（尿用）

内容	塩酸グアニジン
貯蔵方法	室温
有効期間	容器に表示

適用検査項目と採取上の注意

［適用検査項目］
・トリコモナス/マイコプラズマ・ジェニタリウム同時核酸検出

Y
PCR専用

内容	凝固促進剤
採取量	5.0mL
貯蔵方法	室温
有効期間	容器に表示

適用検査項目と採取上の注意

［適用検査項目］
・HCV RNA定量
・HBV DNA定量
・その他

［採取上の注意］
・血液（必要量）を採取し、転倒混和したのち提出してください。
・他項目との重複依頼は、避けてください。

Y2
EDTA2K+血漿分離剤入

内容	EDTA-2K+血漿分離剤入り
採取量	5.0mL
貯蔵方法	室温
有効期間	容器に表示

適用検査項目と採取上の注意

［適用検査項目］
- HIV-1RNA定量（リアルタイムPCR）
- サイトメガロウイルス核酸定量

［採取上の注意］
- 血液（必要量）を採取し、転倒混和したのち提出してください。
- 他項目との重複依頼は、避けてください。

	内容
	採取量
	貯蔵方法
	有効期間

適用検査項目と採取上の注意

9A
呼気バッグ

貯蔵方法	室温

適用検査項目と採取上の注意

［適用検査項目］
- 尿素呼気試験

［採取上の注意］
本文69ページを参照して下さい。

	内容
	採取量
	貯蔵方法
	有効期間

適用検査項目と採取上の注意

専用
T-SPOT. TB
（インターフェロン-γ遊離試験）

内容	ヘパリンNa
採取量	9.0mL
貯蔵方法	室温
有効期間	容器に表示

適用検査項目と採取上の注意

［適用検査項目］
- T-SPOT. TB
（インターフェロン-γ遊離試験）

［採取上の注意］
本文130ページを参照して下さい。

	内容
	採取量
	貯蔵方法
	有効期間

適用検査項目と採取上の注意

検査方法の略号と概略

●CF　補体結合反応
Complement Fixation Test

抗原-抗体結合物がある一定の条件のもとに補体を活性化し、免疫グロブリンのFc部分に補体を結合する現象を応用した検査方法、主にウイルス抗体の検出に用いられる最も基本的なものである。CF活性を持つのはIgGとIgMのみであるが、一般に感染後短期間のみ検出される場合が多い。ペア血清で測定するのが望ましい。

●CLEIA　化学発光・酵素免疫測定法
Chemiluminescent Enzyme Immunoassay

被検物質に対する抗体を担体に固相したものに検体および酵素標識抗体を反応させ、これに化学発光基質を加える、この基質は酵素により分解され酵素量に応じて発光し、その発光量をルミノメーターで測定し定量する検査方法である。

●CLIA　化学発光免疫測定法
Chemiluminescent Immunoassay

被検検体にアクリジニウム・エステルを標識した抗体と固相化抗体と反応させサンドイッチ法により測定する検査方法、磁気分離固相法によりB/F分離した後、専用アナライザーでアクリジニウム・エステル発光の量により定量する。

●CPBA　競合性蛋白結合分析法
Competitive Protein Binding Assay

ラジオアイソトープを標識した物質と、これと結合する特異結合蛋白との反応に対してアイソトープを標識していない物質を競合反応させた後、結合部分と遊離部分を分離してその放射能を測定することにより被検物質を測定する検査方法、サイロキシン結合蛋白や総鉄結合能などの測定に用いられる。

●dRVVT　希釈ラッセル蛇毒試験法
Dilute Russell's Viper Venom Time

ラッセル蛇毒は、外因系の第Ⅶ因子、接触因子、内因系の抗出血性因子の関与を受けずに直接血漿中の第Ⅹ因子を活性化して凝固反応を開始し、リン脂質、カルシウム、活性第Ⅴ因子の共存下で最終的にトロンビンを生成する。抗リン脂質抗体の一種であるループスアンチコアグラント（LA）が存在すると上記反応系からリン脂質が消費される結果として凝固時間の延長をきたす。ここで過剰なリン脂質を添加して同様の反応を行いLAの影響を予め排除した場合に、凝固時間の延長が補正されれば、血漿中のLAの存在を逆説的に証明できる。

●ECLIA　電気化学発光免疫測定法
Electro Chemiluminescent Immunoassay

電解反応により生成されるエネルギーによりルテニウムピリジン錯体を励起して発光させる化学発光法の一種である。

被検検体に測定を目的とする物質（A）に対する抗体を結合したビーズを反応させると、抗原抗体複合物が生成される。次にこのビーズを洗浄し、ビーズに結合した（A）にルテニウム標識抗体を反応させるとサンドイッチ状の複合物が形成される。さらにビーズを洗浄し電極上にて電気エネルギーを加えるとビーズに結合したルテニウム標識抗体量に応じてルテニウム錯体が発光する。この発光量は（A）の量と相関するので検量線により濃度を読み取る。

●EIA　酵素免疫測定法
Enzyme Immunoassay

抗原または抗体に被検検体を反応させた抗原抗体複合物に酵素標識抗体を加え反応させた後、その酵素に対する基質を添加し発色させ、その吸光度により比色定量するものである。競合法と非競合法に大別され、広く各種ホルモン、ウイルス抗原、抗体価、薬物濃度などの測定に用いられる。標識酵素にはペルオキシダーゼやアルカリフォスファターゼなどが用いられている。

●FAT　蛍光抗体法
Fluorescent Antibody Test

抗原または抗体を測定する場合にFITCなどの蛍光色素を標識し抗原と抗体を反応させ蛍光顕微鏡下で観察すると特異的な蛍光が見られ、これにより判定する。抗体（抗原）に蛍光色素を直接結合させる直接法と抗原抗体反応させた後、さらに抗血清に蛍光色素を反応させる間接法がある。

●FEIA　蛍光・酵素免疫測定法
Fluorescence-Enzyme Immunoassay

EIA法の一つである。主にアレルゲン特異的IgE抗体を測定するのに用いられ、酵素を標識として用い測定対象のアレルゲン（抗原）を被検検体に入れ、抗原抗体反応により酵素が基質に反応する。その際に発する蛍光の強度により検量線より濃度を測定する。

●FPIA　蛍光偏光免疫測定法
Fluorescence Polarization Immunoassay

血中薬剤濃度のような比較的分子量の小さい物質の測定に用いられる。試料中の測定物質と一定量の蛍光標識標準物質が、一定量のこの標準物質の抗体と競合する。この抗原-抗体反応と、蛍光偏光度との関係から検量線を用いて濃度を求める。

●GC　ガスクロマトグラフィ
Gas Chromatography

固定相としてキャピラリーカラムを用い、測定試料が移動相（キャリアーガス）にのって流動する間に溶解性の差によって分離・同定される。充填剤は測定試料の構造により無極性型、極性型があり、検出器には電子捕獲検出器（ECD）、水素炎イオン化検出器（FID）、熱伝導検出器（TCD）などが用いられている。

●GC-MS　ガスクロマトグラフィ・マススペクトロメトリー
Gas Chromatography-Mas Spectrometry

マススペクトロメトリー（質量分析:MS）は測定試料を気化しイオン化した後、高電圧で加速し、これを磁場に導き、ここで得られたイオン化した物質のエネルギー分布や電荷分布の違いによる特異なスペクトルを解析することにより化合物の同定、定量、構造解析が行われる。
GC-MSはこのMSにガスクロマトグラフィーを組み合わせたものである。

●HI　赤血球凝集抑制試験
Hemagglutination Inhibition Test

一般にウイルスは動物の赤血球を凝集する性質を持っており、ウイルス抗原が対応する抗体と結合し抗原抗体反応を起こすと赤血球凝集能が抑制される。この性質を利用してウイルス抗原を被検検体と反応させ、これに赤血球を加え反応させ、どの希釈倍率まで凝集が抑制されたかにより抗体価を判定する。

●HPLC　高速液体クロマトグラフィ
High　Performance Liquid Chromatography

微細な球体のシリカやイオン交換樹脂、疎水性のアルキル基、親水基をもったシリカゲルなどを充填したカラムを用いて試料中の測定物質を分離し、光学的方法や電気的な検出方法によりその測定物質を検出し、得られたクロマトグラムからピーク高やピーク面積により定量化する。

●IR　赤外吸収スペクトロメトリー
Infrared Absorption Spectrometry

分子は各々固有の振動をしているので、測定試料に照射する赤外線の波長を連続的に変化させていくと、試料の分子の固有振動周波数と同じ周波数の赤外線が吸収されて、その分子構造に応じた固有の振動スペクトルを得る事ができる。その物質の赤外吸収波数を測定することにより試料の定性・定量分析を行なう方法である。

●IRMA　免疫放射定量法
Immunoradiometric Assay

RIA法（ラジオイムノアッセイ）の一つで、非競合的な反応に基づくものをいい、一般のRIA法より特異性が高いといわれる。測定を目的とする抗原に標識抗体を加えると抗原と標識抗体が結合した抗原・抗体複合物ができるが、その放射活性により検量線から濃度を読み取る。最近では2抗体法以外の方法をIRMAと呼ぶことがある。

●LA　ラテックス凝集法
Latex agglutination

測定を目的とする抗原に対する抗体をラテックス粒子に結合させ、これに被検検体を反応させると陽性の場合に抗原抗体反応によりラテックス粒子が凝集する性質を利用し、目的物質を測定する。

●LIFA
Ligand-Mediated　Immunofunctional Assay

サンドイッチELISA法を改変した測定法、ホルモンの結合蛋白を検出する際にまず固相抗体に目的とする結合蛋白を反応させ、次にサンドイッチ抗体の代わりに精製した特異的リガンドを反応させる。リガンドに対するラベル抗体により、試料中の結合蛋白濃度を測定する。精製リガンドの添加を省略した結果と比較することにより、生体内のリガンド結合型、非結合型の類別が可能である。

●LPIA　ラテックス近赤外比濁法
Latex Photometric Immunoassay

測定を目的とする抗原に対する抗体をラテックス粒子に結合させ、これに被検検体を反応させると抗原抗体反応により凝集し濁度が変化する。これに赤外線を当てその透過度により定量する方法である。

●MEIA
Microparticle Enzyme Immunoassay

抗体固相化担体にマイクロパーティクル（微粒子）を用いたEIA法で、操作行程を自動化した測定機器が実用化されている。標的物質とマイクロパーティクルに固相化した抗体を反応させた後、未反応の固相化抗体に酵素標識標準品を結合する。マイクロパーティクル上に形成される酵素標識複合体量は検体中に含まれる標的物質量に逆相関するため、酵素基質を添加して得られる活性（蛍光強度の変化率）から標的物質量を換算する。

MPHA　混合受身赤血球凝集試験
Mixed Passive Hemagglutination Test

プレートのような担体に測定対象となる抗体に対する抗原を固相する。それに被検検体を加え一定時間反応させ、プレートを洗浄し指示血球を滴下し、一定時間後に受身赤血球凝集反応と同様の基準で判定を行う。

NT　中和試験
Neutralization Test

ウイルス抗体価の測定によく用いられる。被検検体を段階希釈しウイルスを添加、混合し検体中の抗体と抗原抗体反応を起こさせ、そのウイルスに感受性のある細胞に接種して一定期間培養を行う、中和抗体が存在するとウイルスが中和され細胞変性効果（CPE）が起こらず、その最大希釈倍率を抗体価とする。最も特異性の高い抗体価測定法である。

PA　粒子凝集試験
Particle Agglutination Test

ゼラチン粒子などの担体に検出を目的とする抗体に対する抗原を結合させ、これと被検検体を反応させると、抗体が陽性の場合にはゼラチン粒子が凝集する。

PCR　ポリメラーゼ連鎖反応
Polymerase Chain Reaction

DNAの断片を増幅する方法である。目的とする領域のDNAを増幅するために、まず加熱し変性させ一本鎖DNAにする、次に2種のプライマーを混合させ適当な温度条件でアニールさせると各々のプライマーは変性したDNAと相補性のある塩基で対を形成し、DNAポリメラーゼの反応により鎖が伸長し、最初のDNA部分の鎖は1回だけ増幅される。このプロセスを数十回繰り返していくと数百塩基対から数千塩基対のDNA断片のコピーをほぼ無限大に得ることができる。RNAを増幅する場合は逆転写酵素（reverse transcriptase:RT）によりcDNAに転換して増幅する。

PHA　受身赤血球凝集試験
Passive Hemagglutination Test

動物の赤血球に検出を目的とする抗体に対する抗原を結合させ、これに被検検体を反応させる。凝集が起これば陽性である。

REA
Radioenzymatic Assay

標的物質の有する酵素活性を放射性アイソトープ標識基質を用いて測定するものである。検体とアイソトープ標識基質を反応させ、その反応生成物量を放射活性より測定する。予め標準品を用いて作成した検量線から標的物質の活性を求めることができる。

RFLP　制限酵素断片長多型
Restriction Fragment Length Polymorphism

遺伝子多型が存在するDNA配列を、制限酵素断片の長さや数によって解析する方法全般を指す。必要量のDNAを採取して直接解析する場合や、PCRにより増幅したDNA断片を試料とする場合がある。

RIA　ラジオイムノアッセイ
Radioimmunoassay

測定を目的とする抗原に対する抗体を用いて、被検検体に抗体を加え抗原抗体反応を起こさせた後、さらにラジオアイソトープ（主に^{125}I）で標識した抗体を入れて、複合体を形成した標識物（bound）と未反応物（free）を分離（B･F分離）し、放射活性を測定してB/Fの比率を求めて検量線から濃度を測定する。一般に二抗体法のような競合反応以外の方法を、IRMAと呼んでいる。

RPHA　逆受身赤血球凝集試験
Reversed Passive Hemagglutination Test

検出しようとする抗原に対する抗体をある特定の動物の赤血球に吸着させたのち、被検検体と反応させると、抗原が陽性の場合には凝集を起こす性質を利用した検査方法である。

RRA　ラジオレセプターアッセイ
Radio Receptor Assay

ホルモンやビタミンDなどはそのレセプターと結合することで活性を持つが、その性質を応用して通常の抗原･抗体反応と同じ様に、測定を目的とする物質にレセプターを結合させ、その反応性により目的物質を定量する方法である。

SBPA　結合蛋白サンドイッチ測定法
Sandwich Binding Protein Assay

測定物質に対する結合蛋白をマイクロタイタープレート上に固相し、それに被検検体を反応させて結合蛋白と測定目的物質を、結合させた後、さらに酵素で標識した結合蛋白を反応させてサンドイッチ状の複合物を形成させる。それにテトラメチルベンチジンおよび基質の過酸化水素を加えると発色する。これを適度な波長で吸光度測定し、検量線より濃度を読み取る。

SRID　免疫拡散法
Single Radial Immunodiffusion

ある特定の抗原量や抗体価を測定する場合に、それに対応する抗体や抗原が入ったゲルを用いた免疫拡散板に検体をスポットし、ゲル内沈降反応により生じた沈降線の直径により被検物質の濃度を定量する。二重免疫拡散法は沈降線の交差により判定する。

TIA　免疫比濁法
Turbidimetric Immunoassay

被検検体中の測定目的物質に対応する抗体を検体に加えると抗原抗体反応により、抗原抗体複合物が生成される。この複合物の濁度は被検物質の抗原量と相関するため、この濁度を測定し既知濃度標準物質により作成された検量線により濃度を測定する。

TLC　薄層クロマトグラフィー
Thin Layer Chromatography

表面がなめらかな板状の支持体の上に吸着剤を固定相として塗布したもの（薄層プレート）の下端から一定の位置に試料の混合物をスポットし適当な溶媒を入れた展開槽の中に入れる、さらに薄層プレートを溶媒蒸気で飽和させプレートの下端を溶媒に浸して毛細管現象により展開溶媒をプレート上に上昇させて試料を展開し、混合物を分離する方法である。

TMA
Transcription-Mediated Amplification

核酸ハイブリダイゼーションを行う前に測定を目的とするDNAの検出感度を向上させるために行う核酸増幅法の一つであり、転写介在増幅法と呼ばれる。目的とするDNAの特異的塩基配列をRNAとして増幅する核酸増幅法と、増幅したRNA鎖に相補的な化学発光物質標識DNAプローブを用いたハイブリダイゼーション法を利用した、高感度な特異的DNAの定量測定系である。

TRAP
Telometric Repeat Amplification Protocol

染色体末端部にはテロメアとよばれる繰り返し配列を含む構造が存在し、テロメアーゼはテロメアの伸長反応を司る酵素である。試料をこの酵素の供給源とし、試験管内でテロメア配列の伸長反応をさせ、その生成物を検出することにより試料中のテロメアーゼ活性を測定する方法である。

UV　紫外部吸光光度分析
Ultraviolet Spectrophotometry

通常、比色法は可視部波長を用いて吸光度により測定するが、補酵素がNADHやNADPHの場合は波長が340nm付近の紫外部に最大吸収を持つので、これらの補酵素が反応系に関与する場合はUV法が用いられる。

VDRL
Venereal Disease Research Laboratory

脂質抗原を用いた梅毒血清反応の一種であり、ガラス板法はこの方法を基にしている。不活化した被検検体をガラス板上におき、抗原浮遊液を加え水平回転器で回転させた後、顕微鏡で鏡検し凝集塊のあるものを陽性とする。

イムノクロマトグラフィー法
Immunochromatography

液体をニトロセルロース膜に滴下すると毛細管現象により膜上を移動する性質を利用した免疫学的測定法である。液状検体中の標的物質が膜を移動する過程でまず色素標識抗体に結合させ、さらに膜に固相化した抗体で抗原･抗体複合体を補促する。こうして形成されたサンドイッチ複合体（色素標識抗体ー抗原ー固相化抗体）は抗体固相化地点で呈色することになるため、目視にて確認することができる。

金コロイド免疫測定法
Colloidal Gold Immunoassay

抗原･抗体反応により補促した標的物質に、さらに金コロイド標識した抗体ないしは結合親和性物質（プロテインAなど）を反応させ、金コロイドの呈色をもって標的物質の存在を判定する。

比濁時間分析法
Turbidimetric Time Assay

エンドトキシン測定法の一つ、エンドトキシンの存在下にカブトガニ血液抽出物中の凝固成分であるファクターC、ファクターB、凝固酵素（clotting enzyme）前駆体、およびコアグローゲン（coagulogen）が段階的に活性化され、最終的に生成したコアグリン（coagulin）がゲル化する性質を利用したものである。ここでゲル形成に要する時間は反応初発時のエンドトキシン量の2回対数に反比例することから、ゲル化時間を測定すれば、検体中のエンドトキシン量を求めることができる。

2024 総合検査案内

2024年度 第 1 版

発　行　**(株)兵庫県臨床検査研究所**
〒671-2224
姫路市青山西5丁目6番2号

※第1版は2024年6月1日現在の内容です。